

に群集し、他魚を追ひて近海に來集することあり、棘鰭類に屬す、

カツオ、エボシ動 *Plypsina*. 腔腸動物に屬し、「クラゲ」に類する海棲動物にして、水面上に「浮け」となる部分あり、稍烏帽子に似たり、美なる空色を呈し、下面に大小不同の生殖器あり、其の間より、非常に長き絲垂下し、此に多くの刺絲胞あり、其の毒激甚なり、外洋にて黒潮ある海面に浮ぶ、

カツオノカマリ動 *Velilla*. 「カツオノエボシ」と同じく、黒潮に棲み、其の浮けとなる氣泡は、楕圓盤にして、上面に略半月形の板を立て、之を帆として游泳す、絲狀部長からずして垂下し、生殖體は下面にあり、美なる空色をなす、

カツオムシ動 鱗節を食害する鞘翅類にして、體長二分餘、長楕圓形にして、黒色を呈し、背面に褐色の短毛腹面に灰色の短毛あり、幼虫は四分餘に達し、細長く、地色は黒褐、背線及腹面は淡褐なり、頭大にして六對の單眼あり、脚は三對にして、尾節に上向せる二棘あり、年に三、四回發生す、成虫のまゝ越冬し、食物上に産卵し、一週にして孵化す、鱗節を食害するは、幼虫にして外方より食す、

カツカザシ(活火山)地英 *Active volcano*. 淺間山の如く、現今活動しつゝある火山をいふ、

カツロールイ(潤口類)動 *Colubriformia*. 蛇類に屬す

る一亞目にして、「ニシキヘビ」、「アオダイショウ」、「ヤマヘビ」、「ヤマカガシ」、「ウツバミ」等を含む、上下顎に齒あり、上顎には硬き鈎齒あり、(毒牙なることあり、或は單に刺すに適する無毒牙のことあり)、「ニシキヘビ」は印度に産し、大にして見せ物に用ゐる大蛇は即ち是なり、「ボア」は、米國に産し、鹿、馬等を食すといふ、以て其の大なることを想像するに足る、古昔の「ウツバミ」にあらず、古昔の「ウツバミ」はなきものなり、

カッヤ(滑車)物英 *Pulley*. 滑車とは、木製或は金屬製の圓形或は方形の車にして、中央に孔を穿ち軸を貫きて框に入れ、車の周りに溝を作りて繩をかけ、之を回轉し得る如く裝置し、繩の一端に物體を吊し、他端を持して、之を下するの用に供するものなり、二種あり、一を定滑車とし、一を動滑車とす、

カッヂョーロイ(褐色藻類)植 *Phaeophyceae*. 藻類中「クロロフィル」(*Chlorophyll*)及び「フィコヘーン」(*Phycophanin*)を含むものにして、四分胞子にて、又は雌雄生殖によりて繁殖す、「コンブ」、昆布、「アカメ」、裙帶菜、「アラメ」、黒菜、「ヒシキ」、羊栖菜等は其の最も有名なものなり、

カッヂキン(活字金)化英 *Type metal*. 活字金は、鉛

七十五分、「アンチモン」二十分、錫五分の合金にして、活字の鑄造に用ゐる、

カッセキ(滑石)鑛英 *Talc*. (晶形性状)斜方晶系、多くは片狀、塊狀、纖維狀をなす、底面に完全なる劈開あり、眞珠光澤、綠色、白色、或は銀白色、半透明乃至半亞透明、撓性、斷性を有す、脊脈の感觸あり、硬度一、一、五、比重二、五六一二、八、成分は硅酸六二、八を含む、又成分は $\text{H}_2\text{Si}_2\text{O}_5 \cdot \text{Mg}_3\text{O}_3$ 酸類に侵蝕せられず、吹管にて熱すれば、明光を放ち、膨脹して堅くなる、

(種類)蠟石(或は凍石)「ローセキ」の條に詳なり
(現出の狀及産地)自ら岩石をなし、或は他の鑛物例へば苦土を含める岩石の分解によりて生ずること少からず、例へば橄欖岩、(常州町屋附近)蛇紋岩(武藏國秩父郡)雲母片岩(同上)等より出づるが如し、多く太古紀時代の岩層中に現出す

(效用)器械の塗料として、油の代用に供し、顔料、仕立屋用白堊、耐火煉瓦石等を製し、磁石とすること多し、
カッタン(褐炭)鑛 石炭の條を見よ、

カッテッコー(褐鐵鑛)鑛英 *Limonite*. (晶形性状)(一)非晶像鑛物、鐘乳狀、葡萄狀、乳房狀、纖維狀、塊狀、土狀等あり、(二)半金屬光澤又は絹絲光澤又は無光澤のもの多し、

(三)褐色、黒色、或は黄色(四)條痕色黄褐(五)硬度五、一五、五(六)比重三、六一四〇(七)成分 $\text{Fe}_2\text{O}_3 + \text{SiH}_2\text{O}$ 往々「インガン」粘土、磷酸化合物、有機物等を混す、

(反應及識別)赤鐵鑛に類すれども、硬度低く、條痕色異に、又水分を含むする三點を以て、彼と此とを區別す可し、他の鐵鑛の分解によりて生じ、又は沼地に有機物の作用によりて堆積せるもあり、

- (種類)
(A) 泥鐵鑛 *Bra iron ore* 沼地に有機物の堆積によりて生ぜるものにして、合衆國、歐洲、武藏、下總、美作、豊後に産す、
(B) 黄粘土 *Yellow Oolite* 粘土と混和せるものは、黄色の顔料とし、又之を焼きて、繪具の鐵丹を製す、
(C) 豆鐵鑛 *Pea iron ore* 豆狀をなすものにして、豊後に産す、

カッドローリョー(活動量)化英 *Active mass*. 化學作用をなす所の溶液、或は瓦斯中に含まれたる物質の分子の數を活動量と稱す、換言すれば、化學作用をなす溶液或は瓦斯の濃さなり、故に通常溶液或は瓦斯の「リットル」中に含まれたる「グラム」分子の數にて、其の活動量をあらはす、
カッドローリョー(活動量の定律)化英 *Law*

to mass action. 化學作用の速度は、反應する物質の各の活動量に正比例す、但し温度、氣壓等は不變なるものとす、是れ即ち活動量の定律なり、

カッパージェンガ (活動幻畫) 物 活動寫眞を見よ、

カッパードーシヤシ (活動寫眞) 物 活動寫眞は幻燈を利用してたる器械にして、幻燈の硝子繪に代ふるに「セルロイド」の如きものにて作れる、透明なる長き帯に、連續して變化せる數多の繪を有するものを以てし、特殊なる機械仕掛によりて、映出する繪を一定の早さを以て交換する時は、原來人の眼は、刺激の去りたる後も、網膜上に尙ほ若干時の間、印象を留むる性質を有するが故に、印象は前後連續して其の繪が活動するかの如くに感ずるものなり、

カッパイキン (潤背筋) 生英 *Lattissimus dorsi*. 背部にある大筋にして、起點は背柱の棘狀突起にして、後部は胸の大半を占め、臆は膜狀をなし、着點は腋の後下部にあり、此の筋収縮すれば、手を體に近づけ、背面にまで向はしむ、背を洗ふときは、此の筋の伸縮すること多し、

カッパ (合伏) 天英 *Superior conjunction*. 外惑星が太陽と地球とを結合する直線上にありて、太陽其の間に來るを、其の惑星の合伏と稱す、即ち地球の動徑と惑星の動徑とが、百八十度の角をなす時なり、

カツツキセー (活物寄生) 植英 *Parasitism*. 自ら獨立の生活を營むこと能はずして、常に動物又は他の植物に寄生し、其の中の營養分を奪ひ、己を養ふ者を云ふ、動物にも、植物にも其の例あり、

カト (果糖) 化英 *Fruit sugar*. $C_{12}H_{22}O_{11}$. 甘味を有する果實中に存在す、美麗なる絹絲狀の結晶にして、容易に水及び「アルコール」に溶解す、甘味は甘蔗糖に及ばず、酸類にて甘蔗糖を煮沸し、或は酵母を甘蔗糖に作用せしめて造る、

カド (假導管) 植 假脈管に同じ、

カドミウム 化英 *Cadmium*. Cd . 原子量百十二、四

カドミウムイオン 英 *Cadmion*. 「カドミウム、イオン」は二價にして無色なり、有機體に對して有毒なり、

(性質)「カドミウム」は蒼白色の金屬にして、外見は亞鉛に似たり、然れども亞鉛よりも遙に展性及び延性に富めり、熔點三百二十度、沸點は殆七百四十五度なり、(製法)硫亞鉛礦に木炭を加へて熱すれば、礦中に混有する「カドミウム」は還元せられ、最初に揮發する酸化亞鉛と共に蒸溜し出つ、此の不純のものを木炭と共に再三蒸溜して之を精製す、

カカシラ (火魚) 動 *Lepidotrigla*. 「ホーボー」に酷似

せる棘鱗類にして、體赤く、少しく黄色を帯ぶ、腹底は白く、體側に淡黄色、黒色の縦線あり、東海に多く、大なるものは一尺五寸に達す、胸鰭、大なれども「ホーボー」の如く大ならず、其の前三刺は分離して、緩動の用をなす、上顎及額上に棘あり、沙泥底の近海に棲息す、

カナダバルサム *Canada balsam*. 「バルサムモミ」を見よ、

カナメ (動) 「コガネムシ」に酷似する鞘翅類にして、青銅色を呈し、七分内外ある大形種なり、殼斗科樹木の汁液を吸收し、害あり、

カナヒ (蛇舅母) 動 *Thalichromis japonicus*, *Schleg*. 「トカゲ」に似る爬蟲類にして、尾長く體に二倍し、四肢側出し、歩行に適す、舌長くして先端二裂す、

カニ (蟹) 動 英 *Crab*. 「タンペルイ」を見よ、**カニミツ** 動 「カニ」を食するるとき「ミツ」と稱し、赤褐色の軟き物あり、是れ肝臟にして、消化液を分泌する處なり、

カネツ (過熱) 化英 *Super heating*. 強く熱すること、**カネツエーツ** (可燃礦物) 英 *Combustible minerals*. 有機礦物の條を見よ、蓋し其の炭素を含有し、火熱に逢ひて

燃焼する通性あるが故に、命じたる異名なり、**カネセー** (可燃性) 化英 *Inflammability*. 燃ゆる性質を云ふ、通常は空氣中につきて云ふなり、

カネン (可燃體) 化英 *Inflammable substance*. 燃ゆるものをいふ

カノキン (化膿菌) 植 此の菌は、動物體中化膿を發する所には、必ず存在するものにして、就中、自然化膿諸症に於ては、殊に然りとす、數多の種類中、黄膿産菌は最も普通なるものにして、白膿産菌之につぐ、

カハ (皮) 植英 *Dermis*. 植物の表面、或は機關の表面也、**カハマ** (河馬) 動 *Hippopotamus*. 南亞弗利加の沼地に産する有蹄類にして、長さ一丈二尺、肩高四尺五寸に達し、

全形象或は豺に似、頭は長方形にして、耳介及眼は小に、口及上唇大なり、頭と四肢とは太くして短く、尾は一尺三寸餘あり、犬齒の長さ



一尺八寸にして、三「キログラム」あり、以て口部の大なることを知るに足る、全重量二百五十「キログラム」あり、鳴聲馬の嘶くに似、果實、木根を食す、時々水中に入りて時を移す、背部の色、帯黒褐にして腹面薄し、

カハオツ (水獺) 動 *Lutra*.

英 *Otter*. 池端の孔中に棲み、夜間出でて魚を捕食する食肉類にして、長さ二尺四寸、尾長一尺二寸あり、頭平く短くして、圓き耳あり、毛皮は短くして密生せる毛を有し、背部は暗褐色にして、腹部は帯白灰褐色なり、趾間に蹼あり、蹼の裏は裸出す、



カハカラス 動 *Cinelus*. 鳴禽

類に属し、六寸許の小鳥にして、嘴細長く、先端曲り、翼と尾とは甚だ短し、背面灰黒色、頭褐色、咽喉部及前胸部白色、後胸部褐色、腹部鼠色を呈す、蹠なければも水に入る、カハセミ (魚狗) 動 *Alcedo bengalensis*, Gm. 英 *King-fisher*. 山中、靜なる河邊に棲み、魚の水面に浮び來

るとき、突然之を捕食す、嘴甚だ大にして、頭より長し、體長五寸、翼長二寸、尾長一寸餘あり、背面綠黄色にして背の中央及臀部は青色を呈す、腹面蒼褐色、咽喉部帯白色、脚赤色、赤き上嘴根を除き、外の嘴の部分は黒し、鳴禽類に入るる學者あり、或は叫禽類 (*Querula*) に屬せしむるこ

カハネミ (水鼠) 動 *Sorex*. 川池の畔に棲み、時々水中に潜り、魚を捕食す、内外の構造「ネツミ」に似たれども、口吻突出す、食蟲類に屬す、

カハネギ 動 *Aranna aculeata*. 又「カハネフケ」と云ふ

長さ五寸内外の固類類なり、縦扁にして、皮膚に粗糙なる小鱗を被る、上顎に二列の齒あり、外列六枚、内列四枚あり、下顎には同様に六枚を單列す、背鰭の中一勁棘は、眼の直上後方にあり、他の部は中央より尾に近く達し、臀鰭は稍小なり、腹鰭は小なる骨状の突起物に變じ、固着す、食するに當り、生の中に皮を剥ぐ必要あるより、命名す、東海に多く、近海の岩礁間、海藻繁茂する場所に棲息す、カバトカイリユー (樺太海流) 地 「サガレンリユー」に同じ、

カバトサンケイ (樺太山系) 地 *Sichulien mountain system*. 樺太島より南に延び、本邦の北部を縱走する山

系を云ふ、

カハホネ (萍蓬草) 植 *Nuphar Japonicum* De. 睡

蓮科、多年生の水草にして、池水中に生ず、花黄色、季節夏秋、蜂及甲蟲媒花なり、甚だ強大なる根莖を有す、水中葉と水上葉とは其の形態を異にす、

カハラケツメイ (山扁豆) 植 *Cassia mimosoides*, L.

「コーギーチャ」とも云ふ、豆科の草本にして、羽状複葉をなし、花は黄色を呈す、嫩葉を乾かし、茶の代用とす、頗る佳にして、「コーヒー」に次ぐ、九州地方にては、特に畑地に栽培すと云ふ、

カハバト (鴿) 動 *columba domestica*, Gmel. 又「ド

バト」と云ふ、人家に飼はる「イハメト」の野生のものにして、背の下方並に翼の下面を蔽ふ毛は、帯青灰色にして、翼上に唯一の聯絡せざる、單なる黒斑よりなる横の飾帯あり、尾端は青色を呈し、嘴は青黄色にして、嘴根は暗肉色なり、體長六寸餘あり、膝蓋より乳汁の如きものを分泌し、雛を養ふ、性溫和なれども、飛翔力強し、鳩類に屬す、

カヒ (花被) 植 英 *Perianth*. 花の外部に位する二輪に

して花蕊を保護するものなり、其の二輪は即ち外花被(萼)内花被(花冠)是なり、

カヒ (假皮) 植 英 *False-Bark*. 内長莖植物の木皮状の

ものを云ふ、

カヒ (微菌) 植 下等の菌類にして、其の發育器官は無色の

菌絲なり、他物例へば果實、靴、菓子等に密生し、處々より有柄黒色の球粒を生ず、是れ即ち子囊なり、囊中に數多の胞子を藏す、子囊は成熟すれば、自ら破裂して、子實即ち胞子は外に飛散し、萌發して再び菌絲を生ず、或は又接合生殖をなして、胞子を生ずるものあり、此の如くして生ずる胞子は、直に萌發せず、多少の時間は休眠す、故に、之を休眠子と云ふ、「アナカヒ」「ケカヒ」等は、普通の種なり、

カヒ (蠶) 動 *Bombyx mori*, L. 英 *Silk worm*.

昆蟲類中鱗翅類に屬す、温帯地方に飼育さる、蛾にして、完全變態をなし、幼虫期に於ては、専ら桑葉を食し、繭を作る、口の下部にある、吐糸孔と稱する管状部より分泌せる液が、空氣に觸れて絲となるものにして、蜘蛛の腎より出す絲と等しく、蓮根内にある絲とは大に其の趣を異にす、幼虫が初に綠色を帯ぶるは、胃中の桑葉の色の透視せらるるにより、上簇の頃に至り、稍半透明の如くなるは、胃中に桑葉なく、二對の絹絲腺が充分發達し、其の内に糸の原料となる液が充滿するによるなり、此の絲が粘氣を有し、繭を形成するは、絹絲腺以外に粘液腺ありて、其の内の液が、絲の周圍を被ふがためなり、生絲を取るとき、繭を湯中に投すれば、此

の粘液溶解するにより、容易に離るゝなり、俗に頭と稱する部は、三節よりなる胸にして、桑葉を攫むに適する三對の小脚あり、頭は其の前方にある、極めて小なる部にして、左右に六對の單眼あり、脚は腹部に四對、尾に一對あり、物を握るに適す、青虫は、凡て背面に心臟を有するものにして、「カヒコ」の如きは、生時其の幼虫の背部を熟視すれば、後方より前方に血液循環する狀、明瞭なり、翼に角あるは、直腸に縱突起あるによる、脱皮する狀は奇にして、尾脚と他物との間を糸を以て連絡し置き、頭胸境界部の背面より體を出す、此の際外皮と共に、氣管も脱皮す、蛹は、睡眠期ともいふべく、此の間に於て、體の構造は、幼虫形より成蟲形に變ずるなり、繭を出づる前に、更に繭中にて一回脱皮し、口より出だせる有色液の作用により、繭を破りて出づ、成蟲は、交接と産卵の外、一の能事なく、雄は交接し終ふれば、雌は産卵し、終ふれば衰弱して死す、「ウツ」の生ずることあるは、桑葉裏に産み付けられたる、「ウツパイ」の卵を嚙下せるによる、乾地の桑は、濕地の桑より「ウツ」の生ずること多きは「ウツパイ」が濕地の桑葉に産卵する性あるによる、

カヒコウジ(蠶の蛆)動 *Udlimya sericaria*, *Bo-ni*. 蠶繭より出で、養蠶家を困むる、二翅類の幼蟲にして成蟲は體長四五分、翅の開張、九分乃至一寸あり、雄は大に

して、顔は光澤ある黄色、雌は少しく銀色を有する灰黄色を帯ぶ、共に複眼は大にして、赤褐色を呈し、胸背は、灰黄色を呈し、五條の黒色線を縱走す、尙ほ此の縱線間に、黒き粗毛を生ずる一條を有し、莖狀部は赤褐なり、腹部は、灰黒、雄にては、兩側に楕圓形の赤褐紋を有し、雌にては紋小なり、共に絹絲狀の光澤を有す、尾端に長毛多し、翅及び鱗狀瓣は、灰白にして、脚は黒く、刺毛多し、幼蟲は、充分成長するとき、六七分に達す、體は圓柱形にして、頭部の方に尖小し、末端には二個黒色なる大顎ありて、少しく弓狀に曲る、尾端は太くして、切斷狀をなして終はり、之に二個の氣門を開き、其の下に肛門あり、一年に一回發生するものにして、蛹にて越冬す、五月頃羽化し、桑葉の裏面に、二三粒の卵を産下するものにして、一頭の卵數六千内外なり、卵は小なるために咀嚼せられずして、蠶體に入り、胃中にて孵化し、次第に神經球に移り、此に於て食害し、暫くにして體腔内に出で、脂肪組織を通過して、呼吸系のある所に進み、氣門に達す、而して氣門には、己れの尾端を置きて呼吸し、口を體腔内に入れ脂肪を食す、故に氣門には、黒褐色の斑紋を生ずるに至る、充分成長するは、多く結繭後なるがために、繭を破りて外界に出づ、此のものは甚だ不活潑にして、蛹化せんとして地上に至るの道を求め、三寸程の地下に下りて、茲に蛹化

す、蛹は幼蟲と同數の環節を有し、初め淡黄なれども、後黒色に變ず、翌年五月孵化す、

カヒン(假皮層)植英 *Pulse Junk or Kind*. 單子葉莖に於ける維管束の、葉より入り来るものの中最も肥大せるものは、深く内部に入り、再び彎曲して外方に向ひ、漸次狹細となり、遂に莖の外部に近ければ、其の末端は衆多互に相網羅して、恰も皮層の觀を呈す、是れ即ち假皮層なり、

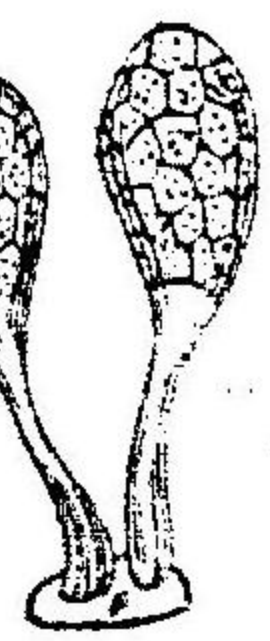
カフェイン(珈琲素)化英 *Caffeine*. 茶葉に在り、**カフトガヒ動** 「ウニ」類の棘、及骨片の外表面にある表皮、並に内臓を去りたる外骨節をいふ、此を見れば、步帶及步間帶を明瞭に理解することを得、突起の大なる列は、步間帶にして、小孔ある列は、步帶なり、管足は此の孔より出入せしものなり、

カフトケ植 *Sticta pulmonaria*, *Sch.* 地衣類中、別層地衣區の葉狀地衣族の植物にして、深山の樹皮に附着す、葉狀部を横斷して、之を檢すれば、髓絲層と縁顆層とを明に區別することを得、雌器及雄器を葉狀體上に生ず、

カフン(花粉)植英 *Pollen*. 雄蕊の葯内にある、細微の粉末なり、

カフカ(花粉花)植 花粉の量多くして、多く甲蟲の媒助によりて、雌蕊に受精せしむる花を云ふ、

カフカイ(花粉塊) Pollen-mass. 花粉末の固塊をなすものを云ふ、例蘭科植物、圖



カフカン(花粉管)植英

Pollen tube. 元來花粉粒は、内外兩被を被むるものなり、一旦柱頭に達するときは、之より分泌する液質の爲に養



はれ、内被の一部分が、外被の孔穴、或は薄き部を穿ちて伸長す、之を花粉管と云ふ、而して、其の先端に、二個の雌性核を生ず、

カフリユー(花粉粒)植 一個一個の花粉末を指す、

カフラ(蕪菁)植 *Brassica campestris*. 十字科に屬する草本にして、葉は種々分裂して、其の形大なり。花は黄色を呈し、根は肥大なり。之を煮又は漬物として、食用に供す、種類甚だ多し、「コカア」「オーミカア」「テンノシツカア」「ナガカア」「ムラサキカア」等は、其の主要なるものなり、

カヘ(果柄)植英 *Chrysothone*. 數個の子房間に伸長せる、花托の一部分にして、柱狀をなすものを云ふ(圖は花托の條にあり)

カヘデ

カヘデ 植「モミダ」に同じ。

カホー(芽胞) 植 胞子に同じ。

カーホキシル 化英 Carboxyl. $-CO_2H = -O \backslash / OH$ を

「カーホキシル」と稱す。

カホーノ(芽胞囊) 植 子囊に全し。

カホカンマツ(禾本科植物) 植 Gramineae.

(特徴) 花被は缺如し、又は、二乃至三の細鱗即ち鱗被あり、雄蕊は三乃至一、又は三の倍数、又は多数なり、雌蕊は一、卵子は斜上、乃至斜下、通側彎曲す、二柱頭なり、果實は頭果にして、蓋花は、一乃至多数の小花よりなる、二乃至六個の總苞、即ち穎を具ふ、一小花に内外の殻を具ふ、莖圓くして節あり、節間通例は中空なり、葉は、互生二列し、葉鞘合一せず、舌状片を具ふ。

(例) 稻屬、とうもろこし屬、稷屬、雄かるか屬、小麥屬、らい麥屬、大麥屬、竹屬等、三二〇〇餘種ありと云ふ。

カーホランダム 化英 Carborundum. 珪素と炭素との化合物なり。

カホーワ(過飽和) 化英 Supersaturation. 硫酸ソーダを五十度位の水に溶かして飽和溶液を作り、溶けざる固體を除きて静に冷せば、溫度降りて、其の溫度に於ける飽和溶液が含むよりも、多量の硫酸ソーダを含むにも拘ら

カホー

す、結晶を分離せざることを見る、之を過飽和と稱す、過飽和せる溶液は即ち過飽和溶液なり。

カホーワエキ(過飽和溶液) 化英 Super-saturation solution. 過飽和の條下を見よ。

ガマ(香蒲) 植 Typha japonica, Miq. 香蒲科植物にして、葉を織りて席となす、穂をやくに「ホクチ」となす。

カマキリ(螳螂) 動 Mantis. 直翅類に屬し、大形にして、第一對脚は、腿節腰節より發達し、相向へる面に鈎狀突起ありて、捕獲用をなす、害虫を捕食するにより益蟲とす、枝梢、草葉等に附着する蝨の如き塊は、此の蝨の卵殻なり、之を貯ふれば、春季多くの仔蝨を生ず、腹中にある線蟲は、蝨蟲等に似たる「ハリガネムシ」なり。

カマンガサン(過マンガン酸) 化英 Permanganic acid. HMO_4 過マンガン酸は、過マンガン酸「 $KMnO_4$ 」に冷き強硫酸を加ふれば生ずる赤紫色の液體なり、甚不安定にして、放置するか或は日光に曝す時は、速に分解して酸素を游離し、水酸化マンガンの沈澱を生ず。

カマンガンイオン(過マンガン酸イオン) 化英 Permanganion. 過マンガン酸イオン (MnO_4^-) は一價にして赤紫色を有す。

カマンガンサカリ(過マンガン酸加里) 化 過マンガ

ン「酸」カリウムに同じ。

カマンガンサカリウム(過マンガン酸カリウム) 化英 Potassium permanganate. $KMnO_4$.

カマンガンサカリッセーホー(過マンガン酸加里の製法) 二酸化「マンガン」及び鹽素酸「カリウム」と水酸化「カリウム」と熔融したるものを水に溶し、之に炭酸瓦斯を通じて濾し、濾液を蒸發すれば紫色の結晶を得。

カマンガンサカリッセーシツ(過マンガン酸カリウムの性質) 十六倍の水に溶けて紫色の溶液となる、徐々と酸素を發して酸化作用をなすを以て、酸化劑となし、又防臭劑に使用することあり、又飲料水中に有機物の有無を検するに用ゐらる、通常の井水を試験管に盛り、極めて稀薄なる過マンガン「酸」カリウムの溶液の一滴を加へて沸騰するときは、其の水中に含有せる有機物の爲に還元せられて、其の紫色を失ひ、遂に微量の水酸化「マンガン」の沈澱を生ずるを見る。

カミ(紙) 化英 Paper. 紙には種類多くあれども、大別して日本紙及び西洋紙の二となすべし、日本紙の原料は、主に楮三極及び桑等なれども、藁を混ぜたるものあり、楮にて紙を製する法は、大略左の如し、即ち皮を剥ぎ、一日間水に漬して外皮を去り、鐵鍋にて苛性ソーダ或は石灰と混じて

カマン

數時間煮て、纖維を分解す、次に之を籠の中に入れて流水にて洗ひたる後、木の臺に載せて、數時間棒にて打ちて細毛となし、之を水中に入れ、漂白粉を混じ、時々よく攪拌し、次に甚だ薄き硫酸液に入れ、暫時放置して白色となりたる後、水にて十分に洗ひて、漂白粉及び硫酸を除く、かくして得たるものは、甚柔くして恰も綿の如し、之を紙質と稱す、次に紙質を四角の箱に入れ、水を注ぎ、黃蜀葵(トロアフェ)の根の粘液を混じて、よく攪き交ぜたる後、之を簀に掛ひ載せ、略水を乾かしたるものを一枚毎に木の板に張り付けて、日光にて乾す、而して全く乾きたる後、一定の大きに截つなり、西洋紙の原料は主として藥木材、藍藤等なり、藁にて紙を製する法は、大略左の如し、藁の袴、汚れたる部分及び穂先を少しく切り去り、直徑十圓位の鐵製空球に入れ、苛性ソーダの溶液を加へ、回轉しつつ水蒸氣を通じて煮る、然る時は藁は分解せられて、海綿を粉末にしたるが如き有様となる、之を取り出して方四五圓深さ三四尺の木箱に入れ、よく水にて洗ひ、苛性ソーダ及び他の雜物を去りたる後、水を絞ひたるものを粉碎機に掛けて粉末状となすと同時に漂白し、且之に西洋紙を混じて紙質を適當になす、然る時は、白くして柔きこと恰も豆腐の如きものとなる、之をよく洗ひて漂白粉等を去りたるものを高所に汲み上げ、水と共に、幅

カミ

五六尺長さ八九尺の眞鍮製の目の極めて細かき金網の篩の上に平均に流す、金網の下には水を吸ひ取る装置ありて、流れ終る頃には、大部分の水を失ふ、金網より流れ下りたるものは、直徑三尺許の眞鍮製の二つの圓筒に巻きたる「フランネル」の間に入り、壓搾せらるると同時に熱せられて乾燥す、「フランネル」の間を出でたる紙は、尙も前の圓筒と同じ大きさの圓筒十本許の周圍を巡りて出づ、此等の圓筒は「フランネル」を巻きたるものと同じく、其の中には熱せられたる水蒸氣絶えず通過せるを以て、紙が圓筒を巡り終りたる時は、全く乾燥す、次に切斷機に至りて、適宜の大きに切らるゝなり、木材を原料とする時は、苛性ソーダを用ゐれば繊維を害するを以て、酸性亞硫酸「カルシューム」を用ゐるを可とす、酸性亞硫酸「カルシューム」は、木材を細末とすると共に漂白す、其の他の手續は藁の場合に同じ、

カミキリムシ(天牛) 動 Melanaster. 種類甚だ多く毛髪を切斷するにより此の名あり、觸角長く十一節より成り、脚節に刺あり、六頭よく發達し、前翅革質なり、幼蟲は乳白色にして、脚を缺き、且つ胸部膨大す、單眼を有せざるもの少く、樹幹を害す、俗に之を鐵砲蟲といふ、

カミツカ(花密花) 植 蟲媒花の一種にして、昆蟲、鳥類等の食用となるべき花蜜を有するものを云ふ、「ナタネ」、「ダ

イコン」、「サクラ」等々の如し。
カミツ 植 Matricaria chamomilla, L. 菊科植物にして、無害の發汗劑を製す、
カミツガン(假脈管) 植英 Hyaloids, or Tracheides. 延長したる細胞の兩端は、消失せざれども、脈管に等しき用をなすものを云ふ、

ガムシ 動 Hythophilus. 「ケンゴロー」に似、淡水に棲む鞘翅類にして、黒色を呈し、小顎鬚は觸角よりも長く、觸角は六乃至九節より成り、脚は游泳に適す、幼蟲は圓柱形にして、小魚を捕食するにより害あり、然れども、成蟲は食草性なり、全形楕圓形にして、一寸餘に達す、

ガン(雁) 動 「カリガネ」の條下を見よ、
カインキ(灌域) 地英 Drainage. 川に川水を給する土地をいふ、

ガレン(岩鹽) 鑛英 Rock salt.

(一)等軸晶系にして、六面體又は八面體の結晶をなす、六面形の各面は屢々階段狀をなし、漸次に晶心の方に凹入し、恰も入子の重箱を重ねたるが如し、(二)六面形の劈開は、完全なり、(三)断面、貝殻狀、(四)玻璃光澤あり、(五)無色又は白色にして、黄、赤、青、紫色等を帶ぶ、(六)透明、或は稍透明なり、(七)水に溶解し易く、鹽味強し、(八)硬度二、五(九)比

重二、一乃至二、二五七(十)成分は鹽化「ナトリウム」にして、多少硫酸化合物、又は粘土、又は有機物を混す、(十一)反應は閉管に熱すれば爆發し熔融す、吹管炎には「ナトリウム」の反應あり、開劈、熔融性、及鹽味あるを以て、類似のものより識別す、

(產地及産出の狀況)本鑛は層をなして産出し、其の層非常に厚きものあり、獨乙國「スタスフルト」に産するものは、厚さ三千尺に達し、一個年の産額凡二百四十五萬貫目に及び、又埃國「ウヰルチカ」より出づるものは、所によりては四千五百尺の厚さを有し、一個年の産額七百萬貫に及び、今日に至るまで、其内に掘りたる坑道の延長は、實に我が二十里餘に上れりと云ふ、(十三)效用は食鹽に同じく食用の外、鹽酸、「クロリン」、「ソーダ」石鹼、玻璃等の製造に供す、「アルセリヤ」の乾燥地にては建築の材料となすと云ふ、

カンゼンイ(完縁類) 動 英 Integripallinta. 楔足類中の有管類に屬する一亞目にして、水管は短くして短縮せず、外套線は單一にして彎曲せず、「シツミ」、「トリガヒ」、「シヤコ」等之に屬す、

カンオー(感應) 物 英 Magnetic induction. 強き磁石の一端に軟鐵片を接し、又は之に接近して置くとせば、其の片、磁石性を有するに至る、之を磁針にて驗するに、磁石

に近き方の端には、磁石端と異名の極を生じ、他の端に同名の極を生ず、斯くの如く、磁場内にある鐵片が、磁性を得る所の現象を稱して、磁氣の感應といふ、

カンオー(感應) 物 英 Electric induction. 發電體に接近して置かれたる導體の、發電體に近き部分に、發電體の電氣と異種の電氣を生じ、遠き部分に、同種の電氣を生ずる所の現象を、電氣の感應と稱す、

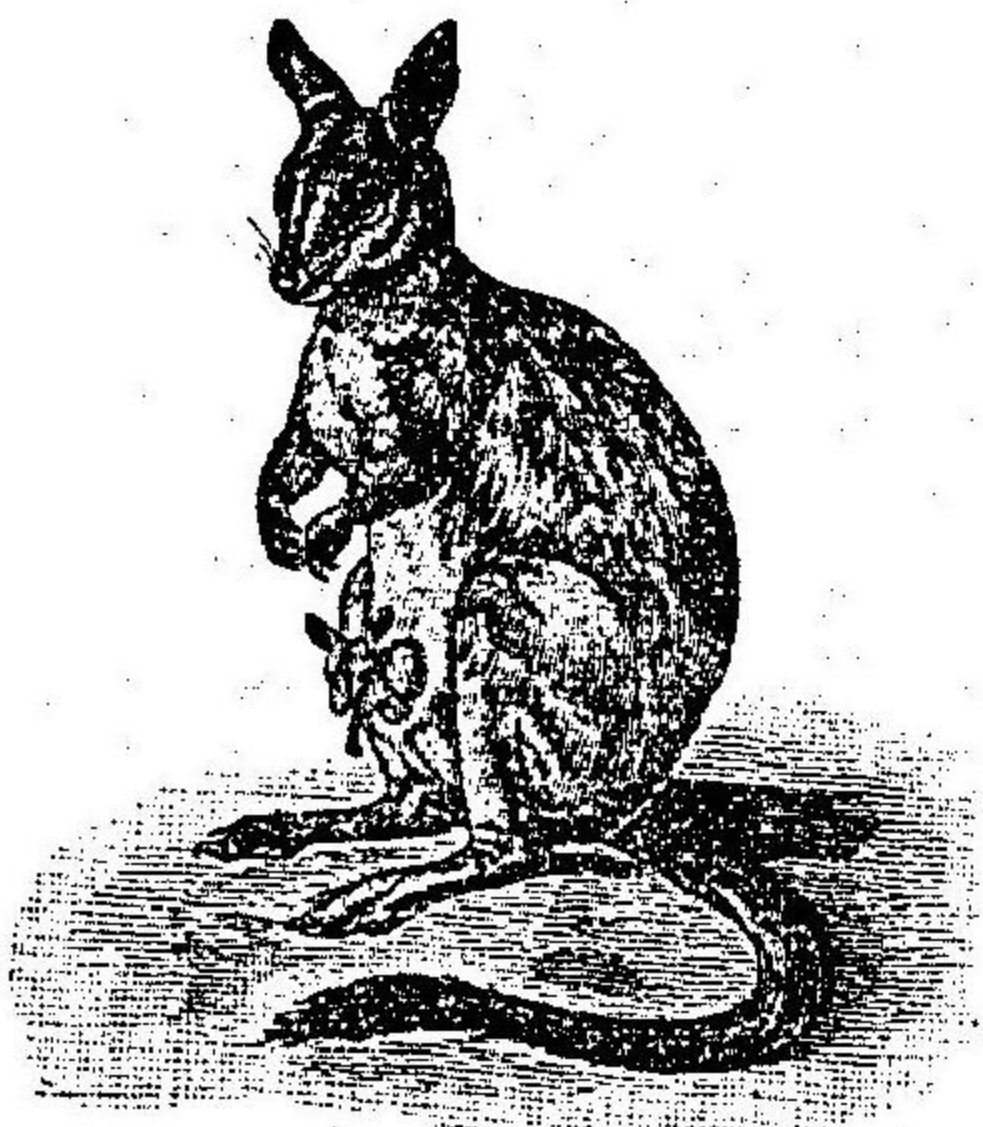
カンオーキデンキ(感應起電機) 物 英 Induction machine. 感應起電氣は、電氣の感應作用を利用して、多量の電氣を起すべく装置したる器械にして、「ウヰムシヤースト」の起電機は、この種に屬す、

カンオーコイル(感應コイル) 物 英 Induction coil. 感應「コイル」は、感應電流の現象を應用したるものにして、一の輪道内を通ずる電流の強さを急激に變化し、因りて以て、其の傍に在る所の導線内に感應電流を起すための器械なり、その目的は、電動力の小なる電流を輪道に通じ、之によりて導線内に、電動力の大なる電流を生起せしむるにあり、
カンオーデンリユー(感應電流) 物 英 Induced current. 電流の通ずる導線を、他の導線に近づくと、又は相接近せる二導線の間に電流を通すれば、他の導線内に、之と方向反對なる瞬時の電流生ず、或は又、電流の通せる導線を

他の導線より遠くか、若しくは、相接近する二導線の一に通ずる電流を絶つ時は、他の導線内に、之と同方向なる瞬時の電流を生ず、斯くの如き瞬時の電流を稱して、感應電流といふ。

ガンカセキ (頑火石) 鑛英 *Enstatite*. 「キセキ」(輝石)の條につきて、其の種類の部を見よ。

カンガルー 動 *Macropus*. 英 *Kangaroo*. 全形繪「ネズミ」に似、體の前半後半の大きさの割合、甚しく異り、前肢極めて小さく、後肢及尾の發達極めてよろしく、常に後肢と尾とを用ひて運動し、一躍してよく三四間を飛ぶ、體五六尺尾亦三四尺に達す、子は早く生るるにより、腹部にある囊中に養はる、澳洲に産す、有袋類に屬す、



カンガルー (管牙類) 動英 *Solenoglyphus*. 蛇類に屬する一亞目にして、毒牙は管を爲して毒液を通ずることを得、「マムシ」、「ハブ」、「ガラガラヘビ」等之に屬す、毒腺は

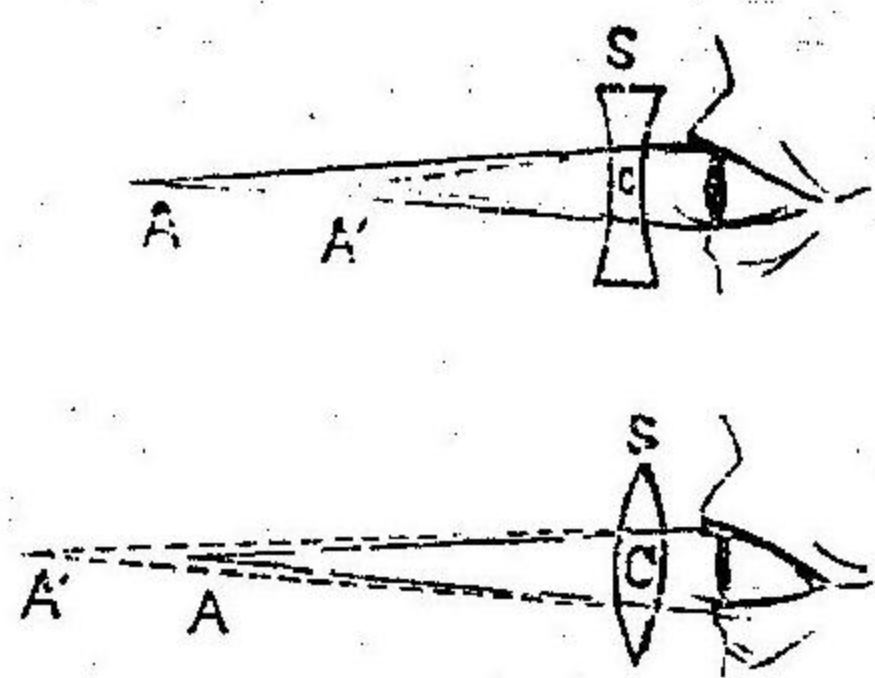
頰の兩側にある囊にして、此より筋肉の收縮により、牙中に毒液を送り出す、毒蛇は頰の兩側膨大するにより、容易に區別し易し。

ガンキョー (眼球) 生英 *Gonion*. 眼窩内にあり、直徑七分餘、殆んど球形をなし、中央の前面突出す、此の部に硬き透明の膜あり、之を角膜といふ、此の膜の連絡せる部分は、眼球の全外面を蔽ふ、之を鞏膜とす、鞏膜の内面に脈絡脈ありて、血管分布す、其の内面に網膜あり、黒色の色素を有す、網膜内面中央に一小凹處あり、之を黄斑といふ、蓋し尤も明瞭に物像を影する點なり、之より少しく中央に傾ける部分(右眼なれば左方、左眼なれば右方)に視神經入り來り、網膜の内面全部に分布す、此の神經の入れる中央を盲點といふ、此の點は視覺なき部分なり、角膜の後方には、水様液と稱する液あり、此の後方に「レンズ」(水晶體)と稱する、凸「レンズ」形の半固體あり、此の周圍には、透明の薄膜ありて之を蔽ひ、其の「レンズ」の縁に當る部分は、延びて鞏膜の裏面にある環狀筋に達す、「レンズ」は絶えず凸度を増さんとし、被膜は環狀筋の收縮により、凸度を減する傾あり、近眼の人は、此の「レンズ」の凸度増加に過ぎ、角膜突出し、遠眼の人は凸度の著しく減じたるなり、是近眼には、之を補はれがために凹「レンズ」を用ひ、遠眼の老人は、凸鏡を用ひる

所以なり、「レンズ」の前方に接し、中央に圓孔ある有色膜あり、之を虹彩と稱し、其の中央の孔を瞳孔といふ、瞳孔は明暗により、其の面積を増減す、蓋し虹彩の伸縮によるものにして、寫眞撮影に際し、光線の多少を加減するに等し、「レンズ」と網膜との間に、硝子様液と稱する透明の液あり、網膜内面には、物體の倒像を影するものにして、恰も蠱眼鏡を以て遠景を見るに等し、然るに之を正像と感ずるは、觸覺の助による、即ち觸覺の助により、倒像は正物なることを覺知し、正像は却て倒物なりとの經驗を積みければなり、今之を實驗せんとせば、眼瞼を閉じて眼窩と眼球との境界なる任意の點を指頭にて壓すべし、然るときは、玆月形の金色環は、其の反對の一隅に現るべし、例へば眼下を壓せば、眼の上部に生ず、是れ倒像を影する證左なり、抑も神經は、各其の専門のこのみを感じものにして、視神經は如何なる刺激來るも、常に之を光と感ずるものなり、されば壓力を加ふるも、或は振動(頭の鉢合せ、非常なる激動等)を加ふるも、常に光と感ず、故に前述の實驗も、金環を生ずるなり、さて此の金環の位置の加壓所と反對なるは何故か、平常網膜の下部に影する像は、外界にありては上方にあり、上部に來る物影は、下方にあること、既に經驗の教ふる所なれば、眼上部を壓し、其の部に光を感じたるにより、即ち外界には、

物體上部にありしならんと、想像知覺せるによるものなり、次に盲點の存する實驗をなさんには、紙面に約三寸を隔て、直徑四五分の二の黒點を記し、此の紙を眼より凡そ一尺の所に於て、兩點を兩眼と相對せしめて維持し、左眼を閉じて左黒點(右眼を閉じれば右點)を熱視すれば、右黒點は消失すべし、是れ右點が盲點に影じたるによるなり、蓋し神經は、其の先端に於てのみ、感覺を有するものなればなり、又遠近を知るは、兩眼あるがためにして、遠方の物は兩眼のなす角(黄斑、「レンズ」の中心并に物體の中心を連絡する、二直線の交りてなす夾角度)小にして、近き物は、此の角大なり、此の角度の大小と遠近との關係は、脚の筋肉が幾度か經驗し、度々の時は凡そ何歩位、度なれば何町位と、經驗したる結果、遂に筋肉感覺を離れ、獨立して知覺することを得るに至れるなり、片眼にて遠近を知ること能はざることは、次の實驗にて容易に知ることを得、即紙燃にて、直徑一二寸の輪と、先端曲れる鈎とを製り、輪を數尺の先方に眼と水平に保持し、一眼を閉じて、上方より此の鈎先を輪中に入らるなり、的中せざること多かるべし、然るに兩眼を開きて、持ち行けば、入ること極めて容易なり、

ガンキョー (眼鏡) 物英 *Spectacles*. 眼鏡に、近眼鏡遠



眼鏡(又老眼鏡)の二種あり、近眼鏡は凹「レンズ」にして、之を用ゐるときは、通常の眼の明視の距離にある物体を、恰かも近視眼の明視の距離にあるに同じからしめ、遠眼鏡は凸「レンズ」にして、之を用ゐるときは、通常の眼の明視の距離にある物体を、恰かも遠視眼の明視の距離にあるに同じからしむ、何れも、通常の眼の明視距離にある物体の像を、正しく其の各の網膜上に生ぜしむることなるなり、今圖に於て、上のものを近眼とし、Sを凹「レンズ」とし、Aを二十五種の距離にある物体とすれば之より發する光が、Sを通過し廣がりて眼に入るが故に、此の光はAよりも近きAより發する光と同一の働きをなし、よくA物体を見ることを得るなり、又遠眼鏡が、遠視眼によく物体を見せしむるの理も、之に似たること圖に示すが如し。

眼鏡に附したる度或は番號は、新式のもの、焦點距離一メートルの「レンズ」の能を以て單位として、其の能を表はし、舊式のもの、「インチ」(吋)を單位とせる焦點距離を表はす、**ガキキ(眼筋)生英 Eye-muscles.** 眼球を動かす筋

にして、内外上下の四直筋と、下斜筋及滑車筋との六筋よりなる、内、外の直筋は、眼球を内、外に轉せしめ、滑車筋と上直筋とは、眼球を上向せしめ、下斜筋と下直筋とは、下向せしむ、斜視眼は、眼の遠ざかる方の眼筋、伸長せるか或は近づける方の眼筋の短縮せるかによる、

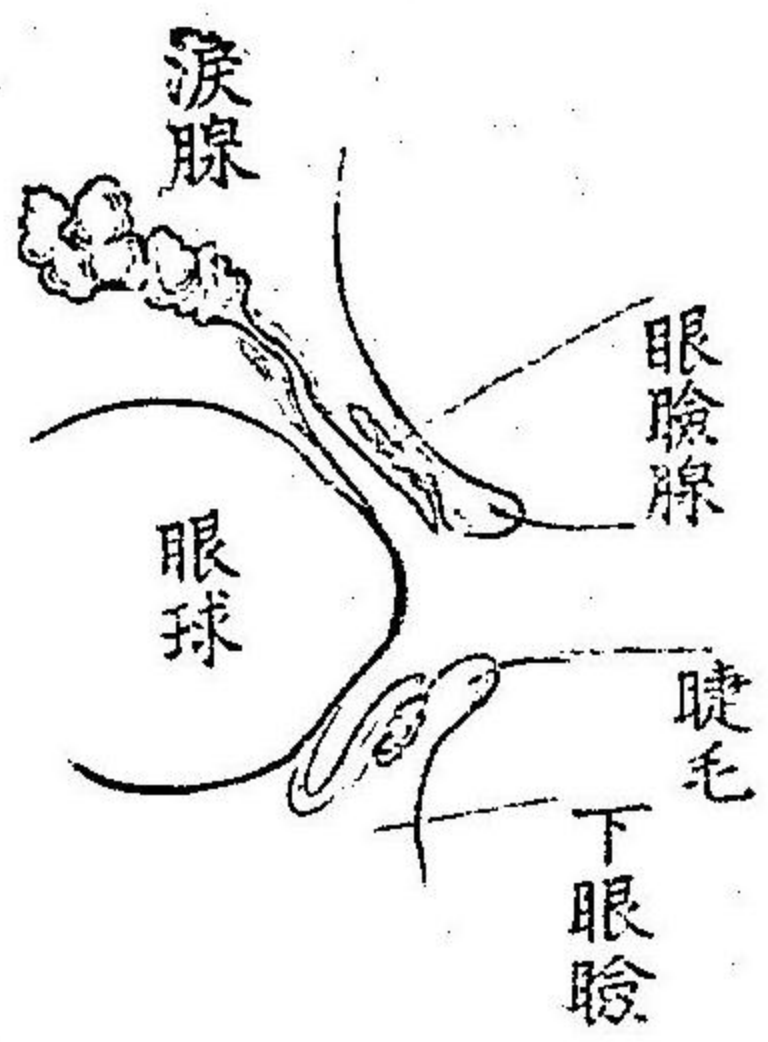
カンケツセン(間歇泉)地英 Geyser. 温泉が、時期を定めて噴出するをいふ、陸前の鬼首、伊豆の熱海にあるもの如し、鬼首の湯は、一晝夜に七回、熱海のものには六回噴出す、尙熱海のものには二十日毎に一回の長湯あり、十五六時間噴出し、其の翌日は全く噴出を止む、之を休みと稱せり、外國にて著名なるは、米國の「エルトローストン、パーク」及水洲等にして、水洲の大沸泉は一日に一回噴出し、猛烈なる鳴動に伴ひて、熱湯を噴騰する、と百尺に及び、頗る壯觀なりと云ふ、間歇泉の成因については、「マッケンツ」氏及び「アンゼン」氏等の説あり、

カンケン(還元)化英 Deoxidation or Reduction. 普通に金屬の酸化物より酸素の幾分或は全量を除くことを還元と稱す、然れども廣くいへば、陽根を増し或は陰根を減することなり、例へば水素を附加し或は化合物の水素の量を増すは一ツの還元にして、鹽素化合物より鹽素の量を減するも亦一ツの還元なり、

カンケンモ(還元燐)化英 Reducing Flame. 燐の條を見よ、

カンケンサイ(還元劑)化英 Reducing agents. 普通に金屬の酸化物より酸素を取り去るものを還元劑といふ、然れども陰「イオン」を取り去り、或は水素の如き陽「イオン」を與ふるものも還元劑なり、炭素及水素は金屬酸化物より酸素を取り去るを以て、一の還元劑なり、

カンケン(眼瞼)生英 Eye-lid. 眼球の上下にある被物にして、上眼瞼は伸縮し、所謂眼を開閉す、俗にいふ眼の



大小は、眼瞼間の大なるにより、眼球の大小にはあらず、眼瞼の裏面の膜を結膜といふ、結膜炎は、此の膜の嫩衝を生ぜるなり、「マタタキ」は角膜の表面に

涙を塗らんがためなり、圖は眼瞼及び眼球の縦断面なり、**カンケンセン(眼瞼腺)生英 Meibomian gland.**

眼瞼の縁にある腺にして、一種の液を分泌し、涙を眼瞼外に流出せしめざるものなり、朝起きたるとき、「メヤニ」の固まれるは、即ち是なり、

カンコ(鹹湖)地英 Salt Lake. 地殻中の可溶質物を溶解せる水、流れて出口なき湖水に注ぎ、其の水分次第に蒸發するときは、湖水は、漸く鹽類の含量に富むに至る、此れ即ち鹹湖なり、

カンコ(甘朮)化英 Galmei. 鹽化第一水銀に同じ、**カンコ(乾候)地英 Dry season.** 熱帯地方にて、一年内に二回現るる所の乾燥する時季をいふ、

カンコツ(顴骨)生英 Malur Bone. 顴の幾分が突出せるは、此の骨の高さを示す、下顎骨を動かす筋肉の一部は、此の骨に附着するにより、食肉獸の如きは、此の骨突出して發達よろし、此の骨の突出せる人が、多少溫和の相を缺くは、食肉性即猛獸の特性の一部を示すによる、

カンコジ(岩紺青)化 藍銅礦の粉末にして繪具に用ゐらる、

カンサイト(甜菜糖)化英 Beet sugar. 甜菜俗に砂糖大根の根より製したる砂糖なり、其の製法は砂糖の製法の條を見よ、甜菜糖は、獨逸又は我國の北海道の如く寒氣強き地に於て製せられ、甘蔗糖と同じく食物の調理に用ゐらる、

カンサイ(寒劑)物英 Freezing mixture. 固體が液體となるに際し、外部より之に熱を供給することなければ、

カンシ

四圍の物體若しくは自己より熱を吸収するがために、自ら冷却するものなり、此の理を利用して寒冷を生ぜしむべき混合物を稱して、寒劑といふ。

寒劑の表

水	二	零下二十二度
食鹽	一	零下二十九度
稀鹽酸	九	零下二十九度
稀硝酸	四	零下二十九度
硝酸アムモニウム	一	零下十五度
鹽化カルシウム	三	零下四十八度
雪	五	零下十七度
硫酸ナトリウム	八	零下十七度
鹽酸	五	零下十七度

カンシセン (眼脂腺) 生「カンケンセン」に同じ。
カンシツ (肝蛭) 動「カンゾーシストマ」に同じ。
カンシキョーシッドケー (乾濕球濕度計) 物英 Wet and Dry Thermometer. 乾濕球濕度計は、多く氣象測所候等に於て用ゐる所のものにして、二個の同形なる寒暖計より成り、其の一方の球部は、一端を水に浸したる綿糸にて包まれ、水が絶えず之より蒸發するによりて、其の示す所の温

カンシ



此の温度の差と氣温とを見て、此の器に附屬する表に照らして、直に空氣の湿度を知ることを得るなり。

カンショー (干涉) 物英 Interference of sound wave
 二個の發音體より發する音波が、同時に同一所に達して、兩波の濃厚部は濃厚部と、又稀薄部は稀薄部と相合する時は、別々の音波のあるよりも強音を生じ、若し又、其の濃厚部と稀薄部と相重なる時は、音の強さを弱からしめ、或は全く無聲となるべし、一般に、數多の音波が、同時に同一所に到着するときは、同一の状態にある音波は、互に相助け、反對の状態にあるものは、互に相滅殺する所の現象を稱して、音波の干渉といふ。

カンシヨ (甘蔗) 植 Muscivora melastoma, L. 通常「バナナ」(Banana)と稱するものにして、琉球、小笠原、臺灣に産す、薑科の小草本にして、其の形「メセナ」に類し、花は黄白色、其の實漿果にして長く、黄色を呈し、頗る美味なり、一種より八九十個の眞實を得可し。

カンショー (環礁) 動英 Atoll. 珊瑚礁の一種にして、礁は通常環狀をなし、其の中に島なきものなり、珊瑚礁参照。

カンショー (岸礁) 地英 Fringing reef. 海岸に沿ひて生ずる珊瑚礁を云ふ。

カンショーガツツ (間上顎骨) 動英 Premaxillary bone. 多くの哺乳類の兩上顎骨間にある小骨なり、人に於ても、發生上、一時はあれども、分娩後には、癒着して一上顎骨となる。

カンショーカン (環狀管) 動英 Ring tube. 棘皮動物の水管系中、食道の周圍にある、輪狀をなせる水管をいふ。

カンシキョシ (乾式反應) 化 乾性反應に同じ。
カンショーナシツ (環狀軟骨) 生英 Oricoid cartilage. 喉頭にある、環狀をなせる軟骨の名なり、「コート」の條を見よ。

カンシシレイ (管心類) 動 Teptocentri. 「ナメクシウサチ」を含む、背索永存し、其の背面に脊髓あり、脊椎なし、脊椎動物中進化の度低しと見るべきものなり。

カンシイコ (鹹水湖) 地 鹹湖に全し。
カンシイコロラル (含水クロラル) 化 抱水「クロラル」に同じ。

カンセー (頑性) 物英 Coercive force. 鋼鐵は、之に磁

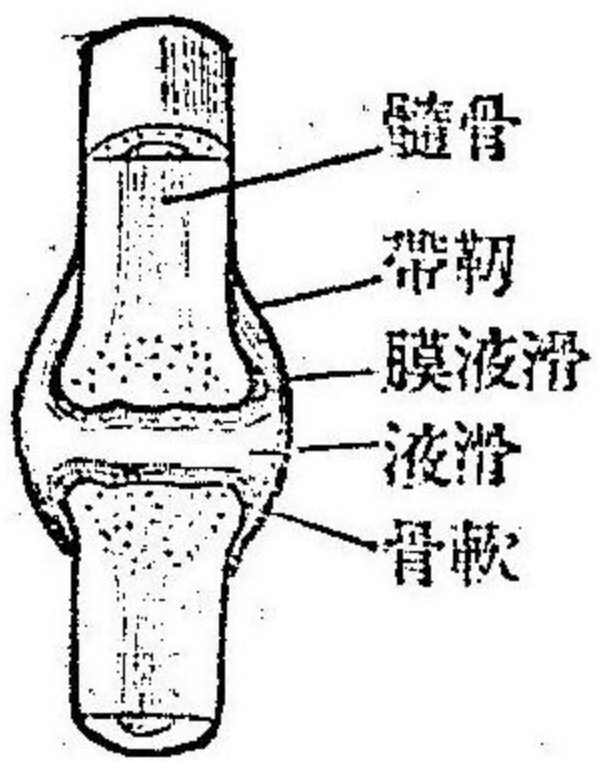
カンセ

性を帯びしむること容易ならざれども、一旦磁性を有するに至れば、其の性質を失ふこと亦容易ならず、斯の如き性質を、鋼鐵の頑性と稱す、是を「ギルバート」の假説によりて考ふれば、其の分子の廻轉の自由ならざるによるものなり。

カンセキ (岩石) 地、鑛英 Rocks. 地殻を構成する物質をいふ、鑛物の集合によりて成る、中には、一種の鑛物によりて成るものあれども、多くは二種以上の鑛物より成れり、例へば花崗岩の如きは、少くも三種の鑛物によりて成れるが如し。

カンセキケン (岩石圈) 地英 Lithosphere. 水圏下部の地殻をなす固體の部分なり、通常岩石より成るを以て、此の名あり。

カンセツ (關節) 生英 Joint. 可動的に二骨を連接する所を關節といふ、關節部の外面には、白色の靨帯あり、囊の如く之を包み一定の範圍内に運動することを許す、而して



靨帯は撓み易けれども、決して伸びざるにより、強ひて曲ぐれば、脱臼するに至る、靨帯の内面及關節面には、滑液膜と稱する薄膜ありて、之を被ひ、常に滑液を分泌し、相關節せる二骨端を

カンセ

滑澤にし、相摩擦することなからむこと、恰も車軸に油を塗るが如し、

カンセツ (環節) **動英** Somite, or Segment. 「ミナス」にある如き節を表す詞なり、時としては、内、外骨格にある接目をも稱することあり、此の時は關節に「ふ」字を用ゐる、**カンセツキ** (環節器) **動英** Segmental organ. 蠕形動物の排泄器をいふ、各環節に各一對つゝあるにより名づく、

カンセーハンブー (乾性反應) **化英** Dry reaction. 定性分析に於て用ゐる語にして、單體或は化合物を溶液とせざる時の反應なり、例へば炭酸ナトリウムと共に熱し、或は「アンセン」燈の焰中に入れたる時に色を呈する反應等の如し、乾性反應は又乾式反應ともいふ、

カンセン (汗腺) **生英** Sweat gland. 皮膚内に迂曲し、表面に開口する腺にして、迂曲せる部分の周圍にある、毛細管中の血液より、汗を濾し取り、皮膚外に分泌するものなり、人體にありては、全數約二百五十萬餘を有し、體温の調節を司るものなり、「アセ」の條参照、

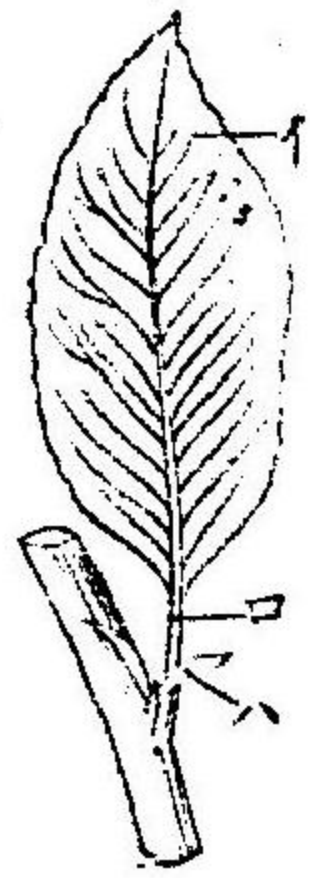
カンセンカ (完全花) **植英** Complete flower. 花被花蓋を完備するものを云ふ、故に完全花は皆具備花なり、**カンセンキタイ** (完全氣體) **物英** Perfect gas. 完全氣

體とは、如何なる強大の壓力を受くるも、如何に低温に冷却せらるゝことあるも、常に氣體の状態を保ちて、決して液化せらるゝことなき氣體をいふ、此の如きものは、實際にあり得べからざるものにして、全く假想的のものなり、

カンセン (環節) **動英** Holometabola. 「ヘンタイ」の條を見よ、

カンセユ (乾性油) **化英** Drying oil. 乾性油は又乾油と稱す、植物油の一種にして、之を紙又は板に塗りにて空気に曝せば、粘質を失ひて乾燥せるが如くなるにより、此の名あり、亞麻仁油、荏油、桐油等之なり、

カンセツキ (完全葉) **植英** Perfect leaf. 葉身 (Blade or lamina) 葉柄 (Petiole) 托



葉身、ロ葉柄、ハ托葉なり、

カンゼー (肝臟) **生英** Liver. 横隔膜の下胃の上にある、稍右方に偏する大腺にして、門脈と稱する靜脈より、膽汁を吸収し、膽嚢に集め、此より出づる細管は、十二指腸に開口し、糜粥の胃より出づるとき、膽汁を注ぎ、脂肪を乳化し、以て腸壁を通過し易からしむ、

カンゼー 植 「アマクサ」を見よ、

カンゼーキ (乾燥器) **化英** Desiccator 或 Drying apparatus. 空氣浴、蒸氣浴、硫酸乾燥器等の如く、物を乾かすに用ゐるものなり、

カンソク (管足) **動英** Tube feet. 棘皮動物が運動するために出す膜足なり、「スイカンゼー」を見よ、

カンゼーサイ (乾燥劑) **化英** Drying. 鹽化「カルシウム」濃硫酸、酸化「カルシウム」等の如く、水分を吸収する物

をいふ、
カンゼージストマ (肝蛭) **動** Distomum spathulatum [Lk]. 人の肝臟に寄生する扁蟲類にして、大抵一分以下なり、平くして、吸盤二個を有し、時としては、全村此がために惱み、全家舉りて斃るることあり、然れども、其の生活史は猶ほ不明に屬す、「ジストマ」参照、

カンタイ (環帶) **植英** Annulus. 「シノー」を見よ、

カンタイ (寒帶) **地英** Frigid zone. 南北兩緯六十六

度半以上の地をいふ、

カンタク (鹹澤) **地** 海濱平夷の地に於て、高潮の時は殆んど水中に没し、干潮の時は一面濕地となるものをいふ、

カンダンゲー (寒暖計) **物英** Thermometer. 寒暖計は、温度の變化によりて、物體が膨脹收縮する所の性質と、

熱の傳導とを利用して、以て他の物體の温度の高低を測るに使用するものなり、其の構造は、内徑一樣にして、各所同一の太さを有する玻璃の細管を、一端膨れて球形又は圓筒状をなすものの中に、水銀又は「アルコール」を入れ、之を熱して管の空氣を驅逐して、其の一端を密閉し、最後に管の外面に度盛りを施したるものなり、而して水銀を用ゐたるものを、水銀寒暖計といひ、「アルコール」を用ゐたるものを、「アルコール」寒暖計といふ、前者は、主として高温を測り、後者は、低温を測るに用ゐらる、管に水銀を入れるには、寒暖計用として特別に作れる玻璃管を取り、よく洗ひ乾かし、之を少しく温めて、其の空氣を膨脹せしめ、之を倒にして水銀器中に入れるれば、管の冷ゆるに従ひて、水銀は之に入るべし、故に數回之を反覆して、適宜に管中に水銀を入れるなり、又度盛を施すには、次で之を熔けつゝある所の水の中に沈め置き、水銀柱の上端の止まる所に標點を記し、之を水點とす、次に、之を沸騰する所の水の蒸氣中に吊し置き、水銀柱の上端の止まる所に標點を施し、之を沸騰點とす、而してこの二點間を、各自の欲する所に隨ひて細分し、之を度と稱す、又「アルコール」寒暖計の度盛は、精密なる水銀寒暖計に比較して施すものとす、

カンダイ (岩臺) **地英** Sill. 熔岩の地に噴き出でしも

の、四方に向ひ、殆んど平均に流れ擴がり、凝結せしものにして、其の地下に於て、横に地層間に侵入せるものも、同じく岩臺をなす、(岩脈の條の圖を見よ)

カンチク(寒竹) 植 寒中節を生ず、故に名くと云ふ、一根本より數十幹を叢生す、高さ七八尺を常とす、人家の藩籬とす、

カンチユルイ(環蟲類) 動 Annelida. 蠕形動物の一綱にして、體は延長し、同形の環節よりなり、各節に一對の關節機あり、體形圓筒狀、或は扁平狀にして、先端に口あり、後方に肛門あり、血液は赤色或は無色なり、血管は胃の背腹に走り、是より胃を圍みて、環狀の血管を出す、先端閉ち開口なし、「ミミズ」、「セル」、「ユカイ」等に屬す、

カンチョー(灌腸) 生 大便の秘結せるとき、肛門より薬を注入し、便通を促す法をいふ、

カンチョー(干潮) 地英 Low-tide 海水の平面が、時を定めて低落する現象をいふ、

カンチョー(寒潮) 地 寒流に同じ、

カンチツツ(含窒素物) 化英 Nitride. 窒素を含有せる物を云ふ、

カンデンチ(乾電池) 物英 Dry cell. 乾電池は、液體を用ゐざる電池にして、使用上甚だ簡便なるを以て、近來多く電鈴等に用ゐらる、其の構造は、「レクランシエ」電池の改造

とも見るべきものにして、外部の箱に亞鉛を用ゐて、直に之を陰極となし、其の中に炭素棒を容れて陽極となし、其の周圍に「コークス」の粉末、及び二酸化「マンガン」の練物を厚く塗り、更に、鹽化「アムモニウム」の濃溶液を石膏に含ませたるものを詰め込みて作りたるものなり、此の電池は、石膏に含ませたる鹽化「アムモニウム」の減するに従ひて、電流衰ふるを以て、之を恢復するには、更に其の溶液を吸收せしむることを要す、

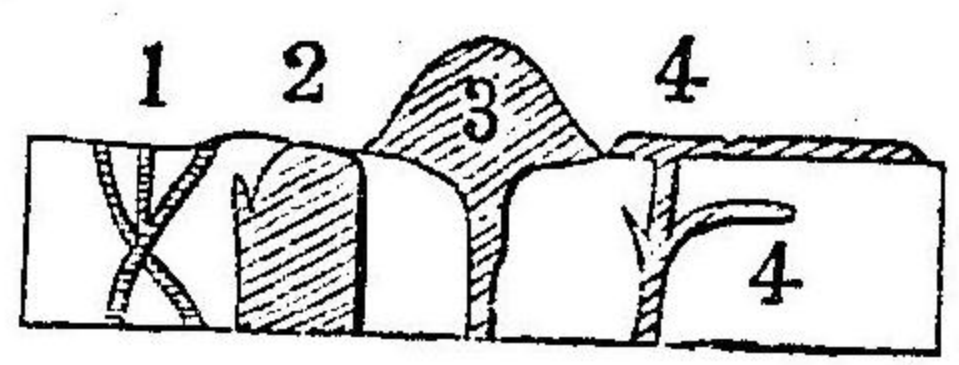
カンデンソー(乾電槽) 物英 Dry battery. 「ライデン」瓶、及び其の他の蓄電器の數個を組み合せたるものを、乾電槽といふ、

カンニューチン(陥入地震) 鑛 「カンララグチン」に同じ、
カンビ(雁皮) 植 Wikstroemia Sikokiana, Fr et DC. 瑞香料の小木本にして、葉は楕圓形をなし、花は黄色にして小なり、主として本邦南部の山中に生じ、高さ二三尺に達す、「キゲンシ」及「コゲンシ」と共に、其の内皮の纖維を製紙の原料とす、

カンベキ(環壁) 地英 Cirque. 噴火口を圍繞する圓狀壁を云ふ、

カンボク(灌木) 植英 Shrub. (A) 亞灌木、下部又は全部木質にして、新生部は年々枯死し、高さ丈餘に出でざるも

「ハギ」胡枝子の如し、(B) 本灌木、莖の全部は木質にして、



新生部も年々枯死することなく、地に近き部より數多の側生枝を生ず、大なるものも、高さ二丈を超えざるものを云ふ、「ツツシ」、「メギ」の如し、

カンミンチョー(緩漫昇降) 地英 Gradual upheaval and subsidence. 地球の冷縮する結果、地面の緩漫に昇降することを含む、

ガニシク(岩脈) 地 Vein. 英 熔岩が、岩石中に存する裂隙を穿れて之を填充したるものを云ふ、一般に大ならず(1) 岩脈(2) 大塊(3) 岩頭(4) 岩臺即ち床狀とす、

ガニシク(顔面角) 生 類より鼻骨の中に引ける直線と、鼻孔下より耳孔に引ける直線とのなす角をいふ、此の角は、野蠻人ほど、小なりと稱せらる、又哺乳類にても、人類は此の角最も大なり、

(A) 絲狀冠毛 (pilosepappus)
例「ハハキ」、「タンボク」等の菊科植物、
(B) 羽狀冠毛 (plumosepappus)
例「アザミ」、「シラモシロ」等の菊科植物、
カニ(乾油) 化 乾性油に同じ、
カンラン(陥落地震) 地英 Depressive earthquake. 地下水の侵蝕によりて、地中に空洞を生じ、重力の爲に上層の地盤の陥落を來して、其の局部に震動を起すによりて生ずる地震なり、其の震動の區域甚だ狭小なり、本邦には此の種の地震多からず、明治三十一年攝津有馬の地震の如きは其の一例なり、
カンランユ(橄欖油) 化英 Olive oil. 橄欖油又「オリーブ」油は、淡黄、帶綠黄色、又は褐色の油にして、オリーブ樹の實より製す、「オレイン」及「ステアリン」を含めり、石鹼の製造に供せらる、
カンラン(乾酪素) 化 「カゼイン」に同じ、
カンランゲンガン(橄欖玄武岩) 鑛 玄武岩を見よ、
カンランセキ(橄欖石) 鑛 Olivine. (晶系性狀)(一) 斜方晶系(二) 色は綠色又は黄色(三) 條痕は白色(四) 玻璃光澤あり(五) 硬度は六—七(六) 比重は三・三—三・五(七) 成分は MgFe₂SiO₄

カンリ

(産地及效用) 玄武岩の主成分をなし、其の他火山岩、或は結晶片岩の成分をなして顯る、又橄欖岩は主に此の石より成る、橄欖石分解すれば、蛇紋石を生ず、橄欖石は多く火山地方に産す、或は細粒をなし、玄武岩中に混生す、大粒のものば、鐘玉とす、

カンリユー(乾溜)化英 Dry distillation. 固體を強く熱して蒸溜すること、例へば石炭より石炭瓦斯を製するが如し、又破壊蒸溜とも稱す、液體の場合、或は固體と液體とを混ぜるものを蒸溜する時には、單に蒸溜と稱す、

カンリユー(寒流)地英 Cold current. 兩極地方に起り、赤道地方に向ひて流るる、寒冷なる海流をいふ、

カンリユー(顔料)化英 Pigment. 繪具に同じ、

カンリユー(含硫ゴム)化 少量の硫黄を含める「ゴム」にして、寒氣に遭ふも硬くならず、「ゴム」管等を製す、此れに多量の硫黄を混すれば、角の如くなりて、電氣の不導體となる、之を「エポナイト」と稱し、電氣器械の製造に用ゐらる、

カンリイ(緩冷)化英 Annealing. 長き時間を費して少しづつ温度を下ぐることを云ふ、

カシロ(寒露)地 二十四節氣の一をいふ、陰曆九月節、陽曆十月八日なり、

ガシロ

ガシロ(岩緑青)化 孔雀石の粉末にして、繪具に用ゐる、

カメクテ(石砌)物 Polioipes nutilla, Darwin.

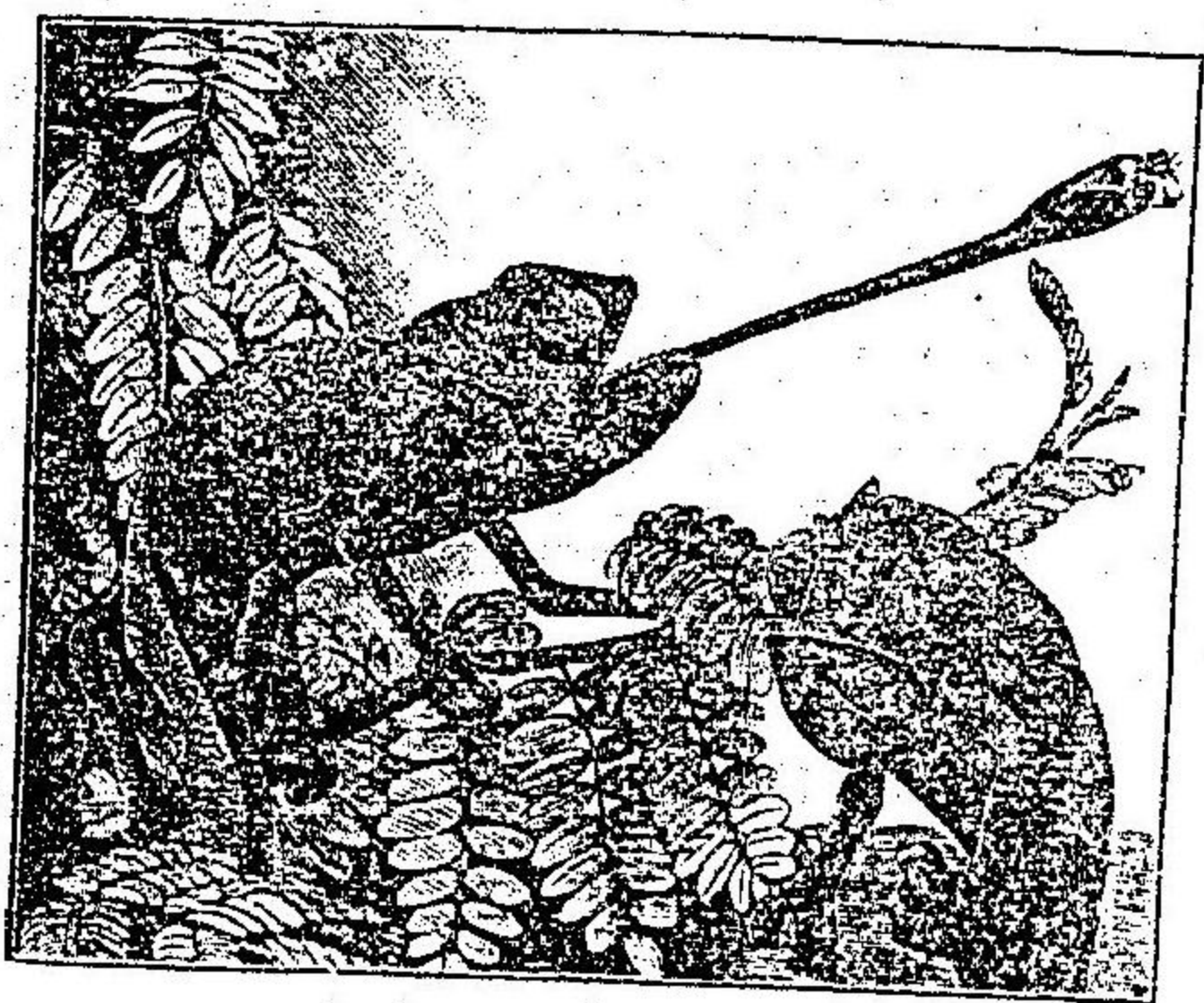
甲殻類中の切甲類の、亞目蔓足類に屬す、海岸の岩礁間に附着し、短き柄ありて、此に鱗状の小石灰片を被むる、其の先端には、縱溝ある二枚の貝殻状の殻を有し、其の間より、胸部にある六對の肢を出入し、食物を掻き込みて之を食す、體は關節不明にして、頭部には不完全なる觸角あり、

カメン(火綿)化英 Gun cotton $C_{12}H_8(O_2NO)_6$, セルロース例へば綿を強硝酸と濃硫酸との混合物に浸すこと、凡そ一晝夜なるときは、外觀もとの如くなれども、極めて爆發し易き物質となる、之を火綿又は綿火薬と稱し、爆發薬及無煙火薬の原料に供す、火綿は六硝酸「エステル」に屬せり、

カメライ(龜類)動 Chelonia. 爬蟲類に屬する一目にして、體は盤状をなし、背腹の甲は、體側に於て癒着す、甲は皮膚の變形物にして、骨の變形物にあらず、鳥類の羽毛、或は脚にある鱗と等し、此の甲は背腹各々定數の骨片よりなり、脊椎骨或は肋骨に癒着す、而して骨片の接目と、外觀に現るる甲の境界線とは一致せず、四肢は鱗を被り、其の習性によりて多少異なる、即ち淡水に棲むものは、蹠を備へ、鈞狀

瓜あり、海産の種は、撓狀に變じ、趾は癒着し、爪は外觀上僅に一二を存するのみ、龜類は齒なく角鞘を以て代表す、卵は多少石灰質の殻を蒙り、水邊の砂中に産卵す、熱帯、温帯に産し、「ウミガメ」「イシガメ」「スッポン」「オサガメ」等之に屬す、

カメレオン(避役)動英 Chamaeleon. 奇なる保護色を有する、有名なる爬蟲類にして、亞弗利加の北方海岸に棲む、體一尺許にして、全形「ヤモリ」に似、頭上に突起あり、眼大に、五趾の中、三趾内に二趾外に向ひ、運動極めて緩慢なり、板上、地上にて運動すること能はず、枝上を緩歩し、昆蟲の近づくおれば、先端膨大せる長き舌を突出して、之を粘着せしめて捕食す、表皮の下に、青綠色及赤褐色の兩色素塊ありて、自由に伸縮し、ために種々に變色し、外界の色に似せしむることを得、「シキノサイボ」條下参照、

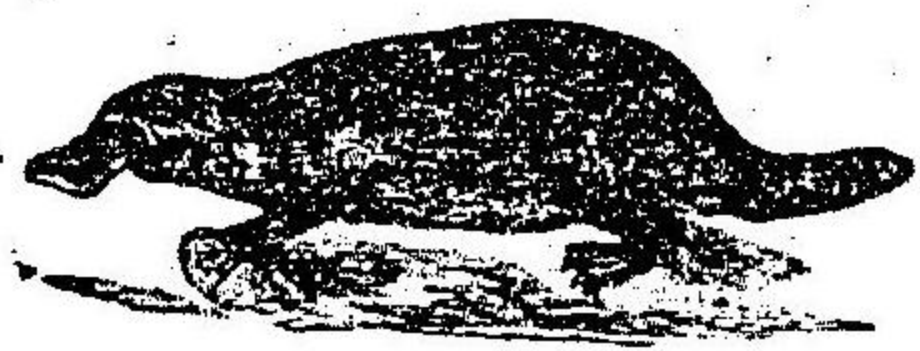


カメレ

カモ(鴨)動英 Duck. 山野の湖沼、及水田に普通なる游禽類にして、「マガモ」「コガモ」等數種あり、嘴は、頭より長く、扁平にして、内面の縁邊に横突起ありて、齒の代用をなす、尾、脚共に餘り短からず、趾間に蹠あり、「アヒル」は此の變種なり、秋來り春去る鳥にして、寒地を好み、

カモカハリ 植 念珠藻の一種にして、淡水産なり、凶荒の際採りて食ふべし、

カモシカ 動 Nemorhædus. 英 Antelope. 又「ニク」と云ふ、我秩父、駿河等に棲む有蹄類にして、一對の角を有するも、小なり、外面「ムクイヌ」の如く、體長三尺に達す、蹄は二又し、岩礁間を走行す、「アルプス」山、「ロメラヤ」山、印度、「ヘルシヤ」、北亞米利加等所々に産す、種異なるに従ひ、角形亦異なる、



カモ

カモハン(鴨嘴獸)動 Ornithorhynchus paradoxus, Blumb. 英 Duck-bill. 哺乳類中單孔類に屬する獸にして、生殖孔、肛門同一なり、卵生す、口は嘴狀をなし、恰も鴨の嘴に異ならず、齒は初めに生ずるも後脱落す、趾間に蹠あり、前肢の蹠よく發達す、脚極めて短し、大さ「ネコ」位にして、全形「モグラ」に似る、毛は密にして、「ラッコ」の毛皮の如し、水邊に棲み、魚、軟體動物を食す、菓は

二孔を有し、一は陸に、他は水中に開く、大なる卵二個を産み、砂中にて孵化す、南米に産す、

カモシレ 一名「カミツレ」植 Chamomile. 「カモミン」は原語にして、「カミツレ」「カミルン」は之より轉訛せるものなり、菊科多年生草本にして、圃園に稀に種う、白花を開き、季節は夏にあり、蟲媒花にして、西歐の原産なり、花を薬用とす、無香の發汗劑にして、甚だ有效なり、

カメ(鷗)動 Larus 英 Sea Gull. 游禽類に屬する海鳥にして、體白く、嘴端鈎状をなして強く、鼻孔は嘴の中央に開き、翼灰白色をなし長くしてよく發達し、尾よりも長く後方に突出す、前三趾間に蹼あり、海上を飛翔し、船舶の周圍に群ることあり、

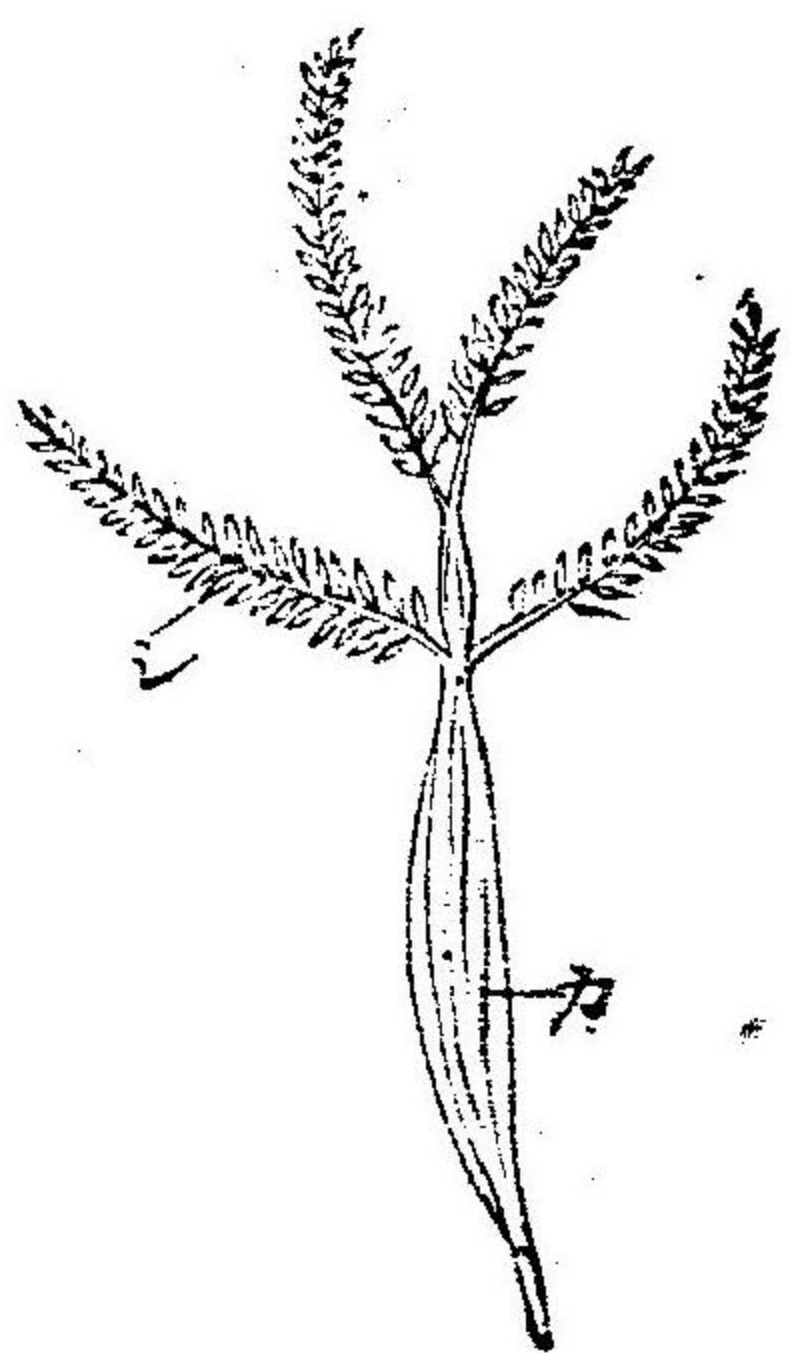
カヤ動 腔腸動物に屬し、外見植物の如く見ゆるものにして、全形羽毛の集合せる如く見ゆるものと、楢に杯を附けたる如きものとあり、羽毛状をなせるものは、中軸より出づる枝、即翼の羽枝に相當する部に、動物散在し杯状をなせるものにおいて、各杯状物は、各一個體なり、即ち「カヤ」は群體をなすものなり、海中に棲息す、

カヤ(榧ほんがや異名) 植 Torreya nucifera. et n. 常緑木本、雌雄異株にして、松柏科に屬す、針葉扁平なり、其の先端尖りて鋭硬に、且つ針状をなす、老樹皮は

ゆれば縞の如きものを生ず、固有の臭氣あり、材は白色にして黄味を帯び、木理美にして、一種の香氣あり、船底を造り、又は、和船の「コベリ」となす、核果様の果實中にある種子は、焼きて食用となし、又砂糖漬として、菓子を作り、又油を搾りて、燈用又は理髮の用に供するに、品質上等なり、

カヤク(火薬) 化英 Gun Powder. 火薬には種類多しと雖も、普通に火薬或は黒色火薬と稱するものは、硝石と硫黄及び木炭との混合物なり、而して各の量は一定せざれども、普通の割合は凡硝石七十五分、木炭十五分、硫黄十分なり、火薬に火を點すれば凡左の如き反應起る、
$$2\text{KNO}_3 + \text{S} + 3\text{C} = \text{K}_2\text{S} + 3\text{CO}_2 + \text{N}_2$$

軍用火薬に於ては、川楊或は毛樺の炭、及び精製したる硝石及び硫黄を用ゐる、此等を極めて細き粉末となして混するなり、



カヤ(假葉) 植英 Pilea. 葉柄が葉状をなし、葉身の代用をなすものを云ふ唯其の

尋常葉と異なる所は、地平面に生せずして、之と直角に立つにあり、且つ葉脈も、著しく異なるを見る、例へば濠洲に産する、「アカシア樹」(Acacia)の如し、カは假葉(葉柄)、シは眞葉(葉身)なり、

カヨ(花葉) 植英 Floral leaf. 顕花植物の花を形成する所の變形葉にして、其の最も完全に發達したる花は、萼片、花瓣、雄蕊、及、心皮(子房)を有す、

カヨ(可溶性) 化英 Solubility. 水或は「アルコール」等を溶媒として、之に溶くる性質を云ふ、

カヨ(過熔融) 物英 Superfusion. 燐の凝固點は四十四度なれども、之を水と共に小なる「ビーカー」に入れ、熱を加へて熔融せしめ、後靜に之を放冷するときは、二十度に至るも尙凝固せざることあり、斯くの如く、液體が、其の凝固點以下の溫度に於て、尙液状を保つ所の現象を、過熔融といふ、

カラアモ 植 「タチアフヒ」に同じ、

カラガラヘビ 動 Crotales. 英 Rattle-snake. 北米に産する蛇にして、四尺餘に達し、尾端に表皮の變形物なる環状物あり、其の數多きは、十八個に及ぶ、尾端には之を脱せざらしむるための止めあり、此の尾を振動する緩急により、種々の音を發す、蓋し自己を保護せんがためなり、有毒なり、

カラシチ (芥) 動 Sinapis Cernua, Thunb. 十字科の

草木にして、花は黄色、果實は長角なり、種子を辛料に供す、味佳なり、黒白の二種あり、種子を粉とし、食用の外に、又薬用とす、

カラス(鳥又鴉) 動 Corvidae. 英 Crow. or Raven.

鳴禽類に屬し、嘴の太きものと、比較的細きものとあり、性機敏にして、容易に捕ふることを能はす、雀の如きも「カラス」の機敏なることを知ると見え、「カラス」の棲む處には、雀群集すること多し、雀に此の性あるを以て、往々「カラス」を媒鳥として、雀を集め、網を蔽ひて之を捕ふることもあり、「トビ」と争ふこと屢にして、曾て一羽の「トビ」、數十の「カラス」に攻撃せられ、其の兩翼を折られて死せることあり、死せる動物、植物性食物を好み、充分食せる後は其の殘餘を屋根の瓦間に隠し、土、草等を以て之を被ふことあり、鴉は嘴太き「カラス」の意なり、

カラス(硝子或は玻璃) 化英 (Glass)

カラシイロケダズリ (硝子の着色劑) 硝子の着色劑は種々あれども、二三の例を擧ぐれば左の如し、
酸化「コバルト」 藍色
黒色酸化「マンガン」 赤紫色

ガラス

酸化「クロム」

緑色

酸化鉄

黒色、緑色或は赤黄色

酸化銅

(分量及び温度による)

酸化金

赤色或は緑色

酸化「ウラニウム」

赤色或は桃紅色

酸化錫

螢光を有する黄色或は緑色

螢石

乳白色

同前

ガラス「ゲリョ」(硝子の原料) 「カリ」硝子の原料は、炭酸「カリウム」、硫酸及び炭酸「カルシウム」にして、「ソーダ」硝子の原料は炭酸「ソーダ」、硫酸及び炭酸「カルシウム」、鉛硝子の原料は炭酸「カリウム」、硫酸及び炭酸「鉛」にして、硫酸を供給するものは、砂、石英、燧石等にして、炭酸「カルシウム」を供給するものは、石灰石、大理石、白堊等なり、又炭酸「ソーダ」を供給するものは炭酸「ソーダ」の外硫酸「ソーダ」と石炭粉末との混合物を代用することあり、原料を適當に調合して窯に入れ、烈しく熱すれば、遂に熔けて鉛の如くなりて硝子に變ず、

ガラス「サイク」(硝子の細工) 「フラスコ」、壺等を造るには、鉛の如く熔けたる硝子を鐵管の先端に附け、他の一端を口に當てて、型に入れて吹くなり、型は二片の木を合せたる

ガラス

ものなり、大なる壺等を吹くには、始め口にて吹き、次に管より少量の水を入れ、水蒸氣の力によりて膨脹せしむるなり、

板硝子を造るには、始め圓筒状に吹きたるものを縦に切り、窯中に入れて平板となす法あり、此は主に窓硝子を造る時に用ゐる、又鏡に用ゐるものは、鐵板の上に熔けたる硝子を載せ、鐵の重き圓柱にて壓し展ばすなり、

「フラスコ」、「ヒーカー」、「ランプ」の火屋等の如く熱に堪ゆる硝子器は、多くの時間と手数を費して、次第に緩冷せしめたるものなり、緩冷すること不十分なれば破れ易し、又菓子皿の如きものは、型の中に流し込み、鑄て作れるなり、

ガラス「セーメン」(硝子の成分) 硝子の成分は種類によりて異れり、即ち「カリ」硝子は、硫酸「カリウム」と硫酸「カルシウム」との混合物にして、「ソーダ」硝子は、硫酸「ナトリウム」と硫酸「カルシウム」との混合物、鉛硝子は、硫酸「カリウム」と硫酸「鉛」との混合物なり、その他少量の着色剤を含有するものあり、

良好なる硝子の式は略左の如し、
A: CaSiO₃
但Aは「カリウム」及び「ナトリウム」或は兩者を表す、鉛硝

子に於ては「カルシウム」の代りに鉛を入る

(硝子の原料及び着色剤の條参照)

ガラス「シユルイ」(硝子の種類) 硝子の種類は甚だ多くして一々之を擧ぐるに能はざれども、大別して「カリ」硝子、「ソーダ」硝子及び鉛硝子の三となす、「カリ」硝子は「ホヘミヤ」硝子とも稱し、鉛硝子は又「フリント」硝子とも稱せり、

通常のものには、「ソーダ」硝子にして、「カリ」硝子は質硬くして熔け難し、鉛硝子は光線を屈折する力大なるを以て、望遠鏡、顯微鏡、其他光學器械に用ゐる、又裝飾品として光澤を望むものに使用す、

ガラス「ウリ」(烏瓜) 植 *Trichosanthes Cucumeroides Maxim.* 胡蘆科植物にして、果實の青きものは、鹽漬又は味増漬として食ふべし、

ガラス「カヒ」(蚌貝) 植 *Unio Anodonta* 又「トナガロ」と云ふ、沼湖に産する普通の楕足類にして、略長楕圓形をなし、外面黒色を呈し、表皮は、稍厚くして、輪層をなし、鑿あり、内面は、眞珠色を呈し、薄紅色を帯ぶ、齒を有する種と、有せざる種とあり、靱帯は一般に廣大なり、淡水の軟泥地の

上層に棲む、大者八寸に達するものあり、
ガラス「トシ」動 小兒が、「ガラス、トシ」と稱し、弄するものは「イカ」の口器の一部にして、大なるものは、下顎に相當

ガラス

ガラス

し、小なるものは、上顎に相當す、

ガラス「キ」(烏麥) 植 *Avena Sativa, L.* 禾本科草本、小穂花序は圓錐狀に排列す、形狀「マカラスムギ」に類す、家畜の飼料とす、内頰に毛茸あり、

ガラス「ケ」植 「ハナク」に同じ、

ガラス「チ」(枸橘) 植 *Aegle Saparia DC. citrus trifoliata, L.* 芸香科灌木にして、葉は三個の小葉よりなり、花は白色にして、殆んど無柄なり、枝は變形して銳針となる、藩籬に用ゐる、又蜜柑を接ぐ臺木となす、

ガラス「ダイマツ」(大黃) 植 *Rheum undulatum, L.*

「オホミ」とも云ふ、蓼科草本、葉は稍心形をなして大なり、花は小にして、帯綠色を呈す、根を下劑とす、甚だ有名なり、

ガラス「化英」 *Carab.* 金の合金中の金の分量を表す語にして、我が國にては、金の字を適用す、例へば、十八「カラット」のことを十八金と稱するが如し、十八金とは、合金二十四分中十八分の金を含めりといふ意味なり、其他十五金、二十二金等は、合金二十四分中、金十五分、二十二分等を含めりとの意味なり、故に二十四金の金とは純粋の金を指せり、

ガラス「落葉松」又「富士松」植 *Larix leptolepis, Corel.* 松柏科の落葉木本にして、其の新芽は茶筌狀をな

カラマ

すを特徴とす、葉は短枝上に數個叢生す、其の質柔軟なり、邊材白色、心材赤褐色にして、赤松に似るも、此より上等なり、水濕に堪ふるを以て、建築及諸種の器具となすに宜し、船材となし、亞米利加の「オレゴンパレン」に代用すべし、

カラマツサウ 植 *Malicium aquilegifolium* L.

毛茛科植物にして、種類多し、隨所に生ず、花は小さく、白色を常とす、葉を燻でて、「ヒタシ物」、又は、「胡麻アヘ」などとして食ふべし、

カラシ (苧麻) 植 *Boehmeria nivea*, Bl. 蓴麻科植物にして、又「マコ」と云ふ、葉は卵形をなし、其の下面は白く、花は單性にして、雌雄の異花を同株に生ず、其の韌皮纖維を取りて、織物とす、越後縮即ち是なり、

ガランチョー 動 「メリカン」を見よ、

カリ (加里) 化英 *Potash*. 「カリウム」に同じ、

カリウム 化英 *Potassium*. K 原子量三十九・一五

カリウムイオン 英 *Potassium*. 「カリウムイオン」は、價のもの一種 (K) あるのみ、金屬「カリウム」は甚だ容易に「カリウムイオン」を生ず、金屬「カリウム」の特性は、此の事實に基くなり、「カリウムイオン」は無色にして、有毒なり、

カリウムシヨザイ (カリウムの所在) 「カリウム」は、單

カリウ

體としては自然界に存在せずと雖も、化合物としては、諸種の礦物例へば正長石、雲母等となり、或は土壤中に夥しく存在す、植物は之を取りて營養物とせるを以て、植物を焼けば、「カリウム」は炭酸鹽となりて灰中に殘存す、

カリウムセーシツ (カリウムの性質) 「カリウム」は、光澤ある白色の柔き金屬にして、常溫に於ては指にて捏ることを得、零度に冷やせば、脆くなる、融點は六十二度半、沸騰して綠色の蒸氣となる、空氣中に置けば、速かに酸素に作用せられ、酸化物の薄き膜にて掩はる、又水蒸氣を吸収して水酸化「カリウム」となり、次に炭酸瓦斯を吸収して炭酸「カリウム」となる、故に通常は石油の如き液の中に浸して善く、「カリウム」は液體「アムモニヤ」に溶けて、深藍色の溶液を生ず、又「カリウム」を水に入れば、激しく作用して、水酸化「カリウム」となり、水素を發生す、此の時に生ずる熱強きを以て、「カリウム」の燃ゆるを見る「カリウム」は造鹽素に觸るれば、直に發火して其の化合物を造る、

カリウムセトホー (カリウムの製法) 「カリウム」は、炭酸「カリウム」と木炭との混合物を鐵製の「レトルト」に入れ、強熱して生じたる蒸氣を冷やして製す、其の化學變化は左の如し、



然れども工業上にては、「ナトリウム」と同じく電氣分解法を用ふる、「ナトリウム」の製法を見よ、

カリガネ (雁) 動 *Anser albifrons*, Gm. 英 *Wild Goose*. 游禽類に屬す、嘴は頭長に等しく、黄色を帯び、爪白色に、脚柚黄色を呈し、上頸平く、額白し、背面褐色にして、翼は帶青灰色なり、腹面特に胸部は黒斑を有す、長さ二尺餘、秋來り春去る候鳥にして、「カモ」よりも早く去る、飛翔するや、一定の排列をなして進み、曾て亂れることなし、古の兵法には、雁行亂るるに即ち伏兵の兆とあり、雁に似たる種多し、「サカツラガン」、「ハクガン」、「コクガン」等是なり、「カリガネ」は、「カリ」の鳴く音より轉化せる名なり、即ち萬葉「さよ中と、夜はふけぬらし、雁が音の云々」、新勅撰「風さむみ、鳴く雁かれの云々」とあり、即ち「カリ」に等し、又「ガン」ともいふ、

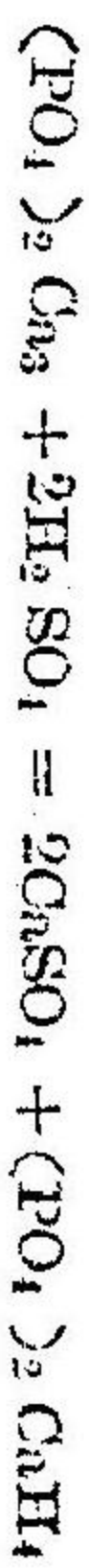
カリホルニアリョー (カリホルニア流) 地英 *California current*. 黒潮が、大吠岬より東に折れ、北亞米利加の西岸に向かひ南曲する部分ないふ、

カリマチョー (カリマ蝶) 動英 *Kalina*. 琉球地方に棲息する蝶にして、翅の表面の地色は、黒天鵝絨に紫澤を帯びたる如く、此に樺色の太き線ありて、甚だ美麗なり、裏面は枯葉に類似し、前翅の前端、并に後翅の後端は長く突起

カリガ

し、此の兩端の間に、一本の暗色線あり、故に靜止するとき、恰も木葉の如く、容易に發見すること能はず、

カリヤンセ (カイ) 化英 *Superphosphate of lime*. 肥料用の過磷酸石灰は、磷酸水素「カルシウム」と硫酸「カルシウム」との混合物にして、磷酸石膏粉等の磷酸「カルシウム」含有するものの粉末に適量の硫酸を作用せしめて造る、



純粹のものは、通常の溫度に於て、十倍の水に溶解す、動物の骨燐灰石等は、主に正磷酸「カルシウム」(又單に磷酸「カルシウム」)より成り、此の化合物は水に溶解せざる性を有す、故にこれらを肥料として用ふるも、植物は容易に之を吸収することを得ず、之を製して過磷酸「カルシウム」となすときは、よく水に溶くるを以て、奏效速かなり、從て之を以て過磷酸石灰肥料を造る、

カリヤス (青茅) 植 *Miscanthus tinctorius*, Hack. 禾本科植物にして、形状「ススキ」に類するも、葉穗共に之より小なり、之を乾かし、黄色の染料を製出す、

ガレイ (蛾類) 動 *Heterocera*. 鱗翅類に屬する一亞目に於て、成蟲は蛾と稱し、黄昏或は夜間飛翔し、止るときは、翅を屋根狀に開展す、觸角は先端細く、翅の裏面に表

カリシ

カルカ

面よりも、後翅の表面は前翅の表面よりも一般に美麗なり、幼蟲は多くは害蟲にして、次の四項に相當するものは、大抵其の幼蟲なり、(一)第十一節の背上に、尾角を有するもの、(二)各體節の疣状突起より長毛を簇生するもの、(三)若くは、之より一個づつの短毛を出すもの、(四)第一節に肉状突起なくして、全く裸體なるもの、

カルカヤ 植 Themeda Forskali, Haek. var. japonica Anders. 禾本科草本にして、「ヌスキ」よりは丈け低く、莖頭に穗を生ず、秋の七草の一に編入せず、「メカルカヤ」「チカルカヤ」の別あり、

カルシウム 化英 Calcium Ca. 原子量四十・一

カルシウムイオン 英 Calcium. 「カルシウム」は、只二價の「カルシウムイオン」(Ca⁺⁺)を生ずるのみ、「カルシウムイオン」は無色なり、

カルシウムソーシ (カルシウムの性質) 銀白色の金屬にして結晶す、乾ける空氣中にては變化なけれども、濕れる空氣中にては、直に水酸化「カルシウム」の薄き膜にて掩はる、水に入れば、水を分解して水素を發生す、空氣中にて熱すれば、火を發して酸化「カルシウム」となる、

カルシウムソーホー (カルシウムの製法) 沃化「カルシウム」に金屬「ナトリウム」を作用せしめて製す、

ガルバ

Galv + 2Na = 2NaI + Ca

即ち乾きたる沃化「カルシウム」の結晶を「ナトリウム」に濕せたるものを暗赤熱に熱すれば、「カルシウム」を生じ、「ナトリウム」と合金を作りて出づる故に、其の合金を冷やせば分離す、

ガルバデンリニューケー (カルバニ電流計) 物英 Galvanometer. 「ガルバニメーター」を見よ、

カレト (鰈) 動 Pleuronectes. 英 Flounder. 「カレト」に酷似し、眼は右側にあり、背鰭は、眼上或は少しく前方より起り、臀鰭と共に尾に近く終る、腹鰭は、小にして前方に進み、臀鰭、其の直後より起る、故に體腔小なり、體の右側は、種によりて異れども、多くは暗青色にして、斑點あり、何れも棲所に似たる色を有す、左側は、大抵白色にして下に向ふ、體長一尺五寸位にして、溫寒兩帶に多く産す、種々の名あり「ホシカレト」「メイタカレト」「マヨカレト」「イシカレト」等はなり、「ヒラメ」の條参照、

カレキヤク (過冷却) 物英 Super cooling. 過冷却とは、液體が其の凝固點以下に冷却せらるゝも、尙ほ液狀を保つ所の現象をいふ、

カロコツ (假肋骨) 生英 False ribs. 「ロマン」の條を見よ、

カロリー 物英 Calorie.

一瓦だけ上らしむるに要する所の熱の分量を、熱量の單位とし、之を「カロリー」と稱す、若し又、此の單位が小に過ぐるときは、一瓦の水を、攝氏零度より溫度を一度高むるに要する熱量を以て單位とす、之を瓦「カロリー」、又は大「カロリー」といふ、之に對して、前者を瓦「カロリー」、又は小「カロリー」と稱することあり、

カロリンイシヤシ (カロリン椰子) 植 Coelococcus

carolinensis, Dingl. 果實は大さ三寸に達し、松球の如き鱗を以て被はれ、其の鱗先は下方に向ふ、其の胚乳を鈹製造に供し、各國に輸出せられ、千八百九十七年度にては、獨逸國に輸出せるもの、其の價格五萬圓に上れり云ふ、

キ

キ(基) 化英 Radical. 「エチルアルコール」の C₂H₅ 又は水及び「アルコール」の OH の如く、種々の化學變化の際に分裂することなくして、恰も一の原子の如く作用するものを基と稱す、基も原子の如く一價、二價、三價等の別あり、例へば H⁺ の即ち水酸基は一價にして、硫酸基(SO₄⁻)は二價なるが如し、

カロリ

キアンチモニー (輝アンチモニー) 鑛 英 Stibio-

ite. (晶形性狀) (一)斜方晶系、主に纖維柱狀をなし、又粒狀をなすことあり、(二)我國伊豫の市の川は、世界中最大なる同鑛の結晶を出す産地にして、長さ數尺に達するものあり、(三)金屬光澤強く、色及條痕色は黝鉛色なり、黒き鱗色、又は、金錆色を帯ぶることあり、(四)薄片は稍脆性を有す、(五)斷口は貝殻狀なり、(六)硬度二(七)比重四・五一六、(八)成分は Sb₂S₃

(反應及識別) 開管中にて熱すれば、硫黃及「アンチモニー」は共に揮散し、内面に白色の「アンチモニー」の酸化物を蒸昇す、炭壺上にも同様の反應ありて、炭面に白色の蒸昇物を附着す、還元燐にて熱すれば、燐中に綠青色をあらはす、熔點低くして、蠟燭の燭にも熔融す、純清なるものは、鹽酸に全く溶解す、

(産地及用途) ウラル山、メキシコ、ホルネチ島等に産す、我國伊豫市の川は、其の晶形の美なると大塊をなせるとの二點を以て、世界に名高し、肥後及豐後にも産す、但、市の川は近年次第に衰微し、從て、大結晶も産すること極めて稀少となれり、之よりアンチモニーを製し、又、アンチモニー化合物の藥劑を製す、

キイチロ 植 Fulus incisus, Plumb. 醫藥科木本にし

キアン

キウリ

て、果實は紅熟し、食用に可ならず、「モミナイチヤ」は之に近似せる種にして、果實黃熟し、味可なり。

キウリ(胡瓜) 植 Cucumis sativus L. 胡蘆科の上昇木本にして、卷鬚を有し、葉は掌狀に分裂し、花は單性にして、雌雄の異花を同株に生ず、雄花は黄色を呈し、俗に「ムダバナ」と稱す、三個の雄蕊あり、雌花は三個の側膜胎座を有する子房を有す、果實は瓠果にして長く、其の面に刺を有す、近來人工煤助法により、結實せしむることを得るに至れり、果實は漬けて食用に供し、夏時「茄子」と共に必要の蔬菜たり、味淡にして佳なり、一種の香氣を有す。

キウジョータイ(球状態) 物英 Spheroidal state.

「ライデンフロスト」の現象を見よ。

キオン(氣温) 地英 Temperature of air. 大氣の溫度をいふ。

キカ(氣化) 化英 Gasification. 液體が氣體になることなり。

キカイユ(機械油) 化英 Lubricating oil. 機械の摩擦を減する爲に用ゐる油なり。

キカケン(奇價元素) 化英 Pariaat. 一價、三價、五價に作用する元素をいふ、例へば水素、「カリウム」、「アルミニウム」等の如し。

キカネ

一五六

キカネツ(氣化熱) 物英 Latent Heat of vaporization. 液體を熱し、其の沸騰を始めた後、如何に強き熱を加ふるも、唯其の氣化を速かならしむるのみにして、其の溫度不變なるを見れば、此の間液體に供給したる熱は、溫度を高くするの用をなさずして、唯其の分子力に抗して、状態を變ずるために費されたることを知る、液體の蒸發乾涸するるときも、亦同様に熱を要す、斯くの如き熱を氣化熱、又は氣化の潜熱、或は蒸發熱と稱す、物體の氣化熱は、其の一瓦を蒸氣となすに要する熱量を以て示さる、主要なる物質の氣化熱は、左の如し。

水	五三六	硫黄	三六二	アルコール	二〇八
エーテル	九一	水銀	六三	液體炭酸	四九
臭素	四六	沃素	二四	アムモニア	二九四

キカノネツ(氣化の潜熱) 物 氣化熱を見よ。

キカン(氣管) 生英 Trachea. 上、喉頭に連り、下、氣管支に接する、中空の管にして、肺に空氣を出入せしむる通路をなす、前方並に兩側に互る所の數多の彎曲せる軟骨環あり、其の間には筋肉ありて、之を連續し、屈曲を自由ならしむ、後方は筋肉を以て成り、食道と相接す、此の部の軟骨ならざるは、蓋し食物の通過を充分にせんがためなり、故に食塊の大なるものを嚥下せんとして、氣管を閉

鎖し、呼吸を絶つことあり、氣管の内面には精膜あり、之に茸毛を生ず。

キカン(器官) 生英 Organ. 一個體は、概ね諸機能を分擔せる數多の部分よりなる、其の異りたる機能ある各部分を器官といふ。

キカンザイ(起寒劑) 物 寒劑の條を見よ。

キカシ(氣管支) 生英 Bronchia. 氣管が、下部に於て二分し、兩側に走り、更に細分するまでの間をいふ、鳥の發聲器は、氣管と氣管支との境界にあり。

キキンク(貴金屬) 化英 Noble metal. 金、白金、「パラヂウム」等の如く、普通の酸に作用せられざる金屬の總稱なり。

キキンゴ(輝銀鑛) 鑛 Argentite. 「リネーキンユー」に同じ。

キキユー(氣球) 地 氣圈に同じ。

キキユーオンド(危急溫度) 物 臨界溫度に同じ。

キキユージョータイ(危急の状態) 物 際どき状態を見よ。

キキョー(桔梗) 植 Platycodon grandiflorus DC. 桔梗科の植物にして、秋の七草の一に數へられ、花に單瓣複瓣あり、色に紫、白あり、萬葉集山上憶良の七草の歌の

キカン

キキヨ

一五七

「アサガホ」に代用す、蓋し、我國に自生し、且つ花美なるを以てなり。

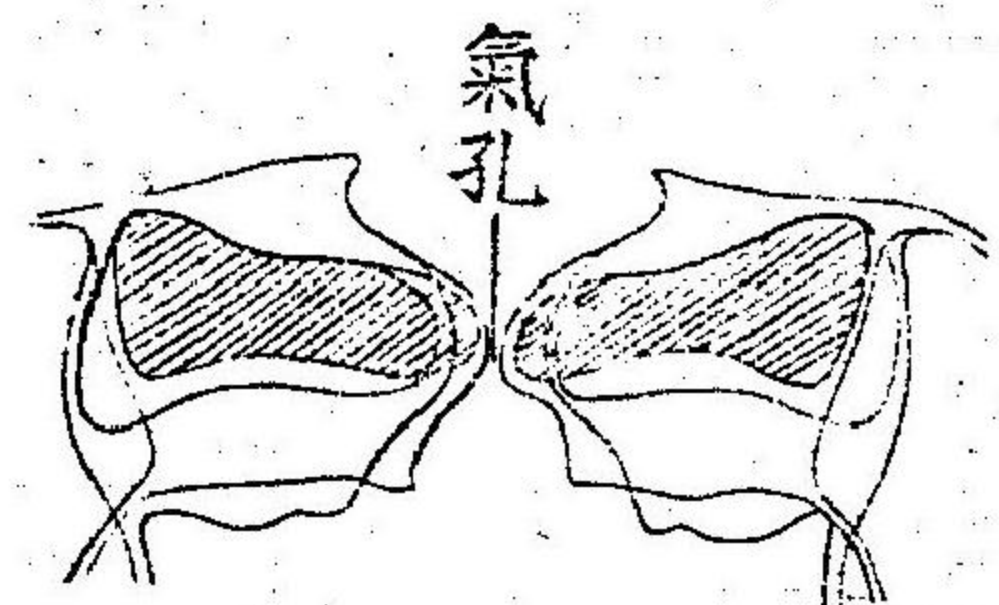
キキョーガヒ 動 「ウニ」に似たる棘皮動物にして、極めて扁く、黑色を呈し、棘は細小なり、此の棘を去りたるものは、白色なり、管足を出す孔五組ありて、其の形楕「キキョー」に似たり、海岸の砂地に棲む。

キカシクダ(菊科植物) 植 Compositae. 特徴、葉缺如、又は冠毛狀、花冠は舌狀、又は筒狀花冠、雄蕊五にして、葯合一す、柱頭二、子房中に一卵子を含む、花は多數相集りて、小頭花をなす、總苞を具ふ、例、フジバカマ屬、フキ屬、シチン屬、ヨモギ屬、アザミ屬、カミツレ屬、ヘニバナ屬、シユンギク屬、アキノキリンサウ屬、ノゲシ屬、タンホボ屬、チシャ屬、等凡そ一千種あり。

キケン(氣圈) 地英 Atmosphere. 地球を圍む大氣の全部をいふ。

キケンカン(寄肩火山) 地 Overlapping volcano. 舊火山の噴火口の側面に、新火山の大なるものを生じたるとき、其の兩火山を併せ稱す、又寄肩火山とも云ふ。

キキョー(氣孔) 植英 Stomata. 葉の表面、及裏面は、通



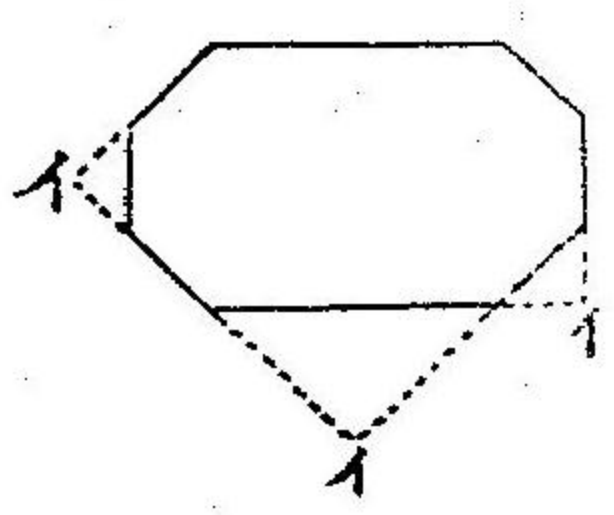
常唯一列の無色細胞、即ち表皮より成り、其の處々に、瓦斯體出入の門口あり、之を氣孔と云ふ、
植物體、及び外界の状況に應じて開閉する機能を有す、即ち大氣濕潤なるとき、天氣晴朗なるときは、十分に開き、植物體の水分に乏しきとき、大氣の乾燥せるとき、又は夜間には、閉鎖するを常とす、是れ主として氣孔の周邊に存する孔邊細胞の緊張萎縮によるものなり、

キノ(季候) **地英** Season. 氣壓、氣温、風向并に濕度等を總合したる、長日月の間の氣圍の状態をいふ。
キノ(記號) **化英** Symbol. 化學記號の條を見よ。
キノ(季候風) **地英** Monsoon. 水陸分布の不規則なる結果として、或る地區を限り、毎年起る所の一定の風をいふ、例へば大陸縁邊の地方にありては、夏季の風は洋上より吹き、冬季の風は内地より來る、我國の夏に東南風多く、冬に西北風多きが如きはれなり、
キノ(雄) **貴柘榴石** 鑛英 Almandine. 等軸晶等に屬し、柘榴石の變種なり、 $3FeO \cdot Al_2O_3 \cdot 3SiO_2$ の化學成

分を有し、往々にして大結晶あり、血赤色又は赤赤色なり、透明乃至片端透明なり、片麻岩中に包裹せられて生ず、錫蘭島は有名の産地なり、
ギサン(蟻酸) **化英** Formic acid. $HCOOH$. 蟻酸を製するには、蓆酸を「グリセリン」と共に熱す、其の反應は「グリセリン」の條下に述ぶべし、
無水なる蟻酸は、無色の液體にして、刺激性の臭氣を有し、皮膚に觸るれば、腫物を生ず、強酸にして、容易に酸化して無水炭酸と水を生ず、從ひて他物を還元する性を有す、濃硫酸と共に熱すれば酸化炭素を生ず、
ギサンアルデヒド (蟻酸アルデヒド) **化英** Formaldelyde CH_2O . 此の物は「メチルアルコール」の蒸氣に空氣を混じ、灼熱したる白金或は銅の螺旋中を通過せしむれば生ず、
蟻酸「アルデヒド」の少量を取り、「アムモニヤ」を加へて少しく「アルカリ」性を附し、之に硝酸銀液を混じて温むるときは、美麗なる特異の銀鏡を得べし、此の反應は鋭敏且容易なり、
キノ(雄) **動** *Phisimus vesicolor*, *vieill.* **英** Phenasant. 雞類に屬し「ヤードリ」に似たり、嘴強くして少しく曲り、翼は比較的小にして、飛力弱く、脚は疾走に適し、發

達の度高し、雄は距を有し、雌よりも美なり、原野に棲息し、穀類、嫩葉、小蟲を食す、益鳥なるを以て、保護鳥の一に數へらる、三月十六日より十月十四日迄捕獲を停止す、
キノ(稀釋度) **化英** Dilution. 溶液の薄さのものを單位とし、之を稀釋度一なりといふ、又「リットル」の水に溶かしたるものは稀釋度二なり、以下之れに準ず、
キノ(擬晶) **鑛英** Mimetic crystal. 幾多の小結晶が相集りて雙晶をなすときには、各個の晶體は、其の晶系に固有なる對稱面を除きて、其の他の晶面に對し、新たに對稱の位置を起すにより、時としては、對稱面の數多き他の晶系の形態を擬す、之を擬晶と云ふ、

ギス動 「キリギリス」に同じ、
キノイシヨイ (黄水晶) 鑛 「スイシヨイ」を見よ、
キノカザン (寄生火山) **地英** Parasitic cone. 火山の山腹若くは麓に新火山を生じて、小火山を作るときは、之を寄生火山といふ、
キノガ (氣成岩) **地** Aeolian or Subaerial formation. 風の爲に生ぜる、厚き地層にして、支那の黄土 (Loess) の如き、即ち是なり、
キノキ (輝石) 鑛英 Augite or pyroxene. (晶形性狀)



(一)單斜晶系又は斜方晶系(二)各種の綠色、黝色、白、褐、暗綠色等(三)條痕は白色又は黝綠色なり(四)玻璃又は眞珠又は樹脂光澤、(五)硬度は五、一六、(六)比重三・一三・五、(七)成分は種類によりて異なる、 $SiO_2 + 2RO_2 + O_2$ (R = Mg, Ca, Fe) 又一種頑火石は殆ど $MgSiO_3$ の成分を有す、其の他種類によりて一様ならず、(反應及識別)吹管及酸に對しては、概ね角閃石に同じく、又結晶の形も、極めて相似たるものなり、但し其の結晶大なるときは、兩者の間に、左の區別あり、即ち兩石の横斷面に於て、輝石にありては、間に一面を隔てたる二個の面は、之を延長すれば、圖の如く角(イ)は殆ど直角をなせども、角閃石にては然らざるなり、(種類)
(第一)單斜輝石類 柱面の角度は、八十七度、短柱狀若しくは長柱狀をなす、
(イ)透輝石 淡綠、若しくは無色にして、透明乃至半透明なり、吹管にて熱すれば熔融す、
(ロ)普通輝石 綠、暗綠、又は黒褐等の色を帯び、概ね透明なり、吹管にて、「マンガン」球と共に熱すれば、硝

キセキ

千歳となる、信州立科山、甲州八ヶ嶽、越後米山、肥前西の嶽等に産す、

(ハ)異剥石 塊状又は葉片状にして、灰、又は褐綠色を呈す、三河兩生山より、大なるものを生ず、

(ニ)灰鐵輝石 塊状にして、稀に結晶あり、黒色又は黒綠色、我國豊後小平より美なる結晶を産す、

(第二)斜輝石類 柱面に劈開あり、結晶前者に類す、

(イ)頑火石 全く鐵を含まず、古銅石、紫輝石等之に類似する礦物あり、紫輝石は鐵を含む、最も多量なり、

(第三)錐輝石類又ソーダ輝石類

(イ)錐輝石 單斜晶系、普通輝石に似たれども、光學上の性質を異にす、成分は $Na_2Fe_2Si_2O_8$ なり

(ロ)黝輝石 白色若しくは綠色なり、成分は $Li_2O \cdot Al_2O_3 \cdot 4SiO_2 \cdot H_2O$ を含むを特徴とす、

(第四)三斜輝石

(イ)薔薇輝石 薔薇色を呈し、空氣に晒せば黒變す、三河國幡豆郡保定村より生ず、

キセキカコーガン(輝石花崗岩)鑛 「カコーガン」を見よ、

キセーロン(氣生根)植 英 Aerial root. 空中にありて、水分を吸収する根、例へば「タコノキ露兜樹」、「榕樹」、「セキョク石斛」、「カシノキラン」、「フーラン風蘭」にある根の如し、

キセー

一六〇

キセーロン(寄生根)植 英 Parasitic root. 或る植物の根が、他の植物の體内に侵入して、此より自家の養分を吸収するもの、例へば「ヤドリキ樾寄生」、「ネナシカヅラ」の根の如し、

キセツプー(季節風)地 季候風に同じ、

キセードーブツ(寄生動物)動 英 Parasite. 他の動物體内、種々の處に寄生し、其の養分を吸収して生活するものなり、故に生殖器の外、多くの器官は退化し、宿主を離るれば、獨立生活をなすこと能はざるものなり、器官は用ゐざれば退化すること、自然の法則なり、

キセンスベクトル(輝線スベクトル)物 英 Bright line spectrum. 輝線「スベクトル」は、單體が甚だ稀薄なる瓦斯の状態に於て發する光によりて生ずる「スベクトル」にして、數條の有色線より成り、其の大部分は暗黒なるものなり、故に又線狀「スベクトル」と稱せらる、

キンルイ(鰭足類)動 Pinnipedia. 食肉類の亞目にし

て海棲動物なり、前後の兩肢は共に短小にして、後肢は後方に向ひて左右相接す、何れも皆五趾を備へ、深く皮に覆はれ、膜を以て相連接して蹠をなす、「アザラシ」、「アジカ」、「オットセイ」等之に屬す、

キタイ(氣體)物 英 Gas. 氣體とは、空氣、酸素、水素、

す、故に「キチガヒナスビ」と云ふ、

キチン 動 英 Chitin. 昆蟲の皮膚をなす所の、有機成分の名稱なり、

キッコウキン(拮抗筋)生 上膊骨の内外にある筋の如く、

一は腕を屈し、他は反對に之を伸長する筋をいふ、

キツキルイ(啄木鳥類)動 Pic. 嘴は直にして堅硬なり、

嘴根に剛毛を生じ、四趾は二趾づつ前後に分れて相向ふ、鈎爪銳利にして木幹を穿つるに便す、尾莖の羽軸剛直にして、其の尖端を以て支體を助く、舌は細長にして出沒甚だ自在なり、舌の後方は下顎より頭後を曲りて頭の上前部に附着す、舌尖に逆鈎を具へ、蟲を引出すに便す、嘴を以て樹幹を敲き、内に「キクヒムシ」の在るを察して孔を穿ち、舌を以て、之を鈎出す、「キタタキ」、「アチゲラ」、「アカゲラ」、「コダラ」等之に屬す、「コゲラ」は保護鳥なり、攀禽類の一亞目とす、

キツネ(狐)動 Canis vulpes. 英 Fox. 全形犬に似、口吻突出し、尾長くして太し(多毛)、食肉類に屬すれども、猫の如く猛獸の特性を具へず、爪は出入することなく、頭も猫の如く短かからず、雪地の狐は冬季に毛色白變す、

キツネボタン(回々蒜)植 Ranunculus pensylvanicens L. f. var. Japonicus Maxim. 毛茛科の有毛草

キツネ

キツネ

キツネ

キツネ

キツネ

キツネ

キツネ

キツネ

キツネ

キツネ

キツネ

キツネ

キツネ

キツネ

キツネ

キツネ

キツネ

水蒸氣等の如きものにして、分子の動搖甚しく、互に相衝突反撥し、特殊の表面を有することなく、常に擴散せんとする性を有するものをいふ、故に之を貯ふるには、密閉したる器物に於てせざるべからず、

キタイ(擬態)動 英 Mimicry. 自己を保護せんがために、體を他物に擬似せしむることをいふ、蛾、甲蟲の類が、蜂に擬して敵を怖れしむる如き、「シャクトリムシ」が枝の狀をなす如き是なり、

キタイノフリョク(氣體の浮力)物 英 Buoyancy of Gas. 浮力の條下に就きて見よ、

キタカイキセン(北回歸線)地 夏至線に同じ、

キタカイキムライタイ(北回歸無風帶)地 英 Calm zone of Cancer. 北回歸線附近に生ずる無風の場所をいふ、

キタンバクセキ(貴蛋白石)鑛 英 Precious opal. 「タンバクセキ」を見よ、

キチガヒナスビ 又 チョーセンアサガホ (曼陀羅花)

植 Datura alba Nees. 「マンダラダ」とも云ふ、茄科の草本にして、葉は茄子に似たり、淺綠色にして、莖は柔軟、秋花を開く、花形「アサガホ」に似て筒長く、白色白莖あり、花後結實して刺あり、一花終れば末に又一花を開く、枝毎に此の如し、誤て其の莖葉種子を食すれば、忽ち發狂

キタイ

キタイ

キタイ

キタイ

キタイ

キタイ

キタイ

キタイ

キタイ

キタイ

キタイ

キタイ

キチン

一六一

キツボ

本にして、三個の小葉より成れる複葉を有し、花は黄色を呈し、果實は瘦果にして、稀く珠形に集合す、莖、葉、根、果實、共に毒を有す。

キツボ 動 「テナガザル」に同じ。

キテーエキ (規定液) 化 英 Normal solution.

水等溶媒の一定量に試薬の等價量を溶解したる溶液をいふ、例へば、水酸化「ナトリウム」の四十五を「リットル」の水に溶かしたるものは、一の規定液なり、又硫酸は、二鹽基性酸なるを以て、其一瓦分子の半分即ち四十九瓦を「リットル」の水に溶かしたるものも、亦規定液なり、規定液を分析術に用ゐるに當りて、之を薄むる必要あることあり、然る時は十分の一、百分の一等の薄さとなし、十分の一規定液 (Decinormal Solution)、百分の一規定液等と稱す、而して規定液はN、十分の一規定液は、N/10等の如く表すを常とす、

キテュー (輝鐵鑛) 動 Spectular-iron or Iron lance. 燦然たる金屬光澤を有し、赤鐵鑛の一種にして、完全に板狀結晶をなすものを云ふ。

キデンキ (起電器) 物 英 Electric machine. 起電器又は發電器とは、多量の電氣を發生せしむる器械にして、摩擦によるものと、感應によるものとの二種あり、「ラムステーション」の發電器は、前者に屬し、「ウァムシャースト」發電器は、

キテー

後者に屬す。

キテーエキ (規定溶液) 化 規定液に同じ。

キテールイ (奇蹄類) 動 Perissodactyla. 概は大形の獸にして、趾端に蹄を被り、前肢は四趾あることあれども、後肢は必ず奇蹄にして第三趾即ち中趾が大きく發達す。門齒は上下に備はり、犬齒は小、臼齒は凹凸の咀嚼面を呈す、胃は單一にして盲腸大なり、植物を食す、「ウマ」、「サイ」、「バク」等之に屬す、有蹄類の一亞目とす。

キドー (軌道) 地 英 Orbit. 惑星が太陽の周りを旋轉移動する道ないう、楕圓形をなし、其の焦點の一つに太陽が位置を占むるものなり。

キナキ (規那樹) 植 Cinchona succirubra, Pav. 茜草科の常綠木、對生葉は光澤あり、花は白色又は帯紅色にして小なり、其の樹皮を「規那皮」と稱し藥用とす、「キニーネ」は之より製するものなり。

ギナンタイルイ (擬軟體類) 動 Aloluscolen. 「シヤミセンガヒ」、「コケムシ」等を含む一團にして、二枚の貝殻を背腹に有するものは、外見軟體動物に似るを以て此の名あり、然れども内部を見れば著しき差を有す、「コケムシ」の如きは岩石、木草等に固着し、石灰質の殻を分泌し、其の中に棲息す、此等を見れば遙に下等にして、寧ろ動物の觀を呈せ

す、更に二類に分つ、

擬軟體類 腕足類、例、「シヤミセンガヒ」、「ホーズキガヒ」

苔蟲類、例、「コケムシ」。

キノシ化 英 Quinine, $C_{20}H_{24}N_2O_2$. 「キノシン」は、各種

の「キナ」皮中に存在せり、良好なる解熱、及強壯劑なるを以て最も貴重なるものなり、水に溶け難し、無水のものには百七十一、八度にて熔融す、硫酸鹽及び鹽酸鹽最も多く醫藥に用ゐらる。

キノウンモ (絹雲母) 鑛 英 Sericite. 白雲母の一種にして、絹絲光澤を有し、灰綠、綠、黃白、等の色を帯ぶ、滑石に似たる白雲母にして、片岩の主成分として有名なり、絹雲母片岩之なり。

キヌサル (絹猴) 動 Haplorhina. 南亞米利加に産する猿にして、體甚だ小に、毛は絹の如くにして他の猿と異り、尾に黒白の輪斑あり、耳に白き長毛を鈎狀に生ず、爪は「ネコ」に似て鈎狀をなし鋭し。

キノー (氣囊) 動 英 Air-sack. 飛翔する鳥類に有する膜囊にして、管によりて肺に連り、胸部、腹部に位し、又諸骨の氣窩と相通す、而して鳥は隨意に肺より此の内に空氣を

出入せしめ、以て全體の比重を減却し得るものなり、

キノコフアン (菌の部分) 植

菌柄 (Stipe)

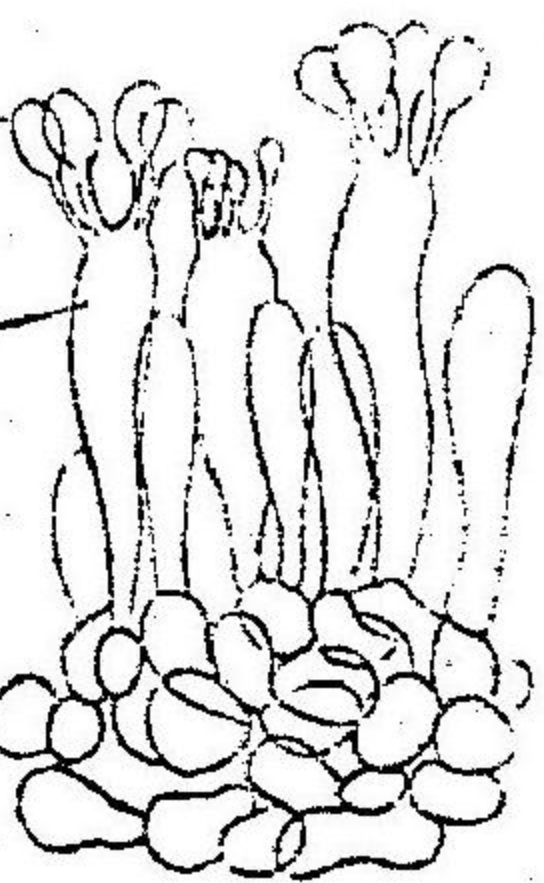
菌傘 (Gills)

菌輪 (Annulus)

菌褶 (Lamellae)

擔子細胞 (Basidium)

胞子 (Spore)



肉眼的 胞子 擔子細胞

顯微鏡的

キノシ化 英 Quinine, $C_{20}H_{24}N_2O_2$. 「キノシン」を重クロロムに酸加里と稀硫酸の作用により酸化せしむれば生ず、特異の刺戟性ある臭氣を有する、黄色針狀、或は柱狀の結晶なり、水に溶解し難く、「アルコール」及び「エーテル」には容易に溶解す、熔點百十六度にして、美麗に昇華す。

キノリ 植 地表類の一種にして、磐梯山地方に産する木本狀の地表なり、食用に供す。

キハタ (黄蘗、又藥木、又黄柏) 植 Phellodendron chinense, Hupe. 芸香料植物にして、樹の内皮黄色なり、故に名く、大なるは高さ七八間、直徑二三尺に至る、材は盆、椀等を製し、子實は殺蟲の效あり、皮は黄染料を製し、又は藥品とす。

キノコ

キノコ

キハツ(揮發)化英 Volatilization. 常温に於て、石油、揮發油等が蒸氣となるが如く、常温に於て、液體の蒸氣となることをいふ。

キハツ(揮發油)化英 Naphtla. 石油「エーテル」に同じ。

キヒ(稷)植 Panicum miliaceum L. 禾本科草本にして、葉は長く、花は圓錐花序に排列す、果實は、穎果、種子を食用とす。

キヒ(睡)生「カカト」のこと。

キフシ(五倍子)植 漆樹科の木本、「マルテニ鹽膚木」と稱する樹の、羽狀複葉上に生ずる蟲の巢を五倍子と稱し、之を染料に供す。

キフチ(動)「アゲハノチヨ」に類し、稍小さく、黒地に黄紋あり、前翅の黄色紋はY字形をなし、後翅には紅色及藍色紋あり、幼蟲は黒暗にして黒毛多く、「ウスバサイシン」の葉を食す。

キホ(氣胞)生英 Alveolus. 肺臓内の氣管細枝の先端にある囊なり、此の中にある空氣中の酸素は、之を圍む毛細管内の血液中の炭酸瓦斯と瓦斯交換を行ふ。

キン(金)化、鑛英 Gold Au. 原子量百九十七。二
キンイオン(金イオン)英 The Ions of Gold. 金は

二種の「イオン」を生ず、一は一價の「イオン」(Au⁺)にして、「イオン」(Au³⁺)なり、一價の金「イオン」(Monovalent ion)及び三價の金「イオン」(Trivalent)の性質は、未だ明かならず。

キンゴトキン(金の合金) 金は銀或は銅と混じて、貨幣或は裝飾物となす、我が國の金貨幣は金九、銅一の割合に混じたるものなり、又赤銅と稱するものは凡金四、銀一、銅九五の割合に混じたるものなり、合金中の量を示すに「カラット」或は金なる語を用ふる、委しくは「カラット」の條を見よ。

キンシ(金の所在) 金は主に單體として岩石中に混じ、或は金を含める鑛石の破碎によりて、砂金となりて存在するのみならず、黄鐵礦、黄銅礦、鉛鑛、等の中に少量に存在し、又金「アマルガム」となり或は銀及び「テリウム」と化合して「ベツツ」石、針狀「テルル」等となりて存在す、從來發見せられたる金塊の中、最も大なるは、遼洲より出でたるものにして、其の重さ二十八貫匁(其の大きき我七寸七分立方)あり、明治三十三年、世界に於ける金の產出高は、大約三億三千萬圓にして、重要な産地は、合衆國(六千六百萬圓)、瀋洲(六千萬圓)、露國(四千二百萬圓)、及南アフリカ(二千萬圓)等なり、同年、我國にては凡五十萬圓を出せりと云ふ。

キンセーシツ(金の性質)

金鑛は(一)等軸晶系(二)所謂黄金色(三)金色の條痕(四)金澤光澤(五)硬度二・五—三・〇(六)比重は一五・六一—一九・五(七)成分は三三なり、金鑛には劈開なく、之を吹管にて熱すれば、よく溶解す、天然に産する金は、多少の銀を混じ、其の量一厘六毛より三割八分餘に至る、又時には、少量の銅、鐵等を含む事あり、金は柔かなる金屬にして、薄き箔となしたるものは綠色の光を通過す、硝子に混すれば赤色を呈す、如何なる温度に於ても、空氣、酸素等の作用を受けず、「セレン」酸の外の酸には侵されずと雖ども、所謂王水には作用せられて、金鹽化水素酸(AuCl₃H)を生ず、頗る展性及び延性に富めり、金箔に鹽素を作用せしむれば、鹽化第二金を生ず、此の藥品は寫眞術に於て用ゐらる。

キンセーホー(金の製法)

金の製法の二三を擧ぐれば、淘汰法、及び「チアン」法と、「アマルガム」法と之なり、一、淘汰法、金を含める砂、或は碎きたる金鑛を、流水に入るれば、金は下に沈み、土砂は浮びて流れ去る、之を溶かして金塊となす。

二、「アマルガム」法、淘汰法の如く、金を含める土砂を洗ふ時に、表面に水銀を塗りたる銅板を以て、沈む所の金を受くれば、金粒は水銀と合金を造る、故に之を集めて

熱すれば、水銀は蒸氣となりて去り、後に金を殘す、

三、「チアン」法、此の法は極て細かに金粉を集むるに適せり、即ち破碎したる金鑛を、百分の〇・二五より一の「チアンカリ」を含める水と混じて放置する時は、金は溶けて「チアンカリ」と複鹽を造る、故に其の中に亞鉛を入れるれば、金は沈澱す、或は亞鉛を用ゐずして、電氣を通ずる時は、金は陽極に用ゐたる鉛箔の上に集る、よりて更に之を純粹にするを要す。

キン(銀)化鑛英 Silver Ag. 原子量百七、九三

キンイオン(銀イオン)英 Argention. 銀は只一種の「イオン」を造る、銀「イオン」は、一價にして無色なり、其の性質は、銅及び水銀の一價の「イオン」に類せり。

キンゴトキン(銀の合金) 銀は銅と合金を造る、我が國の銀貨は、二割の銅を含めり、又銅との合金は、裝飾品を製するに用ゐらる、四分一と稱するものは、凡銀と銅との等量を混じたるものなり、此の外、金、銅の合金なる赤銅あり、金の合金の條を見よ。

キンシ(銀の所在) 銀は單體の形にて、金、銅等と混合して産す、銀鑛の主なるもの、及び其の成分は、左の如し、

硫銀鑛(輝銀鑛) 一六五

ギン

濃紅銀礦	$3Ag_2S, 3S_2S_8$ 或 $Ag_3S_3S_8$
淡紅銀礦	$3Ag_2S, Ag_2S_2$ 或 $Ag_3S_2S_8$
硫安銀礦	$5Ag_2S, 3S_2S_8$ 或 $Ag_3S_3S_8$
硫安銅銀礦	$9Ag_2S, 3Cu_2S, 3S_2S_8, Ag_2S_2$
硫銅銀礦	Ag_2S, Cu_2S
角銀礦	$AgCl$

銀は、又鉛礦特に方鉛礦及び銀鉛鐵礦中にもあり、自然銀礦は、羽後の院内、但馬の生野、佐渡の相川等に産す、概ね他の銀礦、方鉛礦、方解石、等と共に産出する、銀塊の最も大なるものは、曾て獨逸に出たものにして、五百三十二貫匁ありしと云ふ、

ギンセーシツ(ギンの性質) 自然銀は(一)立方體、八面體、斜方十二面體に結晶す(二)劈開は、黄金と同じく、なし、(三)銀白色(四)銀白の條痕(五)金屬光澤(六)硬度は二、五—三(七)比重は一〇、一一、銀は、空氣中の酸素によりて作用せられず、然れども硫化水素には極めて容易に作用せられて硫化銀を生ず、銀を久しく空氣中に晒すときは、其の面次第に黒色を呈するは、空氣中に於ける微量の硫化水素、亞硫酸等の爲に、硫化銀を化成するが爲なり、彼の硫黄泉に到り、銀器の著しく黒變するも全く此の理に外ならず、電氣及び熱の最良の導體なり、展性及び延性に富めること、金

ギン

に次ぐり、薄き箔は青色の光を通過す、融點は凡一千度、酸水素吹管の熱によりて沸騰し、且蒸留せらる、熔けたるものは、其の容積の二十二倍の酸素を吸収し、固まる時に之を放出す、

硝酸には容易く溶けて硝酸銀を生ず、濃硫酸は硫酸銀を生じ、同時に酸化硫黄を發生す、

ギンセーシツ(銀の製法) 銀の製法の主たるもの三あり、「アマルガム」法、鉛法及び濕法是なり、

- 一、「アマルガム」法、此の法は、銀の化合物を水銀によりて還元し、之を水銀に溶かしたる後、蒸溜して兩者を別かつにあり、即ち礦石を細末となし、水を混じたる物に、食鹽の三分乃至五分を加へ、之を數日間煉瓦石にて造りたる床上に擴げ置くとときは、鹽化銀を生ず、次に之に水銀と燒きたる黃銅鐵礦とを加ふ、而して化學作用の十分に行はるる迄、水銀を加ふ、然る時は銀は還元して水銀と合金となるを以て、之を蒸溜して銀を得らる、
- 二、鉛法、銀礦を鉛と共に熔融して、銀と鉛の合金を造る、之より銀を分離することを得、
- 三、銀、鐵、銅の硫化物を含める礦石を燒けば、硫酸鹽に變ず、尙燒きて硫酸鐵の全部、及び硫酸銅の一部を分解し、之を水にて浸出したる溶液に銅片を入れて、銀を沈

濃せしむ、

キンウモ(金雲母) 鑛英 Philopopite. 黒雲母の一變種なり、

キンガキョー(近眼鏡) 物英 Spectacles for short-sighted eye. 眼鏡の條を見、

キンカンシツク(金環蝕) 天英 Annular Eclips. 日蝕に三種あり、月が恰かも太陽の中央に來り、其の中央を蔽ふことあり、之を金環蝕と云ふ、是は太陽の視直徑が月の視直徑より大なる時に生ず、

キンガン(近眼) 生英 Short-sighted eye. 常に物を眼に接して見るときは、燒點距離を短くして物像を網膜上に映せしめんがために、水晶體「レンズ」の凸出の度を増すものなり、かかることを永く續くるか或は屢くするときは「レンズ」の凸出習慣となりて、復た元形に復すること能はざるに至る之を近視眼と云ふ、眼鏡即凹鏡を用ふるは之を調節せんが爲なり、

キンキョ(金魚) 動英 Gold-fish. 「フナ」の一變種にして素と清國の産なり、文龜年間我邦に輸入せられたるものにして、爾來人為淘汰により、更に優美なる多數の變種を産出するに至れり、

キンコ(光參) 動 Steloptus Sp. 「ナマコ」の類にして、

キンウ

キンコ

體は紡錘狀をなし、頭端に二十本の觸手あり、乾製して食用に供す、陸前金華山の邊海及び北海に産す、

キンコン(菌根) 植 Mycorrhiza. 顯花植物の根が、菌類と共生するものを云ふ、此れには菌絲發達して、根の周圍を包むものあり、例へば松柏科、樺木科、殺斗科に於けるが如し、又菌絲が根の組織中に侵入して、其の細胞内に位置を占むるものあり、例へば、蘭科、石南科等に於けるが如し、

キンサイホー(襟細胞) 動 「カイメン」類の一個體をいふ、體の中央に一節あり、先端に一鞭毛あり、之を動かして水流を起さしめ、流れ来る食物を捕食す、此の個體は頭毛室内の壁に詳着す、

キンシ(菌絲) 植英 Mycelium. 菌類の發育器官にして、地中に埋没せる、錯綜せる絲狀體なり、

キンシガン(近視眼) 物英 Short-sighted eye. 眼珠の前面にある水晶體、厚きに過ぐるがため、遠方にある物體の實像を、網膜の前面に生ずるが故に、之を眼の近きに置くにあらざれば、明瞭に之を認むること能はず、即ち明視の距離の短き所の眼を、近視眼又は近眼と稱す、

キンシチョー(禁止鳥) 動 捕獲を禁止されたる鳥類にして、樹木、作物等を食害する動物を捕食し、直接間接に人生に

利益ある鳥類にして、即ち次の如し。
ツル、ツバメ、ヒガラ、コガラ、シジュウガラ、ゴジュウ
ガラ、エナガ、ミソサザエ、ホトトギス、カクロー、サ
ンコーチヨ、

キンシ(緊縮半島)地

土地の下降、若くは海の
破壊作用により生ずる半島をいふ、北米「ノバスコシア」の
如きは、現に海水の剝蝕によりて半島形に變ぜしものなり、

キンシ(近日點)天英 Perihelion.

地球は、太
陽を焦點の一に有する楕圓の軌道上を運行す、故に、地球
と太陽との距離は、地球の軌道上に於ける位置によりて異
なり、其の最も近き距離を有する軌道上の點を、近日點と稱
す、此の點は楕圓の長徑の一端にして、太陽に近き方の點
なり、地球は通例一月二日には此の位置にあり、

キンゼー(金星)天英 Venus.

金星は内惑星に屬し、拂
曉及暮天にのみ現る、所謂、明けの明星、宵の明星是なり、金
星の自轉に關しては、確たる測定なし、地球より見れば、
虧けて見ゆ、衛星なし、雰圍氣は極めて少く存在す、

キンシキ(筋組織)生英 Muscular tissue.

筋肉よ
りなる組織を云ふ、

キンダ(金屬)化英 Metal. 金、銀、銅、鐵等の如く、
不透明にして、所謂金屬光澤を有し、其の滑かなる表面は、

ナトリウム 〇、九七二 銅 八、八
カルシウム 一、五二 ニッケル 八、九
マグネシウム 一、七五 銻鉛 九、八
アルミニウム 二、五六 銀 一〇、五
バリウム 三、七五 鉛 一一、三五
アンチモン 六、七 パラチウム 一一、五
亜鉛 七、二 水銀 一三、五九
錫 七、三 白金 二一、五
鐵 七、八 イリジウム 二二、四
オスミウム 二二、五

キンチ(近地點)天英 Perigee. 月の軌道の長徑の
端にして、地球に最も近き點を近日點と云ふ、
キント(筋肚)生英 Belli. 一筋の赤色の部分をいふ、
筋の兩端に必ず白色の腱あり、腱以外の部分は筋肚なり、筋
の收縮は此の部分のみの作用なり、
キンダ(筋肉)生英 Muscle. 人體の筋肉は總計五百餘
個あり、主として骨の周圍に附着し、收縮によりて之を動
かすものなり、筋肉は其の形種々なれども、腕脚等のもの
を取れば、概ね紡錘形をなす、其の中央の赤き部を筋肚と
いひ、兩端の白色にして細き部を腱といふ、筋肚は收縮し、
腱は只筋肚と骨とを連ねる用をなす、一筋肉の兩端にある

極めてよく光を反射し、熱及び電氣の良導體なるものを金屬
と稱す、

キンダケシ(金屬元素)化英 Metallic elements.

金屬元素の主なるものを擧ぐれば左の如し、

- 金、銀、銅、鐵、白金、「ニッケル」「カリウム」「亜鉛、
鉛、錫、銻鉛、「カルシウム」水銀、「ナトリウム」「イ
グネシウム」「マンガン」「アルミニウム」等

キンダコタタ(金屬光澤)鑛英 Metallic luster.

純金純銀其他金屬に固有なる光澤なり、

キンダコトツ(金屬鑛物)鑛英 Metallic Minerals.

非金屬鑛物に對す、地球内部の溶液が、地殻の裂隙を經て
進出し來り、地層間に凝聚せるもの、金、銀、銅、錫、鉛、亞
鉛等の如きもの、之に屬す、

多くは、酸素、炭酸、砒素、硫黄、「アンチモン」等と化合
し、所謂金屬鑛(ore)となりて産出す、かくの如く砒素、
「アンチモン」等は、金屬が鑛となりて出づるを助くるも
のなり、由りて之を副金屬 Mineralizer と稱す、

キンダヒシ(金屬の比重)化英 Specific gra-

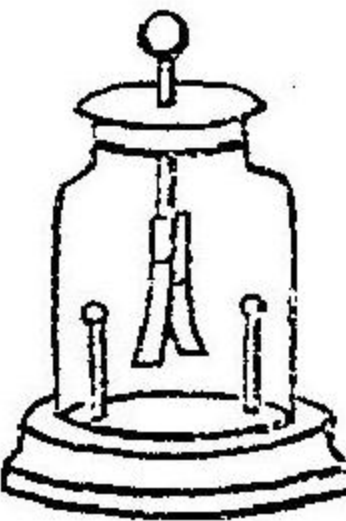
- vity of metals.
リシウム 〇、五九四 カドミウム 八、六
カリウム 〇、八六五 コバルト 八、八

腱は、異なる二骨に附着するものにして、其の身體の中央に
近き端を起點といひ、遠き端を着點といふ、故に收縮され
ば、必ず異なる二骨相接近し此に運動を生ず、吾人の食する
牛肉は、即ち此の筋肚にして、噛み切ること能はざる白色
部は即ち筋なり、筋肚を檢すれば、無數の細線列が集りて
成れるものにして、之を筋纖維と名づく、筋肉の收縮は即
ち此の筋纖維の收縮によるなり、筋纖維には鞘を有するも
のにして、此の鞘は腱に連るものなり、

キンダケンデンキ(金箔驗電器)物 Gold-leaf electros-

copy. 金箔驗電器は、物體が發電せりや否やを判定し、

及び其の種類を辨別するに用ゐる器械なり、この器械は、
硝子器の上部を貫ける金屬棒の下端に、二枚の金箔を吊し、
上端に金屬球或は金屬板を附したるものなり、今發電體を



此の板又は球に近づく時は、感應作
用により、發電體の有する電氣と異種
の電氣は板に集り、同種の電氣は金箔
に集り、金箔は相排斥し互に離開す、故
にこの金箔離開の度によりて、發電體の電氣の多少を知る
ことを得べし、又一の發電體を板又は球に近くる後他の發
電體を近づくる時、二發電體の有する電氣、同種類のもの
なる時は、金箔離開の度を増し、然らざる時は其の度を減

ず、故に之によりて電氣の種類を判知することを得べし。
キンボーク(又ウマアシガタ) (毛茛) 種 Ranunculus,
near L. var Japonicus Maxim. 毛茛科の有毛草本に
して、葉は掌状に分裂し、單葉なり、花は黄色を呈し、果實
は瘦果にして、殆んど球状に集合す、莖、葉、根、果實共に
有毒なり、

キンミッタ(金密陀) 化英 Masticot. 酸化鉛(所謂密陀
僧)を強熱して熔融したる後、冷やして黄赤色の結晶質と
なしたるものを、金密陀といふ、

キンメーチク(金明竹) 種「マダケ」の一種なり、幹黄色に
して綠色の一道を有す、又金竹とも云ふ、

キモ(肝) 生 肝臓の俗稱なり、

キモ(氣門) 動英 Stigmata. 昆蟲類多足類の呼吸孔を
いふ、通常體側において、内方は氣管に連る、

ギヤセゾー(逆旋風) 地英 Anticyclone. 或る一地點
に於て、急激に高氣壓部を生ずるときは、氣流は此の部を中
心として、其の四方に溢流し、旋風と方向の全く反對なる風
を起す、之を逆旋風と云ふ、北半球にては、其の方向、時
計の針の回轉の方向と一致す、

ギヤハンゾー(逆反應) 化英 Reverse reaction.
可逆反應の條を見よ、

ギヤクリューキーヤクキ(逆流冷却器) 化英 Reflex
condenser. 冷却器を立てたるものと同じ效用をなす冷却
器なり、

ギヤクレーキ(逆冷器) 化 逆流冷却器に同じ、

キョーカ(毬果) 種英 Strobile or strobilus. 松の
果實の如きもの、即ち裸子を有する、數多の展開心皮が、
毬状に集合せるものを云ふ、「カラハナソウ」の果實の如き
も、亦然り、

キョーカク(嗅覺) 生英 Olfactory sensation. 物の臭
氣を感じる感覺をいふ、鼻腔内に散布する嗅神經の司る所
なり、

キョーカザン(休火山) 地英 Dormant volcano. 有
史以後、曾て活動せしことあるも、現今にありては、其の噴
出を中絶せるものなり、富士山の如き即ち是なり、

キョーゲキョーコ(急激昇降) 地英 Rapid mbar-
val and subsidence. 火山の噴火、若くは大地震に伴ふ
所の、急激なる土地の昇降をいふ、

キョーシツゼー(吸濕性) 化英 Hygroscopic. 水分を吸
收する性質なり、

キョーシツケイ(嗅神經) 生英 Olfactory nerve.
第一對腦神經にして、大脳の下面にある一對の棍棒状をな
す、

せる嗅神經葉より分出し、頭蓋骨の底を通過し、鼻腔内の
上中兩段の粘膜に分布す、嗅覺は液體にては感ずること能
はず、必ず瓦斯状なるを要す、故に放香液を鼻腔中に注入す
るも嗅覺なし、嗅神經が鼻腔内上、中兩段に分布し下段に
分布せざることは、通常の吸氣にては無臭と思はるるもの
も、強吸により其の臭あることを知り得るによりて明かな
り、

キョーシユ(吸收) 物英 Absorption. 液體が氣體を
溶解する所の現象にして、水がその立積の數百倍の「アム
モニア」瓦斯を溶かす如きを云ふ、麥酒「ラムネ」等は、皆
多量の無水炭酸を溶解せるものなり、液體の吸收する瓦斯
の量は、溫度低き時多く、又氣體の壓力に正比例す、

キョーシユースペクトル(吸收スペクトル) 物英 In-
ter-sorption spectrum. 吸收「スペクトル」とは、連續「ス
ペクトル」を生ずべき光の「プリズム」に達するに先ち或る
物體のために、其の光の一部を吸收せられたる時、生ずる所
の「スペクトル」にして、之を窺へば、暗線或は暗帯に由りて
中斷せらるゝを見るべし、日光「スペクトル」の如きは、吸
收「スペクトル」なり、

キョーシツリョク(求心力) 物英 Centripetal force.
質點が圓形運動をなすときは、其の圓形の各點に於ける切
線

線の方向へ飛び去らんとするものなるが故に、之をして圓
形の道を運動せしめんには、絶えず中心の方向に引き附く
る所の力なかるべからず、この力を求心力と稱す、この力
の強さは、質點の質量に正比例し、運動速度の自乗に正比
例し、圓の半径に反比例するものなり、

キョーネツソウ(吸熱反應) 化英 Endothermic
reaction. 反應する際に、周圍より熱を吸收する反應を
いふ、

キョーベン(吸盤) 動英 Suction. 「イカ」「タコ」の觸手に
ある疣「ダストマ」の口、「ハ」の脚先、「ヤモリ」の趾裏等
の如く、物體面に吸着して容易に離れざるものをいふ、而し
て動物により其の構造一ならずといへども、要するに、物
體面に附着する吸盤面の中央のみが凹入するにより、此の
處に眞空を生じ、外氣の壓力によりて體を支ふる用をなす
ものなり、

キョービエーシキ(キュビエー氏の器) 動英 (Nivier's
organ. 多くの「ナマコ」類の「クローアカ」(排泄腔)に附着す
る線状の長管にして、其の用不明なり、

キョーメンキョー(球面鏡) 物英 Spherical mirror.
球面鏡とは、球面の一小部分を取り、之を反射面としたる
鏡をいふ、

キエトメノオーキョー (球面凹鏡) **物英** Spherical concave mirror. 凹面鏡を見よ。
キエトメノジョーサ (球面収差) **物英** Spherical aberration. 光線が、球面凹鏡によりて反射せらるゝに際し、其の鏡心に近き部分より反射するものは、鏡面の遠き所に會合し、鏡心を遠かれる部分より反射するものは、鏡面の近き所に會合するが故に、物體の像は明瞭を缺くべし斯くの如く光の反射する場所によりて、反射光が會合する點を異にする所の現象を、球面収差と稱す。

キエトメノツキョー (球面凸鏡) **物英** Spherical convex mirror. 凸面鏡を見よ。
キエトリョー (丘陵) **地英** Hill. 低き山岳をいふ。
キエトオーシ (姜黄紙) **化英** Gummy paper. 姜黄の根の汁にて染めたる紙にして、其の色黄なり、「アルカリ」によりて、褐赤色に變ずるを以て、「アルカリ」の試験紙となす。

キョカ (巨鍋) **地** 地壘ニ同じ。
キョカイカイキセン (巨蟹回歸線) **地英** 北回歸線に同じ。
キョカイカン (凝灰岩) **鑛英** Tuff. 火山破裂の際、火口より噴出したる火山岩の片碎より成れる岩の總稱なり、細微なる噴灰凝集したるものは、砂岩の如く、粗大の屑片

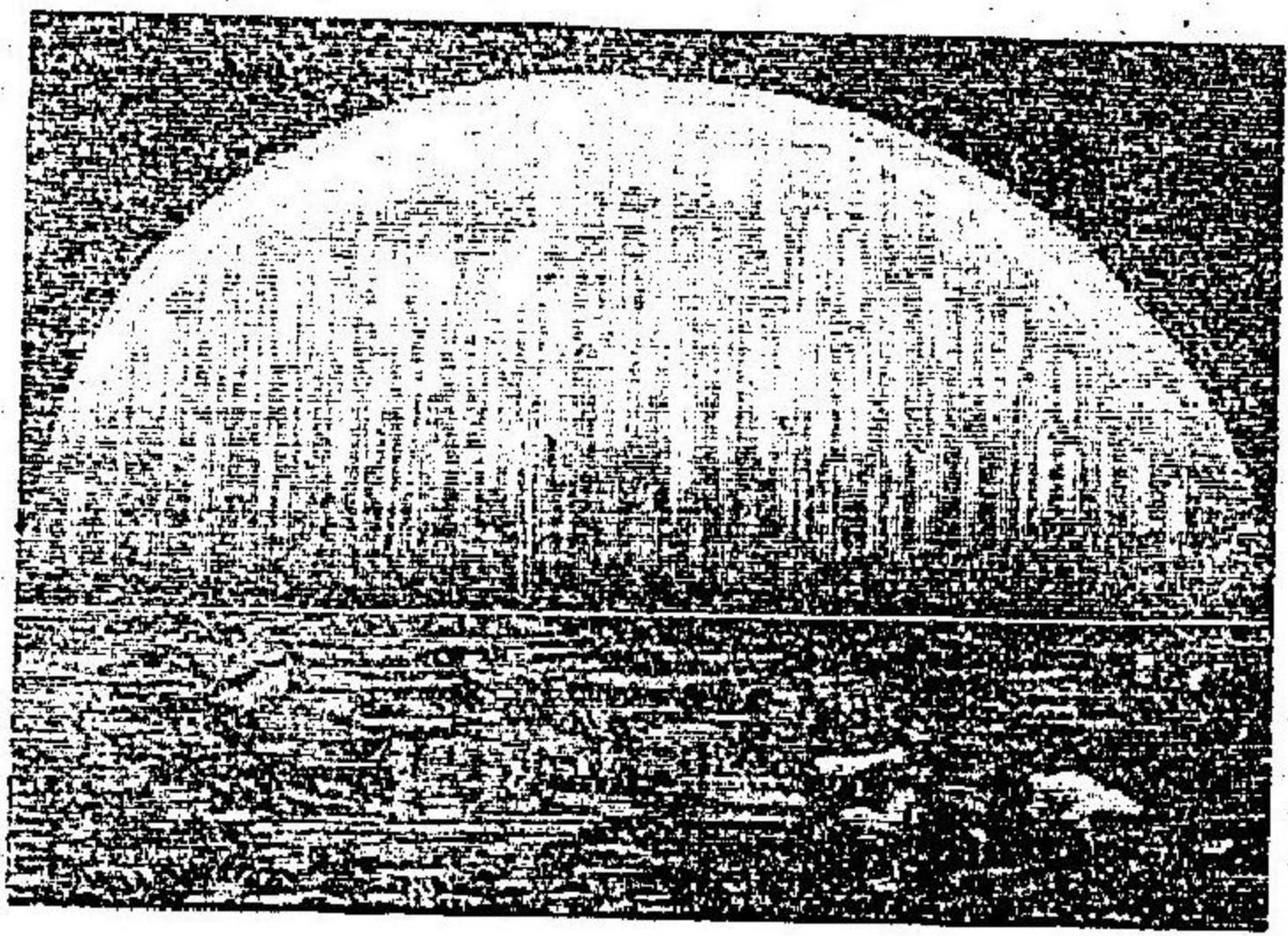
相集りたるものは、稜鏡岩 (Breccia) の如き外觀を具ふ、共に、水底に於て、凝結したるものにして、往々、化石を埋藏す、其の成分は、安山岩的、若くは粗面岩的、又玄武岩的にして、本邦に普通なる岩石なり、安房の房州石、伊豆の澤田石と稱するもの、即ち之なり。

キョカイホー (凝灰岩) **地英** Tuff. 火山の灰及び砂礫の、熱水によりて凝結せられたるものなり、多少成層せる状態を示す、通常十二三度の傾斜をなす。

キョカク (胸廓) **生英** Chest. 肋骨、胸椎、胸骨、竝に横隔膜の圍む空所をいふ。

キョク (棘) **動英** Spine. 動物體面にある比較的堅硬なる刺狀物をいふ、例へば「サニ」の刺の如し、棘には可動性のものと、不動性のものとあり、可動性の棘は體面と連續する所に筋肉あり、

キョク (極光) **地英** Aurora. 極地方に現る、一種の光の現象なり、而して其の形は一定せざれども弓狀なるを尤も普通とす、色は概ね白又は淡黄にして、罕には赤色なることあり、極光の出現の原因は未だ明ならずと雖も、蓋し電氣の作用に由り起るものならん云ふ、又地磁氣と密接なる關係を有し、磁氣嵐は此の現出に伴ふこと多し。



キヨ (玉) **鑛** 支那印度等東洋諸國に於て、古より玉と稱し、刀飾什器、耳飾等を製し、一の寶玉として貴重せるものあり、是即ち、輝石の一種にある軟玉 Jadeite. 若しくは角閃石の一種なる硬玉 Nephrite. に外ならず、前者は火に熔け易く、後者は前者よりも硬くして火に熔け難きを以て區別すべし、硬玉は、實は緻密又は細粒狀にして、綠色を帯び多少透明なるを常とす、之を吹管にて熱すれば、膨脹して熔融すと雖も、酸には全く溶けざるが、又は殆ど溶けざるものなり。

キョク (玉髓) **又** **ブト** **ト** **セキ**、**佛頭石** **鑛** **英** Chalcedony. 極めて微小なる結晶より成り、肉眼的に非晶體なり、綠、黄、白、赤、等の諸色あり、我國の佐渡北泊村より産し、その他、越後、羽後等より産す、俗に「ソ

キヨ (玉) **鑛** 支那

ロパンイシ」云ふ、蓋し算類に似たるを以てなり、此に左の變種あり、

(イ) 肉紅玉髓 世界中特に印度に産出す、赤色にして、俗に津輕玉と稱す、

(ロ) 血玉髓 元來綠色にして、酸化鐵を含むが故に、赤點を有す、

(ハ) 濃綠玉髓 美なる葱の如き綠色を呈す、

(ニ) 綠玉髓 酸化ニツケルが存在する爲、林檎の如き綠色を呈す、

キョク **テ** **キ** **セキ** (玉滴石) **鑛** **英** Hyalite. 「マンバクセキ」を見よ。

キョク **ド** **フツ** (棘皮動物) **動** Echinodermata. 「サニ」 「ヒトデ」 「ナマユ」等の諸類を含む一門にして、皆海産なり、成長せるものは球形、球形、若くは蠕蟲狀にして、多少明瞭に放射同形をなし、其の數多くは五なり、此の門は同形の點に於て、腔腸動物に似れども、發生の方法及體制の詳細を觀察すれば、著しき差異あり、而して放射同形は、時として、左右同形に類似するものあり、此の門に屬する動物は、概ね石灰質の骨片を有し、多くは此の骨片相接近して外骨格を形成し、其の外面に堅硬なる棘及稀には又棘を有す、消食器は體腔中を走り之と交通せず、口及肛門は

互に相反せる體部に存し、或は同一の體部に存することもあり、呼吸器を有せざるもの多く、若し有するも其の性状一様ならず、循環系は主として食道周圍に於ける脈環、并に之より分走せる射狀脈管にして、血液は無色なり、神経系は、食道周圍の神經環及其の射狀枝よりなる、生殖器は射狀に排列し、卵生にして雌雄異體なり、卵より發生するものは、成長せるものと著しく異り、左右同形をなし、數突起を有し、變態を経過して成體となる、此の門に屬する動物の運動法は、極めて奇にして、外骨格の步帶に存する小孔より膜質の小管足を出し、他物に吸着して移動す、此の移動器を水管系(Suikankei)の條を見よといふ、此の門の動物を左の四綱に分つ、

- 海膽類、例 「ワミ」
- 海星類、例 「ヒトデ」
- 棘皮動物
- 砂蟻類、例 「ナメ」
- 海百合類、例 「ワミユリ」

キヨクデンリウ(局部電流) 物英 Local current. 電池に用ゐる通常の亜鉛は、其の中に鐵鉛砒素等の物質を含有するものなれば、斯くの如き亜鉛が、稀硫酸中にある時は、事實上、亞鉛とこれらの他金屬とを接觸したると同じ理によりて、其の間に電流を生ずるなり、この電流を局

部電流といふ、キヨクリツハンケツ(球面鏡の) (曲率半徑) 物英 Radius curvature. 球面鏡の球面をなす所の球の半徑を、其の曲率半徑といふ、

キヨクケツ(凝結) 物英 Freezing. 凝固を見よ、

キヨクケツ(凝結) 物英 Condense. 凝結とは、氣體の液化することを見よ、

キヨク(峽江) 地 絶壁をなせる海岸が、細長く陸地の中に彎入するものを見よ、

キヨク(凝固) 物英 Solidification. 熔融したる硫黄又は鉛を冷却する時は、固體となるべし、斯くの如く、液體が其の熱を失ひて固體となる所の現象を凝固といふ、

キヨク(凝固) 生英 Coagulation. 生理學に於て血液の固結するに用ゐる語なり、此れは、液中の纖維素の作用によるものにして、鳥類の凝固は急激に、爬虫類の如きは遅し、凝固は動物體に極めて必要にして、血液に此の性質なければ、出血永く止まず、傷創は必ず致死に終るに至るべし、養し人の如きは其の血液の三分の一を失へば生活し難ければなり、

キヨクシ(姜黄紙) 化 姜黄紙に同じ、

キヨク(距骨) 生英 Astragalus. 足頭にある骨にし

て、脛骨、跟骨及跗骨の間に狹まる、

キヨクツ(胸骨) 生英 Sternum. 胸の前面中央の上下に互る骨にして、上部に頸狀の溢れ目あり、鎖骨及肋骨の前端と連絡す、

キヨクテン(凝固點) 物英 Solidifying point. 熔融して液状をなせる物體が、冷却して凝固し始めしより、全體が凝固し終るまで、其の温度は一定なるものにして、此の温度を凝固點といひ、物體によりて其の温度一様ならず、而してこの凝固點は熔融點と同一なるものなり、

キヨクノルイ(胸甲類) 動 Thorostraca. 甲殻類に屬する一目にして、「エビ」「カニ」を含む、鹹淡水に産し、頭胸部は概ね一甲を以て蔽はし、一對の有柄複眼、二對の觸角、一對の上顎、二對の下顎、二乃至五對の顎脚、及數對の脚あり、

キヨクサン(強酸) 化英 Strong acid. 水溶液となりて、多量の水素イオンを生ずる酸をいふ、例へば鹽酸、硝酸、硫酸等の如し、

キヨクサニョトキン(胸鎖乳頭筋) 生英 Sternocleidomastoidens. 胸骨、鎖骨と頸椎骨の乳頭突起との間にある筋にして、左右同時に收縮すれば頭を俯し、交互に收縮すれば、左或は右向をなす、

キヨクシ(裾礁) 動英 Fringing reef. 珊瑚礁の一種にして、自然の島の周に接して存する礁なり、即ち島と礁との中間に水を隔てざるものを見よ、

キヨクシ(鏡心) 物英 center of Mirror. 球面鏡の反射面の中央點を、其の鏡心と稱す、

キヨクシ(強震) 地英 Violent earthquake. 地震の強さの條を見よ、

キヨクシヨク(凝集力) 物英 Cohesion. 同質の分子の互に相牽引する力にして、物體の各部離散せずして、其の形狀を保つは、全くこの力あるによるものなり、この力は、金屬、木石等の如き固體に於ては甚だ強くして、或は其の形を變じ、或は之を切斷するに、大なる力を要す、液體は凝聚力固體より弱く、瓦斯體に至りては全く之を缺けり、

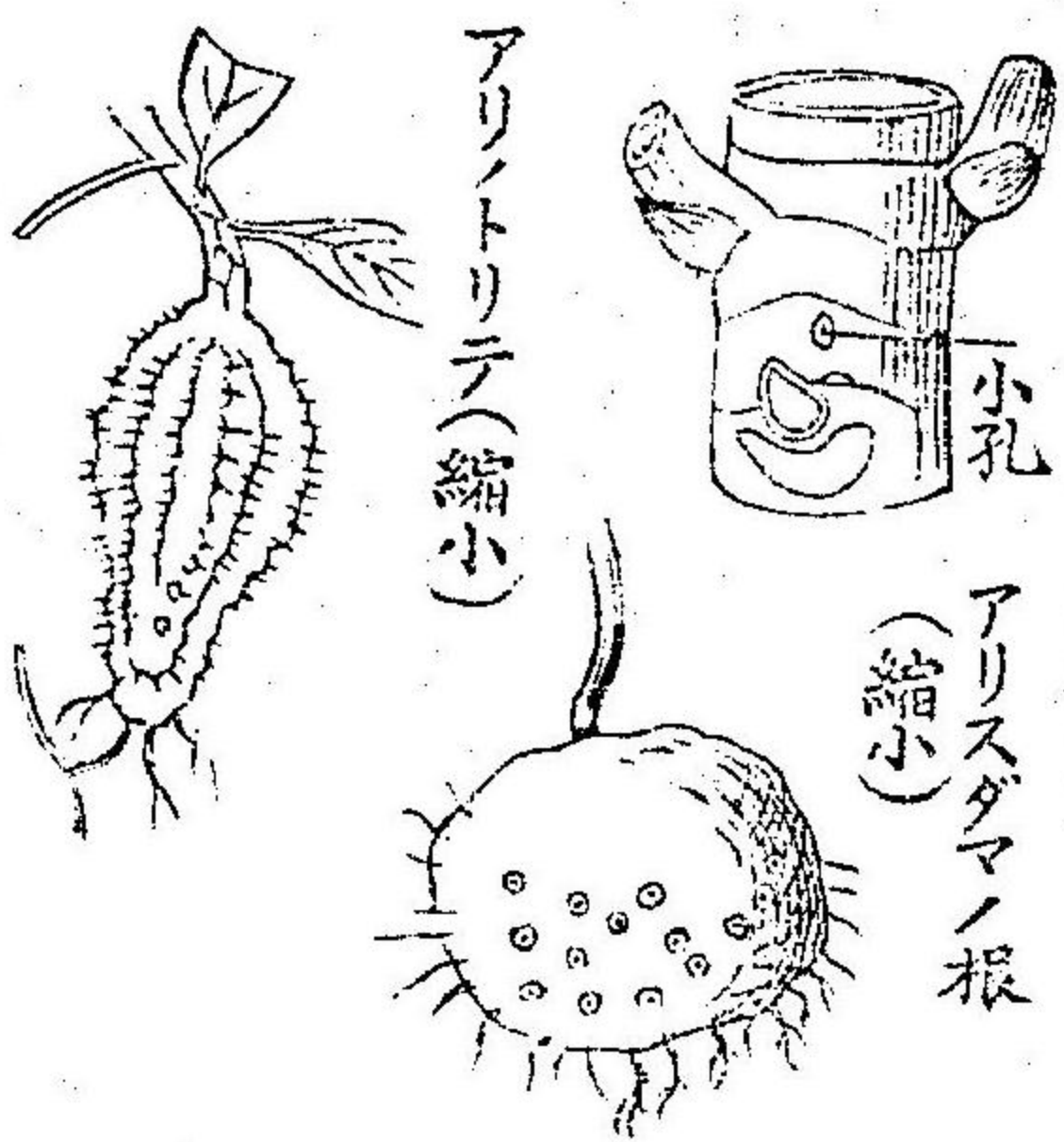
キヨクシテン(虚焦點) 物英 Virtual focus. 焦點の條下を見よ、

キヨクシフ(巨人釜) 地英 Volcano. 河水の流れ激烈なるとき、水底に穿つ窪穴をいふ、又甌穴とも云ふ、

キヨクセイ(共生) 植 Symbiosis. 或る種の生物が、全く物類を異にせる、他の生物と同棲し、相頼り相援けて、以て其の生活を營むものを云ふ、

(A) 植物と植物との共生、

例一、地衣類、(藻類と菌類との共生)、地衣類を見よ、
例二、根瘤、(豆科植物の根と細菌との共生)、根瘤を見よ、
例三、菌根、(顕花植物の根と菌類との共生)、菌根を見よ、
(B) 植物と動物との共生、
例一、淡水海綿、「ラッパムシ」、「ゾウリムシ」等の下等動物



物と淡水藻との共生、
例二、蟻植物(蟻と植物との共生)、

「アリノスノキノ」アリノスダマ」
「アリンドリテ」等と蟻とは關係親密なる

も、其の調査未だ十分ならず、

キヨセー(共棲)動英 Symbiosis. 二種の動物が互に害を及ぼすことなく、(互に利益を交換することもあり)共同して棲息するをいふ。「カイロドローケツ」の如し、

キヨツ(虚足)動英 Pseudopodia. 「アメーバ」の如き動物が、任意の體部より、一時、肉足を突起し、以て其の方向に體を移動せしむるをいふ、

キヨゾー(虚像)物英 Virtual image. 像の條下に就きて見よ、

キヨヂク(鏡軸)物英 Axis of mirror. 鏡軸とは、球面鏡の中心と其の球の中心とを連れたる直線をいふ、

キヨチユイ(蟻虫)動 Oxyuris vermicularis, L.

圓蟲類に屬し、二分五厘乃至三分位の大きさを有し、人の大腸の中に棲息し、就寢後温暖となる頃、肛門より出でて徘徊することにより、劇痒を感じしめ、不眠症に陥り、或は精神病を誘起することあり、

キヨツイ(胸椎)生英 Thoracic vertebra. 脊椎骨の一部にして、胸部にありて十二個の骨よりなる、此の椎骨は肋骨を附屬するを以て特徴とす、

キヨドッコカク(共同骨格)動 「サンゴ」「カイメン」の骨格の如く、數多の個體が群體をなして、形成する所の骨格を云ふ、

キヨドロー(共同肉)動 群體をなし共同して生活する動物の肉をいふ、即ち其の中の一つ個體が飲食すれば、全共同肉を養ふこととなる、例へば「サンゴ」「カイメン」等の肉の

し、

キヨドー(鏡銅)化 銅六十七、錫三十三の割合に混じたる合金にして、鏡を製するに用ゐたるものなり、

キヨナ(水菜)植 ミツナに同じ、

キヨナラベ(電池の)(行並べ)物英 Arrangement in series. 數個の電池を取り、其の第一電池の陽極を第二電池の陰極に結び、第二電池の陽極を第三電池の陰極に連れ、順次此くの如く、陰陽兩極を交互に連ねるを、行並べ又は縦の排列法といふ、其の電動力は、電池一個の電動力を電池の數だけ倍したるものなり、

キヨビシ(擬羊皮紙)化英 Parchment paper.

此を製するには、強硫酸に其の三分の一の水を加へて沸め、能く冷したるものに、無膠紙を三秒乃至十五秒間浸して取り出し、冷水にて能く洗ひ、次に少量の「アムモニヤ」を含める水にて洗ひ、再び冷水にて洗ひて乾燥す、工業上に多量に使用する、

キヨフー(強風)地 風の條を見よ、

キヨボク(喬木)植英 Tree or arbor. 幹は、多年生の木質にして、一個の主幹を有し、高さ灌木よりも高し、(但し灌木喬木の區別は、固より人為的なり)、松、杉、銀杏等の如し、

キヨマ(鞏膜)生英 Sclerotic. 眼球の前方以外の大部分の外面を被ふ所の強固なる膜をいふ、

キヨマ(鞏膜)生英 Dura mater. 「ノーマク」の條を見よ、

キヨマ(胸膜)生英 Pleura. 肋骨の裏面を被ふ薄膜にして、肋膜に同じ、

キヨメイ(共鳴)物英 Resonance. 振動數相等しき二個の音叉を取り、其の筐の口を向い合はせに置き、一方の音叉を鳴らし、暫くして其の振動を抑止する時は、他方の音叉が弱く鳴るを聞くべし、斯くの如く、靜止する發音體が、自己固有の振動數と同振動の音を受くる時、之に誘はれて鳴り出す所の現象を共鳴と稱す、今其の理を考ふるに、物體振動すれば、其の振動は空氣に傳はり、疎密波となりて四方に波及す、故に、其の波の及ぶ所に、其の振動の週期全く原發音體と同一なる物體ある時は、空氣は之を振動せしめんと勉むるを以て、之に誘はれて振動し、漸々其の振幅を増し、遂に音響を放つに至るなり、

キヨヤクショテン(共軛焦點)物英 Conjugate foci. 共軛點を見よ、

キヨヤクテン(共軛點)物英 Conjugate point. 球面鏡又は「レンズ」の軸上の一箇点にある光點より發散する光

線の、球面に依りて反射せられ、若しくは「レンズ」によりて
曲折せられたるものは、軸上の一定點Bに集合すべく、反對
に、Bに光點ある時は、Aに集合すべし、斯くの如き關係あ
る二點を、球面鏡又は「レンズ」の共軛焦點又は共軛點と稱
す、今鏡面及び「レンズ」よりA、Bに至る距離を各P、P'とし、
其の曲率半徑をrとする時は、次の關係式あり、

$$\frac{1}{P} + \frac{1}{P'} = \frac{2}{r}$$

ギョラシヨセキカイガン(魚卵状石灰岩) 鏡 「ジツヨ

セキカイガン」(鱗状石灰岩)に同じ、

ギョレイ(魚類) 動 Pisces. 脊椎動物の一綱に屬し、水中
に棲息し、概ね圓錐状をなし、且つ多少扁平なるを常とす、
然れども亦幅廣く扁平なるあり、或は殆ど球状をなすもの
あり、體は頭、軀幹部、及尾よりなる、皮膚は大抵一種の粘液
を分泌し、皮中に鱗を有するを常とす、移動器は軀幹にある
筋肉及尾鰭にして、他の鰭は緩動或は退歩の用をなす、骨格
は硬骨或は軟骨にして脊椎を有す、椎骨は兩凹にして其の
中軸に孔あり、此凹部及孔には背索を遺留す、軟骨より成る
魚の頭骨は簡單なれども、硬骨魚の頭骨は骨數甚だ多し、顎
骨の後方に舌骨及鰓骨あり、腦及脊髓ありて、腦は五部に分
れ、眼球内の「レンズ」は殆んど球形なり、耳は後頭部兩側の

骨中に潜在し、内耳あるのみ、鼻腔は一対あり口腔と連絡せ
ず、從て呼吸に關係あることなし、觸官器は主として唇若く
は鬚なり、體側に横走る側線あり、神經の末端に富み魚類
に特有のものなれども、未だ其の作用を知ることはせず、消
食系は頭端或は下部に開ける口に初まり、齒は頸縁の外に
口腔に面する諸骨にも生ず、鰓孔は咽頭の左右に數對あり、
胃、腸、肛門を具へ、幽門の直後に一乃至數十個の盲管より
なる幽盲囊(Diverticula)を帶ぶ、巨大なる肝、及膽
囊、脾臓あり、脾は之を缺く、多くは脊椎の直下に鰓を備ふ、
鰓を以て水を呼吸し、口より入れて鰓孔に出だし、心臓は喉
部に存し、一心耳、一心室よりなる、靜脈は心耳より心室に
進み更に鰓に分流し此にて清淨となり體を循環す、冷血に
して、赤血球は楕圓形有核なり、腎臓は長形にして背側にあ
り、輸尿管は排泄腔に開く、大抵雌雄異體にして、概ね一對の
睪丸、卵巢を具へ、輸卵管或は輸精管は輸尿管と合し、或は、
硬骨類 例、「タビ」、「ヒラメ」、「コヒ」、「フグ」、「タ
ツノオトシゴ」、
軟骨類 例、「アカエイ」、「サメ」、
硬鱗類 例、「チヨウザメ」、
肺魚類 例、「ケラトプス」、「プロトプテルス」、
魚類 圓口類 例、「ヤンメウナギ」、

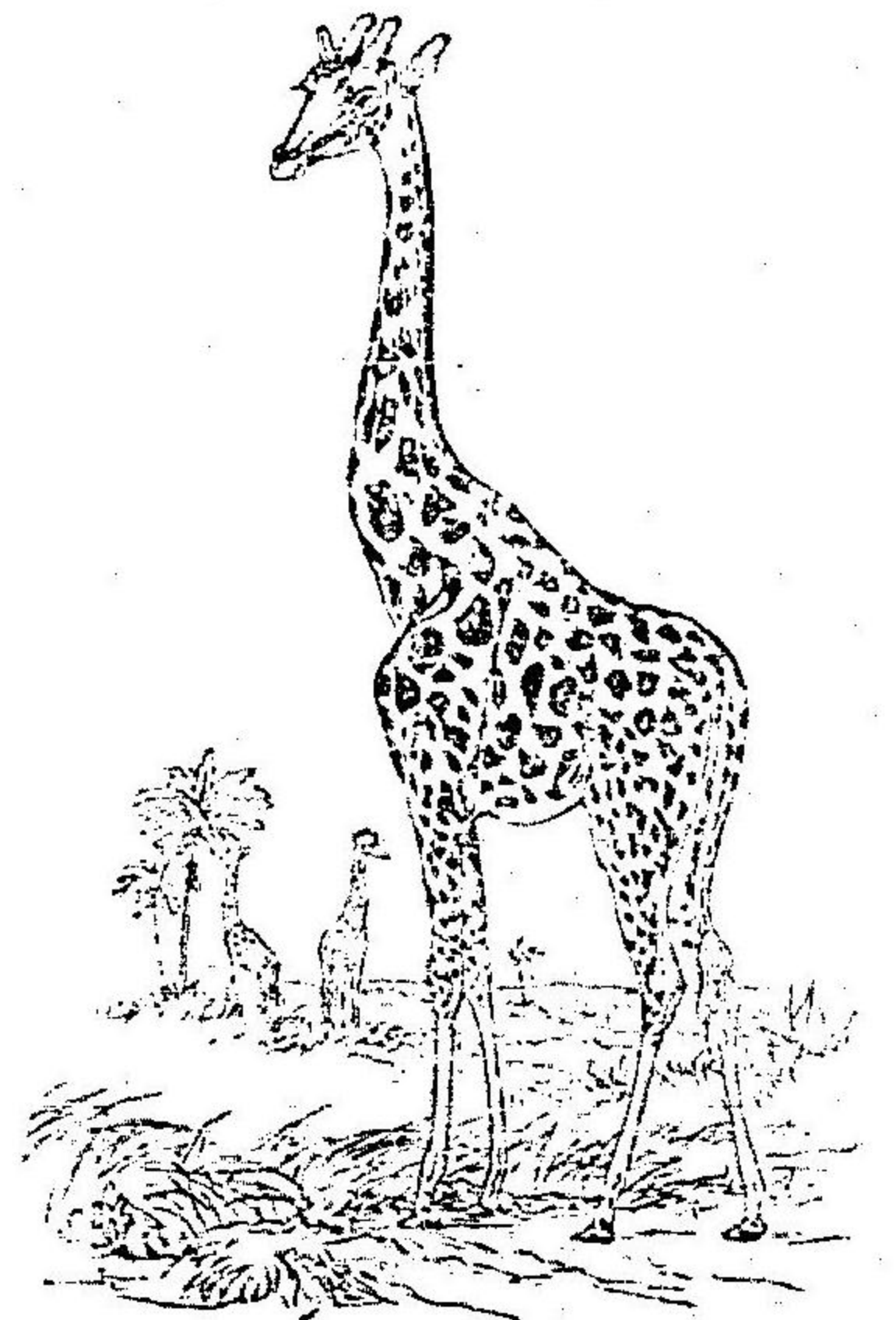
獨立して排泄腔と通じ或は直接に外通す、卵生にして胎生
は稀なり、産卵時には淡水より鹹水に、或は鹹水より淡水に
移るものなり、右の五目に分類す、

キリ(桐又白桐) 樹 Paulownia imperialis, Set
N. 双子葉を蓼科、落葉喬木、奥羽の産有名人なり、花は淡紫
色、蜂媒花にして、春夏に開く、支那にも産し、白桐と稱す、
材輕鬆にして他に比類なし、箆笥、箱等種々の器具を作る、
其の輕さと、濕氣を透さるると、柔かにして脆からざるは、
他に比すべからざる特質なり、

キリ(霧) 地物英 Fog or mist. 雲の、低く地面
に接して生ずるものを云ふ、尙ほ雲の條下に就きて見よ、

キリギリス(蝨斯) 動 Acridum. 綠色或は褐色にして、
觸角は鞭状をなし體より長く、前翅に透明の發音鏡あり、跗
節四個、前脛節に聽器あり、鳴聲愛すべく晝夜共に鳴く、「ギ
ー」チヨ、チヨ、「ギー」チヨ」と鳴く如く聞こゆ、直翅類に屬す、
キリシカザンシヤク(霧島火山脈) 地 Kirishima vol-
canic zone. 臺灣に起り、臺灣北端の大屯山、七星墩山を
過ぎ、琉球の西に沿ひて、薩南群島を起し、其の諏訪の湖、硫
黄二島の如きは、共に活火山に係り、九州の南端、海門嶽よ
り、櫻島を経て、霧島山を連續する一帯をなす火山脈とい
ふ、

キリン(麒麟) 動 Camelopardalis. 英 Giraffe.
丈高く脚長きを以て有名なる動物にして、中、南部亞弗利加
に産し、大にして、二寸許の小角あり、頭小にして頸長く、脚



の割合に胴短し、前肢は後肢より長く、肩高九尺、胴長六尺
五寸、尾長三尺余、高さ一丈五尺乃至一丈八尺あり、體重約
五百キログラムあり、常に樹葉を食し、地上のものを食は
んとするときは、先づ前肢を開き然る後辛うじて口を地
に達せしむ、有蹄類に屬す、頸、脚の著しく長きは自然淘汰
の結果なり、

ギルバートの考(ギルバートの説) 物英 (Gilbert's theory)

磁石に関する諸種の現象を説明せんがために、「ギルバート」のなせる説を、磁石に関する「ギルバート」の説とす、其の説に曰はく、

磁石の各分子は、各一個の小磁石をなして、同名の極を具へたる端は、皆同じ方向に向ひて排列せるものなり、故に、中央部にありては、異極の作用互に相中和して、磁性を呈せず、兩端に於ては、同種の極排列するを以て、其の作用相加はりて磁性を呈し、其の作用亦強しと、

キレンツ(龜裂) 地 地震の際、地面に生ずる裂け目をいふ、

キログラムカロリー (肝カロリー) 物英 Kilo-gram calorie. 「カロリー」の條下に就きて見よ、

キログラメートル(肝米) 物英 Kilo-gram meter. 一疋の物體を、重力に抗して、一米の高さに扛上する所の仕事を、一疋米の仕事とす、之を以て仕事の單位とす、故に五疋の物體を十二米上ぐる所の仕事の量は、六十疋米なり、

キワドキオンド(際どき温度) 物英 Critical temperature. 臨界温度に同じ、

キワドキショータイ(際どき状態) 物英 Critical state. 或る物體が、際どき壓力を受け、際どき温度中にある時は、其の液體と氣體との區別判然せず、之に加ふる極小

の温度及び壓力の變化にても、其の密度に大なる變化を生ずるがき状態にあるものを、其の物體の際どき状態と稱す、即ち物體の液體と氣體との連續せる状態をいふなり、

ク

クア 動英 (Quina. 南亞米利加及亞弗利加海岸に多き海鳥糞の總稱なり、

クアイン(空鞍) 地 向斜を見よ、

クエンサン(枸橼酸) 英 Citric acid. 化 $\text{C}_6\text{H}_5(\text{OH})-\text{CO}_2\text{H}$
 $\text{CH}_2-\text{CO}_2\text{H}$

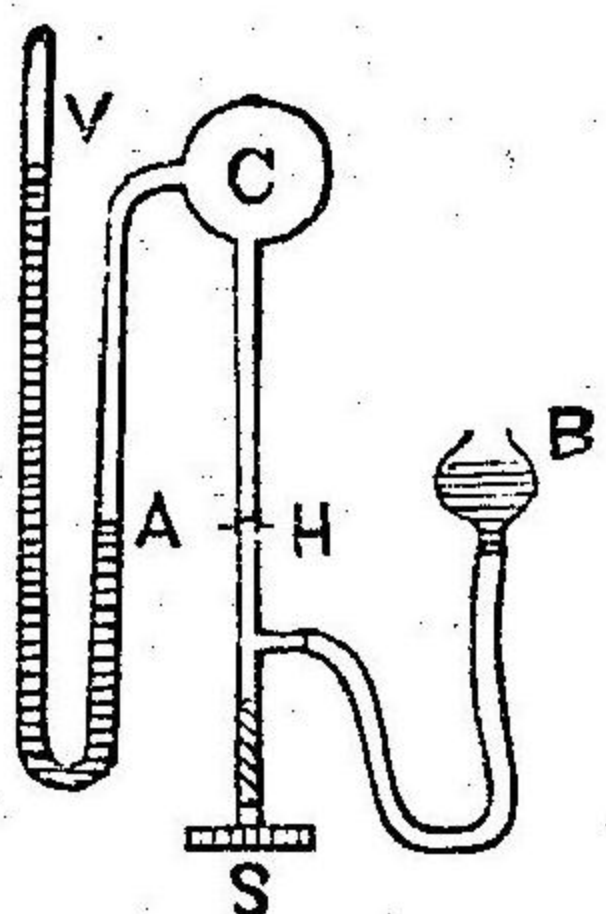
此の酸は種々の果實中に廣く存在す、殊に枸橼、橙及び「イチヂク」等に多く存在す、之を製するには、未熟の枸橼の液其の中には六分乃至七分を含むに、他の「カルシウム」鹽を加へて煮沸すれば、此酸の「カルシウム」鹽は、温水中に溶解難きを以て析出す、之を硫酸を以て分解すれば、此の酸を遊離す、又葡萄酒等より、或る細菌の作用に依て、多量に枸橼酸を製造す、枸橼酸は三鹽基酸にして、一分子の結晶水を以て美麗なる斜方形柱狀の結晶を生じ、水、及び「アルコール」に溶解易く、百三十度にて結晶水を失ひ、百五十三度にて熔融す、此の酸は「ラムネ」の製造、及び更沙染に使用す、

クイカゲシ(偶價元素) 化英 Artiad. 酸素の如く原子價の偶數なるものをいふ、即ち二價、四價等に作用する元素を云ふ、

クカン(軀幹) 地 大陸の周にある出入を去りて考へたる、大陸の胴部をいふ、

クイキ(空氣) 化英 Air or Atmosphere.

クイキカンデンゲー(空氣寒暖計) 物英 Air thermometet. 空氣寒暖計は、温度の變化によりて、空氣の膨脹收縮する性質を利用して作りたるものにして、其の構造は圖に示すが如く、VAは壓力計にして、Vに「トリチエ



リ」の真空あり、Cは空氣室にして、Bは水銀壺なり、温度上るに従ひて、C内の空氣は膨脹し、Hは低下するに於てBを上げて、Aの低下せられしだけHを上げ、尙Sを以て之を補正し、C内の空氣の容積をして常に不變ならしめAVによりて其の壓力を測り、從て温度を算出すべく造れるものなり、

クイキノセーシツ(空氣の性質) 空氣、「リットル」(五合五勺許)の重さは、一・二九三五にして、同容の水の重さの七百

七十三分の一なり、
クイキノセイ(空氣の組成) 空氣中の酸素、窒素等の割合は、時と處とによりて異れども、千容中の各の割合は、大略左の如し、

窒素	七六九・五〇〇
酸素	二〇六・五九四〇
水蒸氣	一四・〇〇〇
アルゴン	九・三七〇〇
二酸化炭素	〇・三三六〇
水素	〇・一九〇〇
アムモニヤ	〇・〇〇八〇
ガソリン	〇・〇〇一五
硝酸	〇・〇〇〇五
合計	一〇〇〇・〇〇〇
二酸化炭素及び水蒸氣等を除きたる空氣百容中の成分は左の如し、	
窒素	二一・〇
酸素	七八・一
アルゴン	〇・九
合計	一〇〇・〇
又アルゴンを除き、重量に就きて酸素と窒素との割合をい	

へば、凡左の如し、

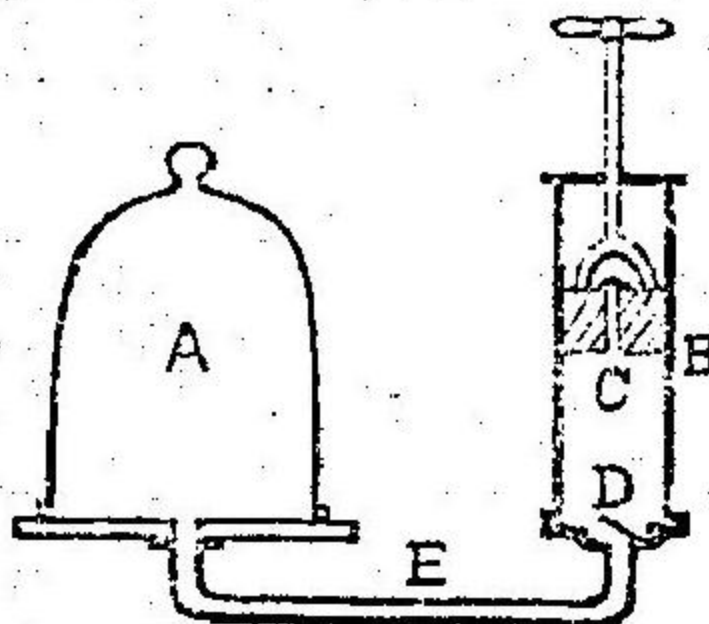
酸素

窒素

二三・
七七・

クークポンプ(空氣ポンプ) 物英 Air pump. 空氣「ボ

ンプ」は、密閉せられたる器中の空氣を抜き取るがために用ゐらるゝ器械にして、又排氣器排氣鐘等と稱せらるゝことあり、普通使用せらるゝものは、圖に示せるが如く、Bは上方にのみ開くべき瓣Dを具へたる金屬の圓筒にして、Cは之に能く適合する活塞にして、上方にのみ開く瓣を有す、Aは玻璃製の氣鐘にして、Eなる細き管にてBなる圓筒と連る、今活塞を下す時は、D瓣は閉ぢりC瓣は開きて、圓筒内の空氣は活塞上に出づべく、之を引き上げる時は、C瓣は閉ぢり、A鐘にある空氣、膨脹してD瓣を開き圓筒内に入り來りて、活塞上の空氣は筒外に出つべし、此の如くして、活塞を一上一下する毎に、Aより來りてB中に存する空氣は排除せられA中の空氣は次第に稀薄となる、依りてA及びEの容積をV、B、筒の容積をvとし、最初の氣壓をP、一度活塞を上下せる後の氣壓をPとすれば、



$$P_1 = P \times \frac{V}{V+v}$$

故に、活塞をn回上下せる後の氣壓をP_nとすれば、

$$P_n = P \times \left(\frac{V}{V+v}\right)^n$$

故にnを非常に大にすれば、P_nは殆んど零に近く、A内に眞空を生ずべき理なれども、其の氣壓甚しく減少して、遂にD瓣を上開する力なきに至れる後は、幾度活塞を上下するも、其の効なきが故に、到底A内の空氣を全く除去すること能はざるなり、

クークマ(空氣浴) 化英 Air Bath. 金屬(多くは銅)

製の箱にして、其の中に物を入れ、下より熱しつゝ、空氣を其の中に流通せしめて、乾燥するに用ゐるものなり。

クーク(枸杞) 植 Lycium chinense. Mill. 茄科植物にして、通常垣根に植う、嫩葉は米飯に混じて食すべく、又茶に代用すべし、

クサカゲロウ 動 Chrysops. 體長三分、翅透明にして開張八分許ある脈翅類にして、綠色を呈す、此の卵は「ワドンゲ」と稱せらるゝ、幼蟲は蚜蟲(アリマキ)を食するにより益蟲なり、體臭極めて惡し、

クサガメ(椿象) 動 Pentatomia. 種類多けれども、大抵

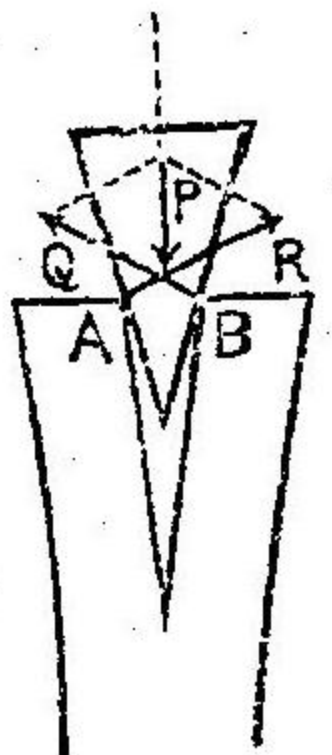
三四分の長さを有し、強き惡臭を放ちて防禦の具となす、半翅類に屬し、口吻は四節をなし、之を用ゐて嫩形科植物の花液、禾本科の葉液、特に稻の葉液を吸収し、其の害甚し、

クサスイシキ(草水晶) Praseum. 鑛 セキネーを見よ、

クサスキカシラ(天門冬) 植 Asparagus Indicus Lin. 又「テンモンドー」と云ふ百合科草本なり、葉は細微にして、葉狀の小枝其の代用をなす、花は帯綠色を呈し、小形なり、根は叢生して肥大す、之を砂糖漬とす、或は煮て食ひ、又粉に製し用ゐる、味佳良なり、

クサノオ(白屈菜) 植 Chelidonium majus L. 罂粟科草本にして、莖葉より黃汁を生ず、有毒なり、山野に自生し、夏季黃花を開く、古來、葉をもみて附くれば、腫物を和ぐ、尤も「タムシ」に妙なりとて、「タムシカサ」の名あり、

クサセ(楔) 物英 Wedge. 楔は、圖に於て示せるが如く、相傾げる二面を有する剛體にして、即ち二個の斜面を合せたるが如きものなり、之を用ゐて木材を割り、又は前後に動かざる重き物體を扛ぐるに供す、Pの力を以て楔を打ち込む時に、之に働く力は、A、Bに於て斜面に垂直なる二力R及びQと外力Pにして、これらの三力の釣合ふためには、RとQとの合



力が外力Pに等しきを要す、今楔の斜邊をaとし、底をbとするときは、

$$P : R :: b : a \quad \therefore P = R \times \frac{b}{a}$$

故に斜邊に對して底の小なる程、之を打ち込むこ容易なり、彼の斧及び刀劍等の刃物は、何れも楔の應用に外ならず、

クサマキ 植 コーヤマキを見よ、

クサメ(嚏) 生英 Sneezing. 鼻腔内に不用物質あるとき、之を排除せんがために、吸氣の後急激の呼氣を行ひ、鼻孔より排出するなり、「クサメ」あれば感胃に罹るさいふは、蓋し感胃に罹れるときは、汗腺の排泄止み、氣管、喉頭、咽頭竝に鼻腔内の粘膜之に代りて排泄を多くするにより、此の排泄物を驅逐せんがため「クサメ」を出すなり、

クサマ(孔雀) 動 Pavo cristatus, L. 英 Peacock. 印度の山林に棲息し、羽毛美麗なる鸚類にして、雌は雄に比して彩色美ならず、體亦大ならず、體長、雄は三尺五寸許、雌は三尺に及ばず、尾の長さ、雄は一尺八寸、雌は、一尺許にして、雄の尾にある美麗にして長き尾は三尺七寸に及ぶ、此の尾は往々室の裝飾に用ゐらるるものなり、交接期に達すれば、雄に美麗にして長き尾を尾端に直角に立つるに

より、一大團扇を立てたる觀ありて、壯麗いふべからず、

クシヤセキ(孔雀石)鑛英 Malachite. (一)單斜晶系針狀結晶、纖維狀又は塊狀、(二)鮮綠色(三)淡緑の條痕(四)金剛一玻璃光澤(五)硬度三・五(六)比重三・七(七)成分 $\text{CuCO}_3 + \text{H}_2\text{O} = \text{CuCO}_3 + \text{H}_2\text{O}$. (八)產地は羽後の阿仁、陸中の小坂、飛彈の神岡(九)用途は飾石、繪具其他彫刻材に用ゐる、又多く出づれば銅を取るに用ゐる、(十)反應及識別 之に酸を注げば、沸騰して溶解す、是れ本鑛の炭酸銅なる故なり、(十一)現出の状態 外國に於ては、ウラール山及アルタイ山等より、銅鑛脈中に現出し、頗る大塊なすものあり、露都の一博物館には、本鑛の一大腎狀塊ありて、塊徑三尺三寸にして、價格五十萬圓に達すと云ふ、孔雀石の多くは、他の銅鑛の分解して生じたるものなり、

クシヤセキ(鯨鬚)動 Whale-bone. 齒なき「クシヤ」の上顎に生ずる纖維狀の角質板にして、櫛齒狀に列生す、是れ齒の變形したるものにして、「セミクシヤ」によく發達す、「セゲ」の用は小動物を口に入れたる後、少しく口を閉ぢ、口中の水分を出し、残れる食餌を嚙下するにあり、

クシヤイ(鯨類)動 Cetacea. 又海水類と稱す、海洋中に棲息する魚形の哺乳類にして、概ね巨大なり、皮膚は裸出し、前肢は鰭狀をなし、後肢を缺く、尾は水平に擴張し、耳介

なく、眼は小形にして、鼻孔は頭上は開孔す、之を噴嚏孔といふ、齒は全く缺如し、或は之あるも皆同大同形にして、大率脱更することなし、群居を好み、動、植物質を食す、「クシヤ」、「イルカ」、「ウニョール」等之に屬す、潮噴は肺中の水蒸氣が呼氣と共に鼻孔より空中に出て、凝結して霧狀をなしたるものなり、

クス植 「クスノキ」に同じ、

クス(葛)植 Pueraria Thunbergiana. Benth. 纏繞狀、莖科草本にして、秋の七草の一なり、葉は三小葉に分かれ、表面綠色裏面白色をおぶ、花は深紅色にして、長梗上に複總花をなす、葛は其の根より澱粉を製す、吉野葛最も名あり、其の内皮より纖維を製して、布を織る、葛布是なり、遠州の名産なり、葛布は、從來、袴袴又は合羽等に用ゐるが、今は夏服地を製し、又洋服となす、此の種の韌皮細胞は、〇・九五乃至四・二種の長を有し、内隙甚だ小にして、殆んど一條の黒線に見ゆ、

クス(樟)植 Cinnamomum Camphora. Nees. 樟科の常緑木本にして、葉は稍楕圓狀卵形をなし、花は帶黃色にして小く、果實は豌豆大にして黒熟す、蠟を取ることを得べし、材淡黄色にして、中心稍赤黑色を呈す、堅實にして水濕

に堪え、古來船艇材として賞用せらる、其他器具料、建築料として宜し、樟の材より樟腦を製す、こは古來驅蟲劑として用ゐられたるものなるが、近來は人工象牙(セルロイド)、無烟火藥、等工業上の用途月に開け、爲に樟材のみならず、一般に其の枝葉よりも樟腦を製出せむとするに至れり、

クス(葛の花)植 莖科草本、葛の花にして、秋の七草の一なり、クスの條を見よ、

クス(矩象)天英 Quadrantion. 地球と太陽とを結合せる直線と、地球と月とを結合せる直線とが直角をなす時、即ち伸度の九十度なる時を矩象と云ふ、

クス(口)生英 Mouth. 消化系の尤も先端に位し、外唇及頬により外界と界し、後方は咽頭に連り、齒舌を有し、三對の唾腺の開孔あり、口は食物を咀嚼する外に言語を發することを得、哺乳類の口は、必ず上下に顎を有すれども、節足動物の如きは、之に反し左右に顎あり、「コーキ」の條参照)

クス(山梔)植 Gardenia Florida, L. 茜草科木本にして、花に香氣あり、花を採りて生食す、又煎て食ふべし、或は乾して貯ふ、果實は、以て黄色の染料に供すべし、但し能く熟し霜降りたる後に採取す可し、

クチビ(唇)生英 Lip. 口の入口にある内縁をいふ、種々の方向に走れる筋肉あるにより、種々の形状に變ずることを得、感覺極めて鋭敏にして、言語の一部は唇により發せらる、例へば P. b. e. v. m 等の如し、唇の乾きて龜裂を生ずるは、胃病に原因すること多し、節足動物、軟體動物等にも唇を有するものあれども、人唇とは其の作用、構造同一ならず、

クチ(電)物英 Atmospheric electricity. 天氣の晴陰に係らず、太氣は常に多少の電氣を有するものにして、晴天の時は陽電氣を帯び、曇天又は雨天の時は、陰陽一定ならざれども、地球表面を上るに従ひて、漸次其の量を増すものなり、之を空中電氣と稱す、其の發電の主なる原因は、水の蒸發にあり、

クス(屈指筋)生英 Flexores digitorum. 屈指、屈掌を司る筋肉にして、深淺の二筋あり、共に起點は尺骨にして先端四裂す、此の各腱は拇指を除きたる他の四指に連る、

クス(光の)屈折)物英 Refraction of light. 光線が、一の透明體中より、他の透明體中に斜に入るときは、其の境界面に於て、急に其の方向を變ず、この現象を光の屈折と稱す、

クツセカク(屈折角) 物英 Angle of refraction.

屈折の定律の條を見よ。

クツセツサ(屈折差) 天英 Refraction. 地球は、其の周圍を大氣にて圍まる、が爲に、天體より來る光は、大氣中を通過するに當り、屈折し曲線なして觀測者の眼に達す、故に一つの天體を觀測者より見たる方向は、實際の方向とは異なるべし、其の差を屈折差と稱す、或は濛氣差とも云ふ、但し大氣の密度は、地球表面より等しき高さにある氣層に於ては、凡て同一なりと考ふるも差支なし、從て屈折の爲に影響を受くるは、只天體の天頂距離のみにして、方位角には異變を生ぜず、今實際に於て天體の天頂距離をZなりとし、觀測者の見たる天頂距離をZ'とし、Z'を以て屈折差を秒にて表はすとすれば、光學によりて次の公式あり、

Z - (Z') = Z'

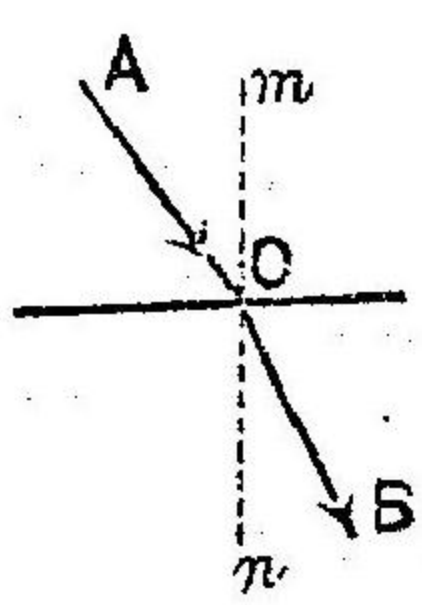
Z' = 60 // 6 tan Z (但Zの甚しく大ならざるときに用ゐらる)

Zが九十度に等しきとき、即ち天體が地表にあるときは、Z'は凡そ三十四分なり、

クツセツセン(屈折線) 物英 line of refraction. 屈折の定律の條を見よ。

クツセツテリツ(光の)(屈折の定律) 物英 Law of refraction.

refraction. 入射する光線の方向AOを入射線と稱し、光線の屈折する方向OBを屈折線と稱す、又入射する點に於ての法線Omと入射線とのなす角Aomを入射角と稱し、屈折線と其の點の法線onとのなす角noBを屈折角と稱す、光の屈折の定律は、佛人「デカルト」の發見せし所にして、其の定律は曰はく、



入射線及屈折線は、共に兩光媒の相接する境界面に垂直なる同一平面内にありて、其入射角の正弦と屈折角の正弦との比は、兩光媒の各の質の變じざる限りは一定なり、クツセツポーチキョー(屈折望遠鏡) 物英 Refraction telescope. 望遠鏡を見よ。

クツセツツ(光の)(屈折率) 物英 Index of refraction. 光線が、甲の光媒中より乙の光媒中に入りて屈折する時、其の入射角の正弦の屈折角の正弦に對する比を、乙の光媒の甲の光媒に對する屈折率と稱す、左に諸物體の空氣に對する屈折率を表示せん、

空氣	1.00	水	1.33
水	1.33	水様液(眼球の)	1.37
アルコール	1.37	水晶體(眼球の)	1.54
クラウン硝子	1.52	フリント硝子	1.62

硫化炭素 一、六八 金剛石 二、七五

グッタペルカ 化英 Gutta percha. 印度に産する赤鐵科の植物より得るもの、酸水炭三元素の化合物にして「ゴム」に類す、

クツツムシ(聒々兒) 動 Deetia. 直翅類に屬する大形の蟲にして、綠色と褐色との二種あり、體長約一寸五分、第三對の肢よく發達して長く、第一對の翅の根部の表面にある鳴鏡は大にして強硬なり、夏時藪中にありて終夜露聲を放つ、其の聲甚だ高く、「ガチャガチャ」と鳴く、

グートテールイ 偶蹄類(動) Artio dactyla. 哺乳類中の一目有蹄類に屬する一亞目にして、每脚四趾を具へ、中央の二趾(第三、第四趾)は必ずよく發育し、其の狀恰も單蹄の割裂したるが如し、而して兩側の二趾(第二、第五趾)は不完全なる小形にして地を踏まず、之を懸蹄と云ふ、往々上顎に門齒及犬齒を缺如し、白齒の面には數多の珞瑯質變積を見る、野猪豚は雜食すれども、其の他は皆草食す、其の食物を反芻すると、せざるにより更に二分す、

偶蹄類 反芻類 例、「ウシ」、「シカ」、「キリン」、「ラクダ」、不反芻類 例、「イノシシ」、「カハヤク」、クド(苦土) 化英 Magnesia. 酸化「マグネシウム」に同じ、

クドセン(苦土泉) 鑛英 Bitter springs. 硫酸苦土を多量に含有する鑛泉なり、クダキ(櫟、柗) 植 Quercus serrata, Thunb. 一名「ドングリノキ」又は「トチマキ」と云ふ、葉は披針形にして、確枝の葉は、倒卵形をなす、先端尖り、長さ、三寸乃至五寸、兩邊に十乃至十三の長く尖れる鋸齒を有す、新葉は、表裏共に白毛を生ずるも、老葉には、之を缺く、樹皮灰褐色、粗くして厚く、且つ深く縱裂す、材は頗る堅く、燒きて薪炭料とす、左倉炭、池田炭等は之に屬す、樹皮より單寧を製す、有用なる殺斗科の木本なり、

クハ(桑) 植 Morus alba, L. 双子葉桑科、落葉喬木、產地、北は北海道南は琉球に至る、支那にも産す、山中に自生し、又圃園に栽培す、花蓋淡紫色、春花を開く、單性なり、風媒植物にして、葉を養蠶の用に供す、蓋し「クハ」とは、蠶の食ふ葉の意なり、材は種々の器具に作り、皮は紙を製すべく、實を食用に供す、嫩芽亦食ふべし、桑の變種は甚だ多し、大別して早中晩の三とす、

クハ(頸) 生英 Neck. 頭部と胴部との連絡部をいふ、脊椎動物以外の動物には之を缺如するもの多し、クダカ(具備花) 植英 Perfect flower. 雌雄兩蕊を同一花中に兼備するもの也、故に必ずしも完全花にあらず、

クモ (秧雞又水雞) 動 *Rallus indicus*, Blyth. 英 Water-tail. 木橋を撃ち如き鳴聲を發する涉禽類にして、古來其の鳴聲を「タタケ」といへり、長さ八九寸、翼長三寸五分、尾長一寸八分、嘴は頭より長く根部赤く先端帶褐色なり、體の背面帶黃褐色、喉部帶白色、腹面灰色、脚帶褐赤色を呈す、全形雞に似、夏季人家の屋上に來る、恰も戸を叩くに似たり。

グー (颯風) 地 風の條を見よ。
クント (苦扁桃油) 化 英 Bitter almond oil. 「ベンザアルデヒド」に同じ。

クマ (熊) 動 *Ursus japonicus*, Schleg. 英 Bear. 我本州九州等に産し、北海道には棲息せず、毛は眞黒色にして強直なり、眼は小にして、口吻突出し、齒は他の食肉類の如く鋭からず、白齒の如きは猫と人との中間に位す、此れ食物の然らしめたる結果にして、肉類の外、草根、果實、昆蟲等を食するを以て、猫の如く鋭利なる必要なく、寧ろ却て咀嚼面を多くするの必要あればなり、足の如きも蹠を附けて歩行し體の構造猫の如く輕快ならず、胸部に白毛ある月の輪と稱する部分あり、獵師が古來此の月の輪を狙撃せるは、恰も此の下に心臟あるによる。

クマシ 植 「アカカシ」に同じ。

クマザ (隈笹又山白竹) 植 *Bambusa Veitchii* Carr. 「ヤキバザサ」と云ふ、葉邊に白色縁ある故に、「クマザサ」と云ひ、白縁恰も刀劍の燒刃に似たるが故に、「ヤキバザサ」をも云ふ、山野に自生し、蕃殖し易し。

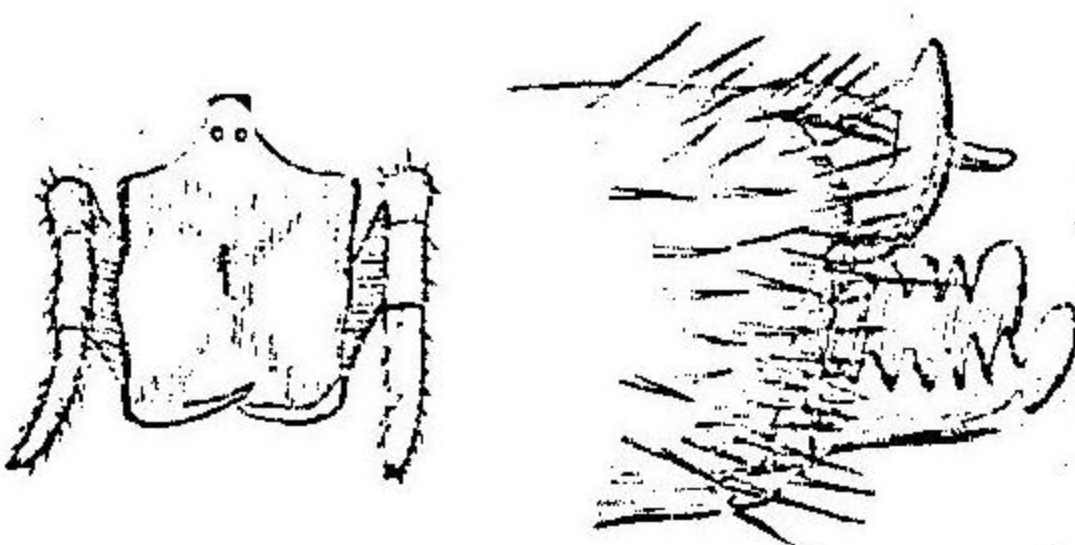
クマラ 植 菌類にして、主に「フナノギ」に生ず、稍「シロタケ」に似て、黄色、黄褐色、灰黄色、淡紫色、褐色等あり、莖甚だ短くして、莖傘の一端に着生し、「シロタケ」の如く、莖傘の中心より生ぜざるを以て異なりとす、傘を割れば、肉白し、其の質脆く乳汁なく、臭氣なし、夜間莖傘の裏面より燐光を放つを特徴とす、毒甚しくして食ふに堪はず、鼠、兔、犬等之を食すれば、皆死に至る、毒は呼吸を止め、心臟の鼓動を止むといふ。

グタイ (群體) 動 英 Colony. 一所に集合して生活し、或は共同の體部を有して集合棲息せる全個體をいふ。
クントヂッケン (クントの實驗) 物 英 Experiment of Kundt. 直径一寸計りの玻璃管の一端に、眞鍮の棒を貫きたる木栓を嵌め、他端に木栓を附したる硝子棒を挿入し、管の中に木栓の細粉又は石松子の粉を撒き、眞鍮棒を固定して、松脂を塗りたる革にて縦に摩する時は、其の鳴ると共に管内の細粉は動揺して、一定の間隔を以て集まるべし、是れ「クント」のなしたる實驗にして、この間隔の長

さを測りて棒の振動數を知るべく、管内の氣體を種々に取換えて、種々の瓦斯體內音の波及の速度を知るとを得べし、

グント (群島) 地 *Isles*. 數多の島嶼の、不規則に群集せるものをいふ。

クモ (蜘蛛) 動 *Araneida*. 英 Spider. 大體の構造は「クモレイ」の條下に記載せるにより、此には習性の一二をあげ、「クモ」の種類多く、「ジョロウグモ」トタテグモ、ヤグモ、ハイトリグモ等あり、其の中網を張る種あり、然らざるあり、「ジョロウグモ」の如く空中に網を張るものは、先づ順風を見計らい、長き絲を出して之を目的物に附着せしめ、之を軸として放射狀の基本となるべき絲を張り、次に此の放射狀の中心より粗なる螺旋狀の粘氣なき絲を張り、次に遠心部より粘氣ある絲を規則正しく張り始め、遂に中心に達して完成するなり、初めに螺旋狀に張れる粘氣なき絲は、遠心部より正しく張り來る足場とするものなれば、不用となれる絲は球となして放棄するものなり、かくて「クモ」は其の中心部に必ず倒まに止り、食餌の來るを待ち、小蟲の附着することあれば、先づ脚を以て網を動かす、果して動物なりや否やを驗して後進退を決す、若し眼力の達する所なれば直に走り行き、小蟲は直に顎より毒液を注入し、若し大なれば手速く糸を以て其の運動器を束縛して後之を毒殺



くもの足先
す、「クモ」の絲は腹部の後下方にある多くの腺より分泌せる液にして、體内にて絲狀をなすものにあらず、絲に粘氣の有無あるは粘液腺より粘液を出し或は之を出さざるによる、「クモ」が細き絲の上を歩行し得るは脚の先端に櫛狀片あればなり、「クモ」の雌雄は下顎に附着する觸角狀物(Palpini)の大小により容易に區別することを得、即ち雄は其の先端にある節膨大し、其の下面に鈎狀物あり、之に精蟲を懸け、雌の生殖孔に投入して逃走るものなり。

クモ (雲) 物 英 Cloud. 雲は、海洋河江等より蒸發せる水蒸氣が、上層に昇りて壓力の減少のために、斷熱的に膨脹して冷却するか、或は冷却せる土地、若しくは寒冷なる氣流に遇ひて、露點以下に冷却し、凝結して細微なる水滴となりしものなり、雲が地面の近くにて生じたるものを霧といふ。

クモ (雲) 地 英 Cloud. 大氣中の水蒸氣冷却するとき、凝結して細微の水分子となり、高所に集まれるものなり、温暖にして濕氣に富める大氣の冷却するときは、其の中の

水蒸氣の幾分は、凝結して細微の水滴となり、高く空中に浮遊す、是を雲と云ふ、雲を其の外観によりて四種に分つ、卷雲、層雲、積雲、雨雲是なり、

クモタケ 種 ノムシタケに同じ、

クモトデレイ(陽逐足類) 動 Ophniidea. 圓盤状の體に五本の細長き腕あり、腕の下面に溝をなせる歩帯あり、此より管足を出して移動し、或は腕を水平に動かして游泳す、口は體の下面中央に開き、肛門は缺如し、篩板は口に近接して位す、

クモイ(蜘蛛類) 動 Arachnoidea.

節足動物の一綱にして、空氣を呼吸し、其の皮軟く、大概短毛を密生す、頭胸部は癒着し、腹部に肢なく有環節或は無環節なり、頭胸部は、觸角及翅を缺き、上下頤二對及四對の脚を具ふ、上頤は、通常強くして左右相並びて鉗状或は鈎状をなして頭端に下垂し、其の尖端に一種の毒腺を開くあり、下頤は小形にして必ず觸鬚を稱する者を帶ぶ、此の物有節にして往々其の先端に鉗を具ふ、脚は數節よりなり概ね細長稀に疣状をなす、神經絲よく發達し、感覺器は二乃至十二個の單眼あり、肢の先端は多くは觸覺を司るものなり、消食器は食道、唾腺、盲囊を有する胃、肝を以て圍む腸よりなる、排泄器は「マルピギー」氏管にして腸に開口す、腹中背部に

管状の心臓あり、其の兩側に數口を開き、體腔内の血液は此の口より管中に入り前後に輸送せらる、呼吸は専ら腹面に於て行はれ、分岐せる氣管或は變ある肺囊より成る、此の開口は腹面にある一乃至二對の氣孔による、雌雄異體にして、數回脱皮して成長す、「クモ、サソリ、ダニ、ヒセンノムシ」等之に屬す、

クラウンガラス(クラウン硝子) 化英 Crown Glass.

硝子の條を視よ。

クラケイ(水母類) 動 Scyphozoa.

腔腸動物の一綱にして、傘状或は鐘状をなし、概ね八射状構造を有し、寒天質にして強直ならず、其の遊離縁に許多の觸手並に有色の感覺器あり、鐘中に走れる射状水管は分岐して枝状をなす、鐘下に四乃至八條の唇瓣ありて垂下す、時に數多の口孔を有し皆唇瓣上に開けり、生殖器は四個ありて骨壁に生じ、概ね明に透け見ゆるものなり、卵は孵化して纖毛を帶び、外物に附着して小形の皿を重ねたる如きものを生じ、其の先端の成熟せるものより漸々脱離して水中に游泳し、變態をなして水母となる、

クラドニツケイ(クラドニの圖形) 物英 Cladonia's

Frases. 硝子又は金屬枚の一點を固定して、其の上に細砂を撒布し、板の一端に手指を觸れ、胡弓の弓にて板を摩

グリセリン(偲里設林) 化英 Glycerin. $C_3H_5(OH)_3$

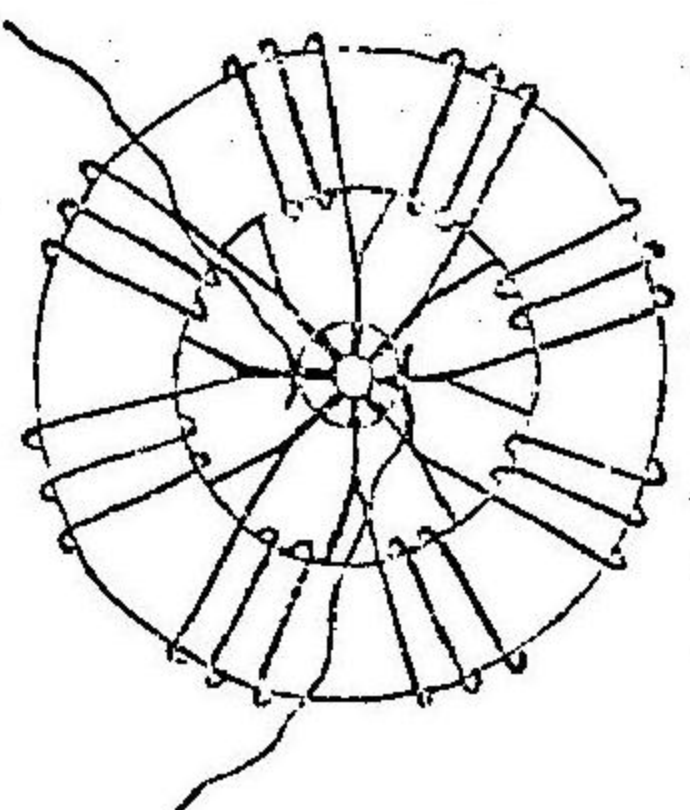
グリセリン(偲里設林)の性質) 無色粘稠の液體にして、比重は十度にて一、二六五、強く冷すときは水砂糖の如き結晶となる、二十二度に於て熔融し、二百九十度に於て沸騰す、不純なるときは低壓の下に於てのみ分解することなく蒸溜し得、大なる吸濕性を有し、如何なる割合に於ても水及び「アルコール」と混合す、「エーテル」には不溶なり、強き甘味を有す、三價の「アルコール」なるを以て三種の「エーテル」及び「エステル」を生ず、飲料、果實の貯蓄、製酒、紙及び「ニトログリセリン」の製造に用ゐる、

グリセリン(偲里設林)の製法) 天然脂肪及び

油、特に「オリーブ」油に高温度に熱したる水蒸氣を作用せしむるか、或は石灰及び水と共に熱するか、若しくは硫酸と共に熱するときは、鹼化作用に由りて、脂肪は分解し、「グリセリン」は高温度の蒸氣と共に蒸溜す、之を炭灰にて純粹にすべし、或は又「ステアリン」を苛性加里にて鹼化するも得らる、

グリーンランドリバー(グリーンランド流) 地英

Greenland Current. 北氷洋より流下する寒流にして、「グリーンランド」と「アイスランド」の間を南流し、大西洋の北部に出で、更に北折して「デューアイス」海峡に入る、



りて、之を振動せしむれば、砂は多く振動する部分を避けて、其の振動せざる部分に集り、種々の形状をなせる線を作る、之を「グラドニ」の圖形又は單に節線といふ、

グラム(瓦) 化英 Gramme. 四度に於ける蒸溜水の「

センチ」立方の重きにして、我が二分六厘七毛に當る、

グラムカン(グラム環) 物英 Gramme's ring.

「グラム」環は、輪状をなせる軟鐵板を重ねて心となし、其の周圍に絶縁したる銅線を同一方向に巻き、中央には數多の部分に分かれたる「コンミューター」ヲ設けたるものなり、

グラムカロリー(瓦カロリー) 物英 Gram calorie.

「カロリー」の條を見よ、

グリニル 化英 Glycooll $CH_2NH_2 \cdot COOH$ 一鹽化

醋酸を「アンモニア」と共に熱すれば得らる、大なる無色一斜柱の結晶にして、水には容易に溶解すれども、「アルコール」及び「エーテル」には不溶解なり、此物は甘味を有する故に膠糖と名づく、強く熱すれば分解す、又このものの水溶液中に酸化鐵を加ふるときは、濃赤色となる、

ケリー (偶力) **物英** Couple. 其の大き相等しくして其の方向相反する二つの平行力は、其の合力を生せず、唯物体を廻轉せしめんとする結果を生ず、此の如き力の一組みを稱して偶力といふ、東西に向けられたる磁針の極に及ぼす地磁力、及び時計の鍵にて其の發條を巻くとき、手の兩指の力は偶力をなす、

グレン (麩質) **化英** Gluten. 小麥粉を金巾製の袋に入れ、水中にて揉みて澱粉を流出せしめたる後に残るものなり、焼きて焼麩を製す、

クルックス (クルックス管) **物英** Crooke's tube.

「クルックス」管は、硝子管の兩端に白金線を封入し、「スプレンドレル」の空氣「ポンプ」を用ゐて、其の内部の空氣を抽出し、其の氣壓を百分一程度にしたるものにして、其の兩端にある白金線に感應「コイル」の第二「コイル」の導線を連ね、之に電流を通すれば、「ガイスマレル」管の如く波狀の光を發せずして、唯其の陰極より放射線を發し、管壁に衝突して螢の光を放つを見るのみなり、

クルン (蹠) **生英** Malleolus. 「スネ」と足との界にある内外の突起をいふ、内蹠は脛骨の下端にして、外蹠は腓骨の下端なり、

クルマモ (斑節蝦) **動** Penaeus Semisulcatus.

Dalman. 六七寸の大きを有し、第一、第二、第三對の脚は二先端に小鬚を具へ、眼上の突起は長く、頭胸部は青黒紅色及淡褐色なり、我邦の東海、内海、西海等に産し、尤も普通なり、

クルマン (輪蟲) **動** Rotatoria or Rotifera. 蠕形動物に入るべき動物にして、淡水に棲息し、顯微鏡を用ゐるにあらざれば見ることは不能、體は下部の膨大せる「コップ」の如く其の先端に纖毛密生し、之を顫動して轉動す、尾部に尾狀の附屬物あり、其の先端に整狀物を生ず、

グレゴリ (グレゴリ曆) **地英** Gregorian Calendar. 羅馬法皇「グレゴリ」十三世の制定せる曆にして、今日露國以外各文明國にて用ゐる曆なり、

グタケ (呉竹) 「ハチク」の小なるもの、高さ二間にすぎず、枝葉繁く茂るにより、人家の周圍に栽培す、杖となし、又格子の樞子となすに用ゐる、又火に炙りて漚を去り、曝し竹となし、簾を造る、又稚きものを取り、釣竿となす、枝は縛り束れ、「マタケ」を柄として竹箒となす、

クワンモ (黒雲母) **鑛英** Biotite. (一)單斜晶系(二)色は黒、暗緑、綠(三)白色の條痕(四)眞珠光澤(五)硬度二、五—三(六)比重二、七一—三(七)成分はHK₂Al₂Si₂O₁₀(OH)₂・3Mg・SiO₄(八)產地は「シロワンモ」と同じ(九)此の鑛物は、花崗岩、

片麻岩、雲母片岩等の古き岩、及び新火山岩たる安山岩、粗面岩、玄武岩等の中に存す、(白雲母は決して新火山岩中に入れることなし)

クワンモカコガン (黒雲母花崗岩) **鑛** 「カコガン」を見よ、

グロヴデンチ (グロヴデンチ電池) **物英** Grove's cell. 「グロヴ」電池は、其の構造效用等、「フンゼン」電池と同じ、唯その炭素棒の代りに、白金板を用ゐるを異なりとす、

クワフキ (烏芋) **植** Eleocharis plantaginea, R. Br. 莎草科に屬する水生草本にして、地中に慈姑の如き球莖を生ず、色黒し、之を食用とするに味甘美なり、

クワホ (黒潮) **地英** North Pacific Current. 暖流の一にして、暗藍色を呈じ、温度は附近の海水に比し高きこと四度に及び、「フィリッピン」群島の邊より起り、臺灣の東を流れ、分岐して二派となり、本流は本邦の東南海を過ぎ、伊豆七島を横斷し、北緯四十五度の邊より東へ折れ、北亞米利加の西岸に至り、南より西に轉じて元に戻る、其の一派、對島海峡より日本海に入り、本邦裏面の海岸を洗ひ、之に濕氣と溫暖とを供給するものを稱して對島海流といふ、

クロスイシヨ (黒水晶) 「スイシヨ」を見よ、

クワチク (烏竹黒竹又紫竹一名ゴマタケ胡摩竹) **植**

Platyllostictus nigra Munro. 「ハチク」の一種にして、其の稈は初年に深綠色なれども、次年より紫黒色となるを特徴とす、提燈の柄、傘の柄等とす、

クワガ **植** 「ツガ」を見よ、

クワシ **植** 「ネズコ」に同じ、

クワツ (黒松又男松又白芽松又白穗松) **植** Pinus Thunbergii, Parl. 又「サマン」と稱す、黒松は赤松に似たれども、葉剛くして掌を刺すこと、新芽は白色なること、皮黒色なること、多く海邊に生ずること等によりて、明に區別することを得べし、邊材は白色、心材は稍微紅を帯び脂氣赤松より強く、保存期永し、橋梁、土臺、土工用杭等に適す、板又は器具となすには、赤松に劣るも薪となすには、赤松に優る、是火力大なるを以てなり、又其樹脂より松香油を製す、

クワホ (黒奴) **植** Ustilago Sp. 生活物に寄生して害をなす、芽胞は、無性的に生ずると雖も、別に果托をなさず、芽胞成熟すれば、之を生ぜる菌絲の被膜は、融解して芽胞遊離す、芽胞發生して、始生菌絲を生じ、更に一種の芽胞を分生す、此の者成長して、完成の植物となり、寄生す、麥奴は、黒奴菌中恐るべきものにして、穂を犯し、收穫を減す、稻奴、及「カタクワロンボ」等も此の類なり、

クワ化英 Quinima Cr. 原子量五十二・一「クロム」

は主に「クロム」鐵礦となりて存在す、金屬「クロム」は其の酸化物を木炭と共に灼熱し、若しくは鹽化「クロム」を亞鉛或は「ナトリウム」と共に熱して還元し、或は熔融せる鹽化「クロム」を電氣にて分解して得、還元して得たるものは灰色の粉末なれども、電解して得たるものは小板狀の結晶にして、鋼の如き色澤あり、比重は六・七、白金よりも一層熔融し難し、其の熔點は凡二千度なり、又其の硬度は殆ど鋼玉に等し、空氣に曝すも、鐵の如く速かに錆ぶることなし、鹽酸及硫酸には溶解すれども、硝酸には作用せられず、硝石或は鹽素酸「カリウム」の如き酸化劑と共に熔融すれば、容易く酸化して「クロム」酸「カリウム」となる。

「クロム」は又酸水素吹管の焰にて熱すれば、輝ける光を發して燃ゆ、鋼に「クロム」の少量を加ふれば硬さ及び大なる靱性を與ふ。

クロムイオン 英 The Ions of Chromium. 「クロムイオン」には二價のもの(Cr²⁺)と三價のもの(Cr³⁺)とあり、二價の「クロムイオン」(Dichromion)は青色にして、三價の「イオン」に變する傾を有せり、三價の「クロムイオン」(Trichromion)は董色にして、複「イオン」を生ずる性あり、

クロムサンカリウム (クロム酸カリウム) 化英 Potassium Chromate. K₂CrO₄ 重「クロム」酸「カリウム」の

溶液に水酸化「カリウム」を加へて製す、水に溶解し易き黄色粒狀の結晶にして、硫酸と共に熱すれば重「クロム」酸「カリウム」となる。

クロムサンマリ (クロム酸鉛) 化英 Lead chromate. PbCrO₄ 重「クロム」酸「カリウム」の溶液に醋酸鉛を加ふれば「クロム」酸鉛の美麗なる黄色の沈澱を得、通常「クロム」黄と稱し、顔料となす、之を高温度に熱すれば分解して酸素を發生す、故に有機物の分拆に於て酸化劑として用ゐる、又「クロム」酸鉛に水酸化「アルカリ」の溶液を加ふるときは、赤色に變して鹽基性「クロム」酸鉛 (K₂Cr₂O₇, PbO₂) なる、此のものは通常「クロム」赤、若しくは「クロム」橙と稱し、顔料に供す。

クロムシロビン (クロム明礬) 化英 Chrome alum. 其主要なるものは、通常「クロム」明礬、「ナトリウム」クロム明礬、「アムモニウム」クロム明礬等なり、就中通常の「クロム」明礬は最も必要なるものなり、之を製するには重「クロム」酸「カリウム」の溶液に硫酸と「アルコール」とを加へて熱し、或は二酸化硫黄を「クロム」酸「カリウム」と硫酸の混合液に通す、「クロム」明礬は美麗なる暗紫色の結晶にして、其の水溶液を熱すれば、綠色に變すれども、冷せば再び暗紫色となる、染色術、製革術に用ゐる。

クロムテツト (クロム鐵礦) 鑛英 Chromite. (性状)

(一)等軸晶系、八面體なれども粒狀塊をなすこと多し、(二)鉄黑色又は黝黑色(三)褐色の條痕(四)半金屬光澤(五)硬度五・五(六)比重、四・三―四・五(七)成分はFeCr₂O₄なれども「アルミニウム」「マグネシウム」を含むこと少からず、(八)反應、吹管にて熱するも熔けず、還元炎にては、僅かに其の稜角を熔かすのみ、礫砂球及燐鹽球には「クロム」の反應を呈す、酸に犯されず、之によりて磁鐵鐵と區別せらる、重硫酸ソーダ又は重硫酸カリと共に熱すれば分解す、(產地)佛蘭西、ボヘミア、ニューカレドニア、我國にては豊後に産す、多くは蛇紋岩中に脈又は塊をなして現出す、(效用)藥品及顔料の原料とす。

クロム物英 Chromia. 「クロム」とは、實用上に用

ある電氣量の單位にして、等量の電氣を帯びたる二個の質點が、一種を隔てて相牽引し、又は相排斥する力が、「ダイーン」なるべきもの、三十億倍の電氣の量を云ふ、又、「アンペリア」の強さの電流に於て、導線の切口を一秒時間に通過する電氣量なりと云ふことを得、

クロムテリツ (磁氣ニ關スル) (クロムの定律)

物英 Coulomb's Law. 磁氣に關する「クロム」の定律は、其の斥力又は引力と、其の相互の距離との關係を言

ひ現はすものにして、其の定律に曰はく、

磁石の兩極間の斥力或は引力は、相互間の距離の自乘に反比例し、兩極の強さの相乘積に正比例す。

クロラ 化英 Chloral. COCl₂CHO 「クロラル」は水と結合して抱水「クロラル」を生ず、強き特異の臭氣を有する油

狀の液體にして、沸點九十九度、比重一・五〇二、銀のアムモニヤ」溶液より銀を還元す、容易に酸化して三鹽化醋酸となり、苛性加里と共に「クロ、ホルム」及び蟻酸加里を生ず、

クロホルム (噁囉仿謨) 化英 Etholom. CHCl₃

クロホルムセーシ (クロロホルムの性質) 無色の液體にして、エーテルに似たる臭氣、及び甘味あり、之を吸入すれば、感覺を失ふを以て、外科手術に於て痲酔劑となす、脂肪、「ゴム」、沃度等を容易く溶解す、沸點六十一度二、比重一・五(十五度)なり、點火すれば、綠燐を放ちて燃焼す、又

容下七十度にて固體となる。

クロホルムセーホー (クロロホルムの製法) 八百瓦の

水と二百瓦の漂白粉と三十三瓦の「アルコール」の混合物を「フラスコ」に入れ、注意して緩やかに熱すれば、「クロロホルム」は水と共に蒸溜し始むべし、然れば熱することを止むるも反應は進み、「クロロホルム」水及び「アルコール」の混合物は受器に集まるを以て、尙ほ多量の水を混じて振盪

クロロ

したる後、静かに置けば、「クロロホルム」は底に沈むべし、故に上層を棄て、水を加へて前の如くすること数回なれば、「アルコール」は分離せらる、次に鹽化「カルシウム」上にて脱水したる後、湯煎上にて熱し、六十二度近傍にて蒸溜するものを集むれば、「クロロホルム」を得、

クロロフィル(葉緑素) 化英 Chlorophyll. 植物の綠色部中には必ず存在する綠色體にして、組成未だ明かならざるれども、蠟及び其の他の有機物を混ぜるが如し、

クラガタムシ 動 Chalcidinae. 雄の大顎は、非常なる發育をなし、兜の鍬形の如く、攻撃防禦の用に供せらる、觸角は十一節よりなり、末端三四節は櫛齒状をなす、脚爪大にして其の間に更に小爪あり、前肢は發達して地を掘るに適す、樹液を吸収す、幼蟲は朽木を以て食とす、白色にして大なり、俗に之を「ヤムシ」といふ、鞘翅類に屬す、

クゴ(野蠶) 動 「カヒコ」に似、桑を食害する害蟲にして、成蟲は體長五六分、暗褐色を呈し、前翅に多くの斑紋あり、幼蟲は、二寸内外にして暗褐色を呈し、「カヒコ」に酷似す、一年一回發生し、第四回の脱皮を終へて結繭す、成蟲は飛翔力強く、家屋内に入り來り、家蠶と交尾し大害を與ふることもあり、

クワンジュミ(胡桃) 植 Juglans regia, Tr. var. Sinensis.

クワン

五五(註) 胡桃科の木本にして、其の形「オニケルミ」に似たり、核は此よりも圓く、且美にして薄し、種子を食用とす、「テウチケルシ」又は「テウセンケルミ」とも云ふ、

クワンゼー(慣性) 物英 Inertia. 静止せる物體は、外部より力の加はるにあらざれば、自ら運動を始むること能はず、又現に運動する物體は、自ら静止し、或は運動の有様を變ずることなきものなり、之を物體の慣性又は隨性といふ、今人ありて車の上に立てる時、急に之を曳き出さば、人は後方に倒れんとすべし、是れ車に接したる脚部は車と共に前方に進むも、上體は尙静止せんとする慣性あるに由る、又人を乗せて走れる車を急に止むる時は、人は前方に倒れんとすべし、是れ下體は車と共に静止するも、上體は尙前方に進まんとする慣性あるに依るものなり、

クワチ(慈姑) 植 Sagittaria sagittifolia Tr. 澤瀉科の水本草本なり、葉は箭形をなす、長き葉柄あり、水中葉と水上葉と、其の形狀を異にす、地中に球莖を生じ、之を食用に供す、實に泥中の珍物なり、

ケ

ケイイギ(經緯儀) 天英 Altitude-azimuth instrum-

ment or altazimuth. 經緯儀とは、天體の高度と方位角とを計る器械なり、即ち水平輪廓と垂直輪廓とによりて、方位角及高度を計るなり、

ケイイド(經緯度) 地英 Longitude and Latitude. 經度と緯度との總稱なり、

ケイカイシヨク(警戒色) 動英 Warning colour. 外界の色と異り、特に目立つ如き鮮明なる彩色をいふ、かかる色を有する動物は、形小にして毒を有するか、或は刺を有するか、或は極めて惡き味或は臭氣を有するを常とす、「ハチ」の黄色及黒色の斑を呈し、一見その「ハチ」てふことを知るべきが如きは、即ち其の例なり、警戒色の用は、他の鳥獸に誤り食はるるを豫防するにあるなり、

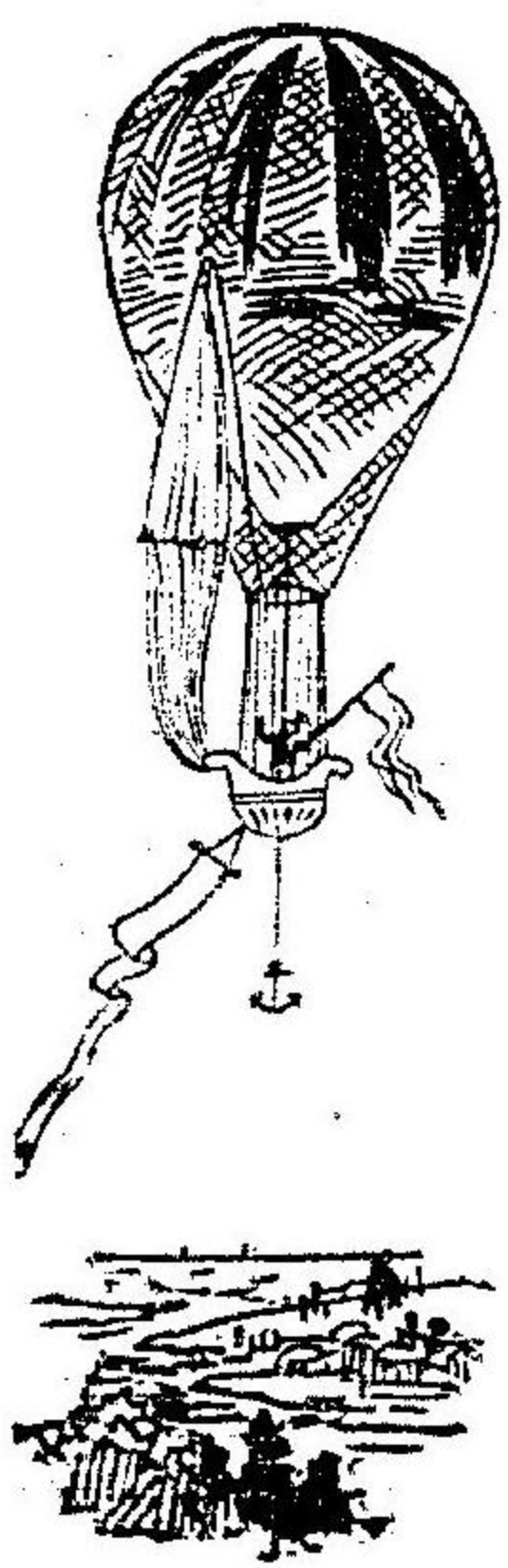
ケイカク(傾角) 物英 Inclination. 伏角を見よ、
ケイカク(傾角) 地英 Inclination. 磁針懸垂するに、到る處必ずしも水平の位置を保たず、このとき磁針と水平とのなす角を傾角といふ、

ケイカン(莖幹) 植英 Stem. 植物體の上行部にして、必ず扁平なる側生部、即ち葉を著くるものを云ふ、
(A) 草莖又草本莖(Caulis) 草本の莖なり、
(B) 木幹(Trunk) 木質莖にして、多年生のもの、
(C) 稈(Culm) 禾本科の如く、結節ある莖なり、

ケイイ

ケイガ

ケイキキョー(輕氣球) 物英 Balloon. 輕氣球は、瓦斯體の浮力に基きて造れるものにして、其の氣孔を塞ぎたる薄き絹布にて大なる囊を作り、之を充たすに、空氣よりも



ケイガン(硅岩) 鑛英 Quartzite. 硅岩は砂岩の如く、多く石英粒にて成れるものにして、特に其の粒細かく、眼にて見分け難きものなり、而して、其の質甚だ硬し、彼の試金石も、一種の硅岩にして其の色黒きものなり、庭に布く砂は、硅岩の碎粒尤も多く、砂岩の碎粒多少之に混ぜり、
ケイカンモキ(雞冠石) 化英 Calcifer. Sp. As. 赤色の脆き固體にして容易く熔く、酸素或は空氣中にて熱すれば青き煙を擧げて燃ゆ、煙花の製造に用ゐらる、
ケガラス(毛硝子) 化英 (Silica wool). 硝子を極めて細く引き伸ばして、毛の如くなしたるものなり、
ケイキンク(輕金屬) 化英 Light metal. 比重五以下の金屬をいふ、例へば「カリウム」「ナトリウム」「カルシウム」「アルミニウム」等の如し、金屬の比重の條を見よ、

ケーク

軽き水素、又は石炭瓦斯の如き氣體を以てし、其の下に人の乗るべき籃をつり下げ、一切の附屬物を合せ、其の全重量をして之と同容積なる空氣の重量よりも輕からしめたるものなり、

ケーク (螢光) 物英 Phorescence. 螢光とは、或る特殊の物體に日光を受けしむる時、其の反對の側に於て發する所の紫青色の光をいふ、螢光を發する物體の主なるものは左の如し、

(イ) 少しく硫酸を加へたる硫酸「キニーネ」の水溶液、(ロ) 「クロロフェル」の「アルコール」溶液、(ハ) 「ウラニウム」硝子、(ニ) 石油、(ホ) 螢石、

ケーク (谿谷) 地英 Valley. 河流が侵蝕せる底地をいふ、ケーク (脛骨) 生英 Tibia. 膝と足頭との間にある太き骨にして、「クルブシ」及「スネ」の前部は、即ち此の骨の外より知らるる部なり、

ケサトザシラ 植 Prunus var. Sieboldii Maxim. 「サトザクラ」に似たれども、花梗に毛あり、蓋し「サトザクラ」に編入すべき、一小別品なり、花は「サトザクラ」より小なり、

ケーク (ケイ素) 化英 Silicon dioxide. 硅酸「アルカリ」の溶液に強き酸例へば鹽酸を加ふれば、膠狀の沈澱を生ず、

ケシ

是硅酸なり、硅酸は、弗化水素酸に溶けて硅弗化水素酸を生ずる性あり、又硅酸を酸水素燐を以て熱すれば熔融し、無色透明の「ガラス」體となり、又金屬酸化物と共に熔かすときは、其の金屬の硅酸鹽を生ず、天然には水晶、石英(晶は硅石)蛋白石、燧石、瑪瑙石となりて存在す、

ケシ (罌子粟) 御米花 植 Papaver somniferum L. var. nigrum DC. 罌粟科一年生草本、圃園に栽培す、花紅色、又は白色、淡紫色等、季節は夏、甲蟲媒花、南歐の原産なり、半熟の果實を横又は縦に傷け、之より浸出する乳汁を乾燥したるものは、即ち阿片なり、阿片は、支那埃及佛國等にて製造し、又本邦臺灣にて多量に製造す、阿片中の主成分は「モルヒネ」にして、専ら鎮痛劑及催眠劑とす、然れども極量を超過して服すれば、死に至る、少量づつ永續的に使用するときば、慢性中毒に陥り、遂に痴呆となり死す、但し極量内に於て用ゐれば、よく下痢を治し、一切の疼痛を鎮む、頗る有功の麻酔劑なり、

ケシ (夏至) 天英 Summer solstice. 六月廿一日頃には、太陽の赤緯度最も北に達す、即ち北緯二十三度半となる、此の時を夏至と云ふ、此の時太陽は赤道の北二十三度半の所を直射し、北半球にては、最も北の方に太陽の來りたる時に於て、太陽の日に於ける高度の最大なる時なり、夏

至は二十四節氣の一なり、

ケシ (夏至線) 地英 Tropic of Cancer. 北緯二十三度半の緯線をいふ、

ケシ (蜘蛛) 動 Scutigera. 長さ寸許にして、細長の脚十五對あり、觸角及終の一對の脚極めて長く、夜間屋内に來り食物を食む、脚先は細線にして、走行極めて速く、脚は觸覺を司る、食肉動物にして、多足類に屬す、

ケシ (傾斜) 地 鑛英 Dip. 地層の水平面となす角度を云ふ、(ソーコウの條を見よ)

ケシ (頸狀) 鑛英 Neck. 熔岩が、岩石中に存する裂罅を填充し、猶ほ上に出て、圓錐形、或は扁圓形に固まりたるものにして、又 Cupola と云ふ、(岩脈を見よ)

ケシ (動) Ptilinus pubis, L. 英 Orklongse. 多く陰部の毛に寄生する「シヤミ」にして、長さ三四厘あり、體扁平にして、第二、第三對の脚先は強大なる整をなし、毛を握るに適し、第一對脚は先端の一節折れて毛を挟むに適す、色は肉色にして、相接近せる二本の毛を左右に握りて、皮膚に平に著くを以て容易に發見し難し、強て之を放たんとするときは整部を傷くること多し、卵は毛根より數分の上部に産卵せらる、長楕圓形にして上端に蓋あり、

ケシ (經線) 地 英 Longitudinal Circle, or

ケシ

Longitudinal line. 地球の兩極を通する大圓を想定し、して經線又は子午線といふ、英國「ケリニチ」天文臺を通過する子午線を本初子午線と定め、之より東百八十度までを東經何度といひ、西百八十度までを西經何度といふ、

ケシ (形成層) 植 英 Cambium layer. 韌皮部と木質部との中間に存する、一群の組織にして、此の層にある細胞は、何れも生活力を有し、細胞核、原形質あり、且つ其の膜は薄くして、中に細胞液を含む、春暖の候には、其の中に新物質を充たし、旺に形成作用を始む、即ち、内部には、新木質層の一層を生じ、外部には、新韌皮層の一層を形成す、故にこは莖幹の發育上、最も肝要なる部なり、(木質部の圖を見よ)

ケシ (硅素) 化英 Silicon Si. 硅素には、無定形のもの結晶形のものあり、無定形硅素は暗褐色の粉末にして、之を空氣中にて熱すれば燃えて二酸化硅素を生ず、鹽素の流中にて熱すると燃ゆ、弗化水素酸の外の酸及び水に溶けず、結晶形の硅素は輝ける鋼の如き色を有す、酸素中にて強く熱するも燃えず、鹽素瓦斯中にて熱すれば燃ゆ、之を弗素中に移せば激しく燃ゆ、硝酸及び弗化水素酸の混合物の外の總ての酸にも溶けず、極めて硬くして硝子に疵を附することを得、

ケシ

ケシ

ケーン (硅藻) 植 Diatom. 種々の形状を呈し、淡水海水に廣く分布す、顕微鏡的のものにして、外部に硅酸質の殻の被り、恰も、二個の淺き箱を合せたるが如く、其の状蓋をなせる硯箱に似たり、殻の表面に、種々の點紋を有す、殻に微小なる孔隙あり、此より原形質脱出して、體を移動せしむ、多くは外物に沿ひて游泳し、時としては、之に附着して休止す、海水産のものは、淡水産のものより大なり、一般に分殖法によりて蕃殖す、

ケイツキ (繼續器) 物英 Relays 「リレー」を見よ、ケーン (硅藻土) 植 「ミツチ」同一なり、又「ケーン」を見よ、

ケータイガク (形態學) 動英 Morphology. 已に發達せる動物體の内外形状を審にする學にして、解剖學と密接の關係を有す、

ケーターンシシ (ケーターンノ振子) 物英 Kater's pendulum. 「ケーターン」の振子は、各地の重力の加速度を測定するに使用するものにして、其の構造は、圖の如く一種の複振子にして、二個の相對する鋼鐵製の又 m_1 と、二個の重錘とを具ふるなり、重錘の一は固定すれども、他は螺旋により少しく之を動かして得



の重錘とを具ふるなり、重錘の一は固定すれども、他は螺旋により少しく之を動かして得

べし、今之を用ゐて或る土地の重力の加速度を知らんとするには、先づ m を支へて之を振動せしめたる時と、 m_2 を支へて振動せしめたる時と、同一の週期をなすに至るまで、其の重錘を動かすべし、此の時 m_1 は振りの中心及び懸りの點なれば、 m_2 の距離は相當單一振子の長さとなり、又其の振動に要したる時間を T とすれば、次の式によりて容易に其の價を知ることを得べし、

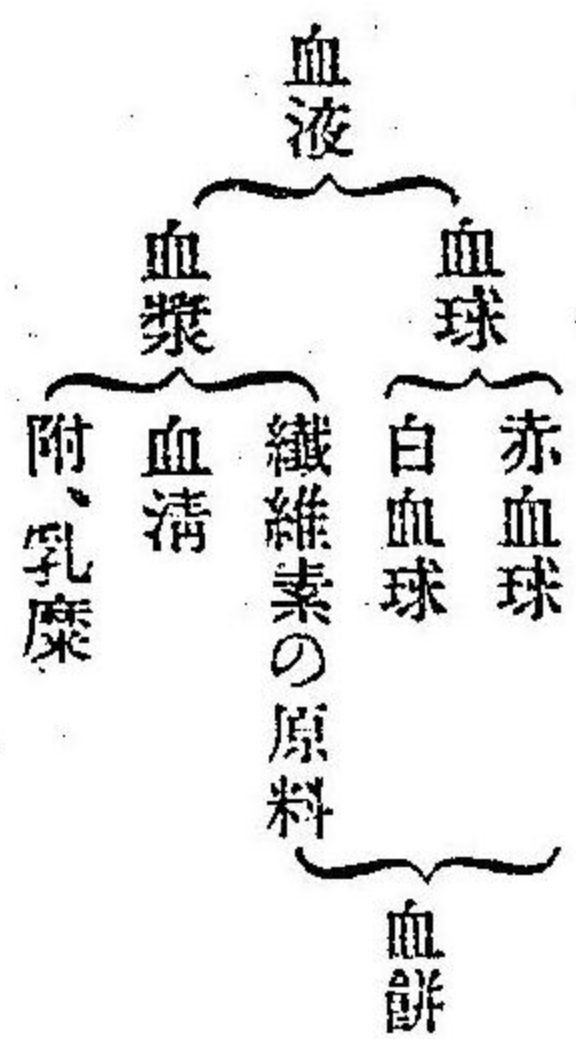
$$T = 2\pi \sqrt{\frac{l}{g}}$$

ケイチ (啓塾) 地 二十四節氣の一なり、又驚蟄ともいふ、陰曆二月初、陽曆三月五日なり、

ケイツイ (頸椎) 生英 Cervical vertebra. 頸部にある脊椎骨をいふ、七個ありて横突起に各、一の縱孔あり、此の中を脊髄動脈通過す、

ケツキ (血液) 生英 Blood. 動物の體を養ふ液にして、動物の種類により、或は無色なるあり、或は黄色なるあり、或は赤色なるありて一様ならず、其の成分の如きも亦從て異なる、次に専ら人血につき述べん、今血液を顕微鏡下に見るときは、球狀體と之を浮かばしむる液體とあり、此の液を血漿といひ、球を血球といふ、血漿は血清と稱する稍淡黄色の液と、血液を凝固せしむる纖維素と稱する物質の原料

とを含み、血球には淡黄色にして集合すれば赤色を呈する赤血球と、温度を與ふれば「アメーバ」狀に運動する、殆んど無色なる白血球とを含む、尙ほ此の外小腸より吸收せる乳糜を含めり、纖維素によりて凝固せる血塊は、之を血餅といふ、今此の關係を表記すれば左の如し、



赤血球は、圓盤狀にして、其の中央凹み、淡黄色を呈し、多く集積すれば鮮紅色を呈す、形極めて小にして四百個を列べて長さ漸く一分に達する程なれども、其の數は實に無數なりといふべく、一滴の血液中に五百萬以上も存在す、赤血球の淡黄色なるは、血色素と稱する一種の色素を含むによる、此の色素は一定量の鐵を含み、極めて易く酸素と化合し、又極めて容易に酸素と離るる性質を有す、故に肺に於て血液は酸素を得、之を身體諸部に運びて組織に與へ、かくて各器官を働かしむることを得、血色素が酸化すれば鮮紅色の血液となり、之を失へば暗紅色に變ず、白血球は、其の割合非常に少く、赤血球五百粒に白血球一個の割合なり、白血球は

一定の形をなさず、常に變形して匍匐し、恰も生活せる一小動物の如し、而して白血球は骨髄内に於て漸次赤血球に變化するを見る、蓋し血液が全身を循環して各部を養ふに當り、赤血球の一部は常に破壊するが故に之を補はんがためなるべし、血液を器に入れて放置すれば、數分間にして膠狀の塊となり、尙棄て置けば、塊は縮小して、其の外表面より透明にして少しく黄色を帯ぶる液を滲出すべし、此の現象を血液の凝固といひ、此の液を血清といふ、血液は體重の約十三分の一を占むるものなり、即ち十五貫の人において凡そ一貫百七十匁は血液にして、約二升三合に當る、若し此の血液の多量を失ふことあれば、到底死を免るゝこと能はず、而して血液は液體なるにより、若し凝固性ならば、小傷よりも多量の血液流れ出で、頗る危険なるべし、血液に凝固の性ある效用、決して小なりといふべからず、

ケッキュー (血球) 生英 Blood corpuscle. 「ケツエキ」の條を見よ、

ケツシキツ (血色素) 生英 Haemoglobin. 「ケツエキ」の條を見よ、

ケツシヨ (血漿) 生英 Plasma. 「ケツエキ」の條を見よ、

ケツシヨ (結晶) 鑛英 Crystals. 四個以上の平面を以

て、圍まれたる鑛物の形状にして、常に天然の法則に従ひ、一定の面、稜、及び隅角を有す、面とは、結晶を圍む所の平面を云ふ、又二平面の交りてなせる線を稜と云ふ、三平面以上、一點に會する所を隅角と稱す、

ケツシヨウケイ(結晶系)鑛英 Crystallographic Systems. 結晶軸の數、位置、及長さによりて、六晶系に分つ、等軸、正方、斜方、單斜、三斜及六方即ち是なり、詳解は、各晶系の條につきて見るべし、

ケツシヨウジヨウモツカイガン(結晶状石灰岩)鑛 Crystalline Limestone. ダイリセキ(大理石)に同じ、

ケツシヨウスイ(結晶水) 化英 Water of Crystallization. 物體の結晶中にある水にして、此は化合せしものなりや、或は混合せるものなりやは明白ならず、

ケツシヨウタイ(結晶體)鑛英 Crystal Bodies. 固體の鑛物にして、規則正しく、一定の形状をなすもの、即ち結晶をなすものを云ふ、例へば、方解石、水晶の如し、

ケツシヨウタイ(結晶體)植英 Crystals. 細胞液中に存する無機物質が結晶して、細胞膜、或は細胞内に現出せるものを云ふ、其の成分は、炭酸石灰、硫酸石灰、磷酸石灰等なり、形状は、六面體、八面體、針狀等を普通とす、

ケツシヨウヂク(結晶軸)鑛英 Crystal axis. 結晶體

の中心を貫通して、走る所の數個の假想直線を、結晶軸又は軸と稱す、而して、各晶形に於ける面の位置は、皆其の軸に對する關係によりて、定まるものなり、

ケツシヨウヘンガン(結晶片岩)鑛英 Crystalline schist. 其の成因、未だ明かならず、其の構造より云へば、火成岩と水成岩との中間に位すべきものにして、一般に、結晶質にして、しかも一方に剝離し易き特性を有す、

例…片麻岩、綠泥片岩、雲母片岩、滑石片岩等、

ケツシヨウ(月蝕)天英 Lunar eclipse. 地球の影に月が入りたる時、即ち地球が月と太陽との間に入り、太陽より月の方に行く光線を遮るときは、月の一部分或は全部が、地球上より見えざることあり、之を月蝕と云ふ、皆既月蝕の最も長く續くときは、凡そ二時間に達す、

ケツシヨウケンカイカク(月蝕限界角)天英 Lunar eclipse limit. 月蝕は、満月の時起る、即ち太陽の中心が白道と黄道との交點Nに居れば月蝕起り、Nより遠ければ起らず、故に月蝕には限りあり、太陽の中心が交點Nを距ること十二度三十一分より大なれば、月蝕は起らず、九度より小なれば、必ず起る、此の二つの角を月蝕限界角と云ふ、此間にあるときは、月蝕の起ることも、起らざることあり、

ケツシロイ(嚙齒類)動 Rodentia. 概ね小形にして、犬

齒を缺き、門齒と臼齒との間に廣潤なる間隙を存す、門齒は通常上下に各二個を具へ、皆其の前面にのみ黄色又は赤色の珪那質を被り、恰も鑿の如し、上唇は正中に於て分裂し、觸感を司る所の鬚を生ず、後肢は前肢よりも長く、運動迅速なり、多くは植物を食し、害をなすこと多し、「ネズミ」「ウサギ」「リス」等之に屬す、

ケツセイ(血清)生英 Serum. 「ケツエキ」一條を見よ、

ケツセキ(月石)鑛「セーチヨウセキ」を見よ、

ケツンシキ(結組織)生英 Connective tissue. 強韌にして、「ナメシ」皮の如く、容易に切れざる組織をいふ、即ち強韌なる纖維よりなるものなり、吾人の表皮を剥けば、其の下に現はるるものは即ち是なり、

ケツチヨウ(結腸)生英 Colon. 大腸の大部にして、右下腹部即ち小腸に接する腸部に始まり、上行し、折れて胃の下部を左に向ひて横行し、左方にて下行し、更に一迂曲をなす、此の迂曲部と接する部を以て結腸の終とす、結腸に於ては、水分の外吸収せらるることなし、是れ運動、遠足、旅行等をなすときは便が秘結する所以なり、

ケツテーンシキ(結締組織)生「ケツソシキ」に同じ、

ケツビョウテン(結氷點)物英 Freezing point. 氷點の條を見よ、

ケツペー(血餅)生英 clot. 「ケツエキ」の條を見よ、

ケツマク(結膜)生英 Conjunctiva. 「カンマク」の條を見よ、

ケツマ(距)動英 Claw. 爪の一種にして、争鬭を好む鳥類の雄によく發達し、脚の内後側にあるものなり、

ケツマンシヨウ(缺面像)鑛英 Merohedrisim. 對稱面に感して現出すべき面數の半數、若くは四分の一に相當するもの外、現れざるものを云ふ、若し其の完面像の面の半數だけ發達し、他の半數の面消失したるもの、如きは、之を「ハンメンシヨウ」(半面像 Hemihedrisim)と云ひ、完面像の面の四分の一の面のみ發達せるときは、之を「シンハンメンシヨウ」(四半面像 Tetrhedrisim)と云ふ、

ケイデンキ(繼電器)物英 Relay. 「リレー」を見よ、

ケイトー(鶏冠)植 Celosia cristata L. 莧科草本にして、鶏冠の如き花序を生ず、觀賞用として栽培し、又葉を食用に供す、栽培の結果、種々の變種あり、

ゲドクザイ(解毒劑)化英 Antidote. 毒を消す藥なり、

ケトン化英 Ketone. 第二アルコールの酸化によりて生じたるものにして、之を尙ほ酸化すれば炭素の數少き酸となる、「アセトン」は「ケトン」の一例なり、

ケトクセーシツ(ケトンの性質)「ケトン」は還元すれば

第二「アルコール」となる、重「クロム」酸加里及び硫酸の混合物を以て酸化すれば、少数の炭素を有する酸に變ず、同分異性體を生ぜずして縮合物を生ず、

ケード(經度) 天地 Longitude. 地球の或る一定の場所の子午面と觀測者の居る場所の子午面とのなす角を、觀測者の居る場所の經度と稱す、經度は又其の地より地球中心に引ける直線と、此の地を過ぎる緯線が本初子午線と交る點より地心に引ける直線とのなす角なりと云ふことなり。經度は、地球表面に於ては、東の方に正に計り、或は東何度西何度と云ひて百八十度まで計る、この基本となる一定の場所として、今日萬國共通に採用するは、英國「グリニッチ」天文臺上の一點是なり、吾が天文臺の經度は、東經九時十八分五十八秒なり、

ケードノシテ(經度の測定) 天 Determination of Longitude. 第一法 經度の差は、地方時の差に等し、故に、今甲乙二ヶ所の經度の差を知らんとせば、二ヶ所に於て、同時に地方時を測定し、其の差を求めればよし、さて、或る土地の經度、即其土地の地方時と、英國「クリンニッチ」天文臺の同時刻に於ける地方時との差は、容易に知ることを得べきも、只同時に甲乙二ヶ所に合圖する装置なかるべからず、之をなすには、月蝕を以てするあり、土木星の惑星の

蝕を以てするあり、流星の現れたる時を以てする等、種々の方法あり、

第二法 此は、月の運動を利用して、經度を見出す法なり、月の赤緯度赤經度は時々變ず、「グリニッチ」に於ける或る時刻に於ての月の赤緯度赤經度は、之を表に作り置くとを得べし、經度を測らんとする場所にては、月の赤緯度赤緯度を觀測により定め、又其觀測したる時の地方時を見、次に前の表に就きて、今觀測によりて見出したる月の赤經度と同じ「グリニッチ」の赤經度の時に於ける同地の地方時の何時何秒なるかを求め、之をさきの觀測したる時の地方時と比較し、以て經度を測定するなり、

第三法 此は時計を用ひてなす法なり、先づ豫め二個所に於て、其の處の地方時に準じて時計を補正し、A場所の時計をB場所に持ち來りて比較し、其の差を求めれば、即ち二個所の經度の差を知るべし、A所に於ける時計面の時刻を電信によりてBに報じ、B所に於ける時計面の時刻を電信によりAに報じ、二つの場合に於ける時計面の時刻の差を平均すれば、其の經度の差を知ることなり、而して其の一所を標準地に取れば、其の經度の差は即ち他所の經度を示すものとなる、

ケーア(輕粉) 化 鹽化第一水銀に同じ、

ケプレルホーン(ケプレルの法則) 天 Kepler's Law.

「ケプレル」は、惑星の週期運動に關し、次の三つの法則を擧げたり、第一、惑星の軌道は一つの楕圓にして、其焦點の一つに太陽あり、第二、惑星の動徑の畫く面積は、時間に比例す、第三、惑星の周期の二乗は、其の太陽より平均距離の立方に比例すと、

ケーベンコードケー(輕便硬度計) 「コードケー」を見よ、ケーホー(警報) 地 天候險惡の虞ある地方を警戒するがために發する報知をいふ、

ケムリスイショー(煙水晶) 鑛 「スイショー」を見よ、ケン(腱) 生英 Tendon. 筋肉の兩端白色なる部分をいふ、即ち骨に附着する部分にして收縮することなし、強靱にして、俗に「スジ」と稱し、體面に現出する部は即ち是なり、踵の上部にある腱は尤も太し、

ケンウン(卷雲) 地英 Cirrus. 高き天空に現れ、白色にして纖維狀、若くは羽毛部をなす雲をいふ、此の雲は微細なる雪片より成れりと考へらる、

ゲンチ(原鹽) 鑛 英 Primitive salt. 西藏、裏海附近及、び「アラビヤ」、「サハラ」等に産す、蓋し鹹水湖の涸渇して跡に残れるものなり、

ゲンオン(原音) 物 英 Fundamental tone. 發音體

ケフレ

の發し得る所の最低の音を、其の原音と稱す、

ケンカ(鹼化) 化 英 Saponification. 「エステル」を鹽基にて分解し、若しくは水蒸氣と共に過熱して、「アルコール」と鹽若くは酸を生ずることなり、

ケンカイカク(全反射の) 限界角 物 英 Critical angle. 光線が、密なる光媒中より疎なる光媒中に進入するに當り、其の入射角を漸次増大して、遂に全反射の現象を起さしむべき最小なる角を稱して、全反射の限界角、或は危急角といふ、

水より空氣に出づるとき、其の限界角は、四十八度三十秒、硝子より空氣に出づるとき、其の限界角は、種類により三十八度より四十二度まで、

ケンカンヨクツ(顯花植物) 植 Phanerogama. 高等なる植物にして、花を開き、果實を結び、種子を産し、之によりて蕃殖するものなり、

ゲンゲ(紫雲英) 植 Astragalus Sibiricus L. 「ゲンゲ」又「レンゲソウ」とも云ふ、莖科草本にして、春時田間に紫色の花を綴り、よく蕃殖す、之を田島に鋤き込みて、肥料とす、我國東北地方には、未だなし、關東以西は、到る處に之を見る、

ケンゲイシツ(原形質) 動 英 Protoplasm. 細胞の條

ケンカ

ケンケ

を見よ、

ケンケーンツ(原形質)植英 Protoplasm. 植物體の生活力を有する部にして、細胞含有物中、最も重要なものなり、甚だ複雑なる化学成分を有す、質柔軟にして、顆粒状をなし、或は透明にして、全體一樣の觀を呈す、沃度に逢ひて褐色に變じ、強硫酸に逢へば蓄薇色をあらはす、

ケンゲネ植 「ケンゲ」を見よ、

ケンゴロツ(肩胛骨)生英 Scapula. 肩の兩側にある三角形の扁骨なり、手を以て探ることを得べし、

ケンゴロ(龍蟻)動 Dyctisera. 七八分の扁卵形の鞘翅類にして、淡水に棲息し、黒褐色を呈し、夜間飛翔す、後脚大にして稍扁く、且つ多毛にして、游泳に適す、幼蟲は細長にして二個の尾毛あり、俗に「モタロームシ」と云ひ、卵形の大頭を有し、小魚を捕食し大害をなす、

ケンシ(原子)化英 Atom. 物體の分子を組成せる極微分にして、如何なる方法を用ふるも分ち得ざるものなり、

ケンシカ(原子價)化英 Valency. 水素、鹽素等の如く、其の當量と原子量と同一なるものを一價元素と稱し、酸素等の如く、其の一原子量と一價元素の二原子量と化合して一分子量をなすものを、二價元素と稱す、同様に三價、四價、五價等の元素あり、又同一元素にても二價となり或は三

ケンシ

價と成る等場合により原子價の異なるものあり、例へば鐵の如し、此の如く一價、二價、三價等の數價を原子價と稱す、ケンタン(原子團)化英 Atomic group. 原子の集りないふ、

ケンシネツ(原子熱)化英 Atomic heat. 比熱と原子量との比を原子熱といふ、

ケンシユ(卷鬚)植 「マキヒゲ」を見よ、

ケンシツ(檢出)化英 Detection. 化合物中にある元素、又は根等を見出すことなり、定性に同じ、

ケンシドーフツ(原始動物)動 Protozoa. 體制尤も簡單にして、太古の始原始動物より一系統をなして發育し、之を現世に表出するものなり、顯微鏡的小動物にして、肉眼的のもの稀なり、形種々あるも到底唯一の細胞より成るに限り、而して其の體に多少の器官を具ふれども、孰れも體質即原形質の分化して生ずる所にして、複細胞動物に見るが如き組織よりなれる器官の比にあらざるなり、神經は決してあることなし、「アメーバ」、「ゾーリムシ」、胞子蟲、及夜光蟲等之に屬す、

ケンシヨ(原子容)化英 Atomic volume. 元素の蒸氣態に於ける原子容とは、原子量を密度(比較的)にて割りたるものなり、例へば鹽素、窒素、酸素の原子容は一にし

て、水銀のは二なり、

ケンシツ(原色)物英 Primary colours. 紅黃青の三色は、他の色を混合するも之を作れ得べからずと雖も、是等を種々に混合する時は、「スペクトル」中の何れの色をも作ることを得るが故に、この三色を原色といふ、

ケンシヨ(原子量)化英 Atomic weight. 各元素にそれぞれ或る一定の數を與ふる時は、他の元素と化合物を生ずるに當りて、必其の一定の數の量若くは其の整數倍の量の比によりてのみ化合す、一定の數を其の元素の原子量と稱す、例へば酸素の原子量は十六、水素のは一・〇、窒素は十四、炭素は十二の原子量を有せり、

ケンシヨ(原子量の表)化英 Table of atomic weights.

亜鉛	Zinc	Zn.	六五・四
銅	Copper	Cu.	六三・六
アルゴ	Argon	A.	三九・九
アルミニウム	Aluminium	Al.	二七・一
アンチモン	Antimony	Sb.	一二〇・二
硫黃	Sulphur	S.	三二・〇六
イテリビウム	Ytterbium	Yb.	一七三・〇
イトリウム	Yttrium	Yt.	八九・〇

ケンシ

ケンシ

イリヂウム	Iridium	Ir.	一九三・〇
インヂウム	Indium	In.	一一四
ウラン	Uranium	U.	二三八・五
エルビウム	Erbium	Er.	一六六
鹽素	Chlorine	Cl.	三五・四五
オスミウム	Osmium	Os.	一九一
ホルフラム	Wolfram	W.	一八四・〇
カドミウム	Cadmium	Cd.	一一二・四
カリウム(又ポタ)	Potassium	K.	三九・一五
カルシウム	Calcium	Ca.	四〇・一
ガドリニウム	Gadolinium	Gd.	一五六
ガリウム	Gallium	Ga.	七〇
金	Gold	Au.	一九七・二
銀	Silver	Ag.	一〇七・九三
クリプトン	Krypton	Kr.	八一・八
クロム	Chromium	Cr.	五二・一
珪素	Silicon	Si.	二八・四
ゲルマニウム	Germanium	Ge.	七二・五
コバルト	Cobalt	Co.	五九・〇
ニッケル	Nickel	Ni.	五八・七
サマリウム	Samarium	Sa.	一五〇
酸素	Oxygen	O.	一六・〇〇

ゲンシ

臭素	Bromine	Br.	七九・九六	トリウム	Thorium	Th.	二三二・五
ジルコウム	Zirconium	Zr.	九〇・六	ナトリウム(ウチ)	Sodium(Na)	Na.	二三・〇五
水銀	Mercury	Hg.	二〇〇・〇	鉛	Lead	Pb.	二〇六・九
水素	Hydrogen	H.	一・〇〇八	ニッケル	Nickel	Ni.	五八・七
スカンヂウム	Scandium	Sc.	四四・一	ニオブ	Niobium	Nb.	九四
錫	Tin	Sn.	一一九・〇	ネオヂウム	Neodymium	Nd.	一四三・六
ストロンチウム	Strontium	Sr.	八七・六	ネオン	Neon	Ne.	二〇
セシウム	Cesium	Cs.	一三二・九	白金	Platinum	Pt.	一九四・八
キセノン	Xenon	Xe.	一一二・八	バナヂン	Vanadium	V.	五二・二
セル	Cerium	Ce.	一四〇・二五	バリウム	Barium	Ba.	一三七・四
セレン	Selenium	Se.	七九・二	パラヂウム	Palladium	Pd.	一〇六・五
蒼鉛	Bismuth	Bi.	二〇八・五	砒素	Arsenic	As.	七五・〇
タリウム	Thallium	Tl.	二〇四・一	弗素	Fluorine	F.	一九
タンタル	Tantalum	Ta.	一八三	プラセオヂム	Praseodymium	Pr.	一四〇・五
炭素	Carbon	C.	一二・〇〇	ヘリウム	Helium	He.	四
チタン	Titanium	Ti.	四八・一	ベリリウム	Beryllium	Be.	九一
窒素	Nitrogen	N.	一四・〇四	硼素	Boron	B.	一一
ツリウム	Thulium	Tm.	一七一・	マグネシウム	Magnesium	Mg.	二四・三六
鐵	Iron	Fe.	五五・九	マンガン	Manganese	Mn.	五五・〇
テルビウム	Terbium	Tb.	一六〇	モリブデン	Molybdenum	Mo.	九六・〇
テルル	Tellurium	Te.	一二七・六	沃素	Iodine	I.	一二六・八五

ゲンシ

二〇八

るものなり、蓋し水蒸氣の多量なるとき、若しくは塵芥多き時に起る現象なり、

ゲンタイ(肩帶) 生英 Shoulder-girdle. 二肩胛骨、竝に二鎖骨よりなる楕圓形の骨環をいふ、上肢を胸に附着せしむる媒介をなし、上膊骨より來る壓力を二分する利あり、

ゲンチユー(原蟲) 「ゲンシドーブツ」に同じ、

ゲンチユー(原腸) 動英 Arterion. 複細胞動物の發生の初期に於て環狀物を生じ、其の一方が陥入して生ずる空所をいふ、「ヒドドラ」の腔腸の如きは即ち原腸にして、其れ以上の發達をなさざるものなり、

ゲンヂンキ(驗電器) 物英 Electroscopie. 驗電器は、物體が發電せりや否やを驗するに用ゐる器械にして、金箔驗電器、電氣振子等の如きものあり、

ゲントキカイ(幻燈機械) 物英 Magic lantern.

幻燈器械は、暗室内にて、小なる繪畫を擴大して白幕上に現出せしむる装置にして、圖に示すが如く、内部を黒く塗りたる箱の壁に、伸縮自由なる圓筒を附け、其の一端及圓筒と箱との接觸部に、各、凸「レンズ」を嵌め、其の間に繪畫板を入る、又箱の後壁に拋物鏡を附し、其の焦點に電燈又は「ランプ」を置く、今「ランプ」より發したる光は、「レンズ」(L)のために集束せられ、強く繪畫板を照し、筒先の「レンズ」に

ゲンセ

ゲンタ

二〇九

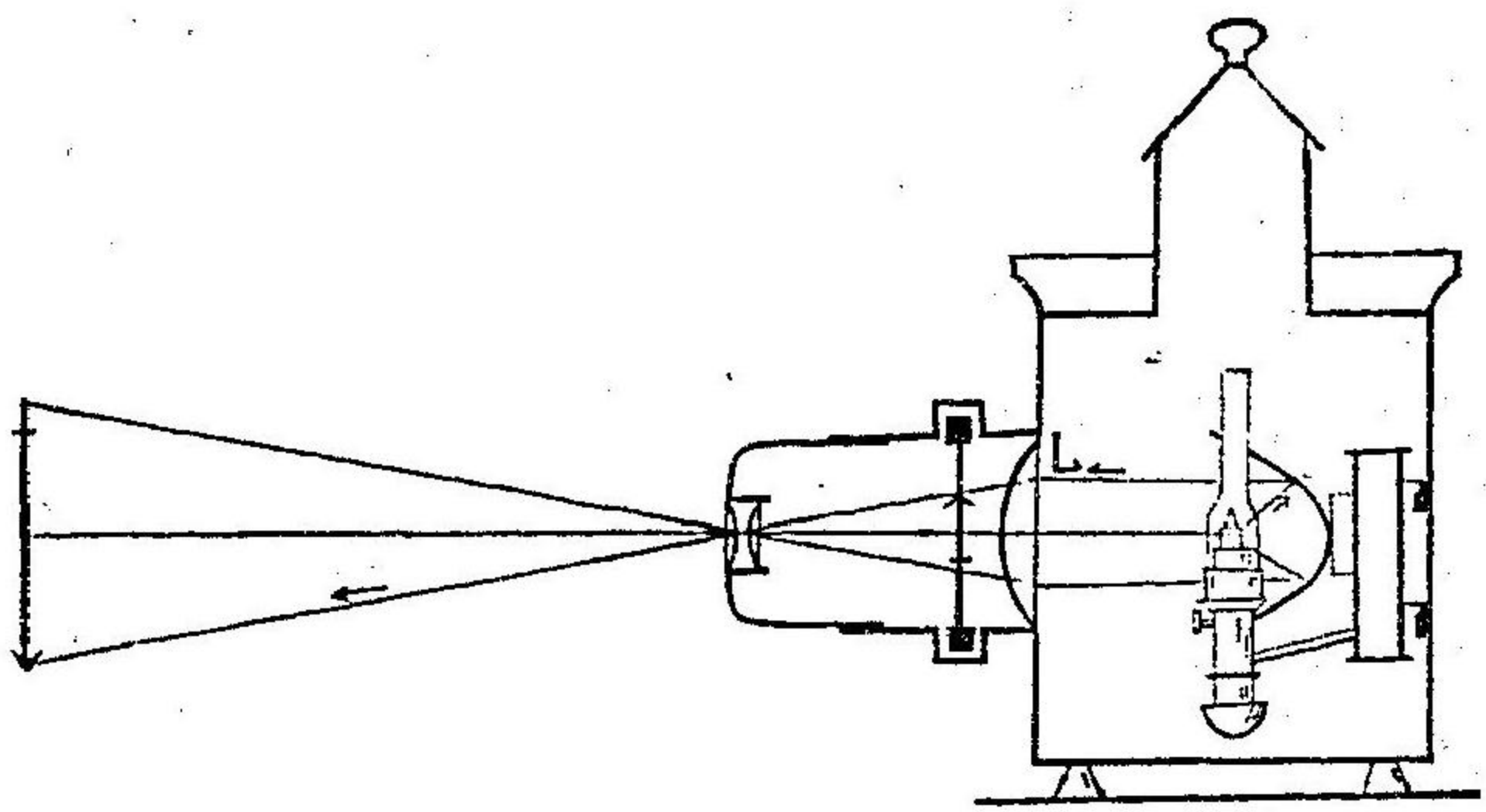
ラヂウム Radium Ra. 二二五・
ランタン Lanthanum La. 一三八・九
リチウム Lithium Li. 七・〇三
磷 Phosphorus P. 三一・〇
ルテニウム Ruthenium Ru. 一〇一・七
ルビヂウム Rubidium Rb. 八五・四
ロヂウム Rhodium Rh. 一〇三・〇

ゲンセードーブツ(原生動物) 「ゲンシドーブツ」に同じ、

ゲンシ(元素) 化英 Element. 種々の物體中に含有せられて、單體、化合物を生じ得べきものを元素と稱す、化合物は二種以上の元素より成り、單體は一種の元素より成る、然れども單體の如く遊離せしめて、其の性質を試むるを得ざるにより、元素と單體とは自ら別なり、又其の元素は唯一なれども、之によりて成れる單體は數種あることあり、例へば炭素元素は一種なれども、之によりて成れる單體には、炭あり、金剛石あり、石墨あるが如し、故に元素と單體とは同一に視るべからず、

ゲンシケンセキ(元素分析) 化英 Elementary analysis. 化合物中に有る元素を知る爲になす分析をいふ、

ゲンツァイタイヨ(幻象太陽) 英地 Mock sun. 旭日、夕陽に起る現象にして、太陽が異形重出、或は銅色に見ゆ



よりて、其の倒像を
白幕の上に現象せし
むべし、故に筒先の
「レンズ」と繪畫板と
の距離を適宜に整ふ
れば、明瞭なる像を
幕上に映せしむると
を得べし、近來流行
する所の活動寫眞と
云ふは、此の幻燈の
映像の活動するもの
なり、

ケンシヨウコ (牻牛
兒) 植 *Geranium
nepalense* sweet.
雙子葉類牻牛兒科、
多年生草本、到る處
に生ず、夏秋、白色又は淡紅色の花を開く、蟲媒花なり、
印度にも産す、果實は裂開して種子を散布す、其の狀奇なり、
葉莖根を乾燥して、此が浸出液を服すれば、赤痢を治
すると妙なり、蓋し、この液中には多量の収斂性物質、即ち

丹寧を含有するによる、其の病を治すること、顯著なるによ
り、古來「現の證據」と稱し、詩經にも此の草を説けり、され
ば、近來、赤痢の治藥として、大に賞せらるるに至れり、或
は亦、淋病に用ゐて效ありと云ふ、

ケンシキョー (顯微鏡) 物英 *Microscope*. 顯微鏡は、
肉眼を以て視ること能はざる微小なる物體を擴大して視せ
しむる機械にして、其の要部は、二個の色消凸「レンズ」に
成る、今物體ABを、對物「レンズ」の主焦點Fの少しく外方に
置き、強き光を入れて之を照らす時は、對物「レンズ」のため
に實物より大なる實像abを結ぶを以て、之を接眼「レンズ」
の主焦點F下の少しく内方に受け、更に擴大せられたる虚
像A'B'を明視の距離に生ぜしむるなり、顯微鏡の度を言ひ表
すに、八百倍千二百倍等と稱するは、虚像の長さが實物の
長さの八百倍千二百倍等に見ゆとの意なり、

ケンシキョーテキ (顯微鏡的) 動 英 *Microscopic*.
顯微鏡を用ゐるにあらざれば見ること能はざる程小なる動
植物、或は組織、或は細胞を形容する詞なり、

ケンガン (玄武岩) 鑛英 *Basalt*. 鹽基性にして、暗黒
緻密の熔岩なり、比重大なるが故に、鐵鑛と誤らる、
成分、斜長石(時としては、霞石、又は白榴石を以て、之を代
表するとあり)輝石、磁鐵鑛、橄欖石等より成る、但し、橄

欖石は、雲霧して蛇紋岩に化し、綠色纖維狀物に變ぜると
あり、色の黒きは、輝石及磁鐵鑛によるなり、
特性、硅酸を含むこと甚だ少し、
種類

(イ)長石玄武岩 (*Trachy Basalt*) 就中、長石、輝石を
含むものを正式玄武岩と云ひ、又此の二礦物の外に橄
欖石を含むものを橄欖玄武岩と云ひ、又長石、輝石、
角閃石を含むものを角閃玄武岩と云ふ、

(ロ)霞石玄武岩(又は白榴石玄武岩) (*Trachyte Basalt*) 此
に二種あり、左の如し、

1「テフライト」(*Tephrite*) 霞石、若しくは白榴石、輝
石を含む、

2「バサナイト」(*Basnite*) 「テフライト」と同成分に
して、猶ほ其の他に橄欖石を含む、

(ハ)無長石玄武岩 (*Basalt without Feldspar*) には、霞石支
武岩又は白榴石玄武岩あり、
現出の狀態、熔岩液となりて現出し、又は岩脈、又は柱狀節
理をなしてあらはる、水蝕、風化の結果、奇觀を呈するこ
とあり、我が國但馬の玄武石、筑前芥屋の大門の如き是な
り、
用途、石材とす、多くは、柱狀節理を利用して、直に材を採

取す、

ケンボシ (枳椇) 植 *Hovenia Dulcis* Thunb. 鼠李
科喬木なり、葉は卵形にして大く、花は小く、花梗は花後肥
大す、之を食ふに味甘し、小兒好みて之を食す、材は器具を
造るに用ゐて良し、

ケンヨースイ (懸壘垂) 生英 *Drosera*. 口腔の奥に垂下せ
る肉突起をいふ、

ケンリン (原林) 植 始原林に同じ、

ケンローボクシツ (堅牢木質) 植 英 *Duramen*. 中心木
質に同じ、

ケヤキ (樺又楓) 植 *Yelkown acuminata*. Pl. 榆科
の木本にして、葉は楕圓狀卵形をなし、花は單性にして、子
房は中央外に位せる花柱を有す、樹皮、灰褐色堅硬にして、
粗き皺紋と無數の細小なる突起とを有す、大木となれば、樹
皮鱗片をなして剥落するを以て、「ツッキ」と區別しうべし、木
材は、良質にして、建築料並に器械料器具料に適す、「ケヤ
キ」は材黄褐色なれども、「ツッキ」は材黄白微紅にして、反張
しやすく、材質大に「ケヤキ」に劣れり、

ケヤリ動 蠕形動物中の環蟲類に屬し、淺海の岩石間に固着
し、體は暗赤色を呈し、明に環節よりなり、口周に數多の觸
手あり、體の周圍には體より分泌せる革質の筒を被り、常に

之より觸手を出し食物を捕食す、敵來れば速に筒中に入る、ケラ(蝓蛤)動 Gryllotalpa. 英 Mole-cricket. 地中に棲息し、小麥、葡萄等の根を害し、頗る農家に有害なる直翅類にして、一寸内外の大きさを有し、第一對脚は發掘に適し、恰も「モケラ」の四肢の如し、翅は比較的小なり、

ゲールサククホーソク(ゲールサククの法則)化英 Messing's Law. 一定の壓力の下に於ては、瓦斯體の容積は溫度一度昇る毎に、零度に於ける容積の二百七十三分の一づつ増加す、今零度に於ける氣體の容積をV、溫度t度に於ける容積をVとすれば、上の法則は次の式にて表さる、

$$V = V_0 \left(1 + \frac{1}{273} t \right)$$

但し壓力は變化せずとす、

コ

コ(綱)動英 Olfus 分類上、門の下、目の上に置く、例へば脊椎門の中に哺乳綱を設くるが如し、

コ(翹)動英 Web. 「ハノヒラ」の意なり、即ち翅の中軸より分出する羽枝、小羽枝等の密接して成れる一面の軟部をいふ、「サモ」の條参照、

コアカ 植 Boehmeria spicata. 蕁麻科植物にして、其形状芋麻よりも小なり、此の植物の皮部より、一種の纖維を製し、多く芋麻と混用するに用ゐる、

コアツキカン(高壓機關)物英 High pressure engine. 高壓機關とは、蒸氣機關に於て一度「ピストン」を動かすに使用したる蒸氣を、直ちに空氣中に放出する装置にして、蒸氣は、機關を運轉するに要する力の外に、氣壓に反抗する力を要するが故に、其の壓力は比較的大ならざるべからず、是れ此の名ある所以なり汽車は多く此の種の機關を用ゐる、

コイド(黃緯度)天英 Celestial Latitude. 地球上一つの星の黃緯度とは、黃道の極とSとを通過する大圓が黃道と交はる點と、Sとの間の弧を以て計るものなり、從て太陽の黃緯度は常に零なり、

コイサギ(五位鶯)動 一尺八寸位の體長を有する雀禽類にして、頭の上、又背部は綠色なる金屬光澤を有する黒色にして、頸及腹尾は白く、翼及尾は灰色なり、嘴は黒色にして、脚は灰黄色を呈す、尾は短く、嘴は頭より短し、夜飛行する鳥にして、樹上に棲み、鳴聲「カラス」に似たり、

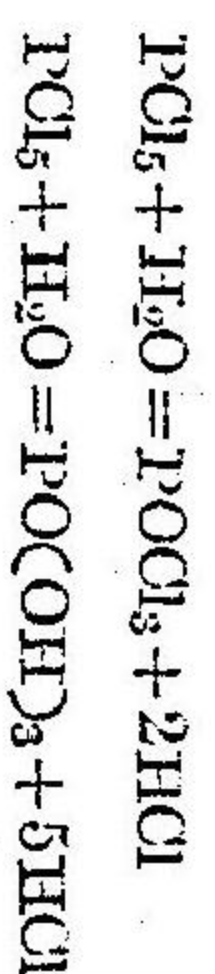
コイル物英 Coil. 導線を巻きて圓筒状をなせしめたるものを「コイル」と稱す、

コ(人の)聲物英 Voice. 人聲は、肺より出づる氣流のために、喉頭にある聲帯と稱する二枚の膜状の筋の振動によりて生ずるものにして、其の緊張の度によりて、種々の高さの音を生し、其の口竅の廣狹形狀を異にするによりて、異なる音色の音を發するものなり、

コカハリ(聲變)生 男女特に男子は十五六才に達すれば、音聲濁り、調子低くなるものにして、之を「コエカハリ」といふ、此れ喉頭の急激なる發達によるものにして、聲帯長さを増し、爲に低音を發するに至り、同時に聲帯が厚くなりて濁りたる音となるなり、

コチン(紅炎)天英 Prominence or protuberance. 太陽の表面に、紅色の瓦斯層即ち焔氣あり、其の周圍に、之と同質の瓦斯體の團りの突出するあり、之を紅炎と云ふ、日蝕の時、望遠鏡を以て窺ひうることあり、

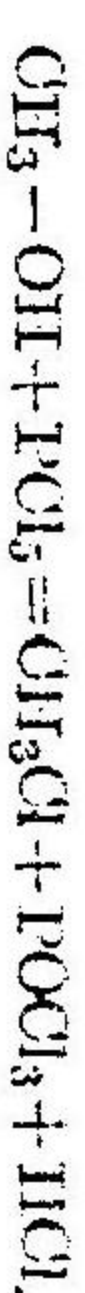
コエカリン(五鹽化磷)化英 Phosphorus pentachloride. PCl₅ 五鹽化磷は、三鹽化磷に鹽素瓦斯を通してうる所の黄色の結晶體なり、少量の水にては分解して酸鹽化磷となり、多量の水を以てする時は、燐酸及び鹽化水素に變ず、其の反應次の如し、



又濃厚なる硫酸を以て處理する時は、硫酸中の酸素と水素を水となして抽出し、酸鹽化磷三酸化硫黃及び鹽化水素を生ず、即ち



又水酸根を含める化合物を、五鹽化磷を以て處理する時は、鹽素は水酸根と置換す、例へば「メチル、アルコール」に之を加ふれば左の如し、



コイオン(高音)物英 High pitch sound. 高音とは、物體の振動の急激なる時、生ずる所の音をいふ、

コオンタイ(恒溫帶)地英 Invariable stratum. 晝夜と季節を問はず、一定不變の溫度を有する地下の地層を云ふ、其の深さは土地の状態によりて異れども、通例二十尺乃至七十尺なり、

コカ(膠化)化 (calcinisation. 膠の如き物となること、

コカ(鑛花)鑛英 Mineral bloom. 粉状をなせる鑛物が、他の鑛物の外部に附着するものを云ふ、輝安鑛の時、日を経るに従ひて、光澤を失ふは、鑛花を生ずるが爲なり、コカイ(沙蠶)動 Nereis. 海棲環蟲類にして、三寸内外の體を有し、細長くして左右に扁平なり、各環節に各二對つ、

コカイ

の毛を側生す、生殖時期には、體を縮少して海面を游泳し、發生に種々の變態をなす。

コカイン 化英 Cocaine. $C_{17}H_{21}NO_4$ 「コカイン」は「コカ」の葉中に含有せらる、無色の柱狀に結晶し、水に溶けず、九十八度にて熔融す、主に鹽酸鹽 $C_{17}H_{21}NO_4 \cdot HCl$ として醫藥に供す、此の物は、麻痺の效あるを以て、小手術を行ふに當りて使用す。

コカイコブ (口蓋骨) 生英 Palatal bone. 口腔の天井をなす骨をいふ。

コカイヒル 動 Bipalium. 扁蟲類に屬する動物にして、長さ三寸餘に伸長することあり、全體は「セル」に似れども、頭部は左右に突出し、體面に粘液あり、日光の直射せざる陸地に棲息す。

コカク (岬角) 地英 Cape. 沿岸線屈折し、陸地の海中に突出せる部分をいふ。

コカクリイ (甲殼類) 動 Crustacea. 節足動物に屬する一綱にして、革質若くは硬質の甲殼を被り、主として水棲す、概ね脚基に附着せる總狀若くは羽狀の鰓ありて呼吸す、頭胸部は合着し、頭部は五環節の合成にして、之に附着せる諸肢は、即ち二對の觸角、一對の大鰓(上鰓)及一乃至二對の小鰓(下鰓)是なり、尙口の上下に上鰓、下鰓あり、其の他の

コカク

二二四

頭胸部の環節は種々の形をなせる脚を附屬し、其の前なるは頭脚と稱し食物採取の用をなし、其の後に數對の脚は専ら移動を司る、而して其の末端は往々針狀をなす、腹は俗に尾と稱する部に於て、環節の分界明に、諸肢は游泳に適する瓣狀の撓脚に變じ、或は全く之を缺如す、撓脚は産出せる卵を擔ふ作用あり、神経系は能く發達し、眼は複眼或は單眼なり、食道は短く、胃は内面に硬き齒狀突起を具へ咀嚼に適す、腸は直走して尾端にある肛門に開く、肝臓よく發達し、俗に「ミソ」と稱す、泌尿器は縁腺と稱し、觸角の根部或は下鰓に開口す、血管系は單一或は完全なり、概ね雌雄異體にして、卵より數次脱皮して成長す、此の綱を通常三目に分つ。

胸甲類、例、「カニ」、「エビ」、
節甲類、例、「ワラジ」、「トビエシ」、
切甲類、例、「ミジンコ」、「カメノテ」、

コカスルイ (固顎類) 動英 Placotamathi. 硬骨魚類に屬する一亞目にして、球狀或は側扁をなし、上顎諸骨と頭蓋と相固着するにより名づく、口及鰓裂は狭小にして、鰓は櫛齒狀をなし、皮は時に堅固なる甲鱗を生じ、腹鱗は棘狀に變形し、或は全く之を缺く、「フケ」の類之に屬す。

コカク (合葉) 植英 Gimnosperms. 葉片連合する

もの、例へば「ナデシコ」、「サクラソウ」、「シソ」、等の如し左の種類あり、

- (A) 管狀莖(ナデシコ)
- (B) 莖狀莖(フシグロ)
- (C) 唇狀莖(チドリコソウ)
- (D) 鐘狀莖(ペラドンナ)

コカクセイタイ (光學異性體) 化英 Optical isomer. 同一の組成にして、只分極光線を回轉する方面を異にせるものをいふ、立體異性體に同じ。

コカキ (向化性) 植英 Chemotropism. 植物體が、化學的物質に感應する性質にして、花粉管、及菌絲の示す現象なり。

コカツ (酒濁) 地英 Diarrhea. 湖水の水が蒸發し去る現象をいふ。

コカネシ (金龜子) 動 Minera. 金綠色を呈し、六七分の大きさを有する甲蟲にして、樹液を吸收し、脚の爪は大にして、其の間に小爪なし、幼蟲は白色にして、俗に「ヂムシ」と稱し、田圃にありて作物の根を食害す。

コカン (積杆) 物英 Lever. 積杆とは、一個の棒にして、之に如何に大なる力を加ふるも、之がために毫も其の形を變ぜられざるものとし、支點と稱する一定點の周圍に回

轉することを得るものにして、其の一端に働く力によりて、他端に力を起すものなり、力を與ふる點を力點といひ、力を起す點を重點といふ、而してこの三點の所在によりて、第一種、第二種、第三種と區別す。

コカン (五官) 生 Senses. 視、聽、觸、味、嗅の五感覺を五官といふ、或は筋肉感覺を加へて六官といふこともあり。

コカン (葦丸) 動英 Testicles. 動物の雄が精蟲を作る處なり。

コカシキター (交感神經) 生英 Sympathetic nerve. 脊椎の兩側に縱走する神經にして、腦に始まり、腹腔内の諸臟腑に分布す、所々に節あり、内臓の作用を調節す。

コカラ (小雀) 動 Parus minor. Thrush の體長三寸五分位の鳴禽類にして、脊面褐灰色、頭頂黑色、腹面白色、喉に一小黒斑あり、渡鳥にして、樹木を害する昆蟲を啄むにより、禁止鳥とす。

コカライ (溝牙類) 動 Proteroglyphia. 蛇類に屬する一亞目にして、其の牙は前面に毒液の流出すべき縱溝を有す、「ハア」の如き之に屬す。

コキ (坑氣) 化英 Fire-damp. 「メタン」と空氣との混合物をいふ、此は自然に石炭坑中にも生じて時々爆發するより此の名あり、尙ほ「メタン」の條を見よ。

コカ

コカン

二二五

コーキ(口器) 動英 Mouth part. 主として節足動物の口部をいふ。

コーキン(合金) 化英 Alloy. 二種又は二種以上の金属を合せたるもの、例へば真鍮、洋銀等の等し。

コーキ(呼吸) 生英 Respiration. 動物が酸素を得んがために行ふ作用にして、空気が呼吸をなすものは、肺に於て空気の遊離酸素を吸収し、水棲動物は鰓により水に溶解せる酸素を吸収す、此の外に「カヘル」の如く濕氣ある皮膚は、其の面に於ても酸素を取ることを得、「ドジョウ」の如きは、腸内に於て呼吸す。

コーキ(呼吸作用) 植 Respiration. 葉の氣孔より細胞内に入りたる、空中の酸素は、化學的變化を起し、遂に炭酸、及水となり、氣孔よりして、再び大氣中に呼出せらる、作用なり、此は植物も動物も同一なり、而して、呼吸作用は、日光の有無に關せず、又葉緑の存否に拘らず、絶えず生活細胞内に行はるるものなり。

コーキ(呼吸樹) 動英 Respiratory tree. 「ナマコ」の排泄腔に開口し、體內に樹状をなして分岐せる器をいふ、呼吸を營む器官なり。

コーキ(硬玉) 鑛 Nephrite. 硬玉は角閃石の一種に

して、古代の人類は之を以て石斧其の他の武器、耳環、什器等を作り、軟玉と共に玉(ギョク)と稱せらる、支那、印度及び新日蘭等の東洋諸國に産す、軟玉に比すれば、更に之よりも硬くして、且つ火に熔けがたし。

コーキ(紅玉) 鑛 「コーホーセキ」を見よ。

コーキ(鋼玉砂) 鑛 「コーギョクセキ」の條を見よ。
コーキ(鋼玉石) 鑛 Corundum. (晶形性狀)(一)六方晶系半面像、斜方六面體、柱、錐形の種々の聚形あり、稀には双晶をなす、塊狀、粒狀、片狀にあらはる、(二)底面及斜方十二面體に劈開あり、時としては完全なり、玻璃光澤、又は眞珠光澤あり、(三)青、赤、黄、褐、黝等の諸色あり、(四)條痕は無色(五)透明乃至亞透明(六)断面は貝殻狀又は粗面狀(七)硬度九、金剛石に次ぎて硬し、(八)比重三・九一四・一(九)成分は Al_2O_3 。種々の夾雜物を混す、(十)炭上にAlの反應あり、酸に溶けず、摩擦によりて電氣を生ず、琢磨したるものは殊に著し、

(種類)左の三種に區別す

(一)青晶玉類
色澤美麗にして、透明或は亞透明なるものあり、寶玉として彫琢琢磨せらるるものは、此の種なり、着色によりて、左の如く區別す。

青晶玉(Sapphire)青色なるもの、

紅寶石(Ruby)紅色なるもの、

東方紫寶石(Oriental Anethyst)紫色のもの、

東方黃寶石(O. Topaz)黄色のもの、

(二)鋼玉石類
東方綠寶石(O. Emerald)綠色のもの、

普通の種類にして、褐、青、黝、黑色のものあり、色澤美ならず、曇暗なるものなり、粉末となし琢磨用の砂粉に供す。

(三)鋼玉砂類

硫鐵礦、或は赤鐵礦と混和したる粒狀のものにして、黑色或は黒黝色を帯び、古來歐人の最も貴重して、琢磨用に供したる礦物なり、

(產地及效用) 鋼玉石は、一般に結晶片岩、石灰岩、花崗岩、の如き古代の岩石中に夾雜して顯出す、青晶玉種は、錫蘭島、東印度、支那に産す、鋼玉石類は、ウラル山、ホヘミヤ、バイモント、其他歐米の諸國に産す、鋼玉砂類は、希臘群島、小亞細亞、ニューヨーク、マッサチウセツツにあり、我國にては、美濃の高山に、青晶玉及鋼玉石を稀に産す、寶石又は琢磨用の砂粉とす。

コーキ(黄玉石) 鑛 Topaz. (晶形性狀)(一)斜方

晶系にして、柱、錐形、底面形、側面形、側軸底面形等種々の聚形あり、柱狀粒狀をなす、(二)劈開は底面に沿ひて完全なり、(三)最強き玻璃光澤あり、(四)無色、酒黄色、青色黝色等、(五)透明(六)断面は貝殻狀(七)硬度八、(八)比重三・四一三・六五、(九)熱すれば電氣を發す、(十)成分は $CaMgSi_2O_6 + Al_2Si_2O_6$ (十一)Al及Fの反應顯著なり、硫酸に一部溶解す、硬度、劈開及化學反應によりて識別するなり、

(產地及現出の狀) 花崗岩、片麻岩等の副成分をなし、綠玉石、電氣石、螢石等と共にあらはる、ブラジル、ウラル、メキシコ等に産し、本邦には長種を産するを以て、世界に有名なり、本邦美濃の惠那郡、近江栗田郡は主産地にして、無色のもの、又稍藍色、褐色等を帯ぶるものもあり、其の大なるものは結晶の長さ四寸に及べり、但し河の礫中

に混在するが爲、自ら摩擦せられて其の稜角鈍なり、(效用) ブラジルは、有名なる黄玉石の産地にして、年々の産額九十五六貫目の多きに及べり、其色皆黄にして、徐々に之を熱すれば、黄色變じて紅色となる、之を「ブラジル紅玉」と云ふ、

コーキ(硬鱗類) 動英 Acanthopteri. 棘鱗類ともいひ、硬骨類の一亞目にして、脊、臀及腹の三鱗は、其の前

コーキ

部の無節の硬棘により支持せられ、多くは海産にして尤も多数なり、

コーキゼー(向氣性)植英 *Aerotropism*. 向化性の特例にして、植物體が瓦斯殊に酸素に對する感應性を云ふ、

コクソ(穀雨)地 二十四節氣の一をいふ、陰曆三月中、陽曆四月二十日なり、

コサキ(常山)植 *Oriza Japonica Thunb.* 芸香料の植物にして、小灌木なり、花小に、乾燥せる果實は、樹上にありながら、果皮自身の彈力によりて、種子を遠く彈き飛ばし、三尺乃至八尺の距離にも達せしむ、葉をもつて膚に付くるときは、漆瘡を發する故に、「サハハルシ」と名くる所あり、莖葉根等を煎じ、牛馬の蟲を殺すに用ゐらる、

コクシヨクサンカド(黒色酸化銅)化 酸化第二銅に同じ、
コクス(骸炭)化英 *Coke*.

コクスセーシツ(コークスの性質) 輕鬆にして、石墨の如き光澤を有す、之を燃やせば火力強く、高き熱を發するを以て、銅、鐵等の如く容易に熔け難き金屬、或は鑽石を熔融するに用ゐる、又石炭、木炭等に代用する等、用途廣し、
コクスセーホー(コークスの製法) 無煙炭等の如き上等の石炭の粉、即ち粉炭を粉碎機にて粉末となし、之を煉瓦石にて築きたる竈に入れて點火し、一時間ばかり、少しづつ

コクソ

空氣を通じて燃したる後、密閉し置くこと一晝夜なれば、悉く「コークス」となる、之を電より押し出だし、水を注ぎて消す、水を注ぐこと遅ければ光澤を發せず、且劣等のものとなる、竈の大小によりて差異あれども、一の竈には五六噸の粉炭を入る、而して凡其の六割の「コークス」を得らるといふ、「コークス」製造の際に生じたる石炭瓦斯は、直に「コークス」に就いては、燈用瓦斯の條下を見よ、
コクシムシ(姑獲)動 *Strophilus*. 米を食害する鞘翅類にして、長さ一分餘、鼻端長く突出して黒褐色を呈し、象の鼻の如し、

コクタン(黒炭)鑛 石炭の條を見よ、
コクチヨ(黒潮)地 「クロシホ」に同じ、

コクシキ(黒曜石)鑛英 *Olivine*. 火山熔岩の地上に噴出せらるるもの、急劇の放熱に逢ふときは、特殊の鑛物の結晶すること能はずして、唯、玻璃様の岩塊となることあり、黒曜石の生成も、亦、之に外ならず、黒色黝色、又は赤褐色にして、貝殻狀断面最も著明なり、我國十勝國十勝川の支流に産する十勝石、及隱岐に産する馬蹄石も、共に此の黒曜石に與へたる異名なり、
コククチヨ(動) *Paradisoidae*. 又風鳥とも譯す、「ニユー

ギニア」島に産する鳥にして、其の種類頗る多く、白色、金色、金屬色等の極彩色を有し、翼、尾に長き髪ありて、美麗な極むる鳥なり、鳴禽類に屬す、

コケツシ(黃血鹽)化 オークケツシ(黃血鹽)に同じ、
コケード(黃經度)天英 *Celestial Longitude*.

天球上一の星Sの黃經度とは、黃道の極点とSとを通過する大圓と、黃道との交り点をTとすれば、春分点よりTまで計りたる弧は即ち是なり、太陽の經度は毎日増加す、春分点にあるときは零度、翌年春分点に来るときは三百六十度なり、
コケムシ(苔蟲類)動 *Bryozoa*. 海棲蠕形動物にして、一見動物の觀を呈せず、石灰質の外骨格を有し、各個體は小にして、口の周圍に多くの觸手を具へ、雌雄生殖の外、又發芽法によりて生殖す、

コケン(光源)物英 *Light source*. 太陽、星、若しくは他の非常に熾熱せられたる物體の如く、自ら光を放つものを、光源或は發光體といふ、

コケシ(高原)地英 *High land*. 高臺の事をいふ、
コケシ(高原湖)地 西藏にある湖水の如く、高原にある湖水をいふ、

コケモ(越橘)植 *Vaccinium vitis-Idaea*. L. 「イオンモ」とも云ふ、石南科植物にして、高山に生ずる小灌木なり

コーケ

コケラ

り、葉は小楕圓形にして、革質なり、花は淡紅色にして、小なれども愛すべく、御花島を構成する植物の一種なり、果實は小き漿果にして食ふべし、
コケラ(動) *Yungipians*. 「キツツキ」に似たる攀禽類にして、樹木を害する小蟲を食するにより益鳥とす、故に保護鳥の一に數へらる、

ココー(口腔)生英 *Mouth cavity*. 「クチ」と俗稱するは即ち口腔のことなり、「クチ」の條を見よ、
ココソ(硬骨類)動英 *Teleostei*. 多數の魚類を總括する一目にして、骨は硬骨よりなり、頭骨堅固にして其の骨の數甚だ多く、脊椎骨は兩凹にして、鱗は覆瓦狀をなし、尾鰭は一般に正形なり、鰓は大抵四對にして櫛齒狀を呈し、鰓蓋あり、鱗は之を有するあり、有せざるあり、淡鹹二水に産し、稀に雌雄同體、及胎生のものあり、五亞目に分つ、

硬骨類 例、「タヒ」「カツナ」
軟骨類 例、「タラ」「ヒラメ」
喉嚨類 例、「コヒ」「イワシ」
固類類 例、「フグ」「カハハギ」
總鰓類 例、「ヨシツウチ」「タツノオトシゴ」
コサ(濃さ)化 濃度に同じ、
コサ(濃さ)化 濃度に同じ、
コサ(濃さ)化 濃度に同じ、
コサ(濃さ)化 濃度に同じ、

コーサ

石の一種にして、 $3MgO, Al_2O_3, 3SiO_2$ の成分を有す、結晶小にして、多くは粒状となりて産出す、之を紅柘榴石 Pyrope と云ふ。

コーザイ(高山彙)地 海面上二千「メートル」以上の高峰を有する山岳の集合をいふ。

コサンカリン(五酸化燐)化英 Phosphorus pentoxide. P_2O_5 五酸化燐は、燐を空气中或は酸素中にて燃焼して得らる、白色無定形の輕鬆なる粉末なり、水と化合する性劇烈にして、空氣に觸る、時は、濕氣を引きて潮解し、水に投する時は微音と熱とを發して溶解し、「メタ」燐酸を生ず。



此くの如く、劇しく水と化合するが故に、數多の有機物若しくは、酸中に含有せる水酸根を水として抽出するに用ゐる、又實驗場に於ては、各種の瓦斯を乾燥するに用ゐる。

コーサシヨクツクン(高山植物群)植 高山植物は水を得ること困難にして、常に強風に當り、又烈しき日光に晒され、晝は體溫著しく上り、夜は急に溫度下るを以て、葉は大抵この激變に堪ゆるを要す、されば、多肉等にして、毛を被り、堅く強き組織よく發達し、幹短くして、葉は叢生せず、幹は往々平臥す、根は、之に反して、比較的太く、

コーシ

二一〇

以て植物體を支持す、コーシ(後肢)動英 Hind limb. 前後二對の脚を有する動物の後脚をいふ。

コーシキン(麴菌)植 Ustilago Virens. Cooke. 米を麴となす菌にして、始め稻の稈に生ずるものなり、之を稻麴と稱す、こは、古來農家によく知られたるものにして、「イネバナ」「コーシマナ」「ホーネンホ」「ホーネンダマラ」等と稱するは、麴菌に犯されたる病稻穂なり、本邦到る處の稻田に發生し、九月下旬頃、稻の成熟に近くに從ひ、漸く人目に觸るるを常とす、或人は、日本酒醸酵の本源なりと稱すれど、未だ信ぜられず。

コーシサン(硬脂酸)化「ステアリン」酸に同し。

コシツ(鼓室)生英 Tympanum. 中耳ともいふ、外、鼓膜に接し、内、内耳に連り、下方は「エースタキ」氏管により咽頭に連る所の一室にして、三個の小耳骨を容る、鼓室は音響の激振を緩和して之を内耳に傳ふる作用をなす。

コーシツカイメン(膠質海綿)動 Myxospongia. 骨髄中に骨髄の骨片なき海綿をいふ。

コーシツキョー(向日性)植英 Heliotropism. 植物の光線に對して感應する能力を云ふ、實驗、「アサガホ」又は「ナメネ」の如き、嫩植物の藥液培養

を施し、之を明窓の下に置く可し、此の如くすれば、是等の植物は、成長するに従ひ、其の葉と葉柄とを光線に向はしめ、全植物は、窓の方に傾くを見る、是即ち、陽性向日性にして、單に向日性とも云ふ。

コーシツヒシヨータイ(膠質非晶體)鑛英 Proteine amorphous. 水中より膠質の物質沈澱し、固結して生ずるもの、例へば、蛋白石の如し。

コーシン(レンズの)(光心)物英 Optical center. 如何なる「レンズ」にも、其の主軸上に特殊の一點ありて、其の點を通過する光線は「レンズ」を通過する後も其の方向を變ぜざるものなり、此くの如き一點を名けて光心といふ、光心の位置は、其の表面の曲率に關するものにして、兩表面の曲率相等しき兩凸、或は兩凹「レンズ」に於ては、光心は其の形の中心と一致し、平凹、或は平凸「レンズ」に於ては、其の曲面の中心にあり。

コーシシバラ(月季花又長春花)植 Rosa indica L. 「コーシシバラ」又「ボタンイバラ」又「イバラボタン」又「シキザキイバラ」とも云ふ、薔薇科中、最も普通なる「バラ」の一種なり、花莖花にして、甲蟲媒花なり、四季に花開く、故に長春花の名あり、盆栽とす。

コシヤリキン植 Botrytis Bussiana. 蠶兒に寄生して、「カ

コーシ

コーシヨ

二一一

シヤリ」又は「コシヤリ白蠶蠶」と稱する病を起す、菌類の一種にして、寄生菌なり、學名を「ボトリチス、バシアナ」と云ふ。

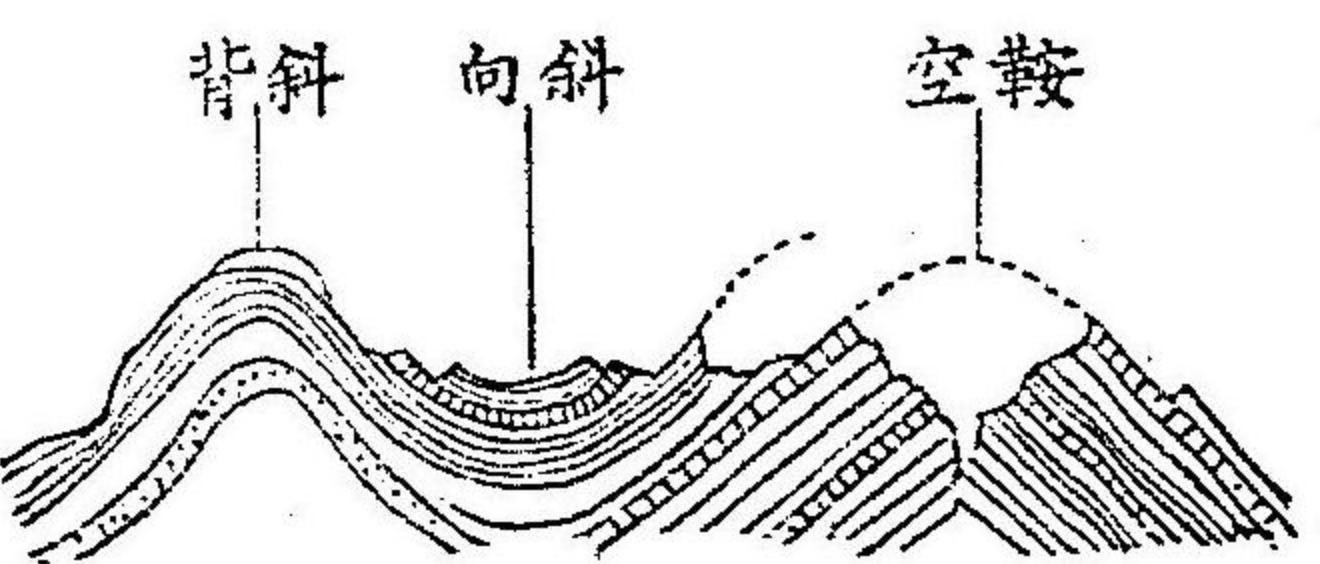
コーシヤ(向斜)地英 Synclinal.

地層は、地皮の褶曲によりて、波状をなす、其の波の谷に當る部の地層は、兩側より中央に向ひて傾斜す、之を向斜と云ふ。

又波の山に當れる部は、中央より兩側に向ひて、傾斜す、之を背斜 (Anticlinal) と云ふ。

背斜層は、水蝕作用によりて、其の中間を除去せられて兩翼の連續を缺き、空鞍 (Air saddle) を生ず。

コーシヨ(湖沼)地英 Lake. 陸上の凹處に水の溜りたるものを湖水と云ふ、之を大別して凹地湖、堰塞湖の二となす、凹地湖は地表に凹所を生じ、水の此處に集りたるもの、又堰塞湖は元來凹所にあらずも堰塞せられて水の滯溜を來したるものなり。



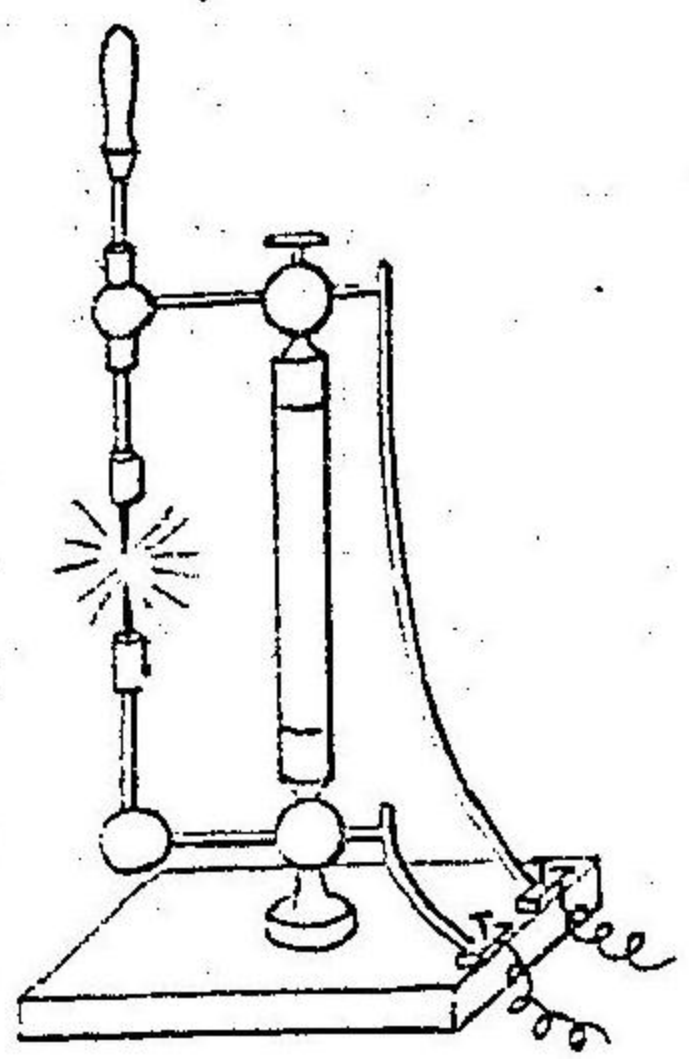
地盤の變動 琵琶湖、十和田湖
汀線の變化 アラル海、裏海

凹地湖	河水の削磨	印度沼
	氷河の削磨	瑞西に多し
	風の削磨	中央亞細亞に多し
	舊噴火口	箱根蘆の湖
	火山噴出物	日光中禪寺湖、檜原湖、秋本湖
	山崩	山間に往々此の例を見る
	砂洲	猿間湖、北溈、
堰塞湖	氷河の堆石	瑞西及北獨逸に多し
	生物の作用	珊瑚礁内に見る

コーン・オナツ (甲牀軟骨) 生英 Thyroid cartilage.

喉頭の前方に突出する骨にして、喉頭を形成する最大なる骨をいふ「コートー」の條を見よ。

コーン・デキト (弧狀電氣燈) 物英 Arc lamp. 弧狀燈と同じ。



コーン・ト (弧狀燈) 物英 Arc lamp. 弧狀燈の主要部は、二本の尖りたる炭素棒より成る、今二つの尖端を上下に相接觸せし

め、其の上の棒を陽極に連れ、下の棒を陰極と連結し、強き電流を通ずる時は、接觸部は其の抵抗甚だ大なるか故に灼熱せられ、炭素の蒸氣を生ずるを以て、其の尖端を少しく離隔するも、電流は尙之に沿ひて通じ、棒の間に火花を生じ、棒の尖端は熾熱して白光を放つべし、而して灼熱に伴ひ、炭素は次第に燃焼し、棒の尖端は次第に離るゝが故に、整理器と稱する特別の装置を以て、其の距離を適當に調節すれば、白光の輝き絶ゆることなし。

コーン・クダツロシ (黄色血滲鹽) 化 黄血鹽と同じ。

コーン・イ (硬水) 化英 Hard water. 炭酸カルシウム「硫酸」カルシウム等を溶解せる水をいふ、一時の硬水及び永久の硬水の別あり、各其の條を見よ。

コーン・イ (向水性) 植英 Hygrotopism. 向水性の特例にして根が水の刺激に感應する能力を云ふ、或は之を陽性向水性と云ふ、此れ植物生存に最も必要なる者なり、「モーリッシュ」氏向水器によりて、顯著なる實驗を試むることを得。

コーン・イ (降水量) 地英 Rain fall. 雨、雪、霜、露の何たるを問はず、空中より降下するものを盡く雨量計に受け、其の筒内に溜りたる水の深さによりて、其の降下量

を測りたるものを云ふ、降水量は又雨量とも稱す、其の條下を参照すべし。

コーン (糊精) 化 「デキストリン」に同じ。

コーン (孔性) 物英 Porosity. 總て物體の各部は、一體に連続したるものにあらずして、其の實極めて小さき空隙を有す、この性質を物體の有孔性、又は孔性と稱す、今茶碗の中に水を入れ、之に砂糖を溶かすも、水の立積著しく増すことなきは、水の孔性あるによるものにして、水の分子間の空隙に、砂糖の分子の侵入したるなり。

コーン (恒星) 天 Fixed stars. 天空に光を發せる種々の天體あり、其の多くは恒星なり、太陽は恒星の一にして、其の他の恒星は一般に、太陽系より非常に大なる距離にありて、其の最も近きものと雖も、太陽と地球との距離の二十五萬倍に及べり、暗夜視力の強き人には、全天球に於て六千位の恒星を見るを得べし、望遠鏡の大なるものに見れば、一億以上に達す、古來、肉眼にて見ゆる星を光の強さにより六等級に分てり、光度計によりて種々の星を見れば、一等星の光の強さは、平均六等星の百倍なり、一等を上る毎に、其の光の強さ大凡二倍半なり、古來、星の自然の配置により、之を種々の群に分てり、之を星宿又は星座と云ふ、此等の恒星の比較的位は、古來大變化なきも少し

づつは變動するものにして、太陽系の如きも、或る速度を以て空間を運動せり。

コーン (互生) 植英 Alternite. 莖幹の毎節より、只一葉を出し、葉は其の高さを異にし、交々葉の他面に著くとを云ふ。

例「さくら」櫻、「はばき」山茶等。

コーン (合生又着生) 植英 Cohesion. 同機關或は他機關の着生するを云ふ。

コーン・カイ (古世界) 鑛英 Palaeozoic group.

(甲)カンブリアン系 (Cambrian system) 成立 粘板岩、硬砂岩、變岩、石灰岩、(我國輝岩) 化石 (Alumina, porospingia, Trilobella, Ardlis, 三葉蟲、筆石、等)

分布 下秩父地方(本邦)

(乙)シルリアン系 (Silurian system) 成立 粘板岩、硬砂岩、等

化石 鱗木、封印木、蘆木、等又動物には海綿、有孔蟲、海百合、海膽、筆石、鏈サンゴ、等あり

分布 輝岩の下部、上州御荷峰山、

(丙)デボンアン系 (Devonian system) 成立 變岩、石灰岩、無燧炭、黒炭、砂岩、粘板岩、

化石 管束植物、上靴珊瑚、石燕を特徴とし、甲鱗魚現はれたり、(魚類は隆昌を極めたり故に又魚類系とも云ふ)

分布 輝岩の上部

(丁) 石炭系 (Carboniferous System)

成立 硬砂岩、砂岩、礫岩、石灰岩、石膏、岩鹽、石炭等、化石 管束植物(蘆木封印木、等) 不正尾甲鱗魚類、肺魚類なり、兩棲類、始めて、此の系にあらはれたり、

(戊) 二疊系 (Permian System)

成立 砂岩、礫岩、粘板岩、石膏、白雲岩、岩鹽等

コセキ(鑛石) 鑛英 Ores. 金屬を含有する鑛物を云ふ、

コセキ(硬石膏) 鑛英 Anhydrite. (晶系及性状)

(一) 斜方晶系 (二) 白、黝、紅、黄、青等の諸色あり (三) 條痕黝白色 (四) 玻璃又は眞珠光澤 (五) 硬度三・一三・五 (六) 比重二・九一三・五(七) 成分は $CaSO_4$ (八) 酸類に溶く、硬度及び水の有無によりて石膏と區別す、

(産地及效用) 石灰岩中に現出す、又は石膏或は石鹽に隨伴す、ウルテンアルガ、ハンノイヴァール、ハンガリー、ニユーヨルク等に産すれども、石膏の如く多からず、是れ其の水分を吸収して、石膏に變するが爲なり、彫刻の材料とす、

コセーグツ(恒星月) 天英 Sidereal revolution or

Sidereal month. 月が、天球上恒星の間を運動し、地球の周圍を一週轉するに要する時間を、恒星月と云ふ、即ち月が眞に地球を一周する時間なり、其の精密なる數は、二十七日七時四十三分十一秒五四なり、

コセーサンツ(互生三列) 英 Tristichous or three-ranked. 第二葉は第一葉と異高にして、莖周三分の一を隔て、第三葉、亦第二葉より莖周三分の一を遠かり、漸次此の如くして、第四葉は、正に第一葉の直上に來ること云ふ、例、莎草科、

コセーシツ(恒星時) 天英 Sidereal time. 春分點の時角を、觀測者の居る場所の其の時刻の恒星時と稱す、春分點は、殆ど一日に地球を一周し、角速度殆ど一定せる故に、春分點の時角は殆ど一日に三百六十度だけ變ず、故に春分點の時角を以て時を計るなり、春分點の時角が零なるときは恒星時は零なり、

コセーシツ(恒星日) 天英 Sidereal day. 春分點が某地の子午線にある時より、次に其の子午線に來るまでの時間を一恒星日と云ふ、物理學等にては、星が子午線にありてより、次に其の子午線に來るまでの時間を、一恒星日と云へども、嚴密には一致せざるが故に、正しく言ひ方にあらず、恒星日は即ち地球が眞に一回の自轉をなすに費す時間

を云ふ、

コセーセキ又ユガセキ(虎睛石又虎眼石) 鑛英 Tiger eyes. 「ヤキホー」を見よ、

コセツ(交接) 動英 Sexual intercourse. 男女、雌雄が受胎作用をなさんためにに行ふことを云ふ、

コセーランツ(互生二列) 植英 Distichous or Two-ranked. 第二葉は、第一葉と異高、反對の側にあり、第三葉は直に第一葉の直上に、第四葉は第二葉の直上に位すること云ふ、

例 禾本科、

コセーネン(恒星年) 天英 Sidereal year. 地球が星に對して或る場所を出達し、再び其の同じ場所に歸り來るまでの時間、即ち眞に地球が太陽の周圍を一旋轉する時間を云ふ、此の時間は平均時にて計れば、三百六十五日六時九分九秒なり、

コセシ(光線) 物英 Ray of light. 光が、組織一樣なる光媒中を通過する間は、其の通路は一直線をなす、この直線を稱して光線と云ふ、

コセシ(鑛泉) 地英 Mineral spring. 特に多く鑛物分を溶かし含める泉を云ふ、鑛物分の主なるものは、石灰、苦土、曹達の炭酸鹽類石灰及曹達の、硫酸鹽類、鹽化曹達並

に少量の硅酸、磷酸、硝酸等の鹽類等なり、

コソツ(光素) 物英 Light corpuscle. 光の放射説の條を見よ、

コソツ(酵素) 化英 Enzyme. 醱酵を起す無機物を云ふ、例へば「インメルチン」「ヂアスターゼ」「ヂャマーゼ」の如し、

コソツ(楮) 植 Broussonetia Kasinoki Sieb. 桑科の木本にして、葉は卵形をなして、往々分裂し、花は單性にして、雌雄の異花を同株に生ず、子房は成熟すれば、紅色の果實となり、色美にして、味も亦佳なり、本邦の原産にして、到る處に自生するを見る、之を栽培し、其の内地纖維を

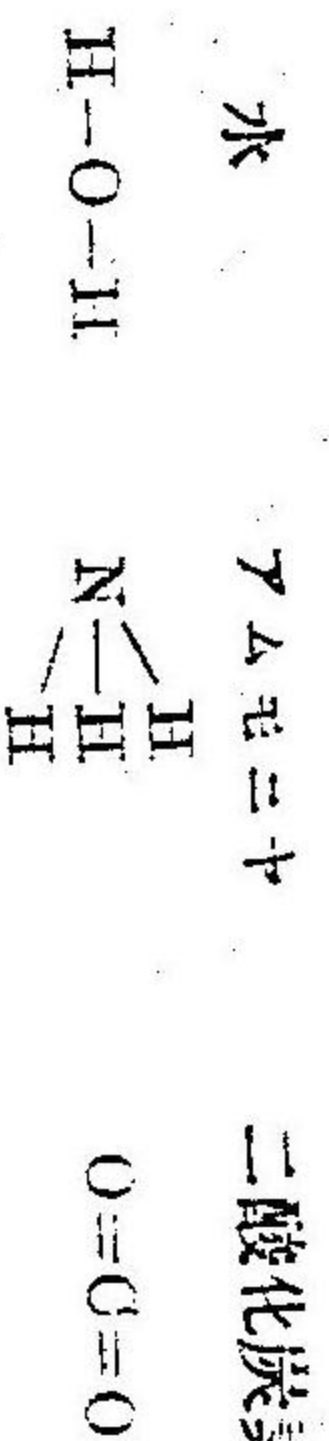


紙の原料とす、其の纖維を放大せるもの上圖の如し、楮紙には、天工帖、海美濃、紋美濃、奉書紙、半紙、小菊、杉原、延紙、西の内等の商品名あり、

コソルイ(口足類) 動 Stomatopoda. 胸甲類に屬する一亞目にして、「シヤコ」ヲ含み、體は附屬器ある十九節

と、附屬器なき一尾節とよりなる、頭胸部の脚はよく發達し、三個の胸節を露出、肢は六對あり、就中五對に鰓あり、

コトシキ(構造式) 化英 Constitutional formula. 一分子内に於ける原子の結合の模様を示す式を構造式といふ、例へば水、「アムモニヤ」二酸化炭素の構造式は左の如し、



コトテキノタ(構造的の谷地英 Structural Valley. 地層の屈曲によりて生じたる谷を云ふ、

コトルイ(紅藻類) 植 Rhodophyceae. 藻類中「クロコイル」Chlorophyll 及「フィコエリトリン」phycoerythrin. を含有する藻類にして、四分胞子を生じて繁殖す、「アサクサノリ紫菜」「テンクサ、石花菜」「トサカノリ絹脚菜」等は、其の普通なるものなり、

コトイ(個體) 動英 Individual or Person. 構造上機能上に於て、完全に獨立して生活し得るものいふ、

コトイ(固體) 物英 Solid body. 固體とは、金石木竹等の如く、其の分子の凝集力甚だ強大にして、よく其の形

體を保ち、或る特殊の力を之に加ふるにあらざれば、其の形態を變ずること能はず、其の一端を持って、其の全體を動かして得べきものなり、

コトイ(剛體) 物英 Rigid body. 如何なる力の作用を受くることありとも、毫も其の容積、又は形狀等に變化を起さざる物體を剛體と稱す、

コトク(光澤) 鑛英 Lustre. 鑛物に投射する光線は、其の表面に於て或變化を受けて反射するにより、一種の艶を生ずるを云ふ、此に金屬光澤及非金屬光澤の別あり、(詳しくは各其の條下を見よ)

コトク(木靈) 物英 Felo. 反響の條を見よ、

コチ(牛尾魚) 動 Platycephalus. 八九寸の大きに達し、體扁く、眼は上向し、尾は往々にして細長なり、近海の土砂ある海底に棲み、保護色を有す、眼上に寄生蟲(Lernaeae)の寄生すること多し、味佳なり、

コチ(向地性) 植 Geotropism. 根は重力に感應して、地心に向ひ、深く其の體を浸せむとする性を有す、是即ち向地性なり、或は之を陽性向地性とも云ふ、蓋し陰性向地性(即ち背地性)に對する語稱なり、

コチ(甲蟲) 動 前翅が革質をなせる昆蟲、即ち鞘翅類のことなり、

コチ(高潮) 地 大潮に同じ、

コチ(蝴蝶骨) 動英 Sphenoid bone. 蝶状を呈する骨にして、頭腔の前上部の壁をなす、

コチ(腔腸動物) 動英 Coelenterata. 「クラゲ」「イソギンチャク」「サンゴ」の類を含める一門なり、體は鐘状若くは圓筒状にして、放射同形をなす、構造一般に囊状にして、體壁は僅に二層の膜よりなり、或は其の間に更に一層を挟むことあり(中胚葉)、口の周には觸手を稱する絲状物を生じ、内部の空所は高等動物の腸に匹敵し之を腔腸といふ、口は即ち肛門を兼ねるものなり、腔腸動物は、特性として、外面の皮膜中に、無數の刺絲胞を稱する小胞を發す、此は外部の刺激に應じ、中に含有する微絲を放射し、物を刺す力あり、以て小動物を刺食す、筋肉、神経皆發達の度低し、肛腸動物は大抵海産にして自在に浮遊せる者その他物に附着せるものあり、甲は圓盤状若くは鐘状をなし、之を水母といひ、乙は圓筒状にして、之を「ポリプ」と稱し、口を體の一端に開き、他の一端によりて他物に固着す、三綱に分す、

腔腸動物 珊瑚類 例、「サンゴ」「イソギンチャク」
水母類 例、「ミヅクラゲ」「ヒモクラゲ」
水蛭類 例、「カヤ」「カツオノエボシ」

コト(骨格) 生英 Skeleton. 一個體を形成する骨の全部をいふ、之に二種あり、一を内骨格、他を外骨格といふ、人の骨格の如きは前者に屬し、昆蟲類の骨格の如きは後者に屬す、

コト(骨髓) 生英 Marrow. 太き骨の中軸部にある油狀物質をいふ、血液は此の所を通過するとき白血球が赤血球に變ず、骨が中空にして中實ならざる所以は、柱に金屬の筒柱を用ゐるが如く、中實に作られたるよりも堅固なるを以てなり、

コト(骨炭) 化 獸炭に同じ、

コト(骨盤) 生英 Pelvis. 薦骨及無名骨よりなる一の骨帯をいふ、肩帯と其の用相近し、

コト(骨膜) 生英 Periosteum. 骨の表面には、強靱にして薄き絹の如き光澤ある膜あり、之を骨膜といふ、

コト(鋼鐵) 鑛 「テツ」の條を見よ、

コト(高低波) 物英 Up and down wave. 長き綱の一端を固定し、他端に棒を附し、之を打ち振りて生ずる綱の運動、及び水面に生ずる波の如く、物體の振動が、其の振動の傳はり行く方向と直角なるものを、高低波又は横波と稱す、

コト(交點) 天 Note. 太陽の見かけ上の軌道なる黃

道と、月の軌道なる白道との交り、交点と云ふ。
コーテ (公轉) 地 Revolution. 地球が其の軌道に従ひ、太陽の周圍を旋轉する運動にして、其一回轉に三百六十五日五時四十八分四十八秒を要す、公轉の速度は近日點にありては最も速く、遠日點にありては最も遅し、地球の外、太陽系に屬する遊星も、亦各其の軌道によりて、公轉を行ふものなり。

コー (孤島) 地 Solitary island. 海中に孤立する島をいふ。

コー (弧燈) 物 英 Arc lamp. 弧狀燈を見よ。

コー (鼓動) 生 英 Palpitation. 左乳房下に耳を附けて聞くときは、ある音響の發することを知るべし、此を心臟の鼓動といふ、此に長短の二音あり、長音は心臟が血液を絞り出すために收縮する音にして、短音は流れ出でたる血液が再び心臟に歸らんとして半月瓣に衝突して發する音をいふ、俗に動氣と稱するは即ち是なり。

コー (喉頭) 生 英 Pharynx. 上は咽頭に連り、下は氣管に通ずる部分にして、三個の軟骨よりなる、其の一は上前方にありて、外部より探知し得る軟骨にして、長方形の板を其の兩端並行するまで曲げたるが如き形をなし、後方のみ切開す之を甲状軟骨といふ、其の下に環狀軟骨あり、

環狀をなし、前方狭く、後方廣し、此の後部の廣き中央兩端上に牛角の如き盃狀軟骨一對あり、盃狀軟骨は少しく水平に位置を轉ずることを得、甲状軟骨は其の後方環狀軟骨に附着せる點を中心として上下に移動す、聲帯は一對の肉膜にして甲状軟骨の裏面の中心より盃狀軟骨に透れり、而して此等二骨の變位により聲帯を伸縮開閉し、以て種々の音を發することを得、鳥の聲帯は氣管と氣管支との境界にあり。

コー (光度) 物 英 Intensity of light. 光度は、一平方種の面積を有する表面の受くる光の量を以て測るものにして、光源よりの距離の自乗に反比例するものなり。

コー (硬度) 鑛 英 Hardness. 物體を壓擦するに當り、抵抗する力なり、勿論壓力に抵抗する物質の固着力とは、異なるものなり、「コードケイ」の條參照。

コー (高度) 天 英 Altitude. 觀測者の眼と天體とを結合する直線が、地平面となす角を、其の點の高度と云ふ、或は地球上の一點を通過する垂線が地平線と交はる點と、其の點との間の大圓の弧の大きさを、其の點の高度と云ふ、高度を計るには、地平線より上の方に正に計り、下の方に負に計る。

コー (洪塘) 地 英 Levee. 河の兩岸に洪水のため

に生じたる自然の堤をいふ。

コー (坑道) 鑛 鑛坑の地下に於ける「トンネル」様の横坑なり。

コー (黃道) 天 Elliptic or orbit of the sun. 毎日太陽を觀測し、其の赤緯度と、或る一定の星よりの赤經度の差とを測り、太陽の日々に於ける地球上の位置を畫けば、太陽は、一年間に天球上に一の太圓を畫くことを知る、此の大圓を黃道と稱す。

コー ケイ (光度計) 物 Photometer. 發光體の光の強弱を比較するに用ゐる所の裝置にして、普通に用ゐらるるは、「アンゼン」の光度計、「ランフォード」光度計、及び石蠟光度計とす、詳細は各條下に就きて見よ。

コー ケー (硬度計) 鑛 英 Scale of Hardness. 鑛物の硬度を計るは、或る鑛物數種を取り、之を標準として、之と比較して、他の鑛物の硬さを定むるにあり、普通は、「モース」の硬度計 (Mohs' scale of Hardness) になり左の十種の鑛物よりなる。

- 一度、滑石 Talc (石蠟と同硬度)
- 二度、石膏又岩鹽 Gypsum or Rock-salt.
- 三度、方解石 Calcite.
- 四度、螢石 Fluorite.
- 五度、燐灰度 Apatite.
- 六度、正長石 Orthoclase.

コード

- 七度、石英 Quartz.
- 八度、黃玉 Topaz.
- 九度、鋼王 Corundum.
- 十度、金剛石 Diamond.

但硬度計なきときは左の標準によるべし、爪の硬度 二度半、硝子窓五度半、小刀の尖頭六度―七度、今或る鑛物の硬度を定むるには、例へば方解石と擦りて、互に疵を留むるときは、其の鑛物の硬度を二とす、若し方解石に疵を留むるも、方解石によりて疵を生ぜざるときは、更に螢石にて擦り、かくて螢石によりて疵を生ずれば其の鑛物の硬度は、方解石と螢石との間にあるべきを以て、之を二五と定むるなり。

コー ケン (高度圈) 天 英 Parallel of altitude. 天球上に於て地平線に平行なる小圓を高度圈と云ふ。

コー トー (後頭骨) 生 英 Occipital bone. 頭の後壁をなす骨をいふ、其の後下面には一の大孔ありて、脊髄に通ず、其の兩側に各一突起あり、之を踝狀突起といひ、第一頸椎の上に座し、以て頭を俯仰せしむ。

コー セキ (古銅石) 鑛 英 Bronzite. 輝石の一種にして、斜方晶系に屬す。

コー ノ ケー シヤ (黃道の傾斜) 天 英 Obliquity of the ecliptic. 黃道面が赤道面となす角を名けて、黃道の傾斜と云ふ、其の角度は即ち約二十三度半なり。

コード

コードーメン(黄道面)天英 Plane of Melipite. 太陽は、一年間に地球上に一の大圓を畫く、其の大圓を黄道と云ふ、其の黄道の平面を名けて、黄道面と云ふ。

コナラ(枹又柞又小檜又孛落樹)植 Quercus glauca (Tuliera, Bl. 殼斗科の落葉樹にして、葉は楕圓形、若くは倒卵圓形なり、「クマギ」と異にして、樹皮縦裂すること少し、葉も「クマギ」より小なり、果實には、「クマギ」の如き苞鱗を有せず、北地及寒地に生ず、關東平原より北方岩手邊に多し、薪炭材として「クマギ」に次ぎ有名なり。

コナンチク(江南竹)植 「モリソウチク」を見よ、コナガシハ又ハリギ(側柏)植 Pinus orientalis, End. (二)原産地は支那にあり、「ヒバ」に似たれども、枝葉直立して、恰も掌を合せたるが如く、一見區別することを得、庭木として栽培す、其の實は藥用に供す。

コノトリ(鶴)動 Oeconia hoyemana Swinh, Stork. 全形「ツル」に似、嘴角質にして長く、頭と角度をなす、眼の周圍、特に其の前後は裸出するを以て、「ツル」の如く愛らしからず、後趾よく發達し、地に接す、胸に長毛ありて垂下す、此の鳥には聲帯なく、從て發聲すること能はず、然れども嘴を撃ちて之に代用す、涉禽類に屬し、又「コージル」と稱せらる。

コソフタ(海鼠腸)動 「ナマコ」の腸をいふ、珍味として賞讀せらる。

コハイン(木葉石)鑛 「カセキ」の條を見よ、コバイ(光媒)物英 Medium of light. 諸透明體の如く、光の傳播する所の媒介物となる所のものを稱して光媒といふ。

コク(琥珀)鑛英 Amber or Succinite. (一)非晶塊(二)蜜黄又は赤褐色(三)白色の條痕(四)脂肪光澤(五)硬度二・二・五(六)比重は一・七(七)成分は (CH₂)_n (八)摩擦によりて電氣を起す、燃ゆれば一種の臭氣を放つ、北獨逸の海底より多く産す(九)裝飾及上等のソニス製造及香料となる(十)前世界の針葉樹、殊に、「ビヌスサクシファー」の樹脂、地中に埋没し化成して、今日殘存したるもの、往々、昆蟲木片等を包裹したるものを産することあり、主として第三紀地層中、石炭に混じて出づること多し。

コソイタダキ動 Felmeis. 棘鱗類に屬する魚にして、頭の背面に長楕圓形の吸盤ありて他物に吸着することを得、此の吸盤を以て船體、或は他の大魚の體に吸着し、大口を開きて、流れ来る食物を捕ふるなり。

コバンデリー(交番電流)物英 Alternating current. 交流電流を見よ。

コウシ(皓礬)化英 White vitriol. 硫酸亞鉛に同じ。

コウシ(黄斑)生英 Yellow spot. 眼球の後方中央にあり、少しく凹み、尤も明瞭に光を感じる所なり、「ガンキユー」の條参照。

コバルト化英 Cobalt. Co. 原子量五十九 「コバルト」は、砒「コバルト」鑛、輝「コバルト」鑛等となりて存在す、「コバルト」は、其の色澤銀に似、僅に赤色を帯べり、鐵より稍硬し、熔點は千四百度なり、延性及び展性に富み、且つ磁性を有す、赤熱にては酸化すれども、常溫にては鐵を生ぜず、硝酸若しくは鹽酸を加へて熱すれば、容易く溶解して硝酸「コバルト」、若しくは鹽化「コバルト」を生ず、其の化合物は青色顔料とし、或は硝子、陶器等に青色を附するに用ゐる、「コバルト」は又「コホルト」と稱す。

コヒ(鯉)動 Cyprinus. 英 Carp. 淡水魚中尤も普通なるものにして、二對の觸角を有し、蒼黑色を呈し、腹部は淡黄色なり、世界各國皆之を産し、我邦亦各地の湖、川に産す、群棲し、主に植物質を食す、産卵期に至れば、雌は雄を誘ひて、淺く水藻の繁茂する所に來り、早朝放卵す、一年にして九寸、二年にして一尺五寸、三年にして一尺八寸位に達す、尤も大なるものは三尺に達す、喉鰓類に屬す、コヒゲン植 燈心草科植物にして、細く且つ短し、二本を纏

きて席を織る、故に又「中繼」とも云ふ、所謂備後表にして上等の席なりとす。

コヒーシ(珈琲素)化英 Caffeine. 茶素に同じ。

コヒーノキ(珈琲樹)植 Coffea arabica. 茜草科の常綠小灌木にして、葉は楕圓狀披針形をなして、對生す、花は葉腋に生じ、白色にして、香氣あり、元來「アビシニヤ」の元産なり、果實は紅色の漿果なり、大き胡椒の如し、中に二子あり、この種子をあぶりて粉末せるものは、即ち「コヒー」なり、熱湯を加へて飲料に供す、甚佳味あり、蓋し、此の種子中に Caffeine. と稱するものを含むによる。

コヒーロイ(喉鰓類)鰓口類に同じ。

コヒラー物英 Colherer. 「コヒラー」は、西曆千八百九十年、「アラレリ」及び「ロッヂ」の發明したるものにして、「ヘルツ」の電氣波に感じて、輪道の抵抗を減すべきものなり、即ち長五厘許りの硝子管に金屬の細粉を充たし、其の中に少しの水銀を混じ、兩端より金屬の柄を有する金屬板を以て之を挟みたるものなり。

コヒツ(鑛物)英鑛 Minerals. (一)常に一定の化學成分を有す(二)其の質均一なり、(三)多くは一定の形狀(結晶)を具備す(四)例へ



コブナ

ば石英、長石、雲母等の如し、
コブナサ (蓋草) 植 *Arthraxon ciliare*, Beauv.
禾本科植物にして、葉は卵状披針形をなし、花は數個の開
出せる穗状花序に排列す、此を乾かして、黄色の染料を製
す、

コペンカカン (合瓣花冠) 植 英 *Ganopetalous*, 花冠
の瓣片連合せるもの、此に左の種類あり、

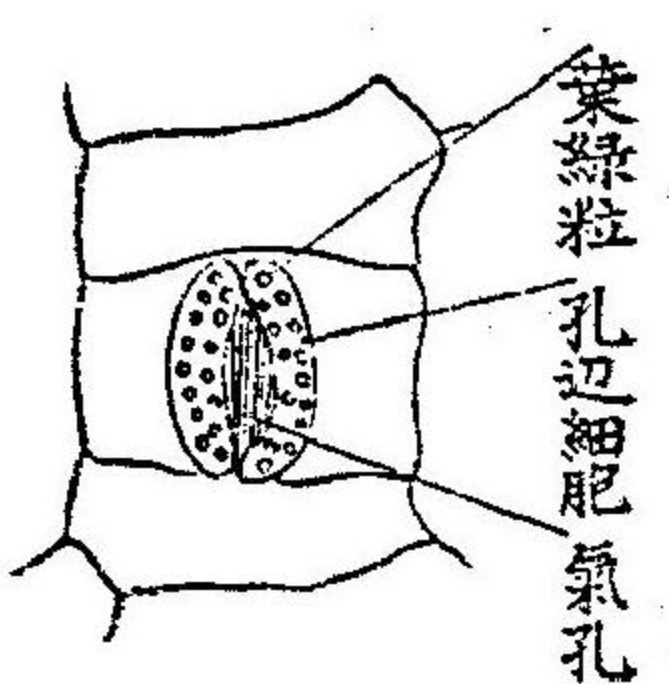
- 壺状 (ドータンツツシ)
- 管状 (菊科に例あり)
- 鐘状 (キキョー)
- 漏斗状 (アサガホ)
- 高盆状 (カーバイ)
- 輻状 (ルリザサ)
- 舌状 (キク)
- 唇状 (ナドリコソウ)
- 假面状 (キンギョソウ)

コヘンサイホー (孔邊細胞) 植 英 *Guard-cell*, 氣孔
の周圍に位する細胞にして、生活力を有し、外界の刺激に
應じて、氣孔を開閉せしむる作用をあらはす、

コホ (酵母) 化 英 *Yeast*, 醱酵を起すもの
にして、有機酵母及び無機酵母の別あり、無機酵母は酵素

コホ

有機酵母は酵母と稱す、各其の條を見よ、



コホー (干菱) 植 *Arctium
lappaceum*, L. 菊科の草本にして
長柄の大葉を有す、花は帯紫色
にして、頭状花序に排列し、刺状
の總苞之を圍繞す、根は多肉に
して、多少粘性を帯び、「イメ
リン」を含有す、其の色帯黒色なり、食用に供す、

コホーセキ (紅寶石) 鑛 英 *Ruby*, 鋼玉石の一種にして、
「ピルマ」セーロン」島、支那の天山、等より出づ、紅寶石は
紅玉とも云ひ、濃紅色を帯び、且つ毫も瑕瑾なきものは、
寶石中價最も貴きものにして、殆んど金剛石に二倍す、即
ち第一等の金剛石は、「一カラット」(我が重量五厘四毛六
絲)に付凡百五十圓の割なれども、第一等の紅玉に至りて
は一カラットに付、二百乃至二百五十圓の割合なり、殊に
一カラット以上の重さあるものは、更に價貴きものなり是
紅玉は金剛石に比し、其の大なるもの極めて稀なるが爲なり、
方今其の最大なるものは、五十カラット(二匁七分三厘)
ありと云ふ、(猶「コキョクセキ」を見よ)、

コホーチャ 植 「カハラケツメ」に同じ、
コホネ植 「カハホネ」に同じ、

コイササ 植 一個所より五葉を生ず、苦竹類中、最も小な
る一品にして、高さ四五尺にすぎず、

コウ (鼓膜) 生 英 *Tympanic membrane*, 外耳、中
耳の境界にある膜なり、「ミミ」の條参照、

コマケ (胡摩竹) 植 「クロチク」を見よ、

コマドリ 動 *Colinus*, 英 *Rolin-red-breast*, 囀聲愛
すべき鳴禽類にして、體長四寸五分、背面、翼、尾は帯灰
褐色、腹面帯白色、額及喉部帯黄赤色を呈す、地上に棲息
し、一年二回産卵す、

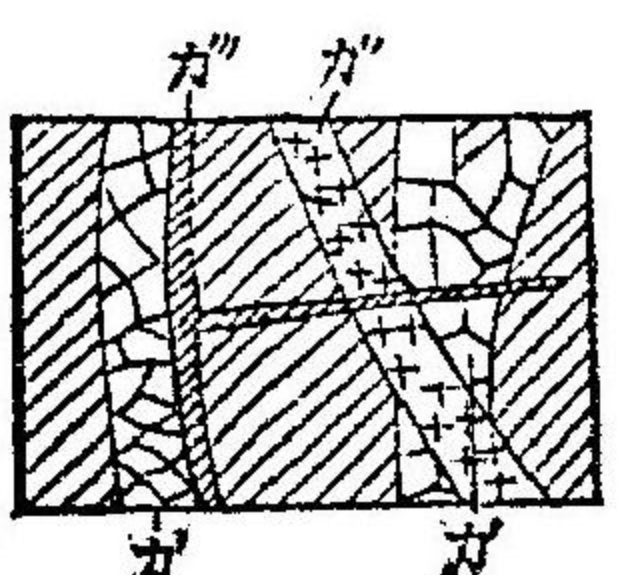
コミンク (鑛脈) 鑛 英 *Mineral Vein*, 層状岩、
及塊状岩の何れたるに論なく、其が地殻を構成せる中に罅
裂ありて、鑛物が其の罅裂中に脈状をなして存在するを云
ふ、而して此の如く、鑛脈の生ずるは、物理的化學的の兩
作用に屬するものなり、次の二種あり、

- (A) 金屬鑛脈 *Metaliferous Vein*, 金屬を産するもの、
- (B) 非金屬鑛脈 *Non-Metaliferous Vein*, 非金屬を産するもの、

コミンク (鑛脈) 鑛 鑛脈の斷脈) 鑛 裂罅中の鑛脈、數
多ある時は、甲鑛脈は、乙鑛脈を横切り、乙鑛脈も、亦
丙鑛脈を横切りて、並行をなさざることを云ふ、圖の如
し

コム

コム (護膜) 化 英 *Gum*, 熱帶地方に産する或植物より
滲出する液を乾かして、樹脂状とな
したるものなり、含硫「コム」の條も
見よ、



コムギ (小麥) 植 *Triticum sativum*
var. Tann. Vulgare Hack.
小麥は大麥に對して、小なる麥を示
せるものにあらず、「コムギ」は粉麥の意なりと云ふ、禾本
科の草本にして、小穗花序は二個以上の花よりなり、且つ
内外殼は緊しく閉ぢざるより、直に大麥と區別することを得、
果實は穎果なり、稈を製紙の原料とす、又は麥稈帽子
を作り又玩具を製す、種子を粉末として麩類、麵麩、饅頭、
煎餅等を製し、粉末中の蛋白質を以て、麩筋(フ)を製し、
其の「フ」を去りたる殘質、即ち澱粉を漿粉(シヨーフ)と
稱す、「シヨーフ」より「金ピラノリ」を製し、紙類板等を接
ぐに用ゐる、種子は亦味噌醬油等の料となす、

コムギコソエ (小麥粉の成分)

水	十三、五六%	含窒素化合物	十二、四二%
脂肪	一、七%	糖類	一、四四%
「コム」及「デキストリン」	二、三六%	澱粉	六十四、〇七%
纖維	二、六六%	灰分	一、七九%

コマイ

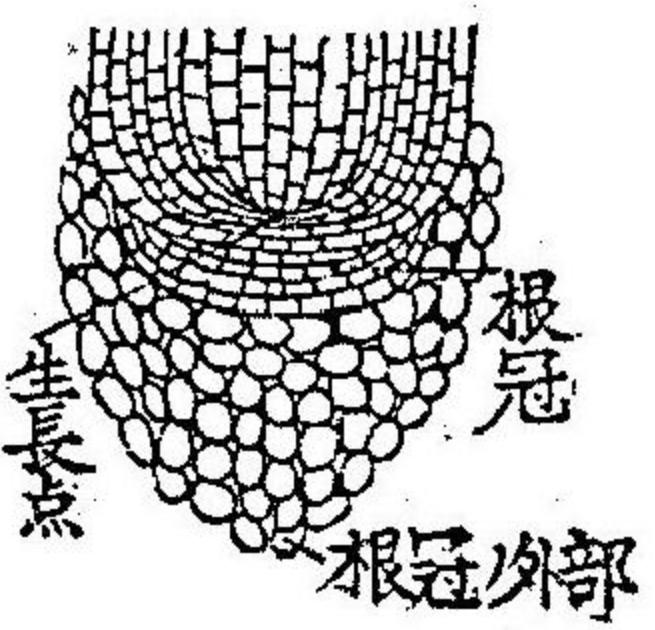
コム

ゴムキ植 *Ficus elastica*. 蔦麻科植物にして、英領印度に産す、通常用ゐる「弾力ゴム」「ゴム管」等は、此の樹脂より製出するものなり、

コムラ(腓)生 *Call of the leg.* 脛の背面の脹れて肉多き所をいふ、

コム(根)化英 *Rational* 電解質例へば水、鹽酸、硫酸、硝酸、鹽化銀、「アムモニヤ」等の中にて、電離して「イオン」となり得る基を根と稱す、根には單根複根等あり、各の條を見よ、

コムアツリヨク(根壓力)植英 *Root-pressure*. 根に生ずる根毛は、滲透作用に依りて、地中より水を吸収し、從ひて、根毛内には、膨壓の増盛を來し、以て其の近傍にある細胞を壓迫す、此の壓迫せられたる細胞は、やがて根毛細胞の膜より濾過せられたる水を得て、其の膨壓高まり、更に此に隣接せる他の細胞を壓し、漸く其の膨壓を増さしむ、其の壓力殆ど一五氣壓にも及ぶ事あり、是れ、彼の春時「ブドー」の莖の切口、「ヘチマ」の切口より、盛に水の流出する所以なり、



コムカン(根冠)植英 *Root cap.*

根の先端に厚積せる細胞群にして、根の生長點を保護するものを云ひ、其を作れる細胞は、其の直後に位する組織より分生せるものとす、

コムキセーシヨクツツ(根寄生植物)植英 *Rhizogens*. 他植物の根に寄生する植物を云ふ、

コムキヨク(根極)植英 *Root-pole*. 根を生ずる端を云ふ、今或る枝を截り、其の切口を濕地に埋むれば、やがて、切口に近く、根を生ず、是此の性を示すものなり、

コムゲイ(根莖)植英 *Rhizome*. 地下に埋没せる枝條にして、往々肥大して、養分を貯へ、形狀根に酷似するものを云ふ、常に變形せる葉、即ち鱗狀葉を有すること、裸出する生長點を有すること、及内部の構造は、根と異なるによりて、明に根と區別すべし、

例「アマドコロ」「ナルコユリ」の根莖、「シヤガタライモ」の根莖等の如し

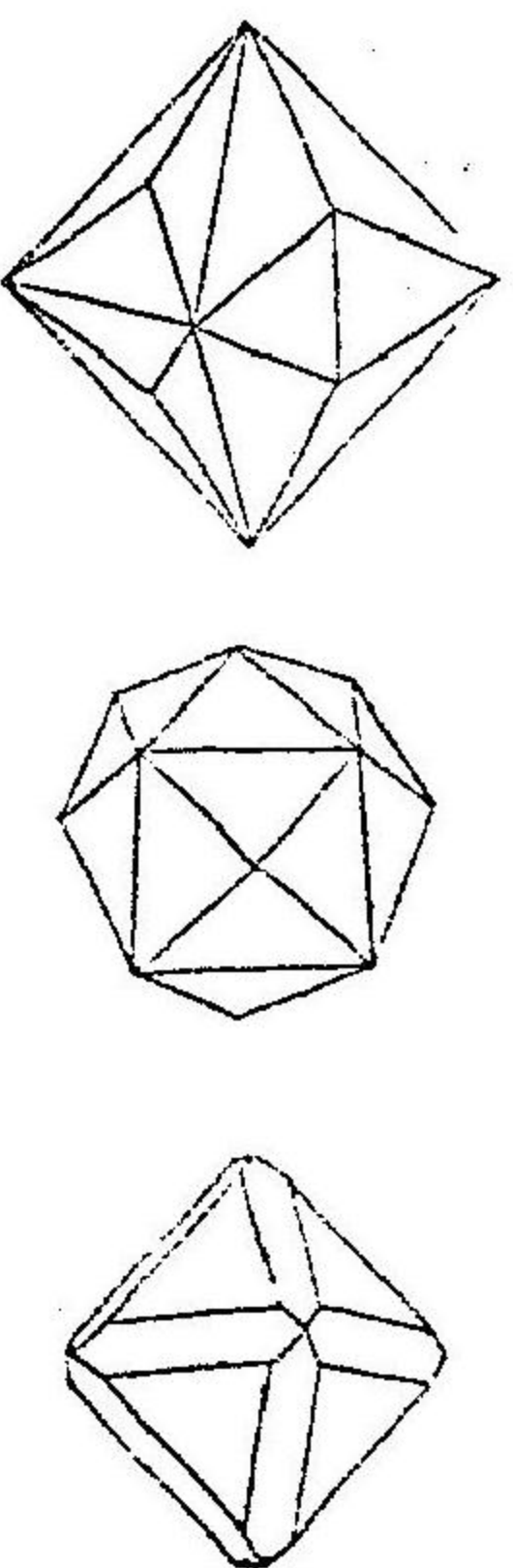
注意「サツマイモ」は根なり、蓋し右の特點を缺くに於て、

コムネーカシメ混合花序)植英 *Mixed inflorescence*. 同一植物にて有限無限の二花序の混合せるものを云ふ、

例「チドリコソウ」繖房、菊科植物、

コムネーシヤ(金剛砂)鑛英 *Garnet emery Sand*. 琢磨用に供する金剛砂は、粒狀小形の柘榴石なり、大和國穴壘村

より産する、細粒不透明なるものは、金剛砂として有名なリ、諸の寶玉類を琢磨し、又は玻璃を磨くに使用せらる、
コムネーセキ(金剛石)鑛英 *Diamond*. 等軸晶系に屬し、結晶形は八面體、六八面體、斜方十二面體、三角三八面體、四六面體及び八面體と斜方十二面體との聚形等あり、劈開は完全、斷口は貝殻狀、硬度は十度、比重三・五、金剛光澤強し、光



を屈折すること強し、之を摩擦すれば電氣を起す、又日光に晒すか又は之を熱すれば、よく燐光を發す、炭素より成る、火を點することあるも、容易に燃ゆることなし、但し其燃ゆるときは、變じて炭酸瓦斯となる、又空氣の流通を防ぎて、之を熱すれば、其の表面は石墨に變ず、寶石として最も貴まるゝは、蓋し其の硬度最も高く、琢磨すれば光澤強くして美なるが故なり、金剛石を産する古來有名の地は、南米のブラジル、印度、及魯西亞ウラル山脈等にして、本邦には未だ其の産出を聞かず、今世界中、金剛石の有名なるものを左

に掲げむ、

(一)最大の玉「ホルネチ」島の一酋長の所有せるものにして、未だ琢磨して玉となさざるもの、其重さ三百六十七カラット(我二十匁餘)あり、

(二)「オルローラ」、露帝の所有なり、百九十三カラットの重を有す、

(三)ピット(攝政) 佛國政府の所有にして、百三十六カラット四分の一、見積り代價凡そ五百萬圓なり、其の切子玉とせざる以前は、四百十カラットありしと云ふ、

(四)藍色種 倫敦府ホーア氏の所有にして、重さ四十四カラット半あり、

(五)最大なる玉の發見 千八百九十三年六月三十日、「オンレンシ」自由國の鑛石中より發見せられたるものは、九百六十九カラット、即ち百九十八グラムの重量を有せり、

(六)千八百九十四年「ブラジルの」パヒアより發見せられたるものは、六百グラムありき、但し不純粹のものなり、

抑も金剛石は、萬物中高價なるものの一にして、其一カラットの重に對し、凡そ二百四十マルクを價するものなり、純粹にして大なるものは、寶玉とし、小にして不純なるものは、

「ガラスキリ」に用ゐる、

コノツ(跟骨) **生英** (Culicium. 「カカト」の心にある太短き骨にして、體重の尤も多くかかるところなり、

コノリン(混交林) **植** 異種の樹木よりなれる森林を云ふ、

コシツツ(根出葉) **植** Radical leaf. 甚だ短縮せる莖より生ずるが故に、恰も根より生ずる觀を呈するものを云ふ、例へば「タンホボ」「蒲公英」「フキ」等の如し、

コネースイホー(混成錐峯) **地英** Mixed cone. 噴出物は、時としては熔岩、時としては瓦斯の爆發をなし、混成せる火山をなす、其傾斜は、五度乃至三十度なり、火山にして、時としては熔岩を噴出し、時としては瓦斯の爆發をなして、之によりて破壊したる物質を堆積す、これらの物質が混成せるものを混成錐峯と云ふ、其の傾斜は、五度乃至三十度なり、

コネーカゴ(根生花梗) **植英** Stipe. 地面に近き處、又は地下より生ずる特種の莖にして、花を有し、尋常葉を有せざるもの、例へば「タンホボ」、水仙の花梗の如し、

コソクスイ(根足類) **動** Rhizopoda. 原始動物の一綱にして、粘液狀の體を有し、自在に突起を生じ又之を收縮す、此の突起は動移並に食物の採取に用ゐるものにして、之を

虚足といふ、其の形は種々にして、幅廣きあり、細きあり或は分岐せるあり、「フメーバ」は之に屬す、

コチユールイ(昆蟲類) **動** Insecta. 體は頭胸腹の三分よりなり、頭は四環節の癒着して成る所にして、一對の觸角及複眼を有し、又時としては單眼をも有することあり、口器は上顎一對、下顎二對よりなり、下顎にのみ觸鬚を備ふ、而して第二對下顎は所謂下唇をなす、口器は食物の性状により著しく其の形狀を異にし、或は咬嚼、或は刺螫、或は吸吮或は舐喰に適す、胸は三對の環節よりなり、各一對の節脚を備へ、歩行、游泳、跳躍、發掘、防身、襲敵等の用をなす、第二、第三の胸環節には各一對の翅を有するを普通とすれども、稀には之を缺くものあり、腹は約十個内外の環節が可動的に相連り、無肢なれども、尾端の環節は産卵器、刺鉤若くは交尾器等を附屬するを常とす、體面は「キチン」質と稱する硝子狀の膜を被り、毛或は小鱗を密生することあり、神經はよく發達し、食道上に腦、食道周圍に環狀部神經、及胸腹部を縱走する神經連鎖等あり、觸覺は觸角若くは脚端に於てし、嗅覺も亦觸角上に存すること多し、聽管器は之を第一腹環節或は前脚の一節に於て見ることあり、消食管は通例數部よりなり、口、食道、唾腺、胃、腸、肛門あり、泌尿器は「マレピギー」氏の管よりなり、胃に開口す、血液は無色或は有色に

して、血管及體腔内を循環す、心臟は背部にある管にして、其の兩側にある數多の裂口より流入し、壁筋の收縮により前進循環す、呼吸器は氣管にして、數對の氣孔は體側に開く、昆蟲の鳴聲は主として、翅の振動摩擦、若くは體部の摩擦、或は薄膜の振動等によりて生じ、多くは雄が雌に己れの位置を知らしめんがためなり、雌雄異體、卵生にして變態(「ヘンタイ」の條参照)を経過す、九目に分つ、

鞘翅類 例、「ハンミョー」「ゲンゴロ」「ホタル」、

鱗翅類 例、「チョー」「ガ」、

膜翅類 例、「アリ」「ハチ」、

二翅類 例、「カ」「ハイ」、

半翅類 例、「クサガメ」、

脈翅類 例、「クサカゲロ」、「ウスバカゲロ」、

擬脈翅類 例、「トンボ」、

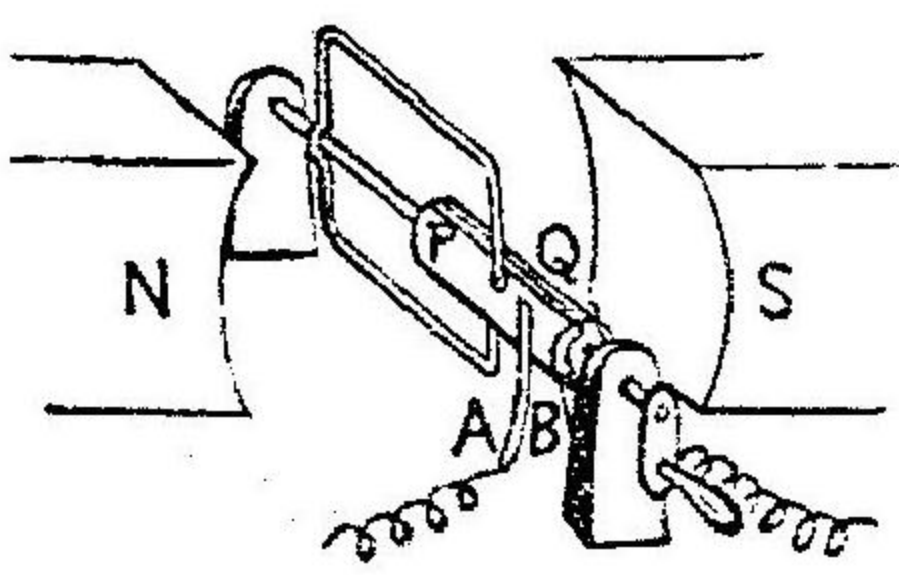
直翅類 例、「コロギ」「キリギリス」「メツタ」、

彈尾類 例、「シミ」「ハネムシ」、

コニヤク植 「コニヤクイモ」を見よ、

コニヤクイモ(蒟蒻) **植** Amorphophallus Rivieri,

コミュテーター **物英** Commutator. 「コミュテーター」は、交番電流の方向を一定して、直流電流とする所の装置なり、其の構造は、「ニール」をなす所の導線は、其の兩端を互に絶縁して、軸に固定せる半輪狀の導體PQに連れ、このものは更に刷子狀の金屬ABに接觸す、然る時は、「コイル」の半廻轉毎に、PQは交互にA Bに觸るるを以て、A又びBに流るる電流の方向は常に同一となるなり、

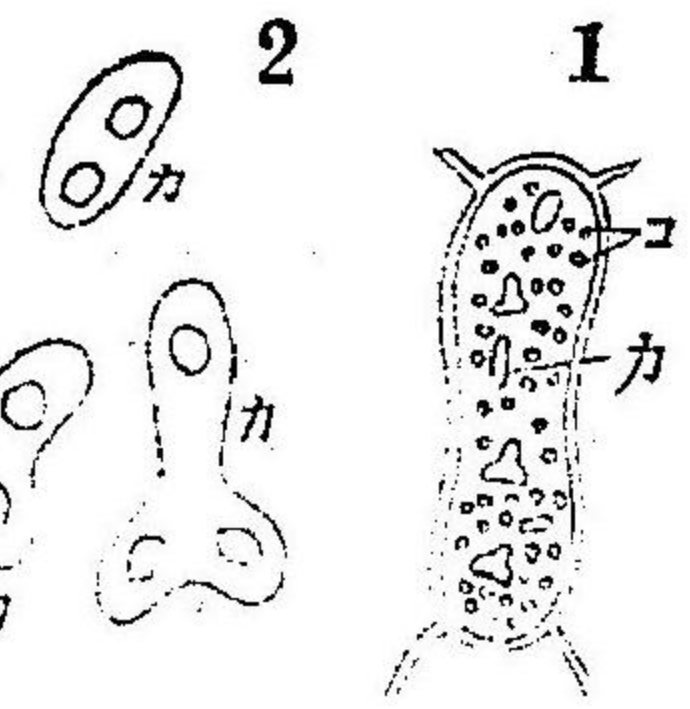


コネー(根毛) **植英** Root-hair. 根の表皮部の扁平細胞が、支出せる纖毛なり、主として土中の養分を吸收す、若き根には、存在するを常とすれども、老根にはなし、

コネー(根瘤) **植英** Root-tuberules. 豆科植物と細菌

この共生にして、豆科植物の根に生ずる膨れたる小球體を云ふ、(根瘤細菌の條を見よ。)

コリユーサイキン (根瘤細菌) 植 *Bacillus radiocicola*



根瘤内に宿る所の一種の細菌なり、其の形、圖の如し、即ち(1)は根瘤細胞内に根瘤細胞菌と假細菌との充つるを示す、(2)は假細菌を膨大したるもの、「カ」は假細菌、「コ」は根瘤細菌なり。

コロンサングー (崑崙山系) 地

崑崙山の餘波、支那海

を越え、九州に昂起し、西南より東北に向ひ、本邦中央に到り、樺太山系と相會するものにして、之を稱して崑崙山系といふ、此の山系の太平洋に面する部分は之を外帯といひ、日本海に面する部分は之を内帯といふ。

コメツガ (米梅) 植 *Tsuga diversifolia*, Maxim.

果實の柄の短きこと、新芽の軸に、微かなる黒褐色の纖毛を生ずること、は、「ツガ」と異なる所なり、効用「ツガ」に同じ。

コメツギムシ (叩頭蟲) 動 *Melanotus*, 鞘翅類に屬し、體長四分位にして、頭頸節強く屈曲するにより、倒にするも容易に跳ね上りて原位置に復す、幼虫は多く野菜を害す、

コメノセイン (米の成分) 化

水	一四、三二%	含窒素化合物	六、九四%
脂肪	〇、五一%	澱粉	七七、六一%
木纖維	〇、〇八%	灰分	〇、四五%

尙ほ米の灰の成分を見よ。

コメノハイセイマン (米の灰の成分) 化

加里	二一、七三	曹達	五、五〇
石灰	三、二四	マケネシヤ	一一、二〇
酸化鐵	一、二三	磷酸	五三、六八
硫酸	〇、六二	鹽素	〇、一〇
硅酸	二、七〇		

コモシ (肛門) 生英 *Anus*, 食物の殘滓の排泄せらるる門口をいふ、脊椎動物にありては獨立すれども、(例外あり)下等に進むに従ひ生殖孔と合一す。

コメカヒ (子安貝) 動 「タカラガヒ」を見よ。

コメツギ (金松又高野槇) 植 *Sciadopitys verticillata* S. et Z. 異名を「ホンマキ」「トーマキ」と云ふ、葉は、短軸の先より、一所に傘骨狀に發生するを特徴とす、邊材雪白色、心材淡黄色、一種の脂氣を有し、水濕に堪へ、三百餘年も保存す可し、明治十八年落成に係る千住大橋につきて見

るに、其舊橋の枕は「コヤマキ」にして、正しく三百年を経過し、依然として少しの腐朽もなかりしと云ふ、水槽、桶、船材、となすに適す。

コヤマシ (五鬚松又五釵松) 植 *Pinus Pentaphylla*, Mayr. 葉は「ロモコマツ」より長く、表面は暗綠色、裏色は、白條を有し、しかも落葉期まで、其の白色を失ふことなし、種子は翼を有し、實鱗は扁平にして、其の一面に於て種子と癒合す。

コリ (氷) 鑛英 *Ice*. (一)六方晶系(二)無色(三)條痕は無色(四)硬度は一・五(五)比重は〇九一七五(六)水と同成分なり。

コリツ (工率) 物英 *Power*, 器械の單位時間中に成し得る所の仕事を、其の工率と稱す、例へば、この蒸氣機關あり、五秒時間に、二百瓩の物體を三米の高所に上げたりとするときは、成したる仕事の總量は六百瓩米にして、一秒時に付百二十瓩米なり、即ちこの百二十瓩米はこの機關の工率なり。

コリナダシ (氷雪崩) 地英 *Ice avalanche*, 氷の大塊よりなる雪崩をいふ。

コリノサヨ (氷の作用) 地英 *Function of ice*, 氷は土壤を粗鬆にし、岩石を破碎する外、更に氷河をなして、

兩岸及び底部を侵蝕し、かくて地面に種々の痕跡を残し、又其の氷河の表面は、兩岸より崩壞落下する岩片を載せて下流の地に輸送す、之を堆石と云ふ。

コリノスイ (硬鱗類) 動 *Ganoides*, 鱗は概し斜方形の板狀體にして、表面に珪質を被むるを常とす、尾鱗は通常歪形、鰓は齒狀にして、鰓房は必ず鰓蓋を以て蔽はれ、各側に一鰓孔を外開す、鰓ありて食道と交通す、概し淡水産にして、現世界には少し、「チョーザメ」、「ホリブテルム」等之に屬す。

コリナギ (杞柳) 植 *Salix multiervis*, Fr. et Sav. 楊柳科木本にして、葉は細長にして、中肋より發する數多の側脈を有す(枝條を以て、柳行李其の他種々の編物を作る、但馬豐岡邊に盛に栽培す)。

コリユーデンリユー (交流電流) 物英 *Alternate current*, 交流電流とは、磁場に於て「コイル」を廻轉する時、感應によりて起る電流の如く、瞬時に其の方向を變ずるものをいふ、故に又、之を交番電流と稱することあり。

コリヨク (合力) 物英 *Resultant force*, 物體の一點に數多の力が作用する結果、或る他の一力が之に作用すると同等なるときは、この力を前の數多の力の合力と稱す、合力を求むるには中斜法に依る。

ゴリラ

ゴリラ(大猩々) 動 Gorilla. 大猩々と稱するものにして、亞弗利加に棲息し、身長六七尺なれども、體堅固にして、普脛強大なり、雄の犬齒は上下共に大にして、尾を有することなし、臀部に赤色を帯べ、無毛の部あり、頬袋に食物を入



るることなし、黒褐色にして顔面部黒く、強大なる腕力を有す。

コクガシ植 Quercus suber J. & C. Occidentalis

(Oak). 殼斗科の木本にして、南歐洲及北アフリカに産し、主として地中海沿岸の諸邦、並に、「アドリヤチック」沿岸地に造林せらる、幹の高さ、四五丈、直径一尺六七寸に達す、葉は短柄にして、互生し、葉縁は普通尖りたる鋸齒を有す、樹皮の木栓層より各種の塞子(セキ)を製す、又種々の用具に用ゐる。

コルク

る、コルクマキ植「アベマキ」に同じ、コールドール化英 Coultar. 「コールドール」或は單に「タール」と稱す、石炭を蒸焼にする際生ず、其の含有物の主なものは左の如し、

- (A) 少量の脂肪族の炭化水素
- (B) 芳香族の炭化水素

其の主なるものは、「ベンゼン」「トルエン」「ザイレン」「メチチレン」「フソイド、キューメン」「ヂュレン」「スチレン」「ナフタレン」「ダイフェニル」「アセナフテン」「アリユオレン」「マンストラセン」「フェナンストラセン」「ピレン」「クリセン」等

(C) 中性化合物

例へば「アルコール」「ベンズニトリル」「グマロン」等

(D) 石炭酸類

例へば石炭酸、「クレソール」等

(E) 鹽基

「ピロル」「ピリヂン」及び其の同族體、「アニリン」「キノリン」及び其の同族體、「アクリヂン」等、「タール」中には、以上の如き貴重なる化合物、多量に含有せらる、染料として甚だ貴重なる、所謂「アニリン」染料は、「ア

リン」より製せらる、又石炭酸は、防腐劑或は消毒薬として重要なことは説明を要せず、「マンゼン」「アンストラセン」等も頗る價值ある物なりとす、「コールドール」は此等を製する原料に供し、又はそのまゝ「ブリキ」及鐵材等に塗りにて、其の腐蝕を防ぐに用ゐる。

コーレド(高嶺土)又高嶺土、鑛 英 Kaolin. 此の物は、會て非晶質たりとの説ありしが、今は結晶鑛物たることを判然し、又其の結晶は、顯微鏡的に微小なる六角片なることを知るに至れり、吹管にては熔融せざれども、強硫酸に遇へば溶解して、同時に硅酸を分離す、效用は陶器製造に供せられ、又衣服の染抜等(シメキ)に用ゐらる、是其の水を吸収する性あるを以てなり、普通に磁土と稱せらる。

コラバネテリア(虎列刺菌)植 英 Spizillum elotermie asiaticae or Comma-bacillus. 虎列刺病原菌にして、千八百八十四年、古弗氏(コッホ)によりて、始めて印度「カルカッタ」の近傍の「タンク」水中に發見せられたるものなり、此の菌は、個々分離して生存し、且つ活潑に運動す、「コンマ」状をなして、縦軸に彎曲す、芽胞を形成せざる菌なり、此の菌は健康體の胃に入るとも、其の鹽酸液の爲に、撲滅せらるるものなり、「コレラ病」に犯されたるものは、肚腹雷鳴して、米汁の如きものを下痢すること甚しく、重症に陥りたる

ものは、死を免れず、

コロギ(蟋蟀)動 Gryllus. 英 Cricket. 六七分の體長を有し、尾端に二個の尾狀突起あり、觸覺長くして、黄昏より終夜鳴聲を發する直翅類なり、性日光を忌み常に地中或は木、石の下に棲息す、「コロギ」は褐色なれども、「エンマコロギ」は黒褐色にして、大頭を有し、大小豆に大害をなす。

コチオン 化英 Collion. 二十分の硝石粉末と三十分の強硫酸との混合物を温め、之に綿花を一定時間浸し置く時は、溶解性「ピロキシリン」を生ず、之を少量の「アルコール」を含有する「エーテル」中に溶解したるものを「コロゾオン」と稱す、此の物を硝子板の上に注げば、「エーテル」及び「アルコール」は、直に蒸發し去りて、薄き透明膜を残す、此の膜は水に不溶解なり、「コロゾオン」は寫眞術に於て多量に用ゐる。

サイ

サイ(犀) 動 Rhinoceros. 象に次ぎて大なる奇蹄類にして、皮は極めて厚く硬固にして、三蹄を有し、鼻上に角あり、印度産の種は一角にして、亞弗利加産のものは二角

コーレ

コロロ

サイイ

を前後に生ず、「サイ」の角は牛角等と異り、皮膚の變形物にして骨とは何等の關係あることなし、恰も毛の束の如きものなり、

サイイキ(載域) 生英 Atlas. 「ダイイチケーツイ」(第一頸椎)に同じ、

サイカク(犀角) 動英 Rhinoceros horn. 犀の角をいふ、往時多く薬用とせるものなり、

サイキン(細菌) 植英 Bacteria. 特徴(1)葉緑なし、(寄生に適す)(2)細胞に核なし、(定説の示す所による)、(3)細胞自身分裂し、又は、無性芽胞を生ず、(繁殖速なる理なり)、

二種類(1)絲狀菌、(2)球狀菌、(3)桿狀菌、(4)螺旋狀菌、サイコーカンゲンケイ(最高寒暖計) 物英 Maximum thermometer. 最高寒暖計は、或る時間中の最高の温度を測るために用ゐらるゝものにして、種々の装置あり、其の

一は通常の寒暖計の水銀の上部に小なる鐵の針金を入れ、之を指針とす、指針の一端を水銀の頂點に接觸せしめたる上、この寒暖計を水平に置いて放置すれば、温度昇るときは、水銀の頂點進みて指針を押し遣り、温度降るときは、指針はその位置に留りて水銀のみ退却す、かくて指針は常に水銀の最も昇進せし位置に残るを以て、その指針の下

サイニ

二四二

端に於ける度数を讀みて、最高の度を知ることを得、又一種の簡便なるものあり、通常の寒暖計の管内なる水銀中の一部(通例球と管との境に近く)に細微なる空氣の泡沫を存したるものにして、靜かに之を水平の位置になして放置すれば、温度昇るときは、通常の如く水銀は進行し、温度下るときは、泡沫の處を境として管内の方の水銀はその元の處に留り、他の方の水銀は球内に退縮す、由りて管内の水銀の上端の度盛りを讀みて、最高温度を知ることを得るなり、此の二種の何れに於ても、一回最高温度を検したる後、更に次の時間中の最高温度を知るの用に供せんとするときは指針を水銀の頂上に齧し、若しくは管内の水銀を下降せしめ微なる泡沫を隔て、球内の水銀に連續せしむるが爲の手入をなさざる可からず、

サイコーチョーリヨ(最高張力) 物英 Maximum tension. 最大張力を見よ、

サイコツ(鯁骨) 動「エラホネ」を見よ、

サイサ(歳差) 天英 Precession of the Equinox. 太陽の運動を觀測するに、春分點は太陽に對して年々常に同じ位置にあらず、即ち春分點は黃道に對して年々常に此は如何にして知るか云へば、恒星は常に天球上一定の位置にあるものなるが、其の黃經度を年々に計るに、其の

價が次第に増加するを見る、其の増し方は、凡そ同一にして、五十秒づつ、一年間毎に増す即ち春分點が毎年五十秒づつ、逆運動をなすによるなり、此の運動を歳差運動と云ひ、此の差を歳差と云ふ、

サイシツ(材質) 植英 Wood. 皮膚及髓の中間に位し、輪層をなせる部分なり、之を維管束とも云ふ、

サイモカン(碎屑岩) 鑛英 Clastic rocks. 水成岩の一部類にして、砂岩、凝灰岩、礫岩等の如く、他岩の破片より成れる岩石を總稱す、

サイダイチョーリヨ(蒸氣) 最大張力 物英 Maximum tension. 或る温度に於ける飽和蒸氣の壓力を、其の温度に對する其の最大張力といふ、この最大張力は温度によりて異なるものにして、水蒸氣の最大張力に關して、佛國人「レニョー」の得たる結果を記せば、左の如し、

Table with 2 columns: Temperature (温度) and Maximum Tension (最大張力). Values range from 0 to 173.36.

サイシ

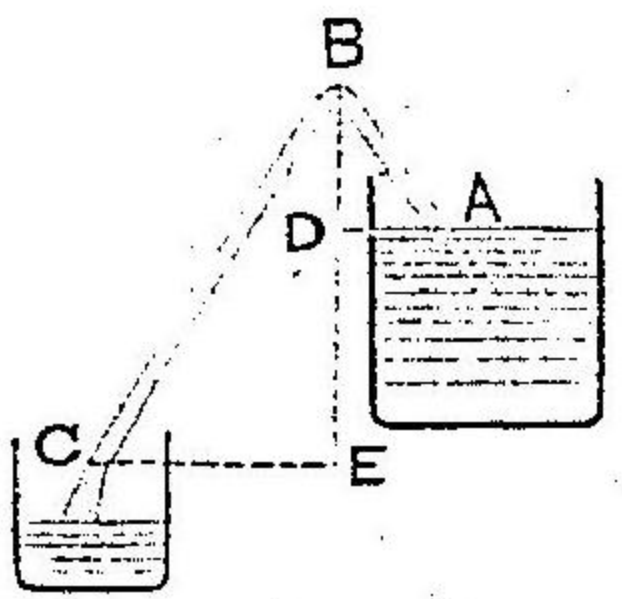
サイテ

二四三

サイテーカンゲンケイ(最低寒暖計) 物英 Minimum thermometer. 最低寒暖計は、或る時間中の最低の温度を測るに使用せらるるものにして、其の種類多し、雖も其の最も普通なるは、通常の「アルコール」寒暖計の管中に玻璃の圓筒を置き、之を指針としたるものなり、今、寒暖計を振り動かして、指針を液の内側より表面に觸れしめ、管を水平にして之を放置すれば、温度降る時は、指針は「アルコール」に伴はれて動移すと雖も、温度上昇する時は「アルコール」は指針の周圍より進み、指針は獨り元の所に殘され、最低温度を示すなり、

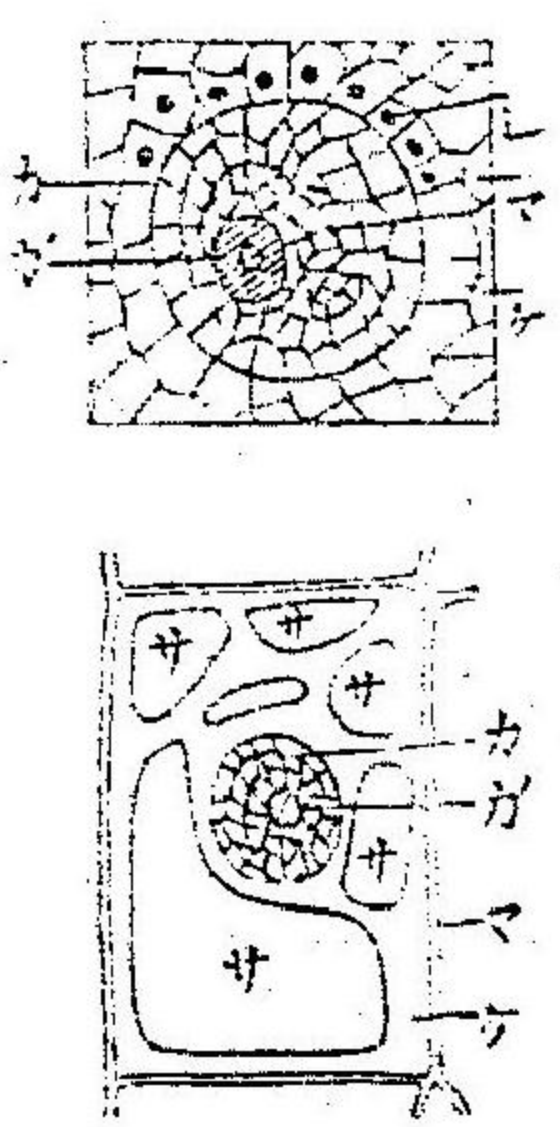
サイフォン 物英 Siphon. 「サイフォン」とは、長短兩脚を有する彎曲したる管にして、高き處にある器中の液を低所にある器中に移すに用ゐらるゝ之を用ゐる時は圖の如く、短脚を高き處の器中の液に入れ、一たび長脚より水を吸ひ出たるときは、液は絶えず中を流れて低處に移る、今其の理

を考ふるに、A管に於て液を上方に壓する力は、大氣の壓力にして、管中のBの部分に傳達すべき力は、大氣の壓力よりもB Dなる高さの液柱の重さだけ小なるべく、又Cを上方に壓す力は、大氣の壓力にして、Bの部分に傳達すべき力は、大氣の壓力よりもB Eなる高さの液柱の重さだけ小なる故に、液はD Eの高さの液の重さによりてCより流出するなり。



サイホー(細胞)動植英 (Cell-division) 動英

細胞の集合よりなる、細胞の形種々あれども、皆顯微鏡的なり、完全なる細胞は細胞膜、原形質及核の三部分より成る、外面に細胞膜を被り、其の内に半液状をなせる原形質あり、其の内に多少固形體をなせる小粒あり、之を核といふ、原形質は必ずしも充滿するものにあらず、又、核中には小核即ち仁と稱する小粒あり、一細胞を人體に比較するときは、細胞膜は皮膚に相當し、原形質は皮膚を除きたる他の諸器官に當り、一核は恰も精神に相當するものなり故に核なければ細胞に生命なく、又核存するも原形質なければ、恰も肉體の諸作用止みて精神亦消失するが如し、細胞は分裂する性を有するものにして、之によりて繁殖、成長するものなり。



り、細胞の分裂するや、核先づ二分し、然る後細胞膜原形質に及ぼすものなり、故に細胞とは原形質の塊にして、一核を有するものを云ふ、細胞と云ふ語は本來不適當なるものなり、何となれば細胞とは、其の發見の歴史上、ただ死物質なる細胞膜を意味するに過ぎず、最も大切なる生活物質なる原形質は其の中に含有せられざるを以てなり、細胞の詳細は圖によりて明かなり、上は幼き細胞を示し、下は老細胞を示す、(マ)は細胞膜、(ケ)は原形質、(カ)は核、(サ)は小核、(サ)は細胞液なり。

サイホーエキ(細胞液)動植英 (Cell-contents) 動英

するときは、其の中にある原形質は、其の容を減じ薄膜となりて細胞膜の裏面に添ひ、核とは僅に細絲狀の連絡をなすに至り、其の空所には原形質より分泌せる水様液を充たすに至る、是即ち細胞液なり。

サイホーガネー(細胞含有物)植英 (Cell-components) 植英

粉粒、脂肪、「イモリン」等は其の主要なるものなり。

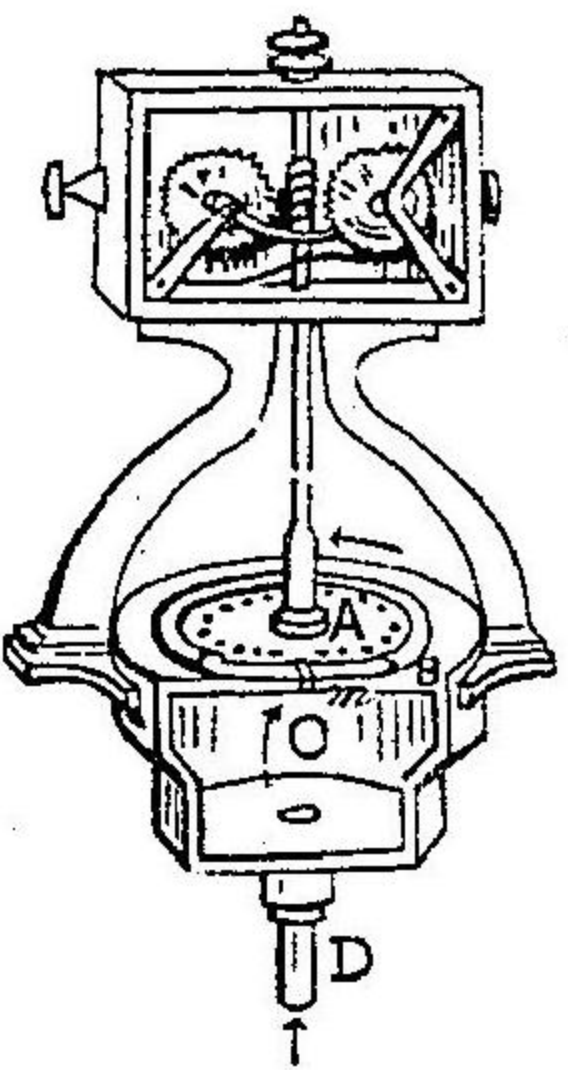
サイホーレンツ(細胞分裂)動英 (Cell-division) 動英

幼き細胞が二分裂することをいふ、即ち核は先づ複雑なる變化をなして二分し、然る後細胞膜、原形質に及ぼし、遂に全細胞が二分するを見るなり。

サイホー(細胞膜)動英 (Cell-wall or membrane) 動英

「サイボー」の條を見よ。

サイレン物 英 Siren. 「サイレン」は、發音體の振動數を測定するに用ゐる器械にして、「カギヤル、ラツール」の作る處なり、其の構造は圖に示せるが如く、小さき圓筒狀の函ありて、其の底に空氣を吹き入るべき管Dを具へ、函の上面には等距離に數個の斜なる小孔を穿ち、其の上に金屬の圓板ありて、此には同數の斜なる孔を穿ち、垂直軸Aによりて回轉することを待べし、今軸を以て下口Dより風を送る時は、風は小孔に激して圓板は廻轉を初め、其の速度小なる間は甚だ低き音を發し、漸次速くなるに従ひて高音を放つべし、此の器械を以て發音體の振動數を測らんとするには、軸を加減して、其の測らんとする音と同音を發するに至らしめ、器



して、其の測らんとする音と同音を發するに至らしめ、器

械の上部にある齒車仕掛にもとづける指針によりて、其の圓板の廻轉數を計るべし、斯くして圓板の廻轉すること一秒時間にn回にして、小孔の數mなる時は、其の音の振動數はmnなり。

サカキ(榲桲楊桐又青精)植英 (Ficus) 植英

にして、社前に栽植するは、人のよく知る所なり。

サカマタ(鯨)動英 (Whale) 動英

鯨類にして齒を有し、性猛惡にして「イルカ」「イカ」「トビウサ」等を食し、齒は兩側に十五許あり、大にして牙形をなす、「サメ」「クジラ」を殺し食ふことあり、獵者の「シヤサ」と稱するもの即ち是なり。

サガレンユー(サガレン流)地英 (Sagaleen current) 地英

rent. 「オコック」海より來れる寒流が、樺太島の北端に至り、分れて二派となり、樺太の東に沿ひて流るる寒流を云ふ、宗谷海峡に達し暖流と衝突して消失す。

サキ(崎)地 岬に同じ。

サキョク(叉棘)動英 (Pedicellaria) 動英

にある一種の棘にして、先端に二三の枝あり、専ら全面の掃除をなし、或は食物を口に送る用をなす。

サク(朔)天 英 (Conjunction) 地球と太陽とを結合す

る直線上、其の二者の間に月の来りたるとき、即ち仲度が零なるときを朔又は合と云ふ。

サクエン(錯鹽)化英 Complex salt. 錯鹽とは、其の水溶液中に於て、鹽を組成せる成分の「イオン」悉く現れずして、成分中の或物が結合して新なる「イオン」を生ずる所の複化合物をいふ、例へば黄血鹽の如し、黄血鹽は $Fe_2(SO_4)_3$ は「シヤン」化「カリウム」と「シヤン」化第一鐵とが化合して生じたものなれども、其の水溶液中にては四價の「フェロシヤンイオン」 $Fe(OH)_2$ と一價の「カリウムイオン」 K のみ存在す。

サクサン(醋酸)化英 Acetic acid. CH_3CO_2H .

サクサンセーシツ(醋酸の性質) 無水の醋酸は、溶點十六・七度、比重は一・〇五(二〇度)、沸點は百十八度なり、強き酸性反應を呈し、鋭き臭を有し、之に觸るれば、滑かさを感じ、皮膚を糜爛して痛苦を感ず、寒冷に逢へば大なる結晶と爲る、青色の燐を擧げて燃ゆ、水と混合するときは、其の容積を減少す、食用の醋は醋酸の五分乃至一割五分を含む、醋酸は又吸濕性を有す、燐、硫黄、樟腦、樹脂等を溶解し、又よく「アルコール」「エーテル」と混和す。

サクサンセーホー(醋酸の製法) 一、稀薄なる酒精等を空氣にて酸化せしめて醋を製す、空氣中の酸素は、醋母と

稱する「バクテリア」の媒介により、「アルコール」を醋酸に變ず、木桶の中に飽層を充たし、上より六分乃至一割の酒精を溶かしたる水を滴下し、桶の下部には多數の小孔を穿ち空氣を流入せしむ、但し飽層は酒精の空氣に觸るゝ面積を大ならしめ、且「バクテリア」の培養所たるの用をなすなり、二、木材を乾溜して得たる液體に石灰を加へて醋酸「カルシウム」を得、之を熱して夾雜物を去りたる後、硫酸と共に蒸溜すれば醋酸を得。

サクサン(酢)動 「ヤママユ」に酷似すれども、黄褐色にして白色を混ず、幼蟲は綠色にして、柞、櫟等の葉を食し、褐色の繭を作る。

サクサンアルデヒド(醋酸アルデヒド)化英 Acetaldehyde. CH_3CHO . 又單に「アルデヒド」と稱せらる。

サクサンアルデヒドセーシツ(醋酸アルデヒドの性質) 無色の液體にして、比重は〇・八、沸點二十一度なり、特異の芳香を有し、窒息性あり、吸入すれば痙攣を起す、光輝ある燐を擧げて燃ゆ、硫黄、燐及び沃素等を溶解す、又水、「アルコール」及び「エーテル」等と種々の割合にて混合す、空氣中に放置する時は醋酸に變ず、又硝酸銀の「アムモニヤ」液より銀を還元す。

サクサンアルデヒドセーホー(醋酸アルデヒド製法)

此の物を製するには、「アルコール」を硫酸と「クロム」酸「カウリム」との混合物にて酸化し、「アンモニヤ」を通ずれば「アルデヒド、アムモニヤ」を沈澱す、之を分ち鹽化「カルシウム」の上にて乾かし、「エーテル」にて洗ひたる後、稀硫酸を加へて蒸留すべし。

サクサンナリ(錯酸鉛)化英 Lead acetate PbO_2

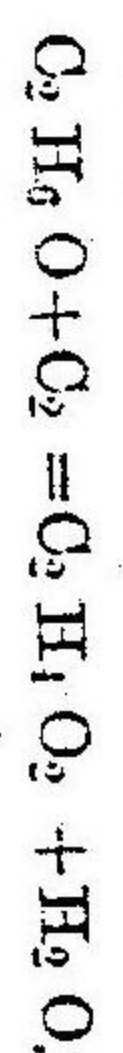
H_2O_2 。此の物は酸化鉛を醋酸に溶解したるものを濃厚ならしむれば、白色の光輝ある六角柱狀の結晶體となりて析出す、三分子の結晶水を含めり、常温にては一倍半の水に溶解し、百度にては其の半分の水に溶解す、醋酸鉛の溶液に酸化鉛を溶解すれば、鹽基性の醋酸鉛となる、醋酸鉛は甘味を有する故に、普通に鉛糖と稱す、顔料の製造に用ゐる、或は醫藥とす。

サクサンナトリウム(醋酸ナトリウム)化英 Sodium

acetate. $Na_2C_2H_3O_2$ 。透明にして、容易に水に溶解す、へき、斜方柱狀の物體なり、三分子の結晶水を含む、中性或は弱「アルカリ」反應を呈し、大氣中にて風化す、多く藥用に供す。

サクサンハニー(醋酸醱)化英 Acetous Fermentation. 酒精を變じて醋酸となす所の酸化醱酵なり、主と

して醋酸菌の誘起する所なり、其の反應左の如し



サクシヨーンシキ(柵狀組織)植英 Palisade parenchyma. 葉の表面に近き葉肉を成せる細胞にして、直立せる圓柱狀細胞より成る組織を云ふ、通常一層なれども、時に多層のことあり。

サクシ(櫻)植 薔薇科木本にして、雜種甚だ多し、(A)種類

千八百八十三年、露人「マキシモフシツ」氏の分類によれば左の三種となる

1. Prunus pseudocerasus Lindl. var. Spontanea Maxim.
 2. " " var. Hortensis Maxim.
 3. " " var. Sieboldi Maxim.
- 第一を「ヤマザクラ」と云ふ、「ヤマザクラ」を見よ、第二を「サトザクラ」と云ふ、「サトザクラ」を見よ、第三を「ケサトザクラ」と云ふ、「ケサトザクラ」を見よ。

其の他變種を擧ぐれば左の如し

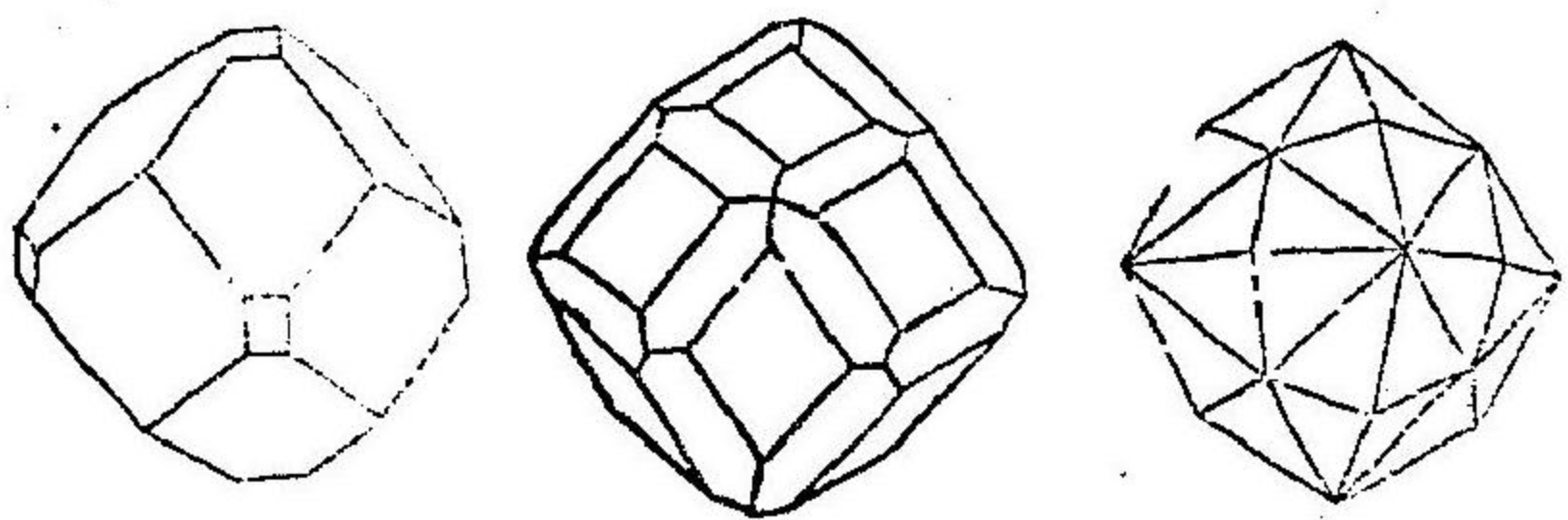
「ヒガンザクラ」は春分彼岸に開く故に名く、早咲の櫻なり、「シダレザクラ」又「イトザクラ」又「ヒガンシダレ」と同時に開く、花形も前者に類す、「ミザクラ」は西洋の櫻なり、花は見るに堪へず、果實は食用にするに宜し。

「チョロジザクラ」又「マメザクラ」とも云ふ、花小なり、
(B)花の美、櫻として花の美を賞すべきものは、「ヤマザクラ」
「サトザクラ」「クサトザクラ」等にして、宣長は敷島の
大和心を朝日に匂ふ山櫻になぞらへ、貫之は「花の魁」と詠
じ、本邦一般に之を賞す、即ち花と云へば櫻を意味するも
のなり、

櫻の名稱は、樹皮の皮目著しく發達して横裂するによりて、
「サクル」を轉じて「サクラ」とは稱せるなりとぞ、
(C)産地、櫻は本邦の特有植物にあらず、支那にも産す、只
山櫻の類のみにして、麗富なる「サトザクラ」なし、故に花
を賞することも本邦の如くならず、我國の山中には、北海
道、本邦、九州、四國皆山櫻を生ぜざるはなし、山櫻は高
さ三丈許、周四五尺より九尺に及び、外皮暗紅褐色にして
横理あり、之を剥げば薄く横脱するを通例とす、但し老木
の皮は淡褐色にして、鱗片をなして剝脱するものなり、
(D)效用、材は彫刻材とし、盆、椀、篋其の他の器具類を作
り、挽物材とし、又家屋の裝飾用に用ゐ、定規となすに宜
し、木皮にて曲物を造る、又材を薪炭とし、花を漬けて櫻
湯とす、北海道土人は此の木皮を以て、船板を綴り、又弓
を飾り、刀の鞘、矢筒等に纏ふ、

サ名(安石榴) 植 *Punica Granatum L.* 安石榴科

の本木にして、葉は稍長楕圓形をなし、花は美にして大なり、
果實は圓形にして大に、不整齊に裂開す、種子を包める
肉皮を食用に供す、一種「ハナザクロ」と稱するものあり、
サクロモキ(柘榴石) 鑛英 (*Garnet*、(形態及成分等)(一)
等軸晶系、斜方十二面形、偏菱形三八
面體の外、又六八面體其の他の聚形あり、
又粒狀若くは塊狀をなす(二)断面は半貝殼狀又は粗面狀(三)玻璃光澤或は
樹脂光澤(四)赤褐、黒、黄、綠、白等の諸色あり(五)條痕色は白色(六)透明乃至半透明(七)暗くして硬度は六・
五―七・五(八)比重は三・一―四・三、
(九)成分は SiO_2 、 Al_2O_3 、 Fe_2O_3 なり、然れども其の割合は不定なるに依りて
幾多の種類あり、(十)の部分に Ca 、 Mg 、 Fe を含み、 Ca を Fe 或は Cr を以て交換せることあり、從て化學反應も區々
たり(七)反應、鹽酸を以て一半は分解す、
炭酸アルカリと共に熱すれば分解し易し、
鐵の反應は何れの種にもあらはる、(十一)現出の状態、
諸種の岩石の主成分或は副成分をなし、砂粒と



なり舊河底に存す、
(産地)ウラル山、諾威、ボヘミア、錫蘭島等には良品を出す、
本邦にても美品を産す、然れども透明ならず、信濃、越後、常陸、甲斐、河内、讃岐等は有名の産地なり、
(種類)甚多し
(一)貴柘榴石、血紅色にして透明なる紅柘榴石、及び赤褐色を帯び透明なるものは、貴柘榴石と呼び、寶石に擬せらる、
(二)黄色乃至紫紅色をおぶるもの、
(三)綠柘榴石、淡綠色にして半透明なり、
(四)桃柘榴石、肉赤色を帯ぶ、
(五)普通柘榴石、濃綠色又は赤褐色にして不透明なり、
(效用)美色透明なる種を寶石とす、又硬度石英よりも高きを以て、
細粉は硝子寶石等を琢磨する用に供せらる、普通金剛砂と稱するもの即ち是なり、

サクシ(鎖骨) 生英 *Clavicle*、胸の上部の左右に渉る骨にして容易に探り知ることを得、
内端は胸骨に連り、外端は肩胛骨上膊骨に連る、

サシ(座骨) 生英 *Ischium*、臀部に下向して存する骨をいふ、

サシ(西穀米) 糧 「サシヤシ」を見よ、

サシ(西穀椰子) 植 *Metroxylon Rumphii, Mart.*

(ヤシ)に類すれども、幹より數多の氣條を出すにより、又果實の形狀によりて區別することを得、
幹は結實後數年ならずして徐々に枯死す、
幹には多量の澱粉其の他貯蓄物を有す、
然れども結實後は其の幹空洞となる、
故に此の木の伐採期は花の前でありとす、
以てサシ(ヤシ)を採集す、
大なる木は一木にしてよく一人一年分の食料を産すこと云ふ、
彼の「サシ」米と稱し、「ソップ」其の他の料理に供するもの即ち是なり、

ササエ(蝶螺) 動 *Turbo cornutus, Gmel.* 螺は圓錐形をなし、多くの管狀突起あり、
殼孔圓形にして腹を具ふ、外面暗蒼色、
内面稍眞珠色を呈す、
東海、西南海に多く、岩礁間に棲息し、海藻を食す、

ササ(カ) (茶梅) 植 *Thea sasanqua (Thunb.) Nois*、
Ganellin sasanqua (Thunb.)、
山茶科の本木にして、
臘月花を開く、
庭園に栽植し、賞観す、

ササヤキ(耳語) 生 *Whispering*、
僅に空氣を呼出して、聲帯を殆ど振動せしめず、
たゞ口のみを動かして言ふを云ふ、

サシ(砂嘴) 地英 *A small projection of land in the sea*、
砂洲の形が、
風向、
潮流等の状態により、細長く延展したるものをいふ、

サシキ(挿木) 植英 *Octaino*. 植物の枝を切り、其の一端を砂中或は土中に埋め、之に適宜の温熱濕氣を與ふるによりて之を一個の植物となす方法なり、「ツバキ」「ヤナギ」「ツバキ」「サツマイモ」「ナンチョウゲ」等に行ふ可し、サシホ地 「アゲシホ」に同じ、サス(砂洲) 地英 *Bar or Sand bar* 川の海に入る所に生ずる砂地をいふ、

サセシイ(左旋性) 化 *Left-handed rotatory polarisation*. 分極光線を左に回轉せしむ性質なり、

サソリ(蠍) 動英 *Scorpion*. 支那に多き蜘蛛類にして觸鬚は整をなし、腹は十三環節を有し、其の後部の六環節は狭くして尾狀を呈し、尾端に毒鉤あり、敵に會するときは整を以て之を挟み、尾部(腹後部)を頭上に反轉し來り、毒鉤を以て刺殺す、其の毒甚し、

サチシヨツツシ(砂地植物群) 植 海濱にあらざる内地の砂地、河原等に生ずる植物群にして、水の供給不十分なること、日光の烈しきこと、地面の熱すること、養分の缺乏せること、全く海濱植物群に似たり、「マツヨヒガサ」「スメリロユ」「ニシキソ」「ロメシバ」、種々の禾本科植物等は、普通の砂地に生じ、「カハラケツメ」「カハラハハコ」「カハラマツバ」「カハラナデシコ」等は、河原に生ず

サチユ(砂柱) 地英 *Sand column*. 龍巻が砂漠中に起れるとき、上昇する砂柱をいふ、サツキツツシ(杜鵑花) 植 *Rhododendron indicum* SW. Var. *macranthum* Maxim. 石南科灌木にして、花紅色なり、支那にも産す、蟲媒花にして蜂蝶等の媒助によりて受粉す、賞観植物にして五月頃開花す、故に「サツキツツシ」といふなり、

サツシ(擦痕) 地英 *Scatched Sand*. 水河が地盤に印せる痕跡をいふ、

サツシ(雜節) 地 次の八節をいふ、節分、八十八夜、入梅、半夏生、二百十日、土用、彼岸、社日、

サツシカ(雜性花) 植 英 *Polygonous flower*. 雌雄兩全花、雌花、雄花皆同一株にあるものをいふ、

サツマイモ(甘藷又紅薯) 植 *Ipomoea Batatas* Lam. 旋花科草本にして、葉は心臟形をなし、莖は長く匍匐し、花は稍紫アサガハ牛子の花に類し、地下に多肉の塊根を生ず、是は根にして莖にあらず、此の塊根は多量に澱粉を含有し、甘味ありて食料に適す、又澱粉、酒、菓子等を製す、

サト(砂糖) 化英 *Sugar, C₁₂H₂₂O₁₁* サトシヨサイ(砂糖の所在) 砂糖は「サトキビ」

(甘蔗)「サトダイコン」(甜菜)及び「サトカヘテ」(糖楓)等の體中に存す、砂糖を製する主要なる原料は甘蔗及び甜菜なり、甘蔗は温帯及熱帯に適し、甜菜は寒地に適す、琉球、四國、駿、遠等の諸州に甘蔗を作ると雖も、少しく寒地に過ぎたり、臺灣は氣候地味共に甘蔗を栽うるに適せり、甜菜は近來北海道に植ふる、外國にては佛獨二國は盛に甜菜を、又中央亞米利加、布哇、印度、「マニラ」等にては廣く甘蔗を培養す、

サトシイ(砂糖の性質) 甘蔗糖の溶液を靜に蒸發するときは、大なる單斜晶系の柱狀結晶を生ず、常温にては三分の一の水に容易く溶解す、「アルコール」には溶け難し、比重は一・六〇六にして、水溶液は偏光面を左方に回轉す、稀薄の酸にて煮るときは轉化糖となり、強硫酸と混合するときは、黒色塊に變ず、又砂糖の結晶は百六十度にて熔融し、之を冷却するとき、無定形の硝子塊となり、同時に再び不透明結晶體となる、百九十度乃至二百度に熱すれば、褐色不透明體となる、之を「カラメル」と名け、染色液として使用する所のものなり、

サトシイ(砂糖の製法) 甜菜より砂糖を製造するには、之を水にて洗ひてよく土砂を去り、中部のみを取り器械にて細末となし、成るべく少量の水にて糖分を滲出し

殘滓は絞りにて家畜の食料となす、かくして得たる汁に石灰を加へて長く煮沸し、遊離の酸、蛋白質、色素等を沈澱せしめ、又夾雜物を石灰と浮ばしめて取り去る、次に砂糖と石灰との化合物を生ぜるが故に、炭酸瓦斯を吹き送つて炭酸石灰を沈澱しめ、壓濾器にかけて全く之を除去す、かくして得たる糖汁を骨炭を入れたる鐵製の圓筒を通してしめて之を濾せば無色となる、之を真空釜に入れて蒸發し、冷却結晶せしむ、更に之を遠心機に入れて砂糖の結晶と糖蜜とを分つ、右の如くして製造したる砂糖は、尙ほ黄色を有せる故に、再び水に溶かし、石灰、炭酸瓦斯及び骨炭等を用ゐて精製し、前の如く真空釜にて蒸發結晶せしめ、遠心機にて結晶と、糖蜜を分離す、斯くして得たるものは純白なり、棒砂糖は濃液を型中に注ぎ其の内にて固結せしめたるものなり、甘蔗より砂糖を製するは、秋末に至り霜の降らざる前、甘蔗を圃場より收取し、其の莖を採り、通例牛に挽かして運轉する壓搾器の兩柱の間に甘蔗の莖を嚙まして砂糖汁を搾取す、此の絞り汁を釜に入れ、少許の石灰(凡そ汁の十分の一)を加へて長く煮沸し、汚物の表面に淨ぶものを取り捨て、遂に十分に濃厚なるに至り、桶に移して冷却結晶せしむれば、赤砂糖を生ず、之を精製するには、亦骨炭を用ゐる、即ち赤砂糖を更に水に溶かし、骨炭にて再三之

を濾し、前の如き手續によりて結晶せしむるなり、
サトイモ (青芋又芋) 植 *Colocasia; antiquorum*
Schott. 天南星科の草本なり、葉は大形にして長き綠色の葉柄を有す、莖は肥大して、全く地下に埋存し、多量の澱粉を含有す、之を食用に供するに味佳なり、

サトウキビ (甘蔗) 植 *Saccharum officinarum L.* 禾本科草本にして、葉長し、花は圓錐花序に排列す、果實は穎果なり、莖より砂糖を製す、之を蔗糖と稱す、

サトウゲ (砂糖計) 化英 *Saccharimeter.* 砂糖の水溶液の旋光度を計りて、水溶液中の砂糖の量を知る器械なり、

サトザクラ 植 *Prunus var. Hortensis Maxim.* 現今までの調査によれば全く栽培品のみなり、花は「ヤマザクラ」より大にして、單瓣なると重瓣なるものとあり、新莖は通常紅ならず、「サトザクラ」とは、「單瓣の大なる花を有する」サクラ、及凡ての「ヤマザクラ」の通稱にして、其の類頗る多し、

サトダイコン 植 「トーチカ」に同じ、

サナギ (蛹) 動英 *Pupa.* 「クマタ」の條を見よ、

サナダムシ (縲蟲) 動 *Cestodes.* 英 *Tape-worm.* 人腸に寄生する蠕形動物にして、頭部の構造により三種の別あり、

り、頭部の裂けたるものは之を裂頭縲蟲といひ、四箇の吸盤あるものは無鈎縲蟲といひ、四個吸盤と二列の鈎とを有するものを有鈎縲蟲といふ、又此の三種は中間宿主を異にす、即ち

有鈎縲蟲 *Tremia solium, Rud.* 豚 (中間宿主)
 無鈎縲蟲 *Tremia macrocephala, Kuchan.* 牛
 裂頭縲蟲 *Hollnociophalus latus, Braunser.* 蛙、鯉

體何れも扁平にして頗る長く、縲紐の状をなす、無鈎の裂片よりなり、體の一端極めて細く絹絲の如し、是即ち頭部なり、腸内の養分を吸収して生活し、口なく全體面より吸収す、裂頭縲蟲は長さ二丈を越え、各片幅廣く、頭端にある一對の縱溝により腸の内壁に收着す、此の卵は人體を出て水中に落ち、「サケ」、「マス」に食はれて、其の體内に生育し五分位の大きとなり筋肉の間に挟まる、人若し此等の肉を食せば、二週間を経るや速かに大縲蟲となるべし、他の二種も、中間宿主を異にせる外、發生の順序同一なり、

サノ (砂囊) 動英 *Gizzard.* 鳥の胃と稱するものにして、食肉鳥のものは其の壁薄けれども、穀粒を食する種に於ては、厚強なるのみならず、其の内面角質に變じ、且つ故さらに砂石を嚥下して食物を磨碎するに便することあり、

サバ (鯖又青花魚) 動 *Seomber.* 英 *Mackerel.*

長さ七寸位にして、脊部背線蒼黒色をなす、殆ど三十條の波紋ありて側線の下方に及ぶ、體側は黄色にして、腹部は銀白色を呈す、我東海、西南西北海に産す、

サバ (砂漠) 地 英 *Desert.* 大陸内の荒地にして、雨少く、植物に乏しき所をいふ、

サハラ (花柏又樅又弱樅) 植 *Quarner cyparis Pistifera, S. et Z.* 葉は樅に比すれば尖端尖り、且つ葉の裏面樅よりも白色明了なり、樹冠は圓錐形をなす、通常杉と同様に用ゐられ、其の價格樅に半す、桶工材、曲物、障子の骨等を作る、變種多し、

サン(酸)化英 *Acid.* 酸味を有し、青色「リトマス」液若しくは青色「リトマス」試験紙を赤色に變ずるものなをいふ例へば鹽酸、硫酸等の如し、

サナイ (山麓) 地 英 *Mountain Group.* 多くの山の不规则に集合せるものをいふ、

サンニカサクサン(三鹽化醋酸) 化英 *Trichloroacetic acid CCl₃COOH.*

サンニカサクサン(三鹽化醋酸の性質) 此の物は、無色斜方形の結晶にして、熔點五十五度、沸點百九十五度なり、舌を腐蝕し、皮膚を破壊する強き酸性液なり、

發生機の水素に逢へば、醋酸に還元す、「アルカリ」にて煮沸すれば、「クロロホルム」及び炭酸となる、

サンニカサクサン(三鹽化醋酸の製法) 「フラスコ」中に三十五瓦の抱水「クロラル」を入れ、熱して熔融せしめ、百瓦の發煙硝酸を此の融けたる塊に加へ、小さき火焰上にて反應の起るまで注意して熱すべし、赤色の煙を發生するに至れば火焰を去り、尙此の反應を續け、更に温むるも酸化窒素の煙を發せざるに至りて止む、此の生成物を蒸餾し、百九十四度より百九十六度の間に蒸出するものを集め、之を冷却すれば凝固す、

サンニカフ(酸鹽化物) 化英 *Acid chloride.*

酸のOHの代りにClの入りしものをいふ、例へば「ホスゲン」瓦斯 ($COCl_2$)、「サルフリルクロライド」($S_2O_2Cl_2$)等の如し、

サンカ(酸化) 化英 *Oxidation.* 還元の逆にして、陽根を減じ若くは陰根を増すことなり、例へば、鹽化第一鐵が鹽化第二鐵となるは一の酸化なり、又、銅に陰根なる酸を與へて酸化銅とするも一の酸化なり、又、水素化合物より水素を減するも一の酸化なり、還元の條を併せ見よ、

サンカア(酸化亜鉛) 化英 *Zinc oxide, ZnO.*

此の物は、亞鉛を空氣中にて燃焼し、又は炭酸亞鉛或は硝酸

亜鉛を熱すれば生ずる白色の粉末なり、多量に製するには、亜鉛礦と木炭とを空氣中に熱し、亜鉛の蒸氣を生ぜしむれば、空氣の爲に酸化せられて酸化亜鉛となる、次に之を凝結せしむれば得らる、高温度に熱すれば黄色となり、冷却すれば白色に復す、通常亜鉛白或は亜鉛華と稱し、顔料、醫藥等として多く用ゐる、又油と煉り交ぜて「ペンキ」とす、硫黄を含める空氣に觸るゝも變色せざる故に、顔料としては炭酸鉛よりも賞用せらる。

サンカアルミニウム (酸化アルミニウム) 化英

Aluminium oxide. Al_2O_3 酸化「アルミニウム」は、水酸化「アルミニウム」を灼熱すれば、容易に得らる、此の物は紅寶玉、青玉及び鋼玉となりて存在す、紅寶玉及び青玉は美麗なる光澤を有し、其の質堅硬なるにより、寶石として貴重せらる、鋼玉は石質堅硬なるを以て、其の細粒は又金剛砂と稱し、玉を磨き又は彫刻するに用ゐらる。

サンカエン (酸化燐) 化英 Oxidising Flame. 燐の條を視よ。

サンカカルシウム (酸化カルシウム) 化英 Calcium oxide. CaO 通常、石灰と稱し、「カルシウム」化合物中甚だ有用なるものなり、石灰石に石炭を加へ、之を煉瓦若しくは石造の石灰窯中にて熱して製す、 $CaCO_3 = CaO + CO_2$ 純粹

の酸化「カルシウム」を得るには、沈降炭酸「カルシウム」或は無色純良の大理石を灼熱す、酸化「カルシウム」は白色無定形の物にして、之を熱するも熔融せず、酸水素吹管の燐に中つる時は烈しき光を發す、白金の如き熔け難き金屬を熔融するに用ゐる坩堝を製造す、石灰は鹽酸、硝酸等には容易く溶けて「カルシウム」鹽を生ず、又水を注ぐ時は熱を發し、二物劇しく化合して無定形の白色粉末、即ち水酸化「カルシウム」となる。

サンカギン (酸化銀) 化英 Silver monoxide. Ag_2O

硝酸銀の溶液に水酸化「アルカリ」の溶液を加ふるときは、酸化銀の暗黒色の沈澱を得、酸化銀を三百度に熱すれば銀と酸素とに分解す、僅に水に溶解す、其の溶液は金屬性の味を帯び、弱き「アルカリ」性の反應を呈す、酸化銀は容易に「アムモニア」水に溶け、 $Ag_2O + 2NH_3$ の化合物を生ず、其の乾燥せるものは、劇しき爆發物を有す、之を呼びて爆發銀と云ふ。

サンカク (山嶽) 地英 Mount. 土地の著しく高隆せるものを山といふ、其の成因により分るときは、火山、褶曲山、斷層山并に水蝕山あり。

サンカクス (三角洲) 地英 Delta. 流水の運搬したる土砂が堆積し、河口に砂洲を生ずるときは、河流は之に阻碍せ

られて幾多に分歧し、其の處に恰も三角形を集めたるが如き新陸地を形成すること屢々あり、之を三角洲又は三稜洲と云ふ、其の著名なるは、埃及の「ナイル」河、米國の「ミシシッピ」河、印度の「ガンヂス」河の河口にあり、我淀川の三角洲は大阪市及び其の附近の地にして、木曾川の河口にある長島、其の他の小陸地は、此の川の三角洲なり。

サンカトリイ (三角測量) 地英 Triangular surveying.

地表に於ける各地點の位置を、精密に圖上に寫す測量にして、其の法先づ地上に基線ABを設け、精密に其の位置と長さとなし、之を底邊として某地點Cを望み、ABCの三角形を造り、其の二つの底角を測りてCの位置を確定し、漸次此の方法を反覆して他の地點例へばDに及ぼし、其の位置を定めて之を圖上に寫すにあり。

サンカサイ (酸化劑) 化英 Oxidising agent. 他の物を酸化せしむるものをいふ、例へば硫酸と過「マンガン」

酸「カリウム」との混合物、鹽素酸「カリウム」等の如し、

サンカダイイチスイギン (酸化第一水銀) 化英 Mercurous oxide Mg_2O .

此の物は第一水銀鹽の溶液に水酸化「アルカリ」液を加へて生ずる黒色の粉末なり、不安定にして、日光に曝露する時は、徐々に分解して、酸化第二水銀及び金屬水銀となる。

サンカダイイチド (酸化第一銅) 化英 Cuprous oxide. Cu_2O

赤色酸化銅或は亞酸化銅と稱す、天然には稀に赤銅礦となりて存在す、此の物は銅末に黒色酸化銅を加へて熱し、若しくは硫酸銅溶液の「アルカリ」性となせるものに、葡萄酒の如き還元劑を加へて熱すれば生ず、赤色の粉末なり。

サンカダイイチニッケル (酸化第一ニッケル) 化英 Nickelous oxide. NiO

此の物は水酸化「ニッケル」、炭酸「ニッケル」、硝酸「ニッケル」等を熱すれば得らる、綠色の粉末にして、酸類に溶解して各種の「ニッケル」鹽を生ず、

サンカダイイチマンガ (酸化第一滿俺) 化英 Manganese oxide MnO .

此の物は炭酸「マンガ」或は他の「マンガ」の酸化物の水素瓦斯中に熱すれば得らる、淡褐色の粉末にして、空氣中に放置すれば、容易く酸化して四酸化「マンガ」となる。

サンカダイニクロム (酸化第二クロム) 化英 Chromic oxide Cr_2O_3

第二「クロム」鹽の溶液に「アムモニア」を加ふれば、淡青色膠狀の水酸化第二「クロム」の沈澱を得、熱すれば酸化第二「クロム」となる、此の物は又重「クロム」酸「カリウム」末と硫黄との混合物を熱すれば得らる、結晶せるものは淡綠色にして質頗る硬く、硝子、鋼鐵にも能く爬痕

を付す、酸には容易に溶解せず、美麗なる緑色を帯ぶるを以て、之を碎きて顔料とす、又硅石質の熔剤と共に熱すれば、緑色の珪瑯質を生ず、此のものは「ガラス」陶磁器に描畫するに用ゐらる。

サンカダイニエーギン(酸化第二水銀)化英 Mercuric oxide HgO . 金属水銀を空氣中にて凡そ三百度に熱する時は、徐々に酸化して酸化第二水銀を生ず、又硝酸水銀を緩に熱する時は、分解して酸化水銀を残す、赤色結晶状の粉末にして、高温度に熱すれば分解して水銀と酸素となる。

サンカダイニエー(酸化第二錫)化英 Stannic oxide. SnO_2 . 此の物は、錫石と稱する緑色の結晶體となりて存在す、錫或は水酸化錫を空氣中にて熱すれば、酸化第二錫は白色無定形の粉末として得らる、此の粉末を鹽化水素中に於て熱すれば結晶す、酸化第二錫は只自熱に於てのみ熔融す、強き酸類にも容易く溶解せず、又木炭と共に熱すれば容易く金属錫に還元す、不透明乳状の硝子を製するに用ゐる、又其の粉末は之に油を加へ煉りて「ガラス」の漆喰(Glitter)として用ゐらる、俗に「この漆喰を「パチ」と云ふ、

サンカダイニエツ(酸化第二鐵)化英 Ferric oxide. Fe_2O_3 . 此の物は赤鐵礦となりて存在す、水酸化第二鐵を

熱灼して得る所の酸化第二鐵の赤色の粉末なり、粉末として磨粉及び顔料とす、「ベニガラ」及び代赭は主に此の物より成れる顔料なり、

サンカダイニエー(酸化第二銅)化英 Cupric oxide. CuO . 銅を空氣中にて熱する時は、其の表面は酸化して酸化第二銅となり黒色に變ず、又硝酸銅を熱する時は容易く分解して二酸化窒素及び酸化第二銅となる、此の物を木炭と共に熱し、或は之を砂糖の如き炭素水素等の化合物と共に管中に入れて熱すれば、容易く含有せる酸素を放ちてそれらの物を燃焼せしめ、自ら還元して金属銅となる、故に有機物を分析して含有せる水素、炭素をそれぞれ水及び二酸化炭素と定量化するに用ゐる、黒色なるが故に、又之を黒色酸化銅と稱す。

サンカチン(酸化窒素)化英 Nitric oxide. NO . 酸化窒素は、硝酸にて金属を溶解する時に生ずる瓦斯なり、之を製するには、稀薄の硝酸を銅屑に注ぐに於て、其の反應は次の如く二段に起る、即ち第一に硝酸銅と水素を生じ、次に第一の反應にて生じたる水素は、過剰の硝酸に作用して酸化窒素を生ずるなり、



酸化窒素は無色の瓦斯にして、酸素或は空氣に觸るれば、直に酸素と化合して赤色の過酸化窒素となる、高壓と低温とにて液體に變じ得、水に溶解する性稍乏し、其の比重は十五にして、物體の燃焼を保持せず、點火したる水素、硫黄若しくは蠟燭を此の瓦斯中に入ると、時は、其の焰は皆消滅す。

サンカマリ(酸化鉛)化英 Plumbic oxide PbO . 鉛を空氣中に於て熱すれば、酸化鉛となる、この際、温度を上らしめざるやう間断なく攪拌すれば、黄色の粉末となる、通常、密陀僧と稱せらる、鉛を高温度に熱して酸化せしめ、且つ熔融したるものを冷却すれば、赤黄色の結晶塊となる、之を金密陀といふ、酸化鉛の粉末を空氣中に放置すれば、徐々に二酸化炭素を吸收す、密陀僧は鉛硝子の製造に用ゐる、又之を二酸化硅素即ち硅砂と共に熔かせば、珪瑯質の硅酸鉛を生ずるを以て、陶磁器の面に描く各種の珪瑯質を製するの用に供す。

サンカツ(氧化物)化英 Oxides. 主に酸素との化合物をいふ、例へば酸化鐵、酸化銅、酸化砒素等の如きものはなり、

サンカマクネシウム(酸化マグネシウム)化英 Magnesium oxide. MgO . 此の物は「マグネシウム」を空氣

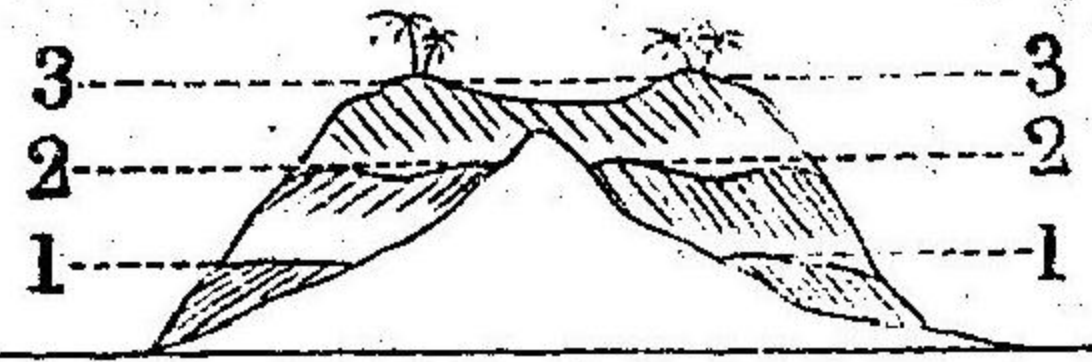
中にて燃焼し、或は炭酸「マグネシウム」を熱して製す、若土或は「マグネシア」と稱せらる、白色の粉末にして、強き鹽基性の化合物なり、高温度に於ても熔くことなき故に、高熱に當つべき器の面に塗布して、其の破壊を防ぎ、或は耐火煉瓦の製造に用ゐることあり、酸化「マグネシウム」に少量の水を加へ更に砂を混せるものは、大氣中に於ては徐々に堅硬となる、之を耐火「セメント」に用ゐる。

サンキ(酸基)化英 Acid radical. 例へば醋酸の酸基は CH_3CO_2 、硝酸の酸基は NO_2 など。

サンケイ(山系)地英 Mountain system. 山脈の集りて一系統をなすものをいふ。

サンコ(散光)物英 Diffused light. 光線が其の表面粗糙なる物體に當たりて反射する時は、其の反射光線の方向一定ならずして四方に擴がるものなり、之を散光と稱す、光が何れの方より物體を照らすに拘らず、吾人の之を見ることを得るは、この散光の眼に入るによるなり、

サンシヨ(珊瑚礁)地英 Coral reef. 珊瑚類の動物骨格の堆積したるものにして、其の位置によりて三種に分かつ、即ち島縁に接するものを裾礁と云ひ、島と海を隔てて存在するものを堡礁と云ひ、島を有せざる環状礁を環礁と云ふ、「ダーウキン」氏の説によれば、礁を作る珊瑚



蟲は、海面下凡そ九十尺以下には生息せざるものなるに、珊瑚礁の海岸は通例急峻にして、九十尺以下に珊瑚礁の基礎を存すること多し、是れその處の海底漸次に下降したるが、又は海面上昇したるかにあらざるべからず、即ち先づ裾礁を生じ、そが漸次沈降して堡礁となり、更に沈降して環礁をなすなりと云ふ、圖中の數字は海面の1、2、3、と漸次に上昇したることを示せり、然れども珊瑚礁の成生に關しては、「ゼムベル」

「ライン」「モーレー」氏等出て、「ダーウケン」に反對し、異説少からず、蓋し礁の狀態によりては、必ずしも「ダーウケン」説の如くに成生したりと限ること能はざるものあらんか、

サンゴ (珊瑚樹) 動 「サンゴ」の共同骨格をいふ、

サンゴジョイタイ (珊瑚狀體) 動 「サンゴ」に同じ、

サンゴジョーバン (珊瑚狀板) 動 「サンゴ」に同じ、

サンゴト (珊瑚島) 地英 Coral Island. 珊瑚礁によりてなる島を云ふ、「サンゴジョー」の條を見よ、

サンニン (酸根) 化英 Acid radical. 醋酸根 (CH₃CO₂) 硝酸根 (NO₃) 等の如く、酸の水溶液に於て陰イオンとなるものをいふ、

サンゴライ (山口瀬) 地 「カゴライ」(火口瀬)に同じ、

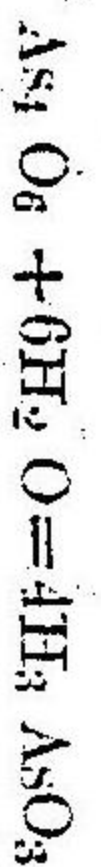
サンゴイ (珊瑚類) 動 Anthozoa. 體は「ポリプ」狀にして、單體なるあり、又群體をなせるあり、體壁に三層あり、下面を以て物に吸着し、上面中央に裂狀の口を開き、許多の觸手其の周圍に環生す、之を開張すれば菊花の如く、之に觸るれば忽ち收縮す、收縮の狀恰も哺乳類の肛門の如し、口より入れば管狀の食道あり、其の下端は腔腸に通ず、腔腸は放射狀に配置せる直立膜を以て數房に區分す、之を隔膜といふ、此の膜は上方食道に接し、下方は遊離す、刺絲胞、生殖物は此の隔膜に生ず、雌雄異體なるを常とす、「ポリプ」は群體をなすもの多く、共同肉を有し、其の内に共同骨格を沈澱す、此の骨格は緻密にして角質なるあり、或は石質なるあり、何れも小骨片の聚成によりてなれるものなり、珊瑚蟲類は、熱帯の海洋に於て最もよく繁生し、其中、「ミドリイシ」「ハマサンゴ」及び「ロドロサンゴ」等の數種は、其の共同骨格を島の附近に集積して巨大なる塊をなし、岩礁若しくは一の島嶼を成すことあり、珊瑚礁、珊瑚島即ち是なり、

サンサンカゼン (三酸化砒素) 化英 Arsenous oxide. As₂O₃. 三酸化砒素は、俗に砒石若しくは亞砒酸と稱し、砒酸を含有する鑽石を空氣中に燒きて昇華せしむ、其の溫度

の高き時は、三酸化砒素は無定形の氷狀體となり、溫度稍

低き時は白色の結晶末となりて、器の蓋に附著す、

無定形の三酸化砒素は、無色透明なりといへども、之を大氣中に放置する時は、徐々に變じて白色の微粒結晶體となり、二百八十度にて無色の氣體に變ず、結晶末は無定形のものに比すれば水に溶解する性乏し、共に有毒性なり、三酸化砒素の水溶液は亞砒酸を含有す、即ち



又三酸化砒素を濃厚なる鹽酸と熱する時は容易く溶解し、其の液が冷却すれば、正八面體の結晶となりて液中より析出す、三酸化砒素の微量は、醫藥として使用すと雖も、激毒性のものなれば、之を取扱ふには極めて注意せんことを要す、

サンサンカチン (三酸化窒素) 化英 Nitrogen trioxide N₂O₃. 濃粉若しくは三酸化窒素に硝酸(比重1.3)を加へて熱する時は、赤色の瓦斯を發す、而して此の瓦斯を生

寒劑を以て冷やしたる管中を通ずる時は、瓦斯は藍色の液體となるべし、即ち三酸化窒素なり、液體の三酸化窒素は溫度が零度以上に昇る時は、分解して二酸化窒素となる、又三酸化窒素を常溫の水に通ずる時は、分解して酸化窒素及び硝酸となる、其の反應は次に示すが如し、



又三酸化窒素を水酸化「カリウム」の水溶液に通ずる時は、亞硝酸「カリウム」及び水を生ず、

サンサンカマリブデン (三酸化モリブデン) 化英 Molybdenum trioxide. Mo₂O₃. 三酸化「モリブデン」は淡

黄色の結晶にして、熱すれば黄色に變ず、赤熱にては昇華す、水溶液に稀薄なる硝酸を加ふるも沈澱を生ぜざれども、濃厚なる硝酸を加ふれば、三酸化「モリブデン」を沈澱す、

サンサンカエオー (三酸化硫黃) 化英 Sulphur trioxide S₂O₃. 乾燥せる三酸化硫黃と酸素の混合物を、熱したる海

綿狀白色金に通ずる時は、化合して三酸化硫黃を生ず、又發煙硫黃を「ントルト」にて蒸溜し、之を「フラスコ」に集めて放置すれば、絹の如き光澤を有する長針狀の結晶即ち三酸化硫黃を生ず三酸化硫黃の純粹なるものは、十七度八に於て熔融し、四十六度二に於て沸騰す、空氣に觸るれば濕氣を引きて白煙を生じ、水に入る、時は、劇烈に化合して硫酸となる、

サンショ (秦椒又山椒) 植 Zanthoxylum piperitum DC. 芸香料の木本にして、芳香を有し、葉は羽狀複葉を

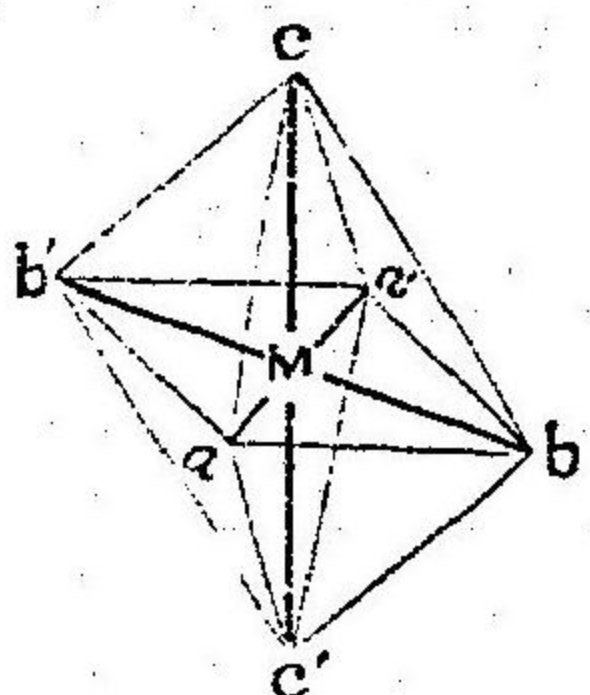
なし、花は單性にして雌雄花を異株に生ず、其の新葉を香料として食用に供す、果實及花も亦然りとす、

サンシヨウウラ (鯢魚) 動 Cryptobranchius japonicus, V. J. Hooy. 英 Salamander. 伊賀伊勢其の他中國の山間谿水に産し、



現世の兩棲類中最も大なるものなり、幼時は鰓を具ふるも、老成すれば消失し、肺呼吸をなす、然れども水棲するを常とし、魚類を食す、

サンシヤシヨウケイ (三斜晶系) 鑛英 Triclinic system.



三軸悉く其の長さを異にし、又互に斜角をなす、上圖の如し、圖中aaは直軸にしてbbは長き側軸即ち長軸、aaは短き側軸即ち短軸なり、而して軸の取り方は、一般に短軸を前後の位置に置くを

常とす、

サンスイソエン (酸水素燄) 化英 Oxyhydrogen flame. 酸素及び水素の混合物の燃えて出す燄にして、火力強く、白金の如く容易に熔け難き金屬をも熔融せしむ、即ち其の

温度は凡二千八百四十四度なり、酸水素燄を得るには所謂酸水素吹管を用ふるを以て、酸水素燄を酸水素吹管の燄と稱することあり、

サンスイスイカン (酸水素吹管) 化英 Oxyhydrogen blowpipe. 酸素及び水素の混合物を燃焼せしむる管にして、二本の管より成れり、即ち内部の管より水素を出し、外部の管より酸素を出して之に火を點するなり、

サンスイスイカンホホ (酸水素吹管の燄) 化 酸水素燄に同じ、

サンセー (鑛井) 地 英 Artesian Well. 地質の構造



が盆状をなし、地層四方より中央に向いて傾斜する土地に於て、深く地層を穿つ時は、湧水噴騰して高く地上に昇るを見るべし、之を鑛井と云ふ、俗に「ホリキイト」と稱す、上圖は此が噴出する理由を模型的に示すものにして、圖中1は砂石の層を、2は粘土の層を示すものなり、サンセー (酸性) 化英 Acid. 酸味を有し、青色「リトマス」液若しくは青色「トマス」試験紙を赤色に變じ、鹽基と化合して鹽を造る等の性質を云ふ、

サンセキ (山脊) 地 英 Mountain crest-line. 山稜の最高點を連ねたる不規則なる線なり、山脊は又分水線と稱へ、水の雙方に分かれ流るる所なり、

サンセーエン (酸性鹽) 化英 Acid salt. 硫酸の如く、

其の一分子中に金屬と置換し得る水素原子二個を有する酸は、其の水素の一を金屬と置換して鹽を生ず、例へば酸性硫酸「ナトリウム」[NaHSO₄]の如し、而して殘れる水素は尙ほ金屬と置換することを得べし、此の如き水素を有する鹽を酸性鹽と稱す、酸性鹽を生じ得る酸は、金屬と置換し得る水素の二個若しくは二個以上を有するものに限る、

サンセーサンカツ (酸性酸化物) 化英 Acid oxide.

硫黃、窒素、磷等の如き非金屬元素の酸化物を酸性酸化物といふ、何となれば此等の酸化物は、水と化合して酸を生じ得るを以てなり、

サンセーゲン (酸性團) 化英 Acid group. 例へばCO₂Hの如きものをいふ、

サンセイタンサンテトリウム (酸性炭酸ナトリウム) 化

英 Hydrogen sodium Carbonate, NaHCO₃. 此の物は「ソルツウェー」氏の炭酸曹達製造に於て、最初に生ずるものなり、白色小粒狀の結晶にして、炭酸「ナトリウム」に比すれば、水に溶解すること大に少し、此の水溶液は微弱なる

鹽基性反應を呈す、此の鹽を熱するときは、二酸化炭素瓦斯と水とを放ちて炭酸「ナトリウム」に變ず、此の物は、普通

に重炭酸曹達若しくは重曹と稱し、健胃劑とし、又消化器の液を作る料に供せらる、是れ酸に逢ふときは、多量の炭酸瓦斯を放出するを以てなり、

サンセーシン (酸性反應) 化英 Acid reaction.

酸性を示す作用をいふ、

サンセン (三尖瓣) 生 英 Trienspated valve.

右心耳、右心室間にある瓣にして、三枚あり、

サンシ (酸素) 化英 Oxygen. O. 原子量 十六

サンシシサイ (酸素の所在) 酸素は地球上最も多量に

存し、又最も廣く散布するものにして、固形地殻の百分組成中、四十四乃至四十八分を占め、水の重量中九分の八、空氣の容積の五分の一を成し、又炭素、水素、窒素等と化合して、植物及び動物體中に存在せり、

は、其の沸點は零下百八十一度なり、液化せる酸素の比重は
 一・二四なり、通常の温度にては、容易に作用を呈せざれ
 ども、物體を永く酸素中に置けば作用せらる、高温にて
 は、酸素は弗素を除くの外、總ての單體と化合するのみな
 らず、數多の化合物にも作用を及ぼすものなり、而して其
 の温度は各物體の種類に由りて異れり、酸素が此の作用を
 起すときは、常に熱と光とを發す、此の現象を燃焼と稱す、
 サンソーホー(酸素の製法) 實驗室等にて少量の酸素を
 製するには、二酸化「マンガーン」と鹽素酸「カリウム」の混合
 物を熱するなり、然れども工業的に製するには、過酸化「パ
 リウム」の如き過酸化物を強熱す、
 例へば酸化「バリウム」は弱熱すれば過酸化「バリウム」と
 なる、而して過酸化「バリウム」を強く熱すれば、酸素を放
 ら酸化「バリウム」となる故に、空氣中より酸素を抽出する
 ことを得るなり、

サンソ(山側)地英 Side of mountain. 山腹に同じ、
 サンサン(酸素酸)化英 Oxy-acid. 酸素元素を含有
 する酸をいふ、例へば硝酸(HNO₃)、硫酸(H₂SO₄)等の如
 し、

サントイヌイ(三體雄蕊)植英 Tridynamis
 stamens. 多くの雄蕊が花絲にて連合し、三束に分れるも
 のを云ふ、

例へば金絲桃の雄蕊の如し、
 サントー(山統)地 多くの山系が更に集りて、大陸の中
 央に一大帯をなすものをいふ、
 サントーハクキン(三頭膊筋)生 Triiceps tracheii.
 三頭を有する筋にして、二頭は肩胛骨に、二頭は上膊骨に
 連り、先端は一本となり尺骨の後面に着す、收縮により腕
 を伸びしむる用をなす、
 サンイオ(鱈良又海馬)動 Halibute. 哺乳類中潜水類
 に屬し、全形鱈に似、頭多少判然し、眼は上前方にあり、
 乳房一對を有す、草食にして、白齒は牛馬に似る、一丈内
 外の大きさを有し、亞弗利加の西海岸、亞米利加の東海岸に
 ある河口或は海洋に棲息す、我沖繩諸島の沿岸にも産す、
 「ウミホズ」又「ニンギョ」(人魚)とも稱せらる、

サンエンキド(酸の鹽基度)化英 Basicity of acid.
 酸が鹽基を中和して鹽を生ずる力を酸の鹽基度と稱す、酸
 の鹽基度を示すには、一鹽基酸、二鹽基酸等の語を用ふる、
 例へば硝酸の一分子は一價の鹽基と中和し、硫酸の一分子
 は一價の鹽基二分子を中和す、而して硝酸の如き酸を一鹽
 基酸と稱し、硫酸の如き酸を二鹽基酸と稱す、此の外三鹽
 基酸四鹽基酸等あり、

サネー(山水)地英 Neye. 山上に堆積せる雪が漸
 次氷となり、一大塊をなせるものをいふ、

サンク(山腹)地英 Side of Mountain. 脊と麓と
 の間にある傾斜せる山の部分をいふ、又山側ともいふ、

サンク(秋光魚)動 Seem Inesox. 體は双狀にして尺餘
 に及ぶ、背部綠色、側腹面は銀白色を呈し、側面に眞珠色
 の横線あり、安房、伊豆、紀伊等に饒産す、遠洋魚にして
 群游す、味佳なり、軟鱈類に屬す、「サヨリ」と相似たり、

サンシク(山脈)地英 Mountain range. 長く連互
 せる山をいふ、山脈の生成するは、地球内部の力によるも
 のにして、地熱が漸次放散するときは、地球は次第に冷却
 し、其の容積を減す、而して其の收縮する力は、分かれて垂
 直及水平の二力となり、後者は即ち横壓力となりて地殼を
 壓し、其の表面に凹凸を作りて山脈をなすこと、なほ新鮮な
 る橙子が日を経るに従ひて、其の外皮に皺裂を造ると異な
 ることなし、

サンリョーキン(三稜筋)生英 Deltoid muscle. 肩の
 角にある三角形の筋肉にして、收縮すれば手を舉上せしむ、
 又三角筋とも稱せらる、

サンリョーコー(三稜口)地英 River mouth in delta.
 河水が分岐して三稜洲を挟む所の河口を云ふ、

サンリョース(三稜洲)地 三角洲に同じ、
 サンリョーハリ(三稜玻璃)物英 Prism. 「プリズム」
 を見よ、

サンロ(山麓)地英 Foot of mountain. 山麓の傾
 斜面と、四圍の平地と相接する線をいふ、但し此の線は判
 然たること極めて罕にして、多くは兩者の間に丘陵地を挟
 むが、然らざれば山側は漸次平地に推移するものなり、

サメルイ(鮫類)動 Selachoides. 魚類中軟骨類に
 屬する一亞目にして、長紡錘狀を呈し、鰓孔は側方に向かひ
 て開口す、鮫類は殊に多く熱帯の海洋に産し、往々巨大の
 ものあり、皆運動迅速にして其の性强暴食食なり、其の鱗
 の皮を剥きて乾燥したるものは、「フカノヒン」(鮫翅)と稱
 し食用に供す、多く支那に向ひて輸出す、又鮫類の稍小なる
 ものは、其の肉食ぶべきも、我邦にては専ら之を以て「カマ
 ホコ」(魚餅)を製す、鮫皮は物を摺り磨くに用ゐられ、又往
 時銀靶を飾るに多く用ゐられたり、

サヤ(鞘)植英 Sheath. 葉脚の變形にして、單子葉植物に
 其の例を見る、「イネ」「ムギ」の如きは、葉柄が變じて鞘をな
 せり、

サユードーケー(左右同形)動英 Bilateral symmetry.
 體を兩分して、其の一半が他の一半を鏡に寫して見たる如

くにある形を有するものないふ、脊椎動物の如き即ち是にして、此の兩分すべき面は唯一つあるのみ、即ち體の中軸を含み、背腹の正中を通過する面なり、

サヨク(砂浴) 化英 Sand bath. 鐵等の皿に砂を盛りたるものにて、「フラスコ」「ビーカー」等を熱する時に、穩かに熱せんが爲に用ゐるものなり、又砂皿ともいふ、

サヨリ(鱧魚) 動 Hemilampius. 「サメ」に酷似する魚にして、下顎著しく突出し、細尖の齒を上下顎に列生す、體長九寸あり、背部淡黒色、腹部銀白色なり、體側に太き蒼色の縦線あり、西南海に多し、

サラシユ(漂白粉) 化 「ソーダ」の條を見よ、

サリチルサン(水楊酸) 化英 Salicylic acid C₆H₄(OH)CO₂H. 「サリチル」酸は、無色稜柱狀の結晶にして、冷水に溶け難く、沸湯「アルコール」「エーテル」に能く溶解し、其の結晶は昇華することを得、然れども急に熱すれば石炭酸及び炭酸に分解す、熔點百五十度、鹽化第二鐵を加ふれば紫色となる、重要な防腐劑なり、其の「ナトリウム」鹽は「サリチル」酸曹達と稱し、大に醫藥に供せらる、

サルオガセ(松蘿) 植 Usnea longissima Ach. 山中の枯木等より長く下垂せる、灰綠色の絲の如きものにして、人の知る所のものなり、其の莖部を横斷すれば、線頸層と

髓絲層とが輪狀に排列するを見るべく、外圍粗質にして、内部緻密なるを以て、やや牽引力に抵抗することを得るなり、

サルノシカケ(胡孫眼) 植 Fomes phaeocephus, Cooke. 菌類にして樹皮に生ず、頗る大なるものあり、樹幹に殆んど直角に着生し、大抵半圓形の棚狀をなし、腰掛の觀を呈す、傷ある木に生じ、漸次蔓延して枯死に至らしむ、枯木には生ぜず、小は四五寸より、大は一二尺に至る、之を採り來りて床置物又は扁額とす、

サルノイ(猴類) 動 Ptilinops. 哺乳類に屬し、四肢は手の作用をなし、樹上生活に適し、前肢は後肢よりも長きを常とす、指趾毎に扁爪を有し、只稀に鈎爪を有す、面部裸出して兩眼前に向ひ、容貌人類に似るといへども、口吻必ず突出せり、門齒は四個を有し、犬齒は往々甚だ強大なり、白齒五六あり、性狡猾にして深山茂林の中に群居して、果實野菜を食し又昆蟲を嗜むものあり、

サロス天 英 Sarsaparilla. 太陰月二十九日五三〇五九の二日二十三倍は六千五百八十五日三二にして、太陽の中心と月の交點Nとが合となりたるときより次に合となるまでの間の三百四十六日六二の十九倍は、六千五百八十五日七八にして兩者殆ど相等し、故に六千五百八十五日、即ち十八年と

十日或は十一日ほど経れば、月と太陽との比較的位置は前と同様になる、從て蝕の數も此の周期を以て繰返さる、此の週期を「サロス」と云ふ、此の週期の間には、月蝕二十九回と日蝕四十一回ほどあり、

サロモイシヤシ(サロモン椰子) 植 Cucos Salomonensis, Warbg. 效用は「カロニンイシヤシ」に同じ、

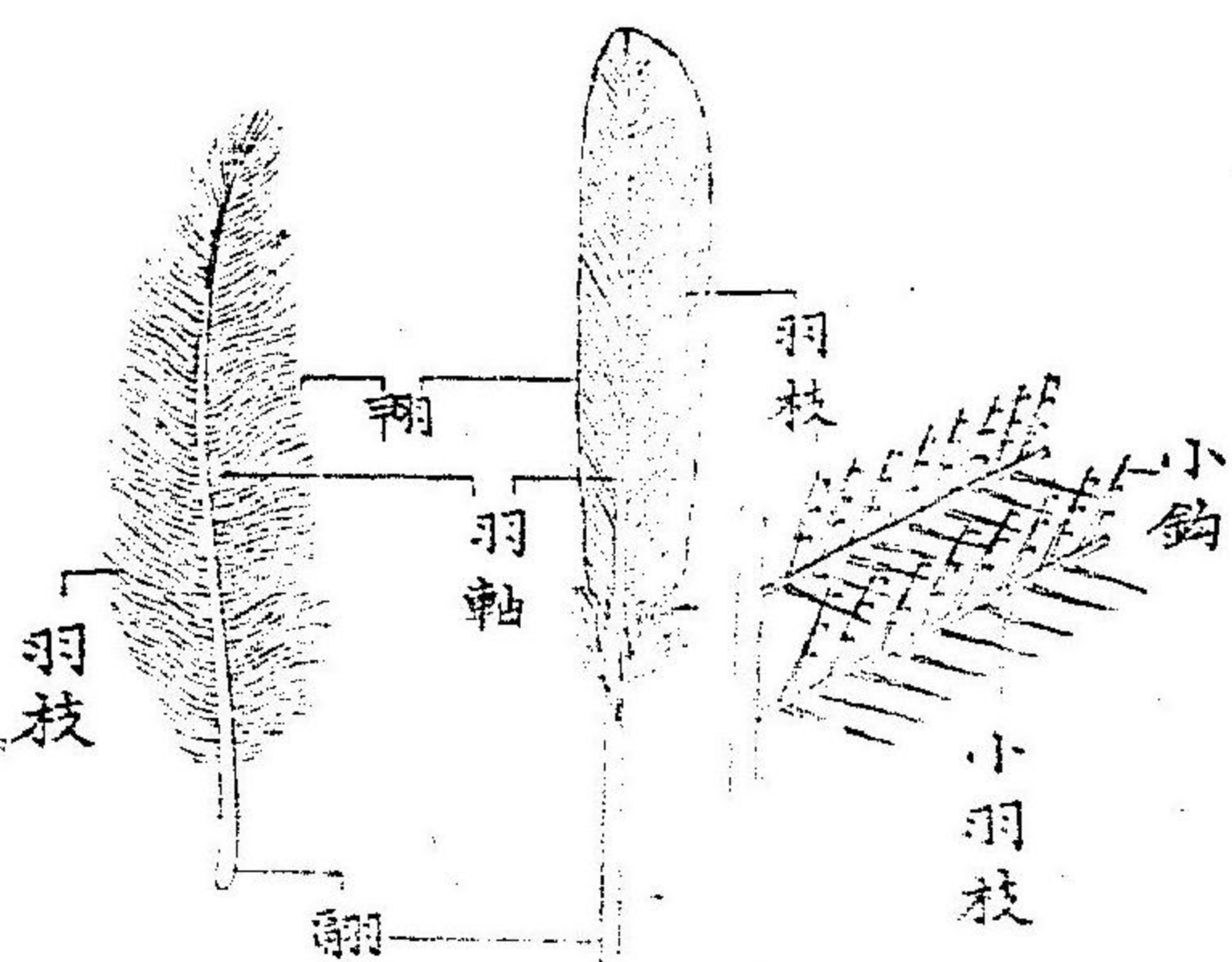
シ

シ(聲) 動英 Contour feather. 翼、尾等にある長き羽毛をいふ、下圖を見られよ、猶「カモ」の條をも見よ、

シアンチサンカルシウム(次亞鹽素酸カルシウム) 化英 Calcium hypochloride, Ca(OCl)₂. 次亞鹽素酸「カルシウム」は、石灰乳に鹽素瓦斯を通じて得らるる結晶體なり、甚だ不安定にして、炭酸の如き弱酸にも容易く分解せられて鹽素瓦斯を游離す、

ジアリューサンターダ(次亞硫酸曹達) 化 「チオ」硫酸「ナトリウム」に同じ、

ジイガセ(石籠) 動 Chiton. 腹足類に屬する動物にして、海岸の岩礁に吸着し、全形小判形にして、背に八枚の菱狀骨片を有し、體縁に茸毛あり、眼及觸角を有せず、吸着力強



し、體長一寸以上のもの稀なり、又「ヒヂラカヒ」と云ふ、

シエカハッキン(四鹽化白金) 化英 Platinum tetrachloride, PtCl₄. 白金を王

物の物は五乃至十分子の結晶水を含み、潮解性を有して、能く水及び「アルニール」に溶解す、「カリウム」及び「アムモニウム」を定量し、或は白金鍍金及び寫眞術等に用ゐらる、
ジオーテツト(磁黃鐵礦) 鐵英 Pyritite. 色は古銅色を呈し、磁性あり、酸に溶けて硫黃を分離す、黃鐵礦と等しく、線鑿の製造に供す、中國邊にて之を「赤ドーキン」と云ふ、

シカ(鹿) 動 Cervus. 英 Deer. 分岐せる角を有する反芻類にして、四肢細長なり、性溫和にして、鳴聲可憐に、よく人に馴る、角は毎年脱落するものにして、牛の角と異り全く骨のみよりなる、初めは血液及皮膚之を被ひ、漸次骨質を沈澱し、充分成長すれば根部基部に突起を生じ、之によりて循環を止め、遂に之を被ひたりし皮膚は剝離するに至る。

シカ(雌花) 植英 Pistillate Flower. 一花にして、雌蕊のみを有するものを云ふ。

シガイ(子蓋) 植英 Indusium. 子葉群を包被する、圓形或は半月形等の包片なり、「ヤブソテツ」には圓形の子蓋あり、「シケシダ」「イヌワラビ」には半月形の子蓋あり。

シカイ(耳介) 動英 Pinna. 耳の外部に現出したる部にして、俗にいふ耳は即ち耳介を意味す。

シガイゼン(紫外線) 物英 Ultra-violet line. 化学線を見よ。

シカク(視角) 物英 Visual angle. 物体が眼に對して開く所の角を視角といふ、故に視角は、物体が眼を遠かるに従ひて、益々小となり、殆ど距離に逆比例するものなれば、物体の見懸けの長さ又は幅は、其の距離に逆比例し、見懸けの面積は、其の距離の自乗に逆比例するものなり。

ジカク(時角) 天英 Hour angle. 天球上或點の時角

とは、觀測者の居る所の子午面と、其の或る點の時圈の平面とのなす角を云ふ、時角は、西の方に正に計り、三百六十度まで計る、故に觀測者の居る場所の西の方の點の時角は正となり、東の方の時角は、正にとれば非常に大となり、九十度以下にて計らんとせば負となる。

ジカク(耳殼) 生英 Pinna. 「シカイ」に同じ。

シカザン(死火山) 地 消火山に同じ。

ジカジセー(自花受精) 植英 Self Fertilization. 同花中の雄蕊の花粉が、其の雌蕊の胚珠を受胎せしむるものを云ふ、例へば「スミン」の一種の如きとなり。

シキ(式) 化英 Formula. 化学式の略稱なり。

シキ(四季) 天地英 Seasons. 一年内の季節、即ち春夏秋冬をいふ、地球は太陽の周圍を楕圓形に一週す、其の楕圓の平面を黄道面と云ひ、赤道面と二十三度半の傾斜をなせり、且つ地球と太陽との距離は、一年中同一ならず、故に地球の表面が太陽より受くる熱は恒に等しからず、是に由りて春夏秋冬の四季節を生ず、三月廿一日(春分)には太陽は春分點にありて、北半球の春を形づくり、其れより次第に太陽の赤緯度増し、六月廿一日頃(夏至)太陽の赤緯度最高に達し、所謂夏を生ず、此の後は赤緯度次第に減じ、九月廿三日頃(秋分)に赤道上に復歸す、此の時は秋なり、猶赤緯

度減じ、十二月廿二日頃(冬至)には最低に達す、此の時は冬なり、但し其の極暑極寒は常に夏至及冬至よりも後るゝなり、是れ地球の内部を熱するに時間を要し、内部より熱の放散せらるゝに時日を要すればなり。

シギ(鴨又鵝) 動英 Shipe. 涉禽類にして、種類甚だ多く、「タマシギ」「タシギ」「ツシギ」「ヤマシギ」「アカシギ」「キアシシギ」等種々あり、嘴何れも頭より長く、先端のみ堅硬なり、蹠はあることなく、趾は長くしてよく發達す、沼澤に立ちて、小魚蟲類を食ふ。

シキ(磁氣) 物英 Magnetism. 磁氣體をして其の磁性を現はせしむる所の原因を稱して、磁氣と云ふ。

シキ(磁器) 鑛 陶土にて製す、質緻密にして固く、白色半透明なり、瀬戸焼、伊萬里焼、清水焼、九谷焼等之に屬す。

シキアラシ(磁氣嵐) 物英 Magnetic storm. 地球磁氣の磁場の強さは、同一の場所に於ても、時々變更して一定ならず、一日或は一年等を週期として、稍規則正しく變化をなすものなれども、雷鳴、地震若しくは或る他の原因により、突然急激に不規則なる變化をなし、長きは兩三日に亘りて初めて平穩に復することあり、之を磁氣嵐といふ。

シキシモン(磁氣子午線) 物英 Magnetic meridian. 磁針の指示する方向を含む所の直立面が、地球の表面

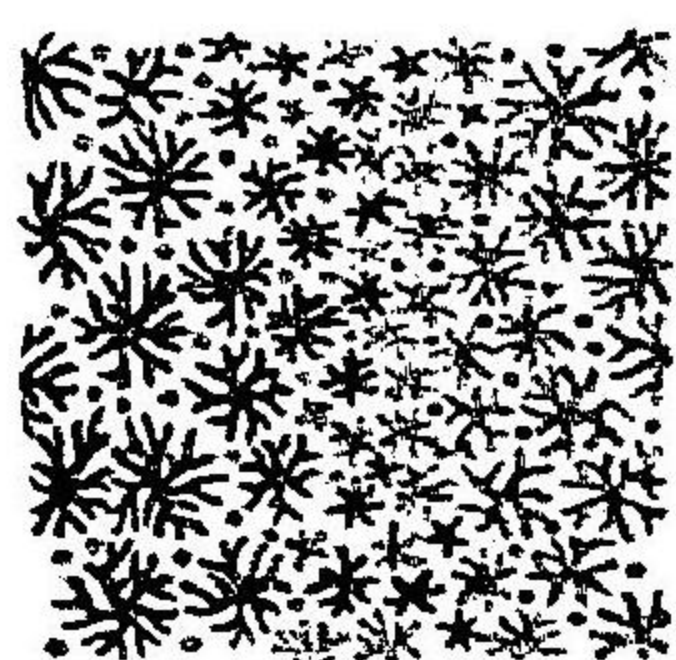
と交はる所の線を稱して、磁氣の子午線といふ。

ジキセキド(磁氣赤道) 物英 Magnetic equator. 磁氣赤道とは、地球上各地に於て磁針の伏角の零なる地點を求め、之を連絡して成る所の直線にして、地球を一周するものなり。

ジキセーチョーケイ(自記成長計) 植英 Self-registering Auxanometer. 一定時間内に於ける成長を紙上に自記せしむる植物生理の實驗器なり。

シキン(色素) 化英 Coloring matter. 染色に用ゐる繪具をいふ、例へば「アニリン」色素の如し。

シキンサイホー(色素細胞) 動英 Chromatophore. 「イカ」「カメレオン」等の皮膚にある有色細胞にして、隨意に伸縮することを得、伸長するときは中心より八方に根状枝を出し、收縮するときは一小點となる、二三の色素を有するにより、外界の色に應じ種々に變色することを得、例へば



青色細胞のみを伸長し、赤色細胞を收縮すれば體色青色に變ず、生ける「イカ」を刺戟すれば、容易に實驗することを得、此れ自己保存上自然淘汰の結果なり、挿圖は色素細胞が伸縮して外界の色に似る想像圖なり。

シカ(鹿) 動 Cervus. 英 Deer. 分岐せる角を有する反芻類にして、四肢細長なり、性溫和にして、鳴聲可憐に、よく人に馴る、角は毎年脱落するものにして、牛の角と異り全く骨のみよりなる、初めは血液及皮膚之を被ひ、漸次骨質を沈澱し、充分成長すれば根部基部に突起を生じ、之によりて循環を止め、遂に之を被ひたりし皮膚は剥離するに至る。

シカ(雌花) 植 英 Pistillate Flower. 一花にして、雌蕊のみを有するものを云ふ。

シカイ(子蓋) 植 英 Indusium. 千葉群を包被する、圓形或は半月形等の包片なり、「ヤブソテツ」には圓形の子蓋あり、「シケシダ」イヌソテツには半月形の子蓋あり。

シカイ(耳介) 動 英 Pinna. 耳の外部に現出したる部にして、俗にいふ耳は即ち耳介を意味す。

シカイゼン(紫外線) 物 英 Ultra-violet line. 化学線を見よ。

シカク(視角) 物 英 Visual angle. 物体が眼に對して開く所の角を視角といふ、故に視角は、物体が眼を遠かるに従ひて、益々小となり、殆ど距離に逆比例するものなれば、物体の見懸けの長さ又は幅は、其の距離に逆比例し、見懸けの面積は、其の距離の自乗に逆比例するものなり。

シカク(時角) 天 英 Hour angle. 天球上或點の時角

とは、觀測者の居る所の子午面と、其の或る點の時圈の平面とのなす角を云ふ、時角は、西の方に正に計り、三百六十度まで計る、故に觀測者の居る場所の西の方の點の時角は正となり、東の方の時角は、正にとれば非常に大となり、九十度以下にて計らんとせば負となる。

シカク(耳殻) 生 英 Pinna. 「シカイ」に同じ。

シカサン(死火山) 地 消火山に同じ。

シカジュー(白花受精) 植 英 Self Fertilization. 同花中の雄蕊の花粉が、其の雌蕊の胚珠を受胎せしむるものを云ふ、例へば「スミレ」の一種の如きなり。

シキ(式) 化 英 Formula. 化学式の略稱なり。

シキ(四季) 天 地 英 Seasons. 一年内の季節、即ち春夏秋冬をいふ、地球は太陽の周圍を楕圓形に一週す、其の楕圓の平面を黄道面と云ひ、赤道面と二十三度半の傾斜をなせり、且つ地球と太陽との距離は、一年中同一ならず、故に地球の表面が太陽より受くる熱は恒に等しからず、是に由りて春夏秋冬の四季節を生ず、三月廿一日(春分)には太陽は春分點にありて、北半球の春を形づくり、其れより次第に太陽の赤緯度増し、六月廿一日頃(夏至)太陽の赤緯度最高に達し、所謂夏を生ず、此の後は赤緯度次第に減じ、九月廿三日頃(秋分)に赤道上に復歸す、此の時は秋なり、猶赤緯

度減じ、十二月廿二日頃(冬至)には最低に達す、此の時は冬なり、但し其の極暑極寒は常に夏至及冬至よりも後る、なり、是れ地球の内部を熱するに時間を要し、内部より熱の放散せらるゝに時日を要すればなり。

シギ(鴨又鵝) 動 英 Shipe. 涉禽類にして、種類甚だ多く、「タマシギ」「タシギ」「シシギ」「ヤマシギ」「アカシギ」「キアシシギ」等種々あり、嘴何れも頭より長く、先端のみ堅硬なり、蹠はあることなく、趾は長くしてよく發達す、沼澤に立ちて、小魚蟲類を食ふ。

シギ(磁氣) 物 英 Magnetism. 磁氣體をして其の磁性を現はさしむる所の原因を稱して、磁氣と云ふ。

シギ(磁器) 鑛 陶土にて製す、質緻密にして固く、白色半透明なり、瀬戸焼、伊萬里焼、清水焼、九谷焼等之に屬す。

シキアラシ(磁氣嵐) 物 英 Magnetic storm. 地球磁氣の磁場の強さは、同一の場所に於ても、時々變更して一定ならず、一日或は一年等を週期として、稍規則正しく變化をなすものなれども、雷鳴、地震若しくは或る他の原因により、突然急激に不規則なる變化をなし、長きは兩三日に亘りて初めて平穩に復することあり、之を磁氣嵐といふ。

シキシゼン(磁氣子午線) 物 英 Magnetic meridian. 磁針の指示する方向を含む所の直立面が、地球の表面

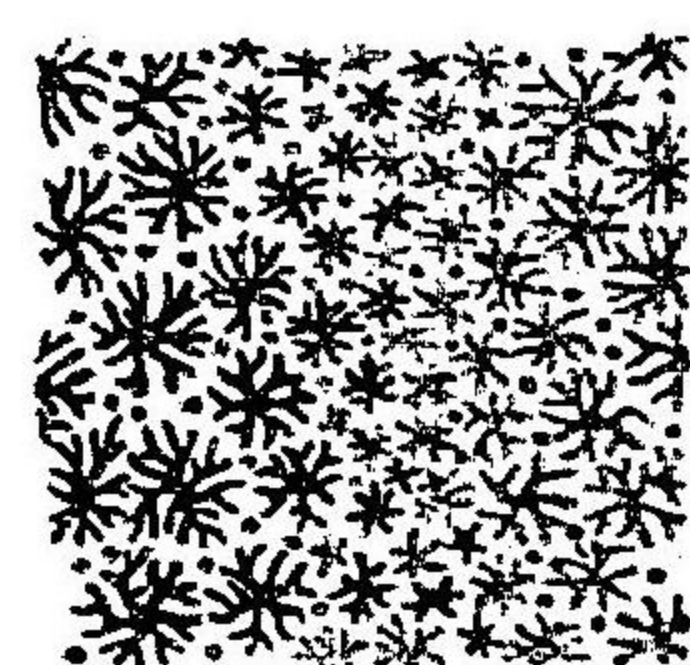
と交はる所の線を稱して、磁氣の子午線といふ。

シキセキド(磁氣赤道) 物 英 Magnetic equator. 磁氣赤道とは、地球上各地に於て磁針の伏角の零なる地點を求め、之を連絡して成る所の直線にして、地球を一周するものなり。

シキセーチョーケイ(自記成長計) 植 英 Self-registering Auxanometer. 一定時間内に於ける成長を紙上に自記せしむる植物生理の實驗器なり。

シキン(色素) 化 英 Colouring matter. 染色に用ゐる繪具をいふ、例へば「アニリン」色素の如し。

シキンサイホー(色素細胞) 動 英 Chromatophore. 「イカ」「カメンヤン」等の皮膚にある有色細胞にして、隨意に伸縮することを得、伸長するときは中心より八方に根状枝を出し、收縮するときは一小點となる、二三の色素を有するにより、外界の色に應じ種々に變色することを得、例へば



青色細胞のみを伸長し、赤色細胞を收縮すれば體色青色に變ず、生ける「イカ」を刺戟すれば、容易に實驗することを得、此れ自己保存上自然淘汰の結果なり、挿圖は色素細胞が伸縮して外界の色に似る想像圖なり。

シキタラ(雌器托) 植英 Archegonial receptacle. 雌性の葉狀體に生ずる、星芒狀に射出せる體にして、成熟せるものは多く有柄なり、全體七八指にて成り、其の内面に雌器を有し、内部に卵球を藏す。



雌器托

シキヒ(雌器被) 植英 Pericarpium. 「ヌギユタ」類の芽胞葉柄の基部を圍める葉を云ふ。

シキム(莽草) 植 藥 Helleborus Anisatum L. 雙子葉類木蘭科の常綠小喬木にして、山中に生ず、一種の香氣を有す、往々寺院墓地等に植う、「ハナノキ」とも云ふ、花淡綠色、季節春、甲蟲媒花なり、秋期に七八の角ある實を結ぶ、此の實に毒あり、誤り食ひて中毒するもの少からず、其の狀は「ドクワツギ」に似たり、莖葉にも毒あり。

シキムセキ(試金石) 鑛英 Touchstone. 條痕色によりて、金の眞贋を判定するに用ふる鑛物なり。

シキモ(色盲) 生英 Color-blindness. 黄、青、赤色(原色)の二或は三色を感ずる能はざる眼をいふ、一色を感ずるのみの眼を一色盲 Monochromant とし、二色を感ずるものを二色盲 Dichromant とし、三色を感ずるものを三色

盲 Trichromant とし、三色盲は完全の眼にして、通常色盲といふものは、一及二色盲をいふ。

シキヨウ(磁極) 物英 Magnetic pole. 磁石の極を見よ。

シキョーノイ(四強雄蕊) 植英 Tetradynamous-stamens. 六雄蕊ありて、其の中四雄蕊長く、他の二雄蕊は短きもの、例へば十字科植物の如し、圖



長雄蕊 短雄蕊

は「ナタネ」の四強雄蕊なり。

シシユ(宿主) 動英 Host. 寄生蟲が宿る動物をいふ、例へば蛔蟲の宿主は人にして、「ハリガネムシ」の宿主は「カマキリ」なるが如し、「サナダムシ」の如く、中途には牛、豚等に寄生し、最後に人腸に寄生するものあり、此の如き宿主は別に名を設け、牛、豚の如く中途に寄生せらるる動物を中間宿主といひ、最後に寄生せらるる人體を終局宿主といふ。

シシマ(熊) 動 北海道に棲む、「アカゲマ」に同じ。

シシモ(螿蟻) 動 Ants. 樹根、垣根等に棲息し、地中より絲にて作れる窠を出し、其の先端を幹の地に近き部に附着しおき、此に小蟲の觸るるあれば、窠底より走り出で、大なる毒頭を以て之を殺し食するものなり、全體黒褐色にして斑紋あることなし。

シケイ(子莖) 植 子莖に同じ。

シケン(時圈) 天英 Hour circle. 天球の南極及北極點を通過する大圓を一般に時圈と云ふ。

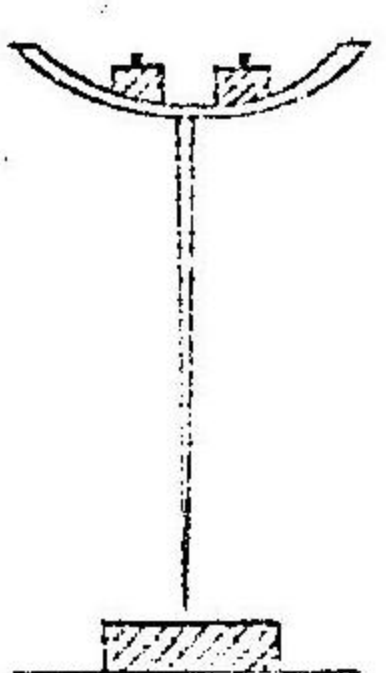
シケンシ(試験紙) 化英 Test-paper. 「リトマス」等を塗りたる紙にして、溶液或は瓦斯の酸性なるか或は鹽基性なるかを視るに用ふる、青色試験紙は「リトマス」の青色液を塗りたるものなり、(赤色の「リトマス」液は青色のものに微量の酸を加ふれば得らる)、又姜黄紙も一種の試験紙なり、其の條を見よ。

シケンリン(始原林) 植 昔て人為的保護又は損害を受けずして繁茂せる、千古天然の林を云ふ、此の林に棲む動物も、此の林を構成する樹木も、其の榮枯盛衰は全く天然の作用に任じ、以て今日迄持續したるものなり。

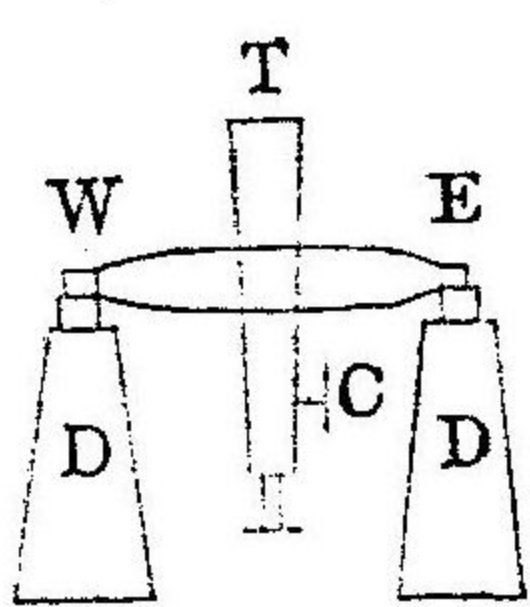
シコー(時候) 地 季候に同じ。

シコカン(子午環) 天英 Meridian circle. 此の子午環は、子午儀に於ける垂直の環を非常に大きくなし、從て其の環を望遠鏡の横軸につけたる器械を云ふ、此は天體の子午線經過を精密に計るに用ふる。

シコカシ(自己感應) 物英 Self induction. 一導線に電流を通すれば、其の中にと之と方向反對なる瞬時電流



を生じ、ために十分の強さに通することを妨げらる、又急に電流を絶つ時は、之と同方向の瞬時電流を起し、電流は一時その強さを増加す、斯くの如き現象を自己感應と稱す、シコーキ(試硬器) 鑛英 Calorimeter. 鑛物の硬度は、結晶體に於ては、一般に其の方向によりて、多少の差あるものなり、故に之を精密に計る器即ち試硬器を要す、試硬器は鋼鐵針、若し、は、金剛石の針を取りて、之を直立に置き、其の尖端を結晶面と相觸れしめ、又其の上の一の皿を置き、天秤用の錘等を載するに便じ、何程の錘を加へたるとき、始めて疵を生ずるかを見るなり。



シコキ(子午儀) 天 英 Transit instrument or transit. 子午儀とは、天體の子午線經過を測定するに用ふる器械にして、望遠鏡の動く平面が子午面にある様になせり、圖に於て D は望遠鏡の臺にして、大仕掛には煉瓦石等にて堅固に作ることあり、其の上に EW なる望遠鏡の廻轉する横軸あり、此の軸は東西に向ひ且つ水平になれり、望遠鏡は此の軸に直角なる故に、常に子午面内に動く

べし、Cは目盛せる輪にして、此の目盛によりて望遠鏡を任意の方向に向くるなり、此の器械の望遠鏡中には、焦點の所に蜘蛛の糸を張りたる枠ありて位置を照準するに便し、以て天體の運動する有様を精密に知る様になせり、

シゴシ(子午線) 天地英 Meridian circle. 又經線に同じ、觀測者の居る場所の天頂點と極とを通過する大圓を、其の場所の子午線と云ふ、或は天頂點を通過する時間

を云ふ、又極を通過する垂圍を子午線と云ふもよろし、

シゴフ(節骨) 生英 Ethmoid bone. 眼窩の内後壁をなす薄き小骨なり、

シゴク(指骨) 生英 Phalanges. 手の指を成す骨にして、拇指に二本、他の四指に各三本づつあり、

シゴク(趾骨) 生英 Phalanges. 足の趾をなす骨にして、拇趾は二本にして、他は皆三本よりなる、

シゴク(耳骨) 生 Ossa in auditus. 中耳即ち鼓室内にある小骨にして、三個よりなり、其一は槌骨といひ、金槌に似柄に當る端にて鼓膜に接す、此の骨に接する他の小骨を砧骨といふ、金床に似たり、砧骨の槌骨に接する角度は銳角をなし、他端には鐙状をなせる鐙骨の上端に接す、而して鐙骨の他端即鐙の底に當る部分は、内耳の卵圓窓に接す、砧骨と鐙骨とは銳角をなして相接す、耳骨の用は鼓膜に來れる

振動を調節して内耳に傳ふるにあり、

シゴト(仕事) 物英 Work. 一の物體が、或る力の作用を受けて、其の働く方向に動きたる時は、此の力は仕事をなせりといふ、諸物體が重力の作用によりて落下する場合に

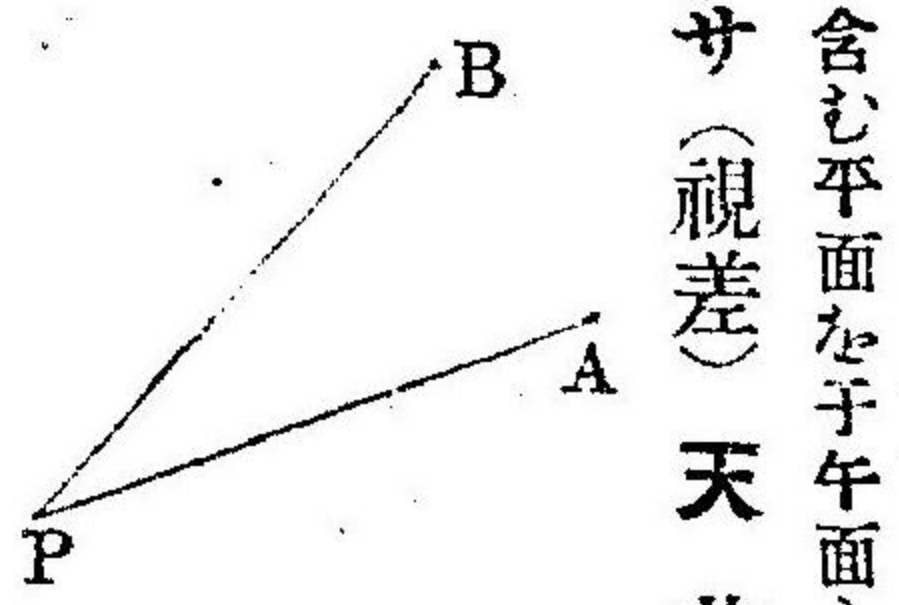
は、重力は仕事をなせるなり、之に反して、力が物體に働く時、其の働く所の力の方向に逆ひて動くときは、物體は力に對して仕事をなしたりといふ、例へば直上に投げ上げられ

たる石は、重力に對して仕事をなし、進行中の汽車は、鐵軌と車輪との摩擦に對して仕事をなすが如し、一般に仕事の

量は、物體の重量と其の移動せる距離との相乗積を以て表はさる、

シゴメン(子午面) 天英 Meridian plane. 子午線を含む平面を子午面と云ふ、

シサ(視差) 天英 Parallax. A及Bの二つの場所より同じ點Pを見たる時の方向の差を視差と稱す、此の視差は、天文學上多くの場合に於ては、地球の表面Oよりと、地球の中心Cよりと同じ點を見たる時、其の方向の差を視差と云ふ、例へば月Pの中心



の視差は、觀測者が地球の表面Oより見たる方向OPと月と

シサイボー(刺細胞) 動 「シシボー」に同じ、

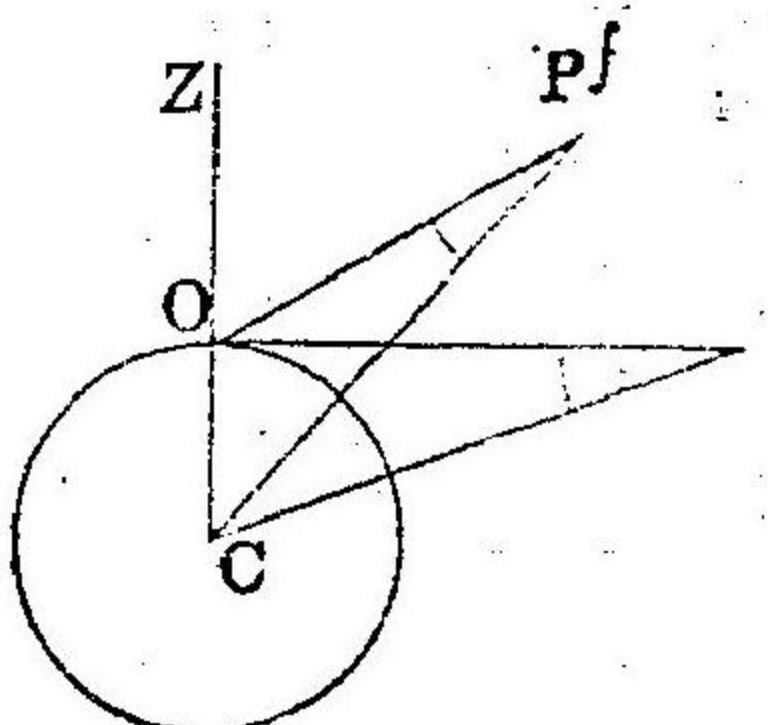
シサイボー(絲細胞) 動 「シシボー」に同じ、

シサンカテツ(四酸化鐵) 化 英 Ferric-tetraxide. Fe₂O₄. 此の物は鐵礦となりて存在す、熱灼せる鐵に水蒸氣を通ずるか、或は鐵を酸素中に於て燃焼するも此の物を得、鐵を吸引する性を有するを以て、磁性酸化鐵礦の名あり、

シサンカマリ(四酸化鉛) 化 英 Tetramelic tetra-oxide. Pb₂O₄. 酸化鉛を空氣中にて緩かに熱すれば四酸化鉛に變ず、赤色の粉末にして通常鉛丹と稱す、四酸化鉛を高温度に熱する時は、酸素を游離して酸化鉛となる、又四酸化鉛に稀薄なる硝酸を注げば、一分は酸に分解して硝酸鉛となり、同時に黑色の過酸化鉛の粉末を生ず、鉛丹は顔料として或は鉛硝子の製造等に用ある、

シシ(獅子) 動 Felis leo, L. 英 Lion. 猛獸にして、赤褐黄色の短毛を被り、尾は長く、爪は猫の爪に似、出入自在なり、齒は肉食に適する尖端を有し、爪面に鈎状突起ありて肉を舐り取るに適す、雄は頭部に鬃ありて之を圍み、雌は全形「トラ」に似る、亞弗利加、印度に産す、

シジーエホー(CGS法) 物英 C.G.S. system. C, G, S法とは、物理學上の諸單位を定むるに、質量には



地球の中心とを結びつけたる直線OPとのなす角OPCなり、然して三角法によりて、一つの天體の視差は天頂距離の正弦に比例することを知る、

シサ(時差) 天地英 Equation of time. 時差とは通常の時計と暑(眞の大太陽時)との差をいふ、即ち平均時より眞太陽時を減じたるものにして、眞太陽時に加へて平均時を得る數にして一年間常に異なり、此の時差は如何にして生じたるかと云へば、第一、太陽が天球上の黄道を運動するに當り、其の速度同一ならず且つ黄道の楕圓なるが爲に、其の運動の角速度常に同一ならず、第二、太陽の運動する道は黄道にして、赤道にあらずと云ふことに基因す、即ち時差とは太陽の赤經度と平太陽の赤經度との差なり、さて時計と暑とは、一箇年間に四回だけ其の時相一致して時差零となる、四月十五日、六月十五日、九月一日及び十二月二十四日即ち是なり、而して十二月二十四日より四月十五日まで及び六月十五日より九月一日までは、時計は暑より進むを以て、此の間の時差を正時差と稱し、他の時に於ては、時計は暑に後るゝを以て、此の間の時差を負時差と稱す、

シシキ

瓦、長さには種、時間には秒を単位とし、之を基とする所の
法式をいふ、C, Q, S は Centimeter, Gramm, Second. の略
符なり、

シシキ(齒式)動英 Dental formula. 哺乳類の齒の
模様を表示する方法にして、次の如く記す、

i³, c¹, p², m³.

i は門齒、c は犬齒、p は小臼齒、m 大白齒を表す、分
母は下顎の齒數、分子は上顎の齒數を表す、然るに人類の如
く、上下顎の齒數異なることなきときは、略して次の如く記
す、

i², c¹, p², m².

而して此の全數の和の四倍は全齒數となる、

シシツリ(齒質鱗)動英 (Canoil scale. 「リン」鱗
の條を見よ、

シシホ(刺細胞)動英 Nematocyte. 腔腸動物の
攻撃、防禦をなす所の、極めて小なる細胞にして、全形は
電氣燈の「ホヤ」の如く、柄のある方の一端に針狀突起あり、
此の突起に觸ることあれば、細胞中に螺旋狀をなして露
れる、極めて細き管狀絲は反轉して突出し、胞中にある毒
液は、此の絲先より敵の體中に注入せらる、

シシミ(蜆)動 Corhianta. 淡水の軟泥中に棲息し、外

シシミ

二七二

面は暗褐色或は黒色を帯び、内面は稍紫色を呈す、味甚し
く佳ならずといへども、産出多きにより、山地にては之を
食すること多し、

シシミチヨ(動)種類極めて多く、「ウラギンシシミ」、「ウ
ラナミシシミ」、「ツバメシシミ」、「ニシシミ」等種々あり、
皆小形にして夏時庭中に飛翔す、「ナラ」、「リンゴ」、「ウツラ
マメ」其の他の豆科植物を害するもの多し、

ジシン(磁針)物英 Magnetic needle. 磁針とは、
其の中央を支へて、自在に水平面内に廻轉し得べきやうに
作りたる磁石をいふ、

シシヤ(指示薬)化英 Indicator. 酸性或は鹽基性を
示す薬品なり、例へば「フェノールフタレン」、「メチルオル
ンヂ」等の如し、其の條を見よ、

ジシヤク(磁石)物英 Magnet. 磁石とは、鐵「ニッケ
ル」「コバルト」等を吸引する性質を有するものをいふ、

ジシヤクセ(磁石製作法)物英 Method of
magnetization. 磁石を作るには、通常、感應作用を用
ふる、即ち磁石となさんとす鋼鐵棒を水平に置き、磁石
又は電磁石の一つの極を以て、其の一端より他端に、或は
二個の磁石の反對の極を以て、其の中央より左右に、數回
反覆摩擦するにあり、その他、鋼鐵棒を其の土地の地磁氣の

指力線の方向に横たへ、之を打つか、又は鋼鐵棒を電流を通
ぜる「コイル」の中に入るも可なり、電氣磁石は軟鐵棒を
「コイル」の中に置き、其をして電氣の通する間は、磁石た
らしむる装置なり、

シシヤクキョク(磁石の極)物英 Magnetic pole.

天然磁石と人造磁石とを論ぜず、凡て磁氣體には鐵を吸引
する力の最も強大なる部分二個所あり、之を磁石の極とい
ふ、

シシヤクホソホ(磁石の保存法)物英 Preservat
ing method of magnet. 磁石の異名の極を相近け
て並置する時は、其の相互の感應作用によりて、益々磁力
を強むるが故に、磁石を保存するには、二個の磁石の異名の
極を相接近せしめて平行に並べ置く可とす、特に其の兩
極に鋼鐵片を架するときは、感應作用を増す利あり、

シシユーカー(白頬鳥)動 Pampus minor, F. & S.
鳴禽類に屬する小鳥にして、背部は黒白の斑をなし、喉頭
黒く、黒線延びて脚間に達す、常に樹間を徘徊し、害蟲を食
するにより、禁止鳥の一に數へらる、

シシヨ(磁場)物英 Magnetic field. 磁石の周圍
に於て其の磁力の及ぶ所の場所を稱して、其の磁場といふ、
シシヨシヨシ(篩狀小板)動 「シパン」に同じ、

シシヤ

シシヨ

二七三

ジシヨセキカイガン(篩狀石灰岩)鑛英 Oolitic
limestone. 一名、魚卵狀石灰岩とも云ふ、魚卵に似たる
顆多の球より成る、

シシヨタイ(絲狀體)植英 Plectonema. 藻類の子囊
體が成熟すれば、其の蓋自ら
脱開して、囊口より胞子を飛
散せしむ、胞子は萌發して、先
づ綠色の絲の如き體を生ず、
之を絲狀體と云ふ、而して其
の一部に眞の幼芽を生ず、是
即ち發生して親植物の如くな
るものなり、

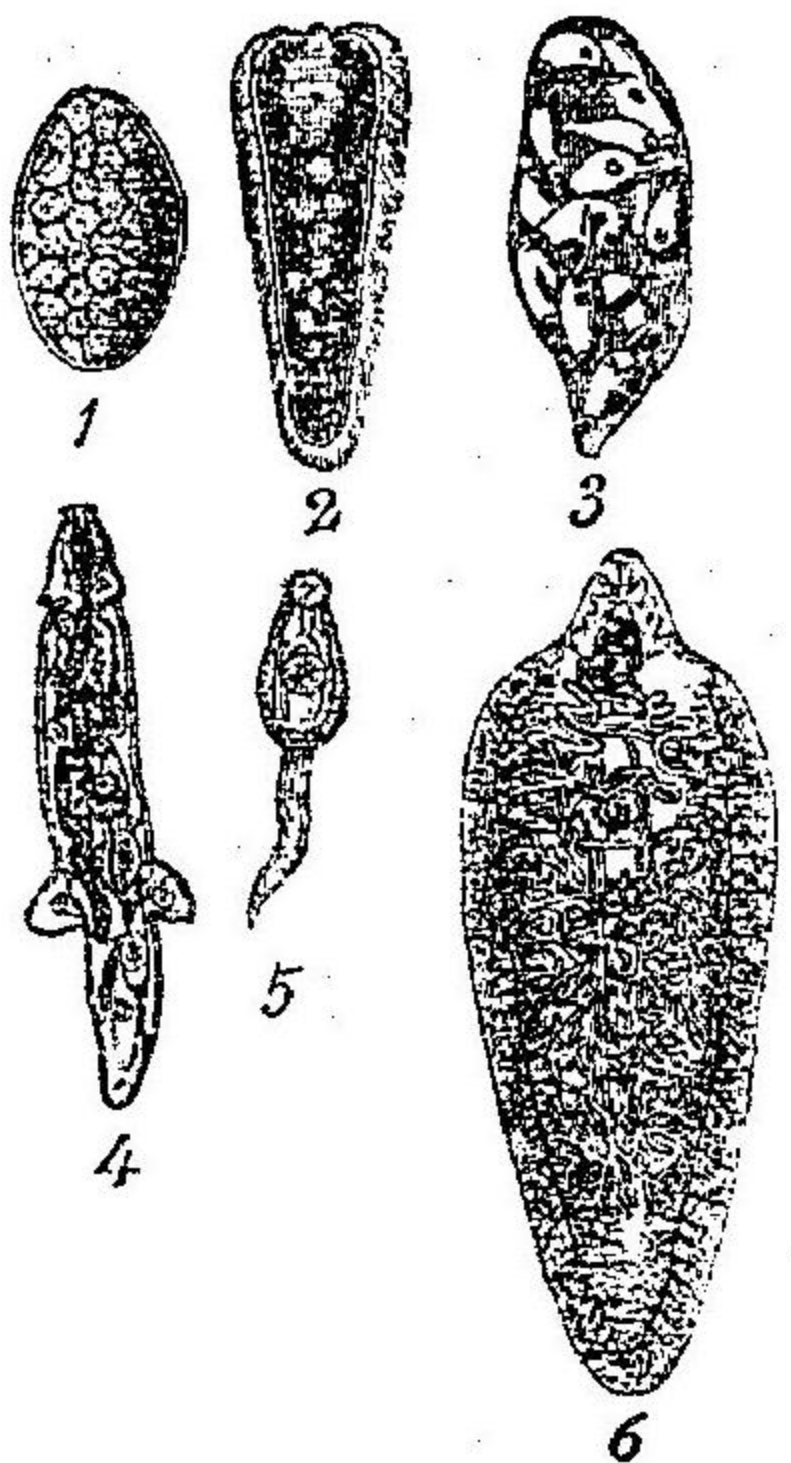


シシヨニト(絲狀乳頭)動英 Filiform
Papilla. 「シタ」の條を見よ、

シスイゼンシヨカ(雌蕊先熟花)植英 Protogynous
flower. 同花中の雌蕊が、雄蕊に先ちて成熟するものを
云ふ、オホバコ(車前)・モクレン(木蘭)等之に屬す、

ジシトマ(動)英 Distoma. 扁蟲類に屬する寄生蟲にして、
體は通常木葉狀をなし、前端に口あり、其の周圍に皿狀の吸
盤を有し、尚ほ腹面にも一個の吸盤あり、體の周圍には薄膜
を被り、纖毛を生ぜず、此の類には動物に寄生する種類多し

れども、茲には其の生活歴史の明らかなる「ウシ」「ロツツ」の肝臓に寄生する肝蛭 *Distomum hepaticum* L. につき記述すべし、長さ一寸許にして、成熟すれば幾萬の卵を産し、



宿主の腸を過ぎて外界に出て、水中に落ちて忽ち孵化し、一個の微細なる幼蟲となり、暫時纖毛を以て水中を游泳したる後「モノアライガヒ」の一種を求め、其の体内に入り、此の所にて外皮を脱し、一個の囊狀體となる、此のものは決して直に親の如き「ジストマ」となるにあらずして、時の過ぐるに従ひ体内に數多の子を生ず、子は同じく囊狀體なれども、體の一端に短き消化管を有せり、此の物も亦成長して直に「ジストマ」とならずして、其の体内には更に第二代の子を産す、かくの如くすること一二回にて、囊狀體の内部に數多の「オタマジャクシ」の如きものを生ず、此の時に至り、初め

て「モノアライガヒ」の體を出で、尾を以て游泳し、水邊に生ずる牧草の葉につき、殻を分泌して「ウシ」「ロツツ」の來り食ふを待ち、食はるれば忽ち殻を脱ぎて肝臓に入り、生長して親と同じ「ジストマ」となるなり、

ジセーサンカテツ (磁性酸化鐵) 化英 *Magnetic oxide of iron*, 四酸化鐵に同じ。

ジセーシキ (示性式) 化英 *Rational formula*, 化合物の化學的性質を示す化學式なり、例へば醋酸の示性式は C_2H_3COOH にして「アルコール」のものは C_2H_5OH なり

ジセータイ (磁性體) 物英 *Magnetic substance*, 磁性體とは、鐵「ニッケル」「コバルト」等の如く、磁石に吸引せらるる所の物質をいふ、

ジセン (脂腺) 動 「ヒシセン」に同じ。

ジセテツ (自然鐵) 鑛英 *Native iron*, 此の鑛物は重要なものにあらずと雖も、學問上興味あるものなり、自然鐵に左の種類あり、

(一) 隕鐵 *Meteoric iron*, 天空より地球上に落下する隕石中に存するものなり、隕石とは、或る天體の小破片の群集よりなる慧星中の一體が天空を運行する際、地球引力の爲に引き寄せられて、地上に墜下したるものなり、彼の飛問屢々蒼空を駛走する流星は、此の破片が至大の速力を以

て大氣圏内に入るに當り、空氣と相摩擦して高熱を發し白熾光を放つものなり、隕鐵には殆んど全量が鐵よりなるものと、又鐵の外に橄欖石、古銅石等を含むものとの別あり、何れの場合にても「ニッケル」「コホルト」等を含有するを常とす、本邦中に落下せし隕石中今日迄知られるもの數個あり、就中最大なるものは、嘉永三年五月陸前氣仙郡氣仙村に落下せしものにして、重量二十七貫四百多ありしと云ふ、隕鐵は古代人智の開けざりし當時、採りて以て武器に作られたるものあり、

(二) 地鐵 *Terrestrial iron*, 隕石に比して更に稀少なり、千八百十九年「ロース」氏が之を「ケリンランド」に發見し、千八百七十年「ノッテンショルド」の西岸なる「ナスコ」島の「オピファック」に於て、玄武岩中に球狀をなして存せる地鐵を發見せり、氏は始め之を隕鐵と誤認せしが、後純鐵を多量に含有する玄武岩の靈糲せしにより、地上に露出したるものなることを知れり、其の後、又「ニュージラランド」にて隕鐵に似たる地鐵を發見せり、そは鹽基性強き蛇紋岩中に存して顯出せり、吾國に於ては、大なる地鐵を發見せしことなきも、肥前西ヶ嶽に於ては、安山岩中に極めて細粒の地鐵が含有せられおれりと云ふ、

シモノー (自然銅) 鑛英 *Native copper*, 等軸晶系

に屬し、世界各地に生ず、北米ニューペリガル湖地方を以て、世界中最も有名なる産地とす、古來我國にも産出少からず、常に蘚苔狀、樹枝狀、薄葉狀、又は亂絲狀をなして鑛脈中に出づ、色は銅赤色なれども、大氣中に曝露せらるること永き時は、酸化して黑色となり、又炭酸と化合して綠色の炭酸銅即綠青を生ず、延展性強く、熱及電氣の良導體なり、

シセトーダ (自然淘汰) 動英 *Natural selection*, 生物が種族を維持せんとせば、必ず外界の境遇に適する體形を具へざるべからず、若し外界の境遇に反する如き體形を有するものあるときは、其の子孫は遂に絶滅するに至るべし、故に漸次外界に適應せるもののみ繁殖するに至るものなり、かく外界に適應せざるものを漸滅し、適應せるもののみを繁榮せしむる作用を自然淘汰といふ、

シゼンブレイ (自然分類) 動英 *Natural classification*, 生物の形態構造及發生を比較して、近似せるものを一類とし、相違せるものと區別する分け方をいふ、

シシー (齒槽) 動英 *Nivola*, 齒の容るべき骨の窩をいふ、

シシキセキ (紫蘇輝石) 鑛英 *Ilmenite*, 「キセキ」(輝石)の條につきて、其の種類の部を見よ、

シタ(舌) 生英 Tongue

舌は舌骨に起り、先端遊離する肉塊にして、縦横に錯綜せる筋肉よりなり、種々に變形することを得、舌は言語を作り、口内にある食物を歯面に載せ、物の味を感じ、食物を嚥下する等種々の作用をなす、味を感じる所は舌の表面にして、甘、酸味は舌先に於て、鹹、苦味は舌根によりて感ずる如し、舌面にある突起を驗するときは、全面に先端分裂せる糸狀乳頭あり、其の間に球狀をなせる菌狀乳頭(又は蕈狀乳頭)散在す、而して舌根に近き面には、周に輪廓ある乳頭(輪廓乳頭)V字形に點在す、此等の中何れが如何なる味を感ずるかば不明なれども、相合して前記の四味及觸覺を司るものなり、辛味は味といふこと能はざるものにして、觸感によりて感ぜらるるものなり、舌は必ずしも味を感ずるものにあらずして、單に觸覺のみを司るものあり、例へば「ヘビ」の舌の如し、

シタ「蝸牛の」(舌) 動英 Radaula 「カタツムリ」にある如き舌をいふ、「カタツムリ」の舌は、脊椎動物の舌の如く遊離せずして、口の下部に縦列せる多くの突起より成り、此を用ゐて「ネコ」が物を舐る如くにして、食物を口内に入るものなり、

シタマカリ 植 「ヒガンバナ」を見よ、

シタン(紫檀) 植 Pterocarpus sutchinensis, Tr. F.

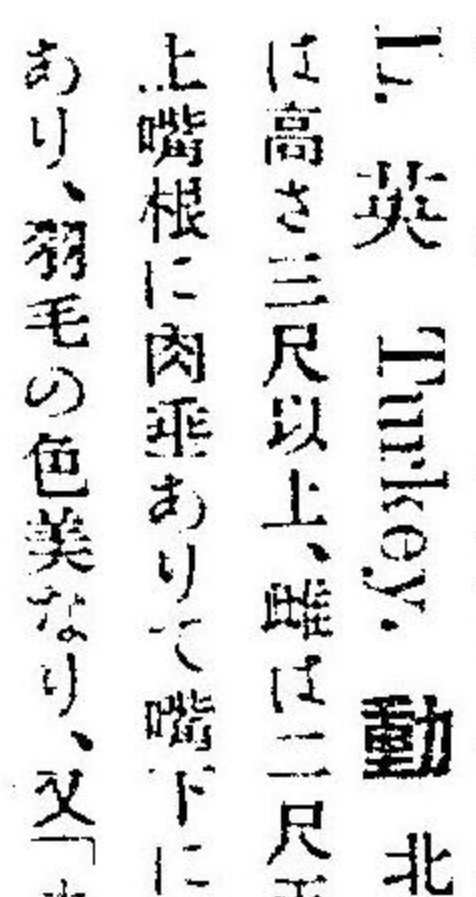
シダモの木本にして、奇數羽狀複葉を有し、木材は帯紅色にして堅し、之を貴重の器具料に供す、

シダモ(羊齒門) 植 Filixmas 羊齒類中の一門なり、葉は頗るよく發達し、形狀種々なり、胞子は概して背又は葉縁に附着す、アラビ、センマイ、グシヤクシダ等之に屬す、

シダモイ(羊齒類) 植 Pteridophyta 葉葉の區別判然たり、維管束を有す、アラビ、センマイ、ヘニダ、ノギシノブ等之に屬す、

シチト(江芋又七島) 動 Cyprina japonica 珧類にして、藻草科の草本にして、「サヤクシダ」に類似す、莖を織りて席とす、琉球表是なり、

シチメンチ(七面鳥) 動 Melanitta fusca 鴨類にして、北米の原産にして、鶏類に屬し、雄は高さ三尺以上、雌は二尺五寸に達す、頭及前頭は裸出し、上嘴根に肉垂ありて嘴下に垂れ、時々變色す、喉頭にも肉垂あり、羽毛の色美なり、又「カラクンチ」を云ふ、



シチョク(視直径) 天

英 Apparent Diameter

圖に於て、Cを中心とする天體を考へ、其の紙面にそへる切口上に於て、

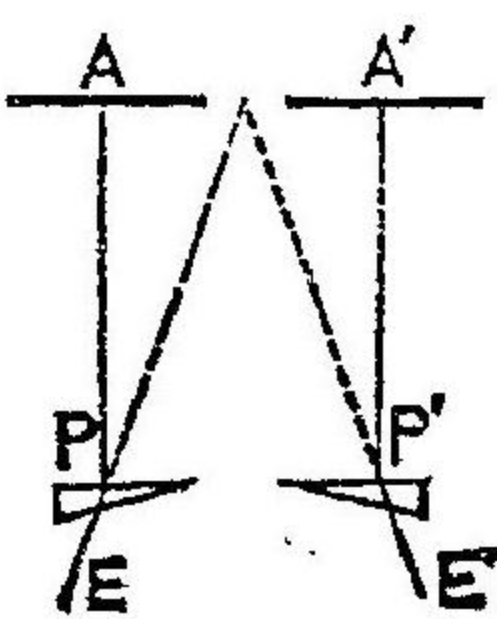
毎年二回起る所の濕り氣多き季候をいふ、

ジツシ(實焦點) 物英 Real focus, 焦點を見よ

ジツ(實體) 植 子房に同じ

ジツイカ(實體眼鏡) 物英 Stereoscope, 實體鏡と同じ、

ジツイキ(實體鏡) 物英 Stereoscope, 實體鏡は、左右の兩眼に映じたる各異なりたる像が、相結合して實體の感覺を生ずることを示す装置にして、其の構造は、二個の相異なりたる畫と二枚の「プリズム」とより成る、今Aより出づる光は、Pを透る



後、今Aより出づる光は、Pを透る後、EPに進み、眼はECの方向に之を認むべく、又A'より發する光は、P'を経て、P'に進み、眼はEC'の方に之を認むべく、此の二感覺相結合して、この實體をCに認むるなり、

ジツク(實竹) 植 「マダク」の變種にして、根より上部二尺間は心の充實せるにより、此の名あり、松島渡島阿波地方に生ず、印材及杖とす、價格廉ならず、

ジツク(濕地植物群) 植 濕地に生ずる植物は、根より多くの水分を吸收し、之を體外に放散せざる可からず、従ひて葉は薄くして面積廣く、容易に多量の水を蒸

Oより其の切圓にOA OBなる切線を引け、然ればOを中心とし、ABを直径とする圓に見ゆべし、但し此はOより見たる場合につきて云ひたるものにして、此の場合に於て、AO Oを視直径と云ふ、

シツガイ(膝蓋骨) 動英 Patella, 膝の前にある圓板狀の小骨にして、膝關節を保護す、脚に力を入れずして伸ばせば、容易に其の大小、形狀を驗知することを得べし、

シツカン(十干) 地 支那の易より出でしものにして、甲(キノエ)、乙(キノト)、丙(ヒノエ)、丁(ヒノト)、戊(ツチノエ)、己(ツチノト)、庚(カノエ)、申(カノト)、壬(ミズノエ)、癸(ミズノト)是なり、

シツキ(漆喰) 動英 A kind of cement, 粘土に消石灰を加へ、角菜の汁にて練りたるものにして、漸々に炭酸石灰を生じて堅硬となる、

シツケ(實莖) 植英 Fertile stem, 胞子を生ずる莖を云ふ、例へば「スギナ」の實莖は「ツクシ」土筆なるが如し、

シツケン(實驗式) 化英 Empirical formula, 化合物の成分たる元素、及び其の割合を最も簡單に示す式を實驗式といふ、例へば水の實驗式はH₂Oにして、「ベンゼン」の實驗式はC₆H₆なり、

シツク(濕候) 地英 Dew season, 赤道地方に於て、

發する仕掛をなせり、莎草科、燈心草科、種々の禾本科、「イヌギナ」「ウハバミサウ」「ネコノメサウ」「ユキノシタ」「モーションゴケ」「ミツゴケ」等は、其の普通なるものなり

シツド (質點) 物英 Particles 質點とは、物體の運動を簡単に説明せんがために假想せられたるものにして、大きさを有せずして、唯質量のみを有する一點をいふ、

シツド (湿度) 物英 Humidity 空氣中に現存する所の水蒸氣の張力と、其の時の湿度に對する水蒸氣の最大張力との比を、其の時の空氣の湿度と稱す、

シツドケイ (湿度計) 物英 Hygrometer 湿度計は、空氣中の湿度を測定するために使用するものにして、其の種類甚だ多く、「ダニエルの湿度計、毛髮湿度計、乾濕球湿度計は其の最も普通なるものなり、(各其の條を見よ)

シツプ (疾風) 地英 Violent wind, or Hurricane 風の條を見よ、

シツヤ (濕野) 地英 Moist Field 低卑の地にして常に濕氣を帯び、沼澤に富む地を云ふ、殊に多雨の地に多し、

シツリョー (質量) 物英 Mass 質量とは、物體の有する實質の量にして、物體が如何なる物理的變化に遭遇するも、常に永久不變なる所のものなり、而して二個の物體に相等しき力を加ふる時、小なる速度を得るものを質量大なり

りとし、大なる速度を得るものを其の質量小なりとす、質量と重量とは似て異なり、或一物體の質量は永久不變なれども、其の物體の重量は、地球表面上の南北或は上下の異なる位置に於ては、種々に變化増減す、

シツリョー (質點) 物英 Particles (質量不變の定律) 化英

The Law of the Constancy of mass 化學反應に與れる諸物質の質量の總和は常に不變なり、之を質量不變の定律と稱す、例へば酸素の十六匁と水素の二匁を作用せしむれば十八匁の水を生ず、而して酸素十六匁に水素の三匁を作用せしむれば、前の如く十八匁の水を生ずる外、一匁の水素を残すべし、然れども此の反應の前後に於ける水素及び酸素の量の和は相等しきが如し、

シツリン (櫛鱗) 動英 (Tongue Stone) シンを見よ、

シツツゴ (磁鐵) 鑛英 Magnetite (成分、性狀、晶形) (一)等軸晶系、主として八面體にあらはる、粒狀、塊狀をなす(二)時開は八面にあり(三)金屬光澤或は半金屬光澤を有す(四)鐵黑色にして黒色の條痕色あり(五)硬度五・五一六・五(五)比重四・九一五・二(六)成分 Fe₃O₄ 又「マアネシア」又は「チタニヤ」を含むことあり、七磁石力強く特に多少分解したるものに著し、(反應及識別)吹管にて熱するも、僅に其の稜角の熔くるを見るのみ、然れども鹽酸に逢

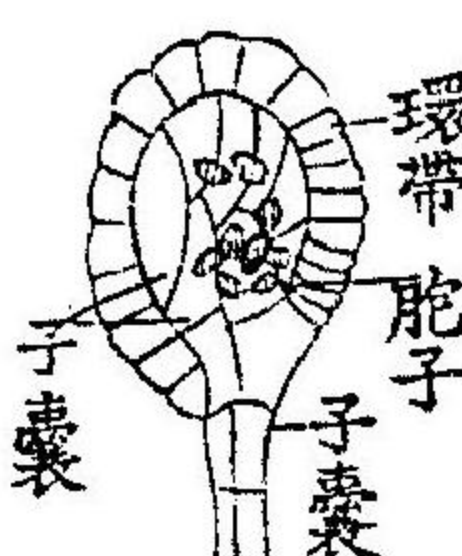
膝を伸ばし、腰を屈せしむ、

シツナガキ 又 ママガキ 植 Diospyros Johns, Tr. カキの一種にして異質は小なり、此より漆を製す、

シツナキ 植 Tilia cordata, var. Japonica Miq. 田麻科木本にして、葉は心臟形をなし、頂端鋭尖なり、七八月頃花を生ず、其の萼片及花瓣共に五片あり、本邦内地の諸山及北海道に産す、樹皮強韌なるを以て束把の用に供し、又若き樹皮の薄片にて絲を紡ぎ、布を織り、又繩索とす、馬の頭飾も亦此の纖維なり、此の纖維は黃褐色乃至暗赤褐色にして光澤なく、韌皮細胞の外に種々の細胞を含む、

シツネツ 地熱 地球の條を見よ、

シツノ (子囊) 植英 Sporidium 一列の細胞よりなる被膜を被り、短柄を有する一個の囊狀體にして、其の中に胞子を藏するものを云ふ、多くは環帶と稱する彈力組織を具へ、之を以て子囊を破りて、其の中にある胞子を飛散せしむる用をなす、



シツノ (子囊群) 植英 Sorus 子囊の群を云ふ、而して其の形は種屬の異なるに従ひ大に差あり、子囊群の形は種屬を區別する特徴なり、

へば全く溶解す、酸化炭の熱に逢はしむれば磁性を現せるものも其の力を失ふ、本鐵は磁性を有すれども、又全く之を有せざることもあり、

(效用及産地)製鐵の原料として最も大切なるものなり、片岩中に鑛層をなして現出し、又火成岩の成分となりて現る、瑞典、諾威、コルシカ島、ラプランド、カナダ州、ニューヨーク、本邦にては陸中(特に釜石近傍のもの)、上野(特に中小坂村のもの)、信濃、美濃に産す、又砂鐵として河海の砂中より産す、又製鐵の原料となすことを得、

シツン (自轉) 地英 Rotation 地球が、地軸を軸として、西より東に回轉することはいふ、二十四時間にして一回轉をなす、其の結果として太陽の出沒、晝夜の交代等の現象を生ず、

シツン (自轉) 天英 Diurnal Aberration 地球の自轉の爲に、觀測者より星を見るとき、眞の方向に見えずして異なりたる方向に見ゆ、赤道に居る人には、〇・三一秒程の角をなす、極にては零なり、之を自轉光行差と云ふ、

シツト (四頭股筋) 動 Quadriceps femoris 股前にある四頭筋にして、下部は脛骨に連り、之より膝蓋骨の筋をなす、此の筋收縮すれば

シノ

シノタイ(子囊體)植英 Spogonium. 「スギモク」の莖の上部より生ずる無葉の柄條にして、頂端に楕圓形の小體を生ず、是即ち子囊體なり、子囊體は左の諸部よりなり、中に胞子を藏す。



胞子..... Spore.
柄..... seta.
鞘..... Vagina.

子囊體より、子囊體は左の諸部よりなり、中に胞子を藏す。
蘇帽..... Calyptra.
蘇蓋..... operculum.

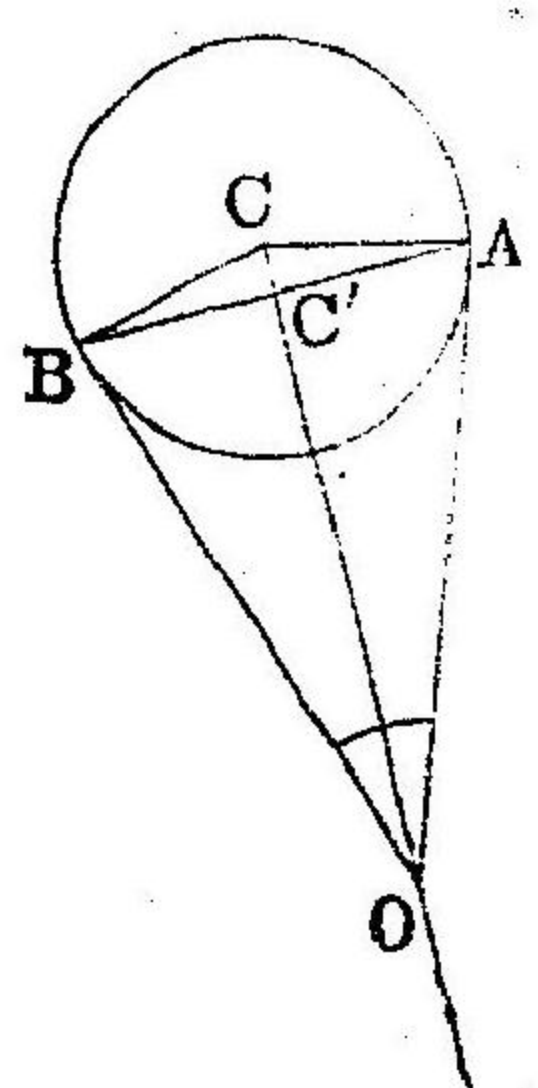
シノチク(篠竹)植 「ヤダケ」に同じ。

シノ(海州骨碎補)植 Davallia bullata Wall. 羊齒類水龍骨科植物にして、葉縁に子囊群を有す、觀賞用とし、信夫文字摺は、即ち此の「シノ」の形を摺り出だせるものなり。

シジ(篩板)動英 Madreporite or Madreporal Plate. 棘皮動物が體內に吸水する所をいふ。「スイカンケ」の條を見よ。

シシゲ(視半徑)天英 Apparent Radius. 圖に於てOを中心とする天體を考へ、其の紙面にそへる切口上に於

シハ



て、Oより其の切圓にOA OBなる切線を引く、然ればC'を中心としてABを直径とする圓に見ゆべし、但し此はO

より見たる場合につき云ひたるものにして、此の場合に於てAOOを視半徑と云ふ、次に視半徑を表はすことを述べん
OO = D, CA = r とし、視半徑をSを以て示せば、
Sins = $\frac{r}{D}$

シシメンシヨ(四半面像)鑛英 Tetrahedrism.

ケツメンシヨ(缺面像)の條を見よ。

シヒタケ(椎茸又香蕈)植 Lepiota shiitake. 菌類にして「ナラ」「シロ」等の如き樹木に寄生す、莖と笠との區別あり、笠の裏面に多くの「ヒダ」あり、此の「ヒダ」に胞子を作る、季節は春夏なり、主として「シロヒキ」に生ずるによりて此の名あり、食用に供し、味佳良なるを以て賞せらる、「シヒタケ」を作るには、「ナラ」「クリ」「クマギ」「シテ」「シロ」等の樹木を三四尺又は五六尺に伐り、樹皮に缺痕を施し、二三年の間日當り風通しの良き處に積み置き、其の後一夜水に浸して取り出し、森の日蔭地に移し、架を設け之を立掛け置きときは、數日乃至數月を経て、自然に「シヒタケ」を

生ずるなり、

シビウナギ動 熱帶亞米利加之淡水に産し、三尺乃至六尺に達する「ウナギ」にして、全體黄綠色を呈し、多くの明瞭なる斑紋あり、腹面皮下に發電組織ありて強力の電氣を發し、外敵を苦しむ、「アマゾン」河に産し、土人は馬を役として之を踏ましめ、發電の盡くるを待ちて之を捕ふ。

シビエイ(木勺鮪)動 Astrope diperygia, M. & H. 二尺以上に達する「エイ」にして、黒色を呈し、體の前面頭の側面に、背腹に渉る小六角柱の組織あり、此の所にて發電して其の身を護り且つ他魚を襲ふ。

シイチ(四分一)化 四分一銀ともいふ、銅百分に對して銀十分乃至二十五分を混じたる合金なり、

シイチキン(四分一銀)化 シイチに同じ、

シツキセイ(死物寄生)植英 Saprophytism. 無機物を取りて自ら同化すること能はず、常に生活力なき有機物即ち死物によりて己を養ふ者を云ふ、即ち諸種の腐敗物、腐植土、含水炭素、含窒素等は此に必要な養料なりとす、

シハ(自閉瓣)生 Valvulae conniventes. 小腸の内面に突出する半圓形の瓣膜をいふ、此れ乳糜をして小腸内を緩流せしめんがためなり、

シホ(鹽)化英 Common salt. 食鹽に同じ。

シコ

シホ(子房)植英 Ovary. 雌蕊の下部の膨大せる所にして、胚珠を有する部分なり、

シホ(脂肪)化英 Fat. 脂肪酸の「エステル」を稱して脂肪といふ、例へば「オレイン」「ステアリン」「パルミン」等の如し、又脂肪には硬軟の別あり、硬脂肪は椰子油、牛脂の如きものにして、「オレイン」を含むこと少し、軟脂肪は「オリーブ」油、汗油の如きものにして、「オレイン」を含むこと多量なり、

シホサン(脂肪酸)化英 Fatty acids. 蟻酸(CHOO) OHC) 醋酸(CH3COOH)等の如く、一鹽基酸にして「C_nH_{2n}O₂」なる一般式を有するものなをいふ、

シホセキ(次寶石)鑛 又「カザリダマ」(飾玉)と稱せらる、寶玉に類し、其の條件の稍不完全なるものをいふ、例へば瑠璃、紅マンガン石、硬玉、孔雀石、琥珀、輝鐵鑛、水晶、玉髓、瑪瑙等の如し、「ホーセキ」の條を併せ見よ、

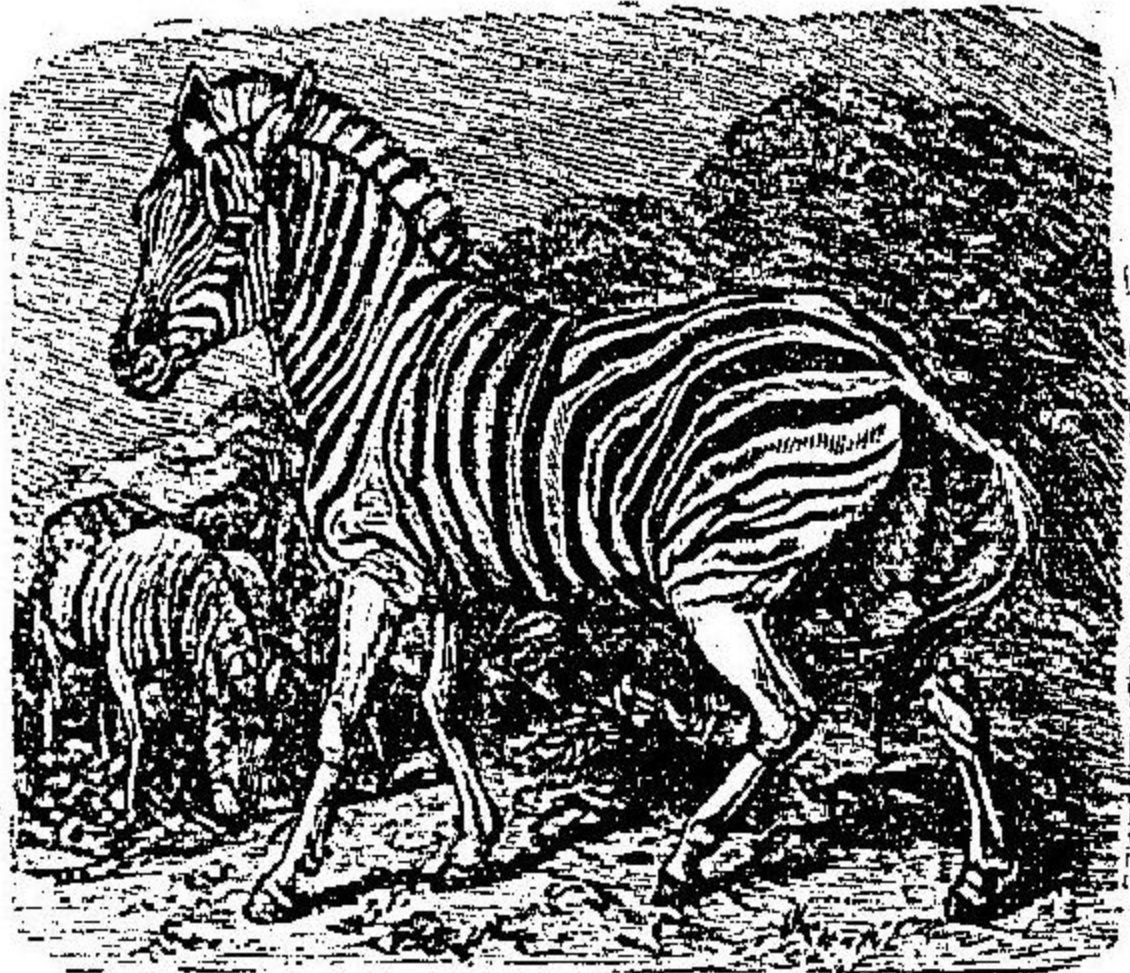
シホセン(脂肪腺)生 「ヒシセン」に同じ、

シホチク又シハチク(皺竹)植 「マダケ」の一種にして、稈の高さ二間、徑一寸五分、稈の外面に縦の皺あるを特徴とす、花瓶筆筒等を作る、

シホヘイ(子房柄)植英 Gynophore. 花托の伸長して子房の柄をなすものを云ふ、其の圖は花托の條にあり、

シホ

シマウマ 動英 *Zebra*. 體長六尺五寸、白色或は淡黄色の地に環状に走る黒色或は赤褐色の縞あり、性不從順にして使役し難し、「ウツギウツマ」に配して「アイノコ」を生ずることを得、



シマウツギ 植 「ドクウツギ」に同じ

シマヘビ 動 五六尺に達する「ヘビ」にして、腹淡黄色、背及側面褐色を呈し、暗色の四線縦紋あり、

シミ(衣魚) 動 *Leptisma*. 彈尾類に屬する昆蟲にして、衣類、古本の間に棲息し、體長楕圓形をなし扁く、尾に劍狀の附屬物あり、體面に銀白色の白粉を被り、走行速かにして紙を食害す、

シン(仁) 動英 *Nucleolus*. 細胞核中にある小體をいふ、又小核に同じ、

シン(腎) 生 「シンゾー」に同じ、

シンイトータ(人為淘汰) 動英 *Artificial selection*.

人類が或る理想を以て、特殊の生物に或る形質を得せしめんがため、理想に近き種のみを取りて繁殖せしめ、數代或は數十代を経て、其の理想に近き形質を得せしむることを得、(「キンギョ」、「アサガホ」の形質種々なるは、即ち人為淘汰の結果なり、

ジンイ(人為分類) 動英 *Artificial Classification*. 動物の形態、構造、及發生を併せ考へず、單に外形上の類似により、分類する法をいふ、例へば魚類中に「グジラ」を入れ、鳥類中に「コモリ」を入れるが如し、

シオ(震央) 地英 *Epicentrum*. 地震の震源の直上にある地面をいふ、此の處は地震を感ずること通常最も激烈にして、且主として上下動を感ずるものなり、

シンカザンガン(新火山岩) 鑛 火成岩の一部類にして、地殼の表面に迸發し來りて冷却固結したる岩石にして、瓦斯の逸出によりて、有孔質のもの多し、玄武岩、安山岩、粗面岩等は新火山岩に屬す、

シンカセーガン(新火成岩) 鑛 新火山岩に同じ、其の條を見よ、

シンカロン(進化論) 動英 *Evolution Theory*. 進化論といふも、必ずしも進化のみを論ずるものにあらず、退化をも説明するものなり、進化論は西曆一八五八年に英國の博

物學者ダーウイン氏が、始めて説きし説にして、其の論の骨髄は千態萬狀を呈する生物は、皆他の種より變遷し來れり、換言すれば、此等幾千萬の動物は、皆な同一の祖先より生じたるものなりといふにあるなり、今事實に徴して之を證明せんに、動物を分類するに當り、單位とする種は決して不變のものにあらず、例へば同一の種に屬する人に於て見るも、同一の面貌、同一の音聲を有するものなく、必ず幾分かづつ異なるものなり、此の差異は人に於てのみ有するものにあらずして、あらゆる動物に見るところなり、「フナ」と「キンギョ」とは、元來同一の種なれども、淘汰の結果、今や全く別種とより外、見ること能はざるに至れり、かく元來一種なりし動物が、人に飼はるる間に、いかにして數多の異なる形態を有するに至りたるかと考ふるに、凡そ子の親に似るは天然の規則(遺傳)なれども、一對の親より生ずる子とて、決して親と同一なること能はずして、必ず多少の相違ある故に、飼養者が此の中より己れの好める形状、性質を有するものを取り出して飼養するときは、次代の子は幾分か飼養者の理想に近づきたるものとなるべし、次に此の子の中より更に理想に合するもののみを取り出して、飼養繁殖せしむれば、其の子は親よりも更に理想に近づくべし、かくて代々選擇を怠らざれば、一代毎に或る性質進歩し、終に「フナ」より全

く異なる「キンギョ」をも作り出すことを得るなり、かく外見異りたる種を作ること自然淘汰といひ、かかる新種を變種と稱す、天然の動物界に現はるる状態を見るに、頗る此に類似するものあり、凡そ生物の産む卵の數は非常に多きものにして、此の狭き世界の中には到底悉皆成育すること能はず、例へば雀は十年の命ありて、一羽が一年に平均十羽の雛を生むとせば、一對の雀より生ずる子孫は、十年の終には二十萬羽の大數となる、一年に一回、しかも僅に十羽を産む所の雀一對にして、十年の後にかかる大數となるものなれば、一回に幾百、幾千の卵を産む蟲類の如きは、其の増加の數實に驚くの外なかるべし、動物は皆かかる非常なる大繁殖力を有するにも係らず、世界の未だ動物を以て充滿せざるは何故なるか、是れ他なし、多くの動物は皆自己を食とする他動物ありて、其の食餌となること多きと、よし食餌とならざるも、食物の不足よりして生存競争起り、優勝劣敗の結果、或は保護色を有し、或は攻撃防禦の具を有するなど、其の他外界の事情に適應せるもののみ生き残り、所謂適者生存てふ現象を生ず、自然は此の世に生れ來りたる數多の生物を、生存競争てふ篩にかけて淘汰を行ふものにして、此れ即ち自然淘汰、優勝劣敗、適者生存と名づくる現象なり、此の大法則の中に生存する生物は、漸々優等優等と淘

汰され、長き時期に於ては、保護色も起り、警戒色も生じ、或は「クシラ」の後肢の如く、不用器官は退化し、或は「コモモリ」の前肢の如く、要用なる器官は漸次發達進化し、遂には同一哺乳類にても、或は游水類とし、或は翼手類と分たざるべからざるが如き變化を生ずべし、此の理を推して考ふれば、生物は元一種より漸々變化し來るものなること疑ふべくもあらず、尙ほ進んで化石を研究するときは、現今存在する動物の何れともいふこと能はざる、中間動物の遺骸あることを發見すべし、是より推論するときは、動物の祖先は一種にして、此のものが種々の進化發展をなして、現今の如き幾千萬の動物を見るに至れるなり、即ち動物は皆相互に血縁ある親戚にして、決して個々別々に發生したるものにあらざるなり、今此の進化の有様を物に譬ふれば、恰も大樹の成長するが如し、其の始めは一の小なる「芽生へ」なれども、漸次年を経るに従ひ、枝を生じ、葉を開き、或は開花し、或は結實す、而して枝には長きあり、短きあり、上にあるもの、下にあるもの、又は枯死するものあらん、而して今ここに大洪水ありて此の木の大半を浸し、僅に其の上部のみを水面上に出せりと假定せよ、然るときは、吾人は發達の狀態を異にせる數百の小樹木ありと思考せん、生物界も亦全く此と同一にして、吾人は水面上の枝に相當する現今の動物

のみ知れるなり、只之を見て其の各を全く異れるものと思考せんとする、ことの充分ならざるは、言を俟たざるなり、動物を界、門、綱、目、科、屬、種と漸次小なる區分に分類し得ることは、恰も樹木に本幹ありて、それより漸次中枝を生じ、更に小枝を生ずるに異ならざるなり、進化論の出でたるは、昔に生物學を一新したるのみならず、之を推し及ぼして、社會全般の思想を一變し、人をして事々物々皆進化の理によらざるべからざるを覺らしめたり、純正なる學理の人事に影響すること亦大なりと云べし、

シンキロー (蜃氣樓) 地物英 Mirage. 海上平穩なるとききたり、遠山或は船舶等が空中に映出し、人をして夢かと疑はしめ、又砂漠に於て、忽然として地面よりも低く、樹木を倒に映出し、渴せる旅客をして其の處に泉水を想望せしむることあり、此の現象を蜃氣樓と稱す、海上に現るゝは多くは五六月の候にして、大氣の温度は可なり高きも、海水の温度は低きが故に、海上風靜かなる時は、海面に接する下層の空氣は最も密にして、上層は次第に著しく稀薄なるが如き場合を生ずべし、かゝるときに於て、遠山船舶より發する光線の中、略直線に進行して直接吾人の眼に達するものゝ外、尙ほ斜に上方に向ひて發する光線にして、稀薄なる大氣の上層に入るに従ひ、次第に屈折するものあり

て、其の屈折の結果、投射角甚しく大となり、遂に全反射をなして上方より斜に吾人の眼を射るにより、眼は其の入射線を逆引き延ばしたる空中に遠山船舶の映像を認むるなり、又砂漠の如き、晝間は地面甚しく熱するが故に、下層の大氣は却て上層よりも稀薄なること屢々あり、かくの如く疎密の差甚しきときは、前に述べたるに同じく、其の或る疎密の界に於て、疎なる方の空氣層は光線を全反射すること、恰も水面、鏡面の光線を反射するが如くなるを以て、地上の樹木より發したる光線にして、斜に下に向へるものは、之によりて反射せられ、下方より斜に吾人の眼を射るべし、此に於て眼は其の入射線を逆引き延ばしたる所に於て樹木の像を認むるものにして、其の状恰も池畔の草木が地下水の面に映したるが如き景色を呈するを以て、旅客をして一見、其の所に清泉の掬すべきものあるが如き想ひをなし、果ては其の望の空しかるべきも知らず、樂みて行路を急がしむるが如き滑稽を演ずるなり、

シンク (真空) 物英 Vacuum. 真空とは、如何なる種類の物體の微量も、其の中に存在せざる所の空間をいふ、
シンクアン (真空管) 物英 Vacuum tube. 「ガインレル管」同じ、
シンケー (神經) 生英 Nerve. 神經は極めて小にして

多くの突起ある細胞と、之より出づる細長なる纖維とよりなる、此の細胞は恰も小電信局に相當し、命令を發することを得べく、或は音信を傳達する用をもなす、纖維は其の周圍に皮を被り、之によりて音信を他に傳へざらしむること、恰も電燈線或は海底電線の如し、神經纖維は單に信を傳ふるのみの用をなす、

シンケーケー (神經系) 生英 Nervous system. 腦、背髓、腦神經、背髓神經及交感神經の總稱をいふ、
シンケーサ (神經鎖) 動英 Nerve chain. 節足動物、蠕形動物等の腹面にありて、鎖状をなせる神經をいふ、
シンケーサイボ (神經細胞) 生英 Nerve cell. 「シンケー」の條を見よ、
シンケーセイ (神經纖維) 生英 Nerve fibre. 「シンケー」の條を見よ、
シンケーチューズ (神經中樞) 生英 Nervous center. 腦髓、背髓、竝に神經節をいふ、皆獨立して命令を發することを得るものなり、
シンクバイシヨ (人工媒助) 生英 Artificial medium. 花粉は、一般に風、水、昆蟲等の媒介によりて、雌蕊の柱頭に運搬せらるゝものなり、然るを、是等媒介者を拒絶し、人為的に媒助をなすことを得、從來已に實驗せられたるものは、胡蘆科植物なりとす、

即ち雌花の雌蕊の成熟するまでは、外部に網又は蠟紙を張りて昆蟲の媒助を妨ぐ、後恰もよく成熟せるときを窺ひ、十分に成熟したる花粉を蒸溜水に溶解し、花粉水となし、柔かなる羽毛又は筆にて雌蕊の柱頭に塗りつけるなり、霖雨其の他昆蟲の發生畏からざる年に試みて功あり、

シンザイ(心材) 植 中心木質に同じ、

シンシ(振子) 物英 Pentulum. 糸にて吊りたる錘の如く、一般に其の物體の重心外にある一點を中心として、

弧形の道に沿ひて左右に振動し得る如くなしたる物體を振子と稱す、

シンシ(心耳) 生英 Atricle. 心臓の上部にある左右の二室をいふ、他より血液の入り来る室なり、

シンキン(伸指筋) 生英 Extensor digitorum. 腕の背面にありて、橈骨の基部に起り、先端指を除ける四指に至り、伸指、伸掌を司る、

シンツ(心室) 生英 Ventricle. 心臓の下部左右の二室にして、血液の他に向かひて出づる室をいふ、

シンシトトシモ(振子の等時性) 物英 Isochronism. 振子の一振動に要する時間は、其の長さの平方根に正比例し、其の所の重力の加速度に逆比例するものにして、同一の場所に於ては、其の振幅小なる場合には、同じ長さの振

子の振動時間は相等し、此の性質を振子の等時性と稱す、
シンシヤ(辰砂) 化鑛 英 Cinnabar. 硫化第二水銀に同じ、

シンシユカセ(眞珠貝又珠母) 動 Avicula. 「アコヤガヒ」といひ、介殻稍四角形をなし、僅に不同なり、茸毛によりて固着し、鉸鏢縁は眞直にして、多く耳形の突起を生ず、殻の外面は帯蒼暗褐色にして、内面は眞珠色を呈し、閃光を帯ぶ、東北及北海には稀にして其の他の近海に多く、

就中肥前、志摩、能登等を著名とす、孵化後三年にして成熟す、此の時期は成長最も旺盛にして、貴重なる眞珠を發見し得るも亦此の年齢以上なり、而して外套膜内に生ずるものは之を Pearl と稱し、膜外に生ずるものは、之を Nacre

といふ、而して是等の生ずるは、膜より分泌する殻質物が膜と殻との間に入る砂等の面を被ふによるものなり、今右二種の眞珠の成分をあぐれば、左の如し、

水分 炭酸石灰 有機物 合計

Pearl. 二、二二三 九一、七二五 九四 九九、八九

Nacre. 三、一三〇 六六、〇〇二 五〇 九九、八〇

シンシユタシバクセキ(眞珠蛋白石) 鑛 英 Pearl opal. 「タンバクセキ」を見よ、

シンシヨク(侵蝕) 地 「シンシヨクサヨ」に同じ、

シンシヨクサヨ(侵蝕作用) 地 英 Erosion. 大氣、水等の力によりて、地殻が漸次に破壊さるゝ働きを云ふ、

シンシヨクテキノタニ(侵蝕的の谷) 地 水の侵蝕方によりて生じたる谷をいふ、

シンシヨモ(尋常葉) 植 英 Foliage leaves. 植物體の營養物を形成する主要の部分にして、必ず葉緑素を含有し、爲に綠色を呈す、此に左の種類あり、

(A) 單葉、

(B) 複葉、

(C) 有柄葉(無柄葉) 例、ミ、ナグサ、カハラナデシコ

(D) 有托葉(無托葉) 例、ツバキ、茶

(E) 羽狀葉 例、フナ、ノイバラ

(F) 掌狀葉 例、トチノキ、アケビ

(G) 落葉 例、ウメ、サクラ

(H) 常綠葉 例、マツ、スギ

シンシカイ(新世界) 鑛 英 Chinozoic Group.

(A) 第三系 (Tertiary System) 成立 砂岩、砂利、頁岩、粘土、泥灰岩、礫岩、凝灰岩、褐炭、岩鹽、石膏等

化石 前代化石の外、哺乳類にては、象の祖先 Mastodon 凶猛獸、張角獸等あり、又現今の馬の始祖現は

れ、犀もあり、

分布 本邦至る所にあり、

(B) 第四系 (Quaternary System) 成立 砂、粘土、ローム、等

(a) 洪積統 (Fluvial series) 一名氷河時代 (Glacial Epoch) と云ふ、大獺獸、巨角鹿等あり、人類(原人)出づ、

(b) 沖積統 (Alluvial series) 現世紀と稱するものにして、地球の表面、動植物の種類殆ど現今に異ならず、所謂石器時代、銅器時代、鐵器時代は本統に屬す、

シンシカン(深成岩) 地 鑛 英 Plutonic rocks. 地球内部の熾熱したる岩漿が、地面近くに迸出し來り、猶ほ地層中の深處に止りて、冷却凝固したるものは、之を稱して深成岩と云ふ、花崗岩閃綠岩は其の例なり、

シンシカントカサ(深成岩と火山岩との區別) 化鑛

(一) 深成岩とは花崗岩、閃綠岩等の如く、地下に於て凝固したるものなり、但し現今地面に露れ出でたるものは、之を被覆せる岩石が、水的作用によりて取り去られたるに

よるのみ、

(二)火山岩とは、地面に噴出して後に凝固したるものなり、例へば安山岩、粗面岩、玄武岩、焼石等の如し、

シシヤ(心臓)生英 Heart

心臓は全く心囊と稱する薄き膜囊に包まれ、横隔膜の上、左右兩肺の間に位し、圓錐状をなし、尖端は左乳房下に向へり、故に此の部に指を觸るれば、容易に其の運動を知ることを得べし、心臓を切り開きて、其の内部の構造を檢すれば、中央に一個の縦隔ありて、心臓を全く離れたる二腔に分つ、此の兩半は各更に上下の二部に分れ、上なるを心耳、下なるを心室と名づく、心室の壁をなせる筋肉は、心耳のより厚きにより、外部より見ても、よく兩者を識別することを得べし、即ち心臓は左右上下の四室に分かるるものにして、心耳は靜脈に、心室は動脈に連続す、心臓壁の筋肉は絶えず伸縮し、内にある血液を搾り出すものにして、此を心臓の鼓動といふ、大人は通常一分間に七十五回にして、血液が全身を循環して再び心臓に歸り來るには、凡そ二十三秒を要す、

せる二枚の僧帽瓣あり、又右心耳と右心室との間には、前者に似て三枚よりなる三尖瓣あり、共に尖端心室に向かへるにより、心耳收縮すれば、血液は心室に流入すれども、心室收縮すれば、血液の壓力によりて兩瓣ともに閉づるにより、心耳に歸る能はずして、動脈内に流入す、而して各心室と之に連續する各動脈の根部との間には、三個の半月瓣あり、囊状をなして動脈に向へるが故に、動脈に入りたる血液は、決して再び心室に逆流することを得ず、血液が人體内を循環する順序を述べんに、心臓收縮すれば、左心室内の血液は大動脈に出て、之より頭、及腕に行くべき支流を出し、本流は腰部まで下りて分れて兩脚に入る、各動脈は漸次細分し、終に毛細管となり、全組織内を貫通す、かくて毛細管は次第に集りて、小靜脈となり、更に集りて大靜脈となり、右心耳に歸る、此の循環により身體の全部が養はるるものにして、之を體循環或は大循環といふ、右心耳に歸りたる血液は、直に右心室に移り、之より肺動脈を通じて左右の肺に入り、分れて毛細管となりて肺の全部に擴がり、更に合して肺靜脈となり、肺を出て、左心耳に歸る、此の循環を、肺循環又は小循環といふ、血液は肺に於て炭酸及び水分を放ち、酸素を得、次で之を全身に分配するなり、

シシヤ(腎臟)生英 Kidney

腎臟は左右二個あり、腹腔の後部に位して脊柱を挟めり、その形扁平なる蠶豆状にて、長さ凡そ三寸五分に達す、内縁の最も凹める所を腎門と名づく、此の處にて腎は腎動脈腎靜脈及び輸尿管に連續せり、腎を縦断してその内部を見るに、輸尿管の上端は漏斗状をなして、腎門内にある腔所に通ぜり、この腔所には腎の實質若干の圓錐形突起となりて突出し、各突起の尖端には數多の小孔あり、腎臟内に生じたる尿は、この小孔より絶えず滲出して、腎腔に溜り、更に輸尿管によりて運び去らる、

顯微鏡を用ゐて、右の小孔より溯りて腎臟の組織を檢するに、腎は無数の迂行せる細管の相集りて成れるものにて、各細管は圓錐狀突起の尖端にある小孔に始り、數回分岐し數回迂行したる後、腎の外面に近き所に球状をなして終る、これを「マルピキ」氏囊と名づく、無數の「マルピキ」氏囊は、皆腎の外面に近くあるが故に、この部は腎の内部に比すれば稍外觀を異にす、因りてこれを皮質部と名づけて、内なる髓質部と區別す、

「マルピキ」氏囊は、極めて薄き膜にて成る、腎動脈の分岐して生ぜる末梢は囊内に入り分かれて毛細管となりて、球状の塊をなし、後に合して小靜脈となりて、外に出づ、血液が

「マルピキ」氏囊内なる毛細管を通過するとき、その不用なる水分鹽分等は毛細管壁を透り出て、この囊内に溜り、次第に腎細管に流れ入るなり、

「マルピキ」氏囊より出て來れる小靜脈は、再び分れて毛細管となり、腎細管を圍繞す、腎細管は、常にこれに接せる毛細管内の血液中より老廢物を吸ひ取りて、これを細管内に排泄するが故に、「マルピキ」氏囊より出て來りて、細管内を流る、液は、途中にて絶えず老廢物を收め、數回迂行して腎腔に達する頃には全く尿となるなり、

腎細管を圍繞せる毛細管は集りて小靜脈となり、更に合して左右各一本の腎靜脈となりて腎を出づ、腎靜脈を通過する血液は、腎臟内にて一切の老廢物を失ひたるものなれば、全身中最も清淨なる血液なり、

シシヤカン(深造岩)地鑛「シシヤカン」に同じ、

シシヤケンシセーホー(人造絹絲の製法)化 棉花を硝酸及び硫酸の混合液に浸して得たる硝酸纖維を「エーテル」及び「アルコール」の混合液に溶解し、或る金屬鹽類の少量を加へて爆發を防ぐ、此の溶液を天然絹絲大の直径の毛細管中に壓搾して熱湯中に逃しせしめ、其の熱によりて「エーテル」及び「アルコール」を飛散せしむ、其の他種々の法あり、上の法は「シヤードンネ」氏の方法にして、

千八百五十五年初めて特許を得、千八百八十九年の巴里大博覽會に於て初めて世に知られたり、此の法によりて製したるものは、灰白色にして光澤を有し、天然絹絲の練りたるものに酷似すと雖も、天然のもの、如く柔軟ならず、天然のものを採みたるとき感ずる如き一種の音響を有せず、延力に耐ふる所の柔軟性に於ても、著しく天然のものに劣れり、シシヤージュコー (人造麝香) 化 比重一・五を有する硫酸一分と、一割五分の三酸化硫黄を有する發煙硫酸二分との混合液五分中に、「アチル、トルオール」一分を寒冷に於て徐々に注加し、此の混合液を重湯煎上にて約八九時間温むれば生成す、之を水中に注げば結晶様の物質を沈澱す、之を再び硝化したる後、「アルコール」中より結晶せしむ、黄白色にして水に不溶解なり、

シシヤージュ (人造林) 植 人工を以て育成せる森林を云ふ、シシヤイ (靱帶) 生英 Ligament. 二骨の連接するとき、其の外面を被ひて相離れざらしむる所の、強靱にして伸縮せざる膜をいふ、

シシヤイヨージ (眞太陽時) 天英 Apparent solar time. 太陽の中心の時角を、其の時の眞太陽時と稱す、シシヤイヨージ (眞太陽日) 天地英 Apparent solar day. 太陽の中心が子午線にあるとき、即ち時角が

零なる時より次に再び時角が零になるまでの時間を、眞太陽日と稱す、詳かに云へば太陽の南中より次(翌日)の南中に至る時間を云ふ、此は精密に測れば日々相同じからず、是れ地球が楕圓形の軌道を公轉し、且つ其の軌道上を進行する速度に遅速あるによるなり、

シシチンタイシヤ (新陳代謝) 動英 Substitution. 學校に於て新舊生徒が常に交代する如く、生物の體內に於ても、舊物質は漸次老廢物となり、新物質之に代はるものなり、之を新陳代謝といふ、

シシチユー (眞鍮) 化英 Brass. 眞鍮は亜鉛と銅との合金にして、亞鉛一に銅の一乃至二を混じたるものなり、

シシト (滲透) 物英 Osmose. 相互に混和し得べき二液を膀胱「ゴム」等の薄膜を以て相隔つる時、雙方の液が之を通過して互に混合する所の現象を滲透と稱す、砂糖、食鹽及び其の他の結晶性の鹽類は、隔膜を通過すること速かなるものなり、消化器中より營養分の血液中に混する、植物の體中に根より水分の入る等は、皆この作用なり、

シシト (振動) 物英 Oscillation. 物體の全部又は一部が、或る點を運動の中央點となし、幾回も其の點の左右に往復運動を繼續することを振動と稱す、例へば、振子の球を其の平均の位置より他方へ上げて之を放す時は、球は

平均の位置を過ぎ、他側に至りて止り、又直ちに反對の方向に運動を始め、幾回も同様なる往復運動、即ち振動を繼續するが如し、

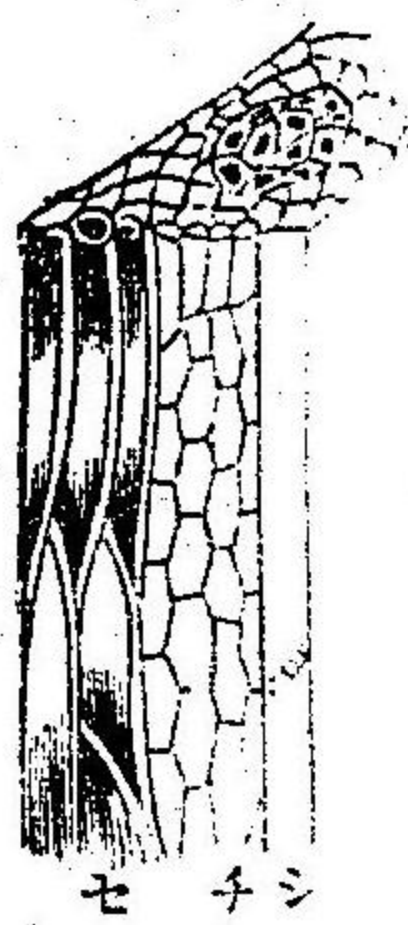
シシト (震動) 地英 Quaking. 地震のために、地盤の振動することないふ、方向によりて震動を分かつては二となる、一を上下動といひ、他を水平動といふ、

シシト (心囊) 生英 Pericardium. 心臓を蔽ふ薄き膜囊にして、心臓と心臓との間には、更に心囊液と稱する液體を充たせり、

シシト 地 「シシヤージュ」に同じ、

シシト (眞皮) 生英 Dermis or Chorion. 「シシヤ」の條を見よ、

シシト (心皮) 生英 Carpel. 「シシヤ」に同じ、



シシト (靱皮部) 植英 Barks. 緑皮層の内面に位し、靱皮繊維、篩管、柔組織より成る、就中、篩管は、養料を成長部に供給し、又貯蓄部に傳達する通路となり、靱皮繊維は此の部分で強固

ならしむ、(木質部の圖を見よ) 圖中(シ)は篩管部(チ)は柔

組織(セ)は靱皮繊維とす、

シシク (振幅) 物英 Amplitude. 振子の如く振動する物體に於て、其の運動の中央點より其の一端に至る距離を、其の振幅といふ、

シシク (唇瓣) 植英 Labellum. 蘭科の花弁の下部の唇状をなせるものを云ふ、

シシカシク (蕁麻科植物) 植 Urticaceae. 特徴 無瓣花、花被四一五、雄蕊四一五、にして花被より生ず、雌蕊一、二、合生して上生す、子房一室にして一卵子なり、小花簇生し、稀に葉莢花をなす、此に四區分あり、

(1) 蕁麻亞科 イラクサ屬、カラニシ屬、

(2) 桑亞科 クハ屬、カウソ屬、

(3) 無花果亞科 イチヤク屬、

(4) 大麻亞科 アサ屬、カナムグラ屬、

シシモ (腎門) 生 「シシヤ」の條を見よ、

シシモ (眞肋骨) 生英 True ribs. 「シシヤ」の條を見よ、

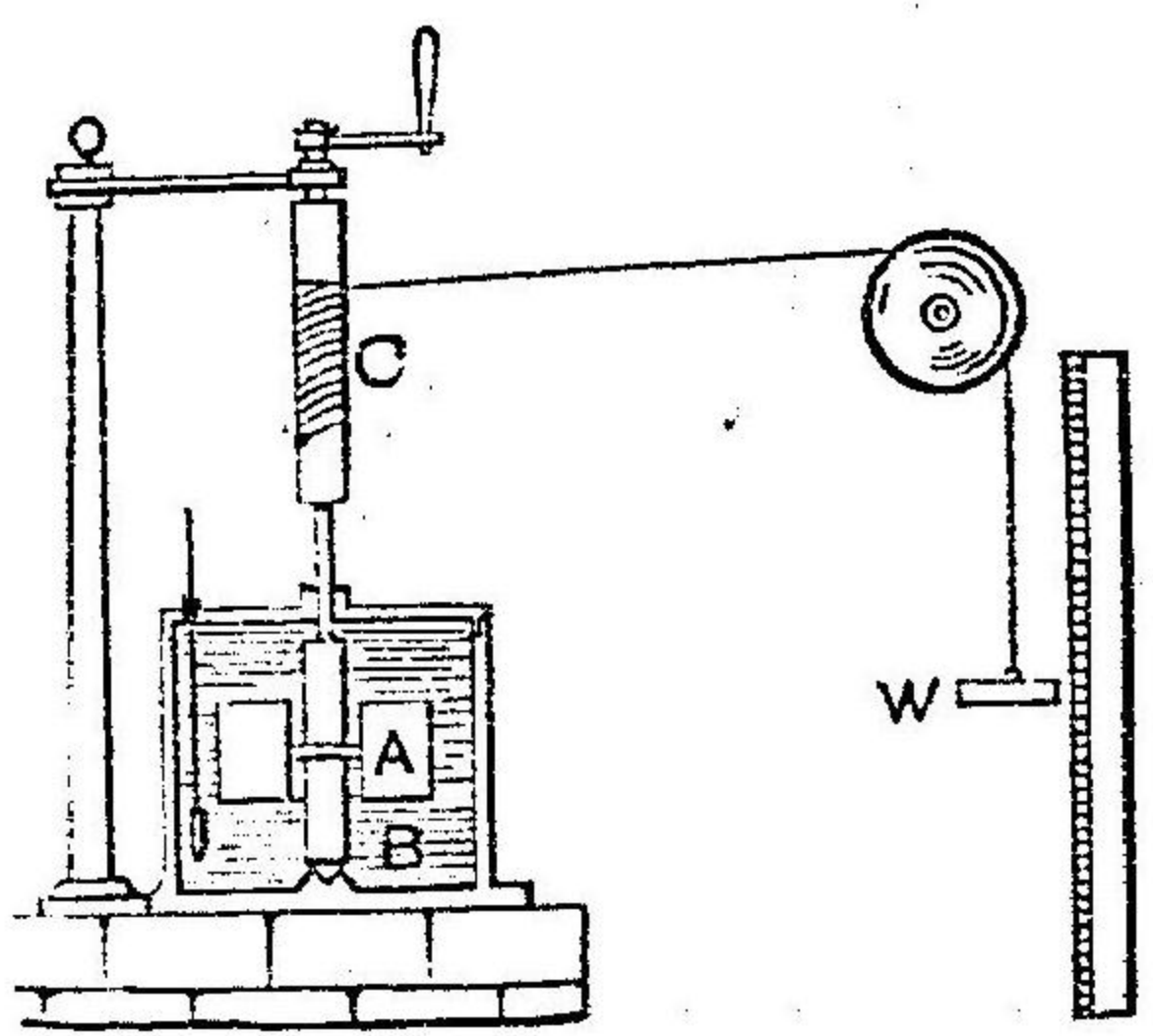
シシモ (霜) 地英 Frost. 地表の岩石樹木等の氷點以下に冷却せるとき、其の附近にある大氣中の水蒸氣が凝結附着して作る所の粉狀の氷を云ふ、霜は晴明なる夜に多く、又弱

き風は霜量を多からしむるも、強き風は之を妨ぐ、晩春八十八夜附近に於ては、結霜の爲に植物の幼芽嫩葉等に著しき損害を蒙ることあり、我國に於て桑樹の霜害を防ぐには、所謂の燻煙法を行ふ、其の基く所は桑園に於て濕りたる葉等を燃やし、盛に煙煙を起して園上に懸かしめ、以て夜間地面の熱の輻射を妨ぐるにあり、

シモン (篩紋板) 動 「シモン」に同じ、

ジャウル物英 Joule. 「ジャウル」とは、電流の「エネルギー」の實用上の單位にして、導體の抵抗「オーム」なる時、強さ「アムペア」なる電流の通過によりて、一秒時間に生ずる「エネルギー」をいふ、又「クーロム」の電氣量が、電動カ「ボルト」の二點間を流るゝによりて有する「エネルギー」なりと云ふことを得、一「ジャウル」の「エネルギー」は (107 H.M.M.) に相當す、

ジャウルジッケン (ジャウルの實驗) 物英 Joules experiment. 「ジャウル」の實驗は、圖に示せるが如く、Aなる翼を有する攪動器を以て、Bなる器中の水を攪拌し、其の摩擦によりて熱を起さしめ、水の温度の上昇によりて其の發生せる熱量を測り、又、攪拌を迴轉せしめたる分銅 Wの重さと其の落下せる距離とによりて、仕事の量を測り、以て熱量と仕事との關係を知ることを得べし、



ジャガ (射干) 又胡蝶花) 植 Iris japonica Thunb. 鳶尾科植物にして、毒あり、春期葉を生ず、初めは鳶尾の葉に似て白粉をおぶ、夏季莖頭に枝を分ち花を開く、六瓣にして紫點あり、或は黄色のもの、又點なき者、葉

形の異なるものもあり、
ジャガタライモ (馬鈴薯) 植 Solanum tuberosum L. 茄科の草本にして、羽状複葉を有し、花は白色又は藍色を早し、他下の塊莖は多量の澱粉を含有し、食用に供するのみならず、又之より澱粉を製出す、
ジャガタライモエキビョーキ (馬鈴薯の疫病菌) 植 Phytophthora infestans (Mont) De Bary. 馬鈴薯疫病菌は學名を「フィトフトラ、インフェスタナス」と云ふ、農作物病害中、最も恐るべきものの一にして、病症の進行甚だ迅速なり、激烈なる傳染性を有す、此の菌に犯さ

れたるものは、莖上に不規則なる黄色の小斑點を生ず、其の場所ば葉尖、葉縁、葉肋等にして、次第に四方に擴がり、黄色部は次第に褐色に變ず、斯くて病葉の裏面を見れば、褐色なる斑點を繞らし、其の周圍の猶ほ綠色を呈する處に、白色綿毛狀なる微輪あり、是れ病菌が葉肉中より、無數の擔子梗を抽出して、分生胞子を結ぶによる、
病症次第に全葉に及ぶときは、葉柄相繼ぎて侵害を受け、遂に莖葉全體枯死し、病勢は延て全菜園を犯すに至る、而して莖葉部の侵害せられたるものは、亦同時に塊莖部も侵さるるものなり、初め塊莖の皮膜は褐色に變じて、稍陥入せる病點を生ず、此の部を横斷すれば皮部變色し、次第に病勢の進むに従ひ、甚しく塊莖を損害し、大部分を腐敗せしめ、或は全く收納を見ざることもあり、實に恐るべき病菌なり、されば、よく之を驅除して、其の蔓延を防がざるべからず、即ち種塊莖を貯ふる間の取扱に注意し、又病勢の未だ進まざる當時に損害部を燒棄す可し、

シヤカン (砂岩) 鑛英 Sand-stone. 通常の砂岩は石英粒の集合にして、其の膠合物は、炭酸石灰、褐鐵質、粘土、又は珪酸なり、

種類 粘土質砂岩、石灰質砂岩、及珪質砂岩、
附記 明石舞子海邊の白砂は石英粒にして、蓋し、花崗岩

の分解によりて來れるものなり、
又青砂は安山岩の分解せるものなり、
シヤキセキ (砂金石) 鑛英 Aventurine. 「セキエー」の條を見よ、
ジャクシン (弱震) 地 「ジシン」の強さを見よ、
シヤクケッキュー (赤血球) 生 「クツエキ」の條を見よ、
シヤクツツ (尺骨) 生英 Ulna. 腕にある骨にして、上膊骨に接する部は太く、先端は細くして、小指の方に接す、此の骨は肘より先を内方に回轉するとき、略ぼ不動の状態にあるものなり、
シヤクドー (赤銅) 化 銅百分に金〇・五分より二分を混じたるものなり、
シヤクトリムシ (尺蠖) 動英 (teometer or span-worm. 枝梢に枝狀をなして靜止する「アキムシ」にして、種類により大小彩色一様ならず、脚は通常五對にして、普通の幼蟲の如き腹脚を缺き、尾端に二對の脚ありて枝を攫み、口より絲を出して枝に附着せしめ、體を眞直にし、枝梢に擬す、かく枝に體を擬するは自己保存上自然に淘汰されたる結果にして、之を擬體といふ、「シヤクトリ」の成蟲は何れも蛾にして、「クハ」「リンユ」「ホケ」「サクラ」「ヤマ」等の葉を食害す、

シヤクゲ (石南) 植 Rhododendron Metternichii.
 Rhod. 石南科の灌木にして、深山に生ず、常緑木なり、
 春新葉を生じ、夏、枝頭に薄紅色の花を開き、攢簇す、一
 花の形「ツツツ」の花に似たり、小毒あり、本邦特有植物な
 り、

シヤクク(芍薬) 植 Paeonia officinalis Pall. 毛茛科の草
 本にして、宿根性のもなり、外方の花被の内面より蜜を
 分泌し、恰も蟻を招き寄せて害蟲を防禦するの仕組を有し、
 蟻植物の一種と稱せらる、此の蜜は昆蟲を呼ぶ爲にあらず、
 そは唯柔かき大なる蕾にのみ多量に存し、満開の花には却
 てなきものなればなり、此の花は花粉花にして、甲蟲及蜂
 の媒介により受粉するものなり、果實は莢葉にして、種子
 を薬用に供す、

シヤクリ(吃逆) 生英 Hiccongh. 横隔膜不随意に收縮
 し、ために急激なる吸氣起り、此の吸氣多量にして且つ吸
 入急激なるにより、聲帯に觸れて發音するなり、

シヤコ(蝦蛄) 動 Scylla ovatoria, De Haan. 胸甲類
 中の口脚類に屬し、全形種「エビ」に似るも、腹部は胸部よ
 りよく發達し、「エビ」の第二對脚に相當するものよく發
 達して先端彎曲し、其の内縁は鋸齒をなし、食餌を把持する
 に適す、其の他の附屬物は發達不完全にして小なり、胸部

の終三節は腹節に似て一見區別し難し、腹部の附屬物は大
 にして、第六節のものは大に左右に擴張す、體は灰青色、肢
 は皆黄色、尾節は紅色を帯ぶ、體長四寸五分、我東海に多し、
シヤコ(瀉口) 地 河口が、砂灘、島等に圍まれて灣をな
 すものをいふ、

シヤサン(柘蠶) 動 蠶に似、色白く、斑紋は淡く、少し
 く黄色を帯び、脚も亦黄色を呈するものにして、白色のも
 のは淡白色の繭を營み、淡黄を帯びたるものは黄繭を營む、
 繭は紡錘形にして絞れなく、一寸三四分の長さを有す、絲
 質其の他の度に於ても繭繭に劣ることなし、清國四川省の
 原産にして、柘葉を以て養ふことを得、三眠蠶なり、

シヤシキカイ (寫眞器械) 物 英 Photographic
 instrument. 寫眞器械の要部は暗箱にして、其の内部を
 黒色に塗り、其の中部は蛇腹に作り爲して自在に伸縮し得
 べく、箱の前面には、通常二個の色消凸「レンズ」を嵌めた
 るものなり、この器を用ゐて寫影せんとせば、「レンズ」を
 物體に向はしめ、蛇腹を伸縮して、後面の硝子板に明瞭な
 る倒像を作らしめ、次で「レンズ」に蓋を施し、注意して硝
 子板に代ふるに感光性の藥品を塗りたる板を以てし、蓋を
 去りて暫時光線に感ぜしむる時は、茲に來る光の強弱に應

じて、硝子板面の藥品は各異なる度に變化を起すべし、斯
 くして之に現像法を施すなり、

シヤシツズイ(射出髓) 植英 Medullar rays. 髓に始
 まり、維管束を貫通し、内皮層に達する帶狀組織なり、髓
 は材部と皮層とを連絡し、養分をして横に流通せしむる作
 用をなす、こは材輪の加はるるに従ひ、其の先端即ち外部
 も成長して、絶えず皮層と髓とを連絡するなり、

シヤチョーセキ(斜長石) 鑛英 Plagioclase. 三斜晶系、
 色は白、淡青、淡緑、黝色等、條痕は白色にして、玻璃、眞珠、
 脂肪光澤あり、硬度六―七、比重二・五―二・八、
 化學成分は $Al_2O_3 \cdot 3SiO_2 + Na_2O \cdot 3SiO_2$ 又は $Al_2O_3 \cdot SiO_2 +$
 $CaSiO_3$ なり、二様の劈開面は互に八十度に交叉す、此に左
 の種類あり、

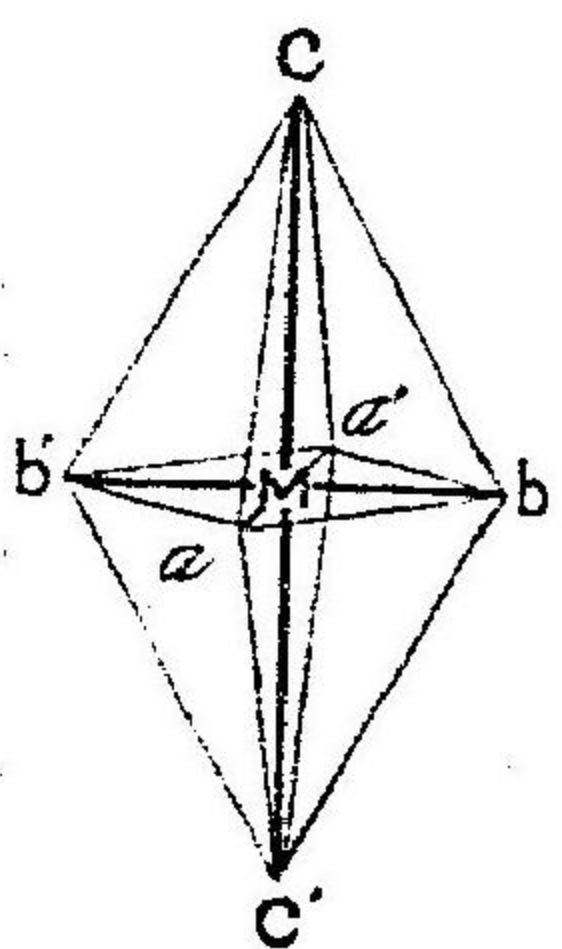
- イ) 曹長石 (Albite)
- ロ) 灰曹長石 (Oligoclase)
- ハ) 中性長石 (Andesine)
- ニ) 曹灰長石 (Tephrodorite)
- ホ) 灰長石 (Anorthite)

正長石と共に、最も廣く分布せるものにして、多くの岩石
 特に火成岩の主成分をなす、分解して粘土を生ずるも、分

解すること一般に正長石よりも徐々なり、
シヤテツ(砂鐵) 鑛 磁鐵鐵の細碎して、土砂に混じ粗狀を
 なして出づるもの、廣島縣にあり、又渡島にも産す、其の
 中、波浪の爲に海濱に漂着せるもの少からず、山陽道諸國に
 此の例あり、製鐵の好材料たり、

シヤニチ(社日) 地 雜節の一にして、春秋二回あり、春の
 社日は、三月二十五日頃にして舊曆二月の第二の戌に當る、
 秋の社日は、九月二十一日頃にして白露の節(即九月八日)
 に入り第二の戌の日に當る、共に農家の祝日なり、

シヤホーショーケー(斜方晶系) 鑛英 Rhombic system.
 三軸異長にして、互に直角
 をなすものを云ふ、左圖の
 如し、



軸と云ひ、短きを短軸と云ふ、軸の取り方は、一般に短き
 方即ち aa を前後におくを常とす、
シヤホシタマノイロ(石鹼球の色) 物英 Color of soap
 一三二、薄膜の色を見よ、

シヤシメンガヒ 動 Lingula. 又「メカシヤ」(海豆芽又女冠

者又指甲螺と云ふ、腔腸動物と軟體動物との中間に位すべきものにして、腕足類に屬す、大小異なる長き貝殻を有し、體は扁平長楕圓形にして綠色を呈し、長き柄を有し、之を砂管に入れて棲息す、一見二枚貝を有する動物に似れども、發生異なる外、貝殻は體の背腹にあり、

シヤンガス (シヤン又青素瓦斯) **化英** Cyanogen C_2N_2 「シヤン」化水銀の乾燥せるものを熱すれば得らる、「シヤン」瓦斯は無色にして、桃の仁の如き臭氣を帯び、非常の毒性を有す、此の瓦斯は高壓と低温に由て無色の液體となる、尙ほ冷却すれば結晶體となる、此の結晶は零下三十四度にて融解し、零下二十七度にて沸騰す、火を點すれば青色の燐を發して燃え、二酸化炭素と窒素を生ず、水或は「アルコール」に溶解す、

シヤンカリウム (青化加里) **化英** Potassium Cyanide KON. **シヤンカリウム** (青化カリウムの性質)

無色の潮解し易き立方形の結晶にして、容易に水に溶解す、「アルコール」には少しく溶解す、酸を加ふるときは容易く「シヤン」化水素を發す、空氣中より水を吸收し、又空氣中の炭酸に由りて分解せらる、其の水溶液は殆ど總ての金屬を沈澱し、其の過量を加ふれば青化物の複鹽となりて再び

溶解す、鍍金術、寫眞術、及び試薬として廣く用ゐらる、非常の有毒物なれば之を取扱ふには注意を要す、
シヤンカリウム (青化カリウムの製法)
無水の黃血鹽を熔融するまで熱するときは、分解して此の物を生ず、
 $K_2Fe(CN)_6 = 4KCN + Fe + 2C + N_2$

但し青化物の分解を防ぐために、苛性加里を熔融したるものに加ふるを要す、此の場合の生成物中には青化加里を含む、

シヤンカギン (青化銀) **化英** Silver Cyanide AgCN. 白色の沈澱にして、其の外形甚だ鹽化銀に似たり、

シヤンカスイキン (青化水銀) **化英** Mercury Cyanide. Hg_2CN_2 無色の光輝ある柱狀の結晶にして、空氣中にて變化せず、容易に水に溶解し、劇しき毒性あり、熱するときは分解して「シヤン」及び水銀となる、

シヤンカスイン (青化水素酸) **化英** Hydrogen Cyanide HCN

シヤンカスイン (青化水素酸の性質) 此の物は無色の瓦斯にして、沸點二十六度半なり、零下十五度にて固體となる、特異の臭氣を有し咽喉に不快なる激衝を起す、紫色の燐を以て燃ゆ、恐るべき毒物なり、純粹なるものは變

化するこなきれども、水及び「アムモニヤ」の跟跡をも存するときは、褐色の粉末、「アムモニヤ」蟻酸、蓆酸等に分解す、然れども之に無機酸の少量を入れ置けば甚だ安定なり、「アルコール」若しくは無機酸を加へて温むるときは、直に蟻酸及び「アムモニヤ」なる、

シヤンカスイン (青化水素酸の製法) 黃血鹽十分を粉末にし、之に硫酸七分、水十分乃至十四分の割合の混合冷液を混和し、冷却器を供へたる「レトルト」にて蒸餾す、

シヤン (青酸) **化英** Cyanic acid ONOH 此の物は尿素のみを熱するか、或は鹽素瓦斯と共に熱するときに生ず、斯くして得たるものを乾餾し、其の蒸氣を寒劑にて冷やすときは、刺激性ある流動し易き液體、即ち「シヤン」酸を得、其の反應は左の如し、
 $C_2N_2H_2O_2 = 3ONOH$

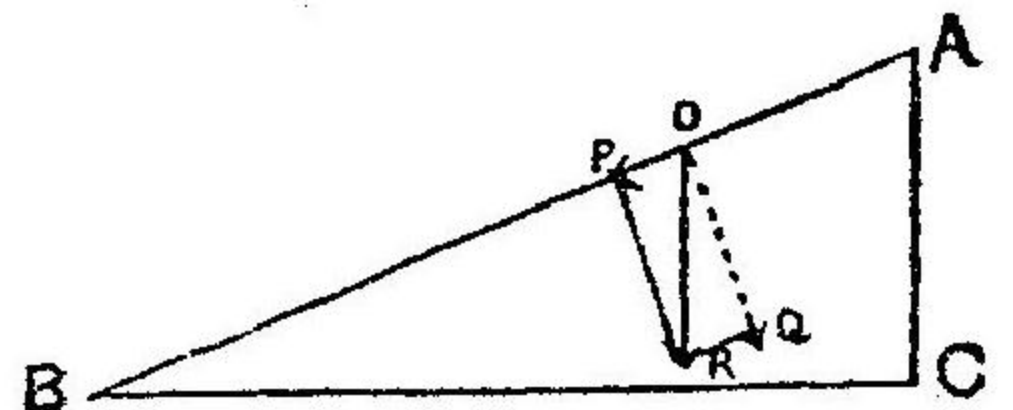
甚だ不安定なる物にして、寒劑より取り出すときは、直に沸騰して分解す、「アムモニヤ」と結合して青酸「アムモニヤ」となる、

シヤン (青酸アムモニウム) **化英** Ammonium Cyanate. $ONONH_2$ 此の物は白色の結晶體にして、容易に尿素に變する性あり、苛性加里は之を

「アムモニヤ」及び青化加里に分解す、

シヤン (斜面) **物英** Inclined plane. 斜面とは、地

平線と或る角度をなす所の平面にして、小なる力を以て重き物體を高所に上ぐる時に用ゐらるゝものなり、今Oなる物體に働く重力の強さをORとすると、此は斜面ABに直角なる力OQと、之に沿へる力OPとに分解することを得べし、而してOQは斜面の抵抗と釣合ふが故に、OPに少しく勝れる力あるときは、斜面に沿ひて容易に物體を引き上げることを得べし、而して其の力を省く割合、即ちOPのORに對する比は、



AOのABに對する比に等し、故に斜面に於ては、斜面の長さABの長くなるか、若しくは高さAOの低くなるかに従ひて、愈々小なる力を以て大なる物體を上ぐることを得べし。

シヤモセキ(蛇紋石一名温石)鑛英 Serpentine.

(一)斜方晶系(二)綠、黄色(三)白色の條痕(四)脂肪、眞珠光澤(五)硬度二一四、(六)比重二・五—二・六五(七)成分は $3MgO \cdot 2SiO_2 + 2H_2O$ (八)蛇皮に似たる紋あるが故に此の名あり、(九)武州金崎、常陸の町屋の産、名高し(十)飾石とす、(十一)風雨の侵蝕に抵抗する力頗る強し、蛇紋石は元來始生の鑛物にあらずして、橄欖石、輝石、角閃石等の分解により變質して成りたるものなり、又蛇紋石のやゝ變化するときは、白色纖維狀のものを生ず、之を温石絨と稱す。

シヤリ(砂利)鑛英 Gravel. 主として、通常の石英、並に硅質岩の破片より成り、粒々相離る、又石礫と稱す。

シヤリシ(瀉利鹽)化英 Epsom salt. 硫酸「マグネシウム」に同じ、舍利鹽とも書けり。

シヤールテリツ(シヤールの定律)物英 Charles Law. 「シヤールの定律は、氣體膨脹に關するものにして、佛國人「シヤール」の發明したる所なり、其の定律に曰はく、各種の瓦斯體の膨脹率は、皆殆ど同一にして、 $0 \cdot 0036$

六即ち略二百七十三分の一なりと、

シユ(朱)化英 Vermilion. 硫化第二水銀の粉末にして、水銀と硫黄とより製し、又は水銀と硫黄と水酸化「カリウム」により製す、純粹の朱は久しきを經て變色せざるが故に、古來顔料として貴重せらる。

シユ(種)動植 英 Species. 分類學上の最小區分を種といふ故に種名は特殊のものを表はし、通有のものにあらず。

シユ(臭)鑛英 Smell. 固體又は液體の鑛物にして、其の性揮發し易きものは、分子揮發して空中に浮游し、吾人の嗅神經に一種の作用をなす、故に吾人は其の臭を知覺するを得べし、但し或る鑛物は、之を熱するか或は之を打撃するか、又は強く之を摩擦して後、始めて臭を放つものあり、例へば硫黄、黄鐵鑛、石炭等の如し。

シユイ(皺胃)動 英 Alimentary. 反芻類の第四胃にして、多くの皺を有し、重瓣胃より來れる食物を受けてよく消化し、之を小腸に流出せしむる胃をいふ。

シユイシユ(雌雄異株又雌雄別株)植 Dioecious. 雌花と雄花と株を異にするものを云ふ、例へば「ヤナギ」柳「ネズ」杜松等の如し。

シユイタイ(雌雄異體)動 多くの動物に見る如く、雌

及雄の生殖器が異なる個體に有することないふ、

シユウ(驟雨)地英 Shower. 一種の暗灰色又は黒灰色を帯べる雨雲の惹き起す所の雨にして、夏日午後によく、塵、電光雷鳴を伴ふものなり。

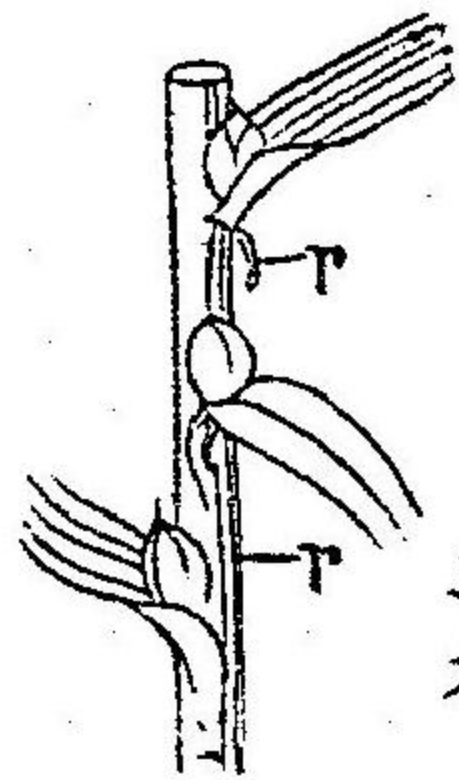
シユカ(蠶花)植 英 Silicle. 禾本科の花穂の一部を構成する小穂の名なり、中央に總梗を具へ、此より一乃至數個の小花を生ず、小花は各二個の苞片にて包まる、此の苞片を内穎(Palea)と名づく、蠶花の總梗の下に存する二苞片は、常に小花を有せず、之を外穎(Glume)又は總苞と稱す、稻の花の如きは、其の蠶花は一小花を含み、内穎却て外穎より大なり、「イチゴツナギ」の蠶花は、三小花を生じ、其の外穎最大なり、蠶花の各小花は、往々其の内穎の内部に甚不完全なる鱗片狀の花



被を具ふるものあり、之を鱗被(Lodicula)と云ふ。

シユガ(珠芽)植 英 Bulb.

芽の特別に變化したるものにして、後に至ては母植物をばなれ地上に落ちて、増殖の用をなすものなり、例へば「オニユリ」の葉腋に生ずる



子ノ珠芽 其根

ものは、鱗片葉を具備する塊なり、往々、母植物に着生する間に根を生ず、又「ノビル」の花中にも生ずることあり。

シユカカリウム(臭化カリウム)化 英 Potassium Iodide KI. 臭化「カリウム」は、水酸化「カリウム」の溶液に臭素を加へ、之を蒸發し、其の殘留物を木炭末と共に熱して得る處の塊を水に溶かしたる後、之を結晶せしめて得、臭化「カリウム」は容易く水に溶解し、其の溶液より無水立方體の結晶として得らる、此の鹽は鹹味を帯び、頭痛を治する醫藥として多く用ゐる。

シユカギン(臭化銀)化 英 Silver Iodide AgI. 之を製するには、硝酸銀の溶液に臭化「カリウム」の溶液を加ふるなり、此くして得たるものは、鹽化銀の如く凝乳狀の沈澱なり、鹽化銀に比すれば、「マンモニウム」に溶解する性乏し、低温にては白色なれども、徐々に熱すれば黄色となる、日光に觸れしむれば稍暗色に變ず。

シユカメチル(臭化メチル)化 英 Methyl Iodide. CH_3I . 「メチルアルコール」を燐及臭素と共に熱して製す、沸點四度半、比重は零度にて一・七三なり、鹽化「メチル」及び「クロロホルム」に類する臭を有し、燒くが如き味あり、シユキ(週期)物 英 Period. 振子又は發音體の如く、等時性の振動をなす所の物體が、或る位相より再び此の同

二なる位相をなすに要する時間を、其の週期と稱す、
 ジューキック (重金屬) 化英 Heavy metal. 比重五
 以上の金屬をいふ、例へば鐵、亞鉛等の如し、

ジューキョク (皺曲) 地英 Folds. 地球が漸次に冷却
 して其の體積を縮小するが爲に、地殼が横壓力を受けて生
 ずる所の地層の皺をいふ、地層は地皮の皺曲によりて、波狀
 をなすによりて、其の波の谷に當る地層の部は、兩側より中
 央に向ひて傾斜す、之を向斜と云ふ、又波の山に當れる部
 は、中央より兩側に向て傾斜す、之を背斜と云ふ、地層の波
 谷波山を含む所の皺は即ち皺曲なり、

ジューキョクシユクシユ (終局宿主) 動 「シユクシユ」を見よ、
 シユクシユ (宿主) 植英 Host. 寄生せらるる植物のこと
 なり、

ジュークロムサンカリウム (重クロム酸カリウム) 化英
 Potassium dichromate, $K_2Cr_2O_7$ 重「クロム」酸「カ
 リウム」は、赤色の三斜形の大なる結晶なり、常温度に於て
 は凡十倍の水に溶く、之を熱すれば熔融し、白熱に於ては分
 解して酸素を發す、又硫酸と共に熱すれば一層速に酸素を
 發して硫酸「クロム」となる、
 $K_2Cr_2O_7 + 4H_2SO_4 = Cr_2(SO_4)_3 + K_2SO_4 + 4H_2O + 3O$
 故に重「クロム」酸「カリウム」と硫酸との混合物は強き酸化

劑なり、化學實驗場にては酸化劑となす、染色術及び顔料の
 製造等に用ゐらる、通常は重「クロム」酸加里と稱せらる、此
 の溶液に膠液を加へ、之を紙面に塗りて日光に晒せば、暗綠
 色となりて不溶性の物質に變ず、故に此の混合物は寫眞術
 に於て用ゐらる、又往々漆に代用して一貫張製器物の塗料
 に供せらる、

ジュークロムサンデニチ (重クロム酸電池) 物英
 Dichromate cell. 重「クロム」酸電池は「ボツゲン
 ルフ」の發明せる所にして、陽極に炭素、陰極に亞鉛を用
 ゐ、之を少しく硫酸を加へたる重「クロム」酸加里の水
 溶液に浸す、この電池に於ては、重「クロム」酸加里が硫酸
 に觸れ、且つ電流のために分解せられて、硫酸加里及び硫酸
 「クロム」を生じ、其の中にありし酸素は、游離して硫酸
 亞鉛とより生ずる水素と化合して水を生ずるが故に、水
 素の泡を生ずることなし、

ジュークラ (縦谷) 地英 Longitudinal valley.
 兩山脈の間に挟まり、其の地層の層向が山脈の軸線と平行
 する谷をいふ、

ジューシーシズイ (聚合雌蕊) Synous pistil.
 多雌蕊にして、多少適合するものなふ、例へば「タマ」
 煙草、「ナデシコ」罌粟、「ユリ」百合等なり、

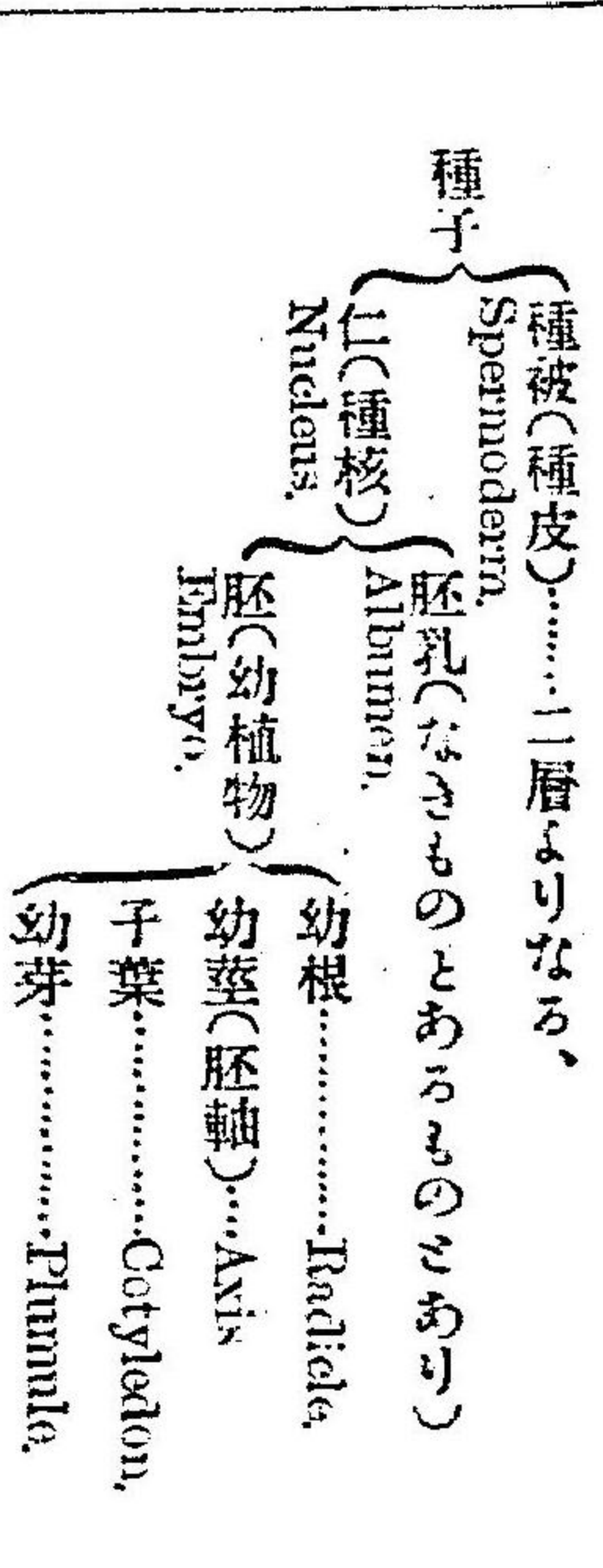
ジニ (儒艮) 動 「ザンノイカ」に同じ、

ジューサイ (縦山菜) 地英 Longitudinal mountain
 tain group. ユラル山、マンテス山の如く南北に走る山
 菜をいふ、

ジューサン (修酸) 化英 Oxalic acid, $C_2H_2O_4$
 砂糖、纖維、木材等の炭素化合物を硝酸を以て酸化するが、
 又「アルコール」を過「マンガン」酸「カリウム」にて酸化する
 か、若しくは苛性加里、或は苛性曹達にて纖維を熔融して製
 す、美麗なる透明の一斜柱狀の結晶にして、空氣中に於て風
 化す、水に溶解し易し、速かに熱すれば二酸化炭素及び蟻酸
 となる、強硫酸と共に熱すれば一酸化炭素、二酸化炭素及び
 水となる、 $C_2H_2O_4 = CO + CO_2 + H_2O$ 修酸は硝酸及び鹽素に
 對しては甚だ安定なり、然れども過「マンガン」酸加里、
 二酸化「マンガン」には酸化せられて、炭酸瓦斯及び水とな
 る、

ジューサイ (秋材) 植英 Autumn wool. 秋期に生ずる
 木質部は、其の質緻密にして、細胞は小に其の膜肥厚し、時
 として、導管のあるべきものに、之を缺知することあり、

ジューサン (鞣酸) 化 タンニン (單寧) に同じ、
 シユシ (種子) 植英 Seed. 胚珠が花粉の質質を受けて
 受胎し、以て生成せるものにして、其の部分左の如し、

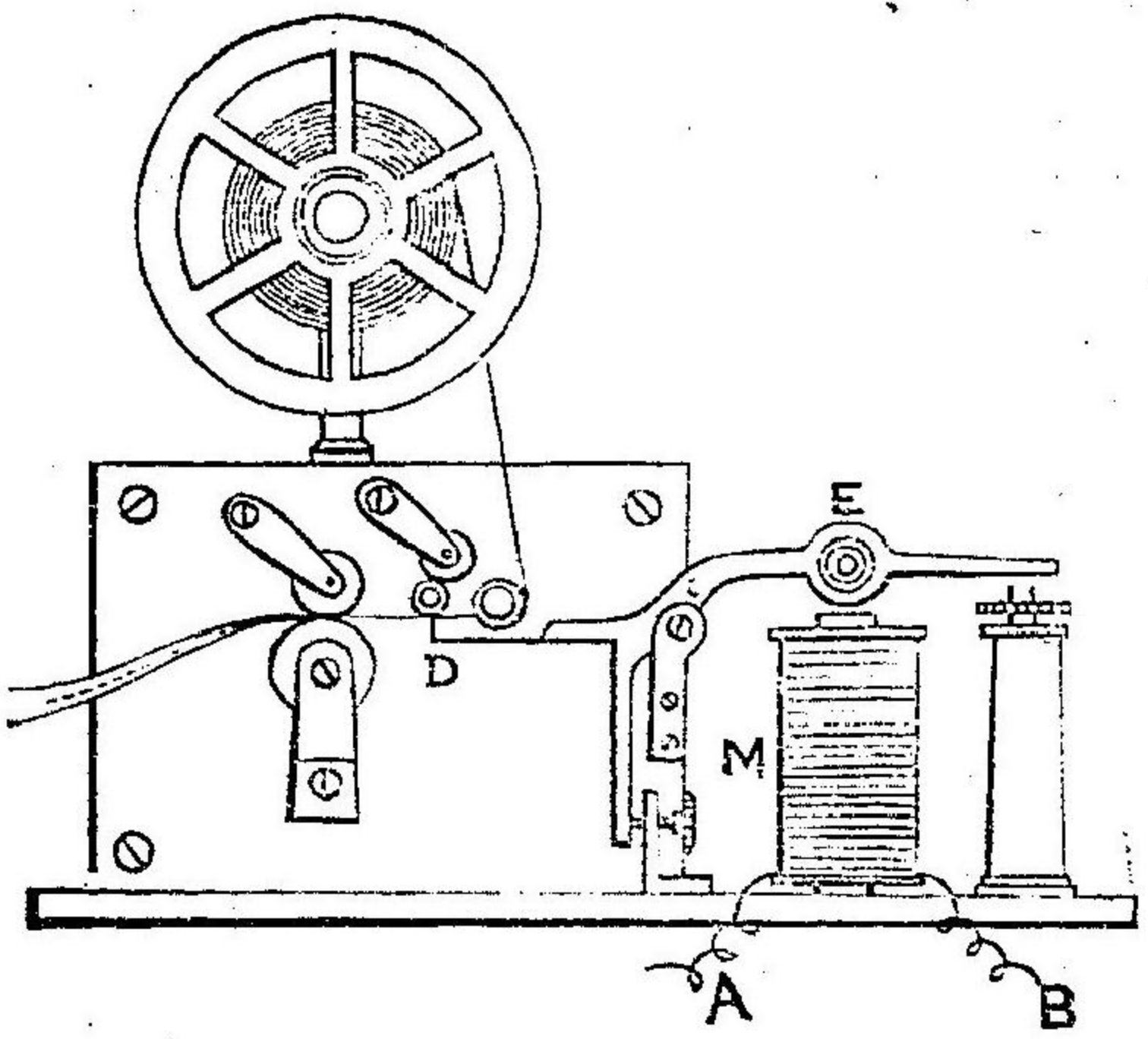


ジューシカシヨクツ (十字科植物) 植英 Umbelliferae.
 特徴は、萼四、花瓣四あり、雄蕊は六にして、二層に排列す、
 外層は二にして短小、内層は四にして長大なり、雌蕊二にし
 て合一す、子房二室、其の胎座は側膜にあり、又偽隔膜を生
 ず、種子に胚乳を有す、ダイコン屬、タネツケバナ屬、イヌナ
 ツナ屬、ナツナ屬、マイセイ屬等之に屬す、

ジューシド (樹脂道) 植英 Resin passage. 分離細
 胞間隙にして、樹脂を滿らす所を云ふ、松柏科に見る所也、

ジューシキ (通常電信器の) (受信器) 物英 Receiver-
 vol. 受信器は他所より發する所の音信を受け取るべき器
 械なり、其の構造の簡單なるものは、圖に示すが如く電磁石
 ありて、其の導線の一端Aは電線に連なり、他端Bは地中に
 通す、又積杆DCEは、C點を中心として回轉することを得べ
 く、Eは電磁石の上方に横はる鐵棒なり、今電流が電磁石に

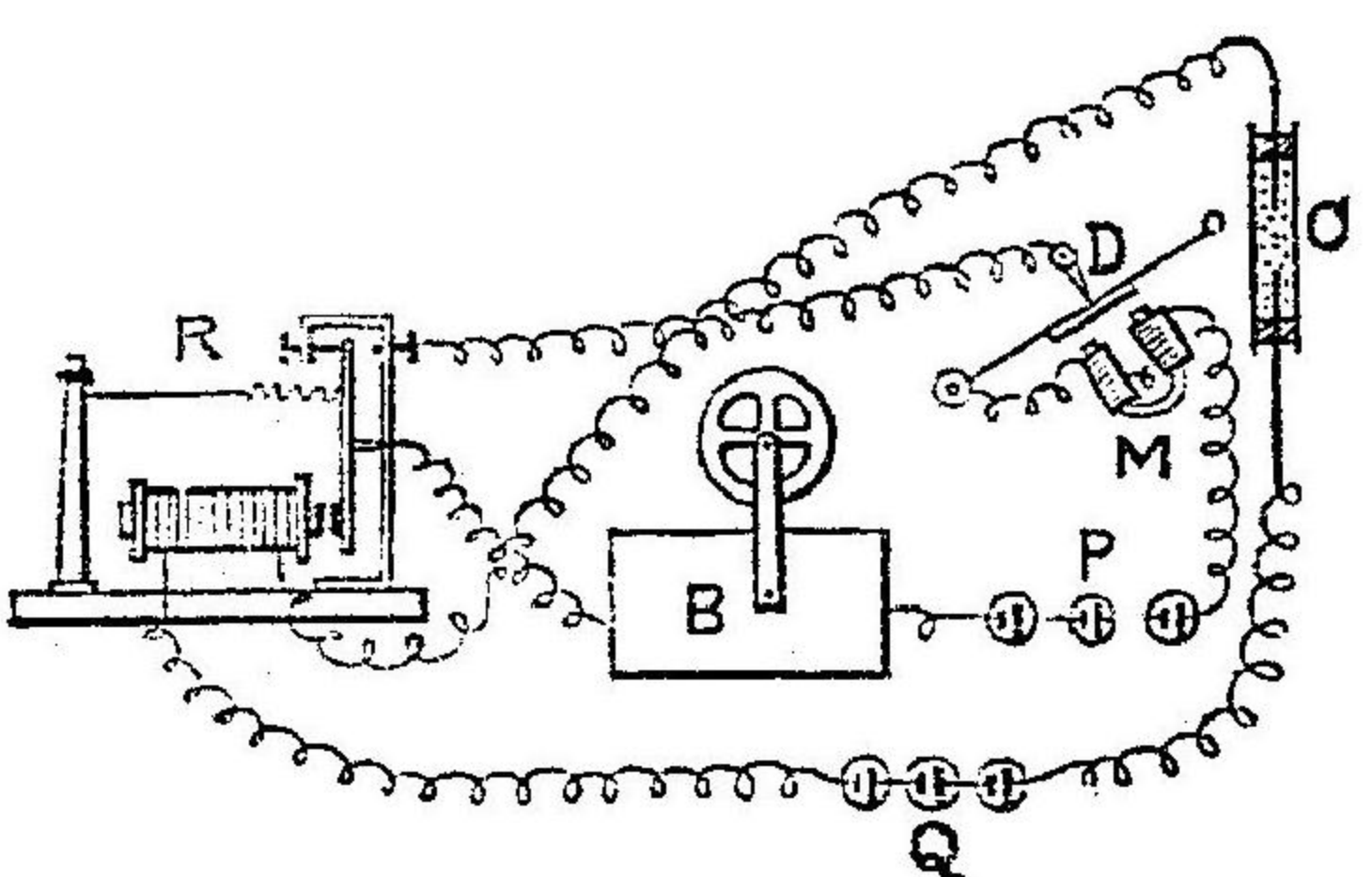
通する時は、鐵棒Eを吸着するために、槓杆のD部は上がり、其の先端に備へたる筆は、時計仕掛けを以て上部にある



車より間断なく等速度を以て引き出されつゝ、ある紙片に觸る、而して、この筆の紙片に接する時間の長短により、線或は點を印するが故に、其の記號に就き豫め規約を設け置けば、隨意に音信を通ずることを得べし、左に記すは本邦にて用ゐる假字の記號なり、

レ	イ
ゾ	ロ
ツ	ハ
ネ	ニ
ナ	ホ
ラ	ヘ
ム	ト
ウ	チ
ヰ	リ
ノ	ス
ガ	ル
タ	ナ
ヤ	ジ
マ	カ
ケ	ヨ
	タ

シユシキ「無線電信機」(受信器)物英 Receiver



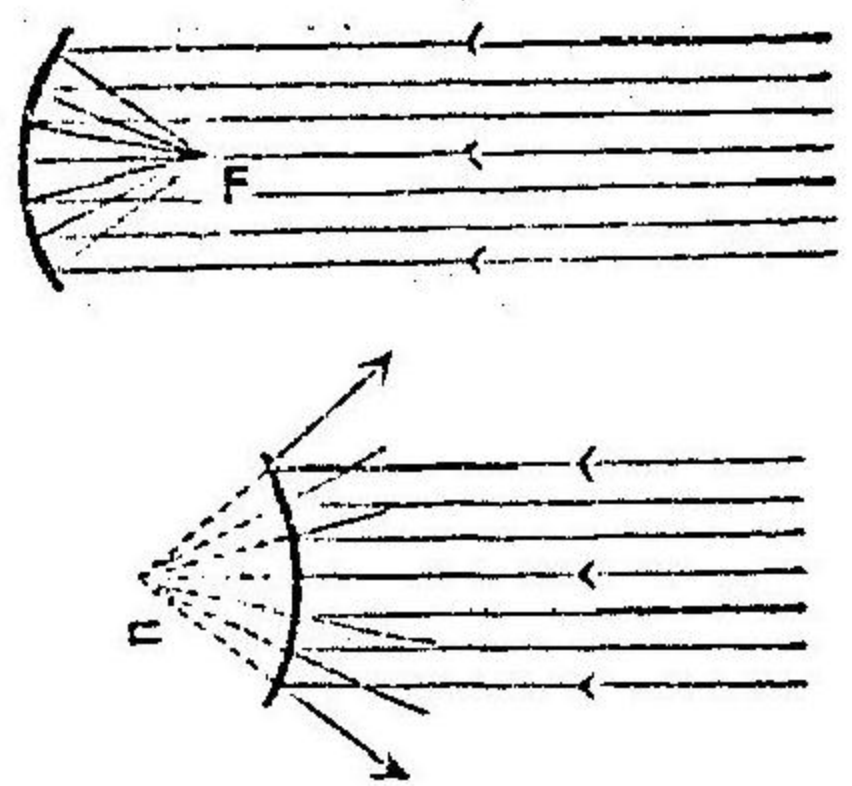
無線電信の受信器は、普通電信に用ゐる「リレー」及び受信器の外に、「コローラ」及び之を打撃する装置を有す、圖に示すが如く、Cは「コローラ」、Mは電磁石、Bは印字器、P Qは電池なり、今振動器より起る所の電氣波が空間を經過し來る時は、「コローラ」は之に感じ、電池Qの輪道閉ぢ、「リレー」R内の鐵片を引くを以て、電池Pの輪道も閉ぢて、遂に印字器Bに感すべし、之と同時に電磁石Mは鐵片Dを引き「コローラ」を打ち、其の内の抵抗を増加するが故に、Qの輪道を斷絶す、斯くの如くして、受信器に於ける「キー」を押す時間の長短に應じ、印字器は普通電信の如き點或は線の記號を記すべし、

シユシク(收縮)物英 Contraction. 物體が熱の變化を受けて、其の大きさを減する所の現象を稱して、收縮とい

コ	一
エ	濁
テ	半濁
ア	一
サ	二
キ	三
ユ	四
メ	五
ミ	六
シ	七
エ	八
ヒ	九
モ	〇
セ	
ス	
ン	

ふ、

シューヨーセキ(重晶石) 鑛英 Barite. (一)斜方晶系にして、板状其他種々の結晶あり、(二)白、黄、青、黝、褐等の諸色あり、(三)玻璃光澤(四)硬度二・五—三・五(五)比重四・三—四・七(六)成分はBaSO₄なり、(七)諸金屬の鑛層及鑛脈中に顯出す、石灰石、天青石と共に交雜して散在す、英國ウエストモアランド、スコットランド、佛國のオーウアルン、フライベルグ等に産す、我國にては羽後、佐波、陸中、陸奥、加賀、紀伊、岩見、後志等の銀、銅、鉛鑛の脈石をなして産すれども、其の量多からず、重土鹽類を作る原料として又其の色白くして重きが故に、之を粉塵して鉛白に混じ、以て顔料に供す、



シューヨーテン(主焦點) 物英 Principal focus.

球面凹鏡又は凸「レンズ」に平行光線を受けしめ、其の方向を變換せしめたる時、光線の集合する所の點Fを稱して、其の主焦點又は正焦點といふ、若し又球面凸鏡又は凹「レンズ」によりて、光が其の方向の變換を受けたる時は、四方

に發散すること、恰も之を逆に延長して會合する所の一點Fより來れるが如し、此の場合に於ては、斯くの如き點を以て主焦點とす、

シューシン(珠心又胚珠心) 植英 Nucleus. 胚珠の珠

被内に包蔵せらるゝ部分を云ふ、胚珠の圖を見よ、
シューシン(重心) 物英 Centre of gravity. 重心は、物體の各質點に作用する重力の合力の働く所の一定點にして、即ち重量の中心なり、故に一つの物體の重心は、其位置の如何によりて、其の點の位置は變ずるものにあらず、

シューシン(縦震) 地 地震の震源をなす所の斷層が、其の地體を構造する山脈の軸線と并行して走るとききの地震をいふ、

シューシンドー(縦振動) 物英 Longitudinal oscillation. 物體を組織する各點が、其の長さに沿ひて一定の往復運動をなし、各部或は粗きなり或は密なる、之を縦振動と稱す、例へば松脂を塗りたる革を以て、硝子又は眞鍮の棒を縦に摩するときの棒の振動の如し、

シューシクホー(收縮胞) 動英 Contractile vacuole. 「アメーバ」「ゾーリウム」の如き原始動物の體内にある球狀物にして、所々に之を生じ、大形となれば破裂して消失し、

更に隨所に之を生じ、再び消失す、かく反復するものなれども、同一物にあらず、此れ高等動物に於ける循環に似たる作用を司るものなるべし、

シューセキ(酒石) 化英 Cream of tartar. CH₂O₆K. 酸味を有する單斜晶の結晶にして、小しく水に溶解す、染料及び醫藥に供す、

シューセキエー(酒石英) 化 酒石に同じ、

シューセキサン(酒石酸) 化 英 Dextrotartaric acid. C₄H₄O₆(CO₂H)₂.

シューセキサンセーシツ(酒石酸の性質) 大なる透明の單斜晶系の柱狀結晶にして、強く且純粹なる酸味を有し、容易に水及び「アルコール」に溶解す、「エーテル」には殆ど溶解せず、熔融點百三十五度、銀の「アムモニヤ」溶液に混じて熱すれば銀を還元す、熔融すれば無水の粉末となる、又強熱すれば焦性酒石酸となりて炭化す、徐々に酸化すれば酸化「マロン」酸に變じ、強く酸化すれば蟻酸及び炭酸等に分解す、此の酸及び其の鹽類は偏光面を右方に回轉する性あり、醫藥及び媒染劑となす、

シューセキサンセーホー(酒石酸の製法) 此の物は游離し或は鹽となりて、天然に多量に存す、殊に「カリウム」鹽となりて、種々の果實就中多量に葡萄の液中にあり、葡萄液が

酸酵する時、重酒石酸加里となりて結晶し、器底に沈澱分離す、白堊及び鹽化「カルシウム」と共に煮れば、中性の「カルシウム」鹽となる、之に硫酸を加へて游離せしむ、又乳糖に硝酸を作用せしめて製する「こま」を得、

シューセキサンカリウムネトリウム(酒石酸カリウム、ナトリウム) 化 「ロッセル」鹽に同じ、

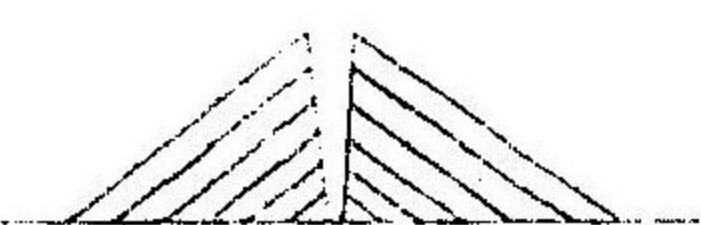
シューセキサンセツカイ(酒石酸石灰) 化英 Calcium tartarate. 此の物は水に不溶解なる粉末なれども、苛性曹達の溶液には溶解す、之を温むれば膠狀となりて分解すれども、冷せば再び溶解す、

シューセキスイホー(集積錐峯) 鑛英 Piled cone.

火山破裂と共に、瓦斯を噴出すること甚しきときは、噴出物はその大小に従て、噴火口を去る距離に大小あり、斯くて、其の堆積物によりてなす火山は、傾斜急にして、三十五度乃至四十五度に達し、且つ高度至て大なり、富士山之に屬す、

シューセーシク(雌雄生殖) 動 英

(Janogametes. 雌と雄とありて初めて生殖作用を遂ぐることをいふ、單爲生殖に對していふ詞なり、
ジュー(受精) 動 植 英 Fertilization. 動物にては、



雄の生殖物(精蟲)が、雌の生殖物(卵子)と合體する作用なり、植物にては、子房内の胚珠が、花粉の質質を受けて、種子となる作用を云ふ、

ジユセーノ(受精囊) 動英 *Seminal receptacle.*
比較的下等の動物にある器にして、雌が精蟲を受納する腔をいふ、

シユーツ(臭素) 化英 *Bromine Br.* 原子量七十九、九六
シユーツシヨザイ(臭素の所在) 臭素は多くは「ナトリウム」「カリウム」の化合物として鹽泉又は海水中に少量に存在す、又此等の化合物は獨逸の「スタスフルト」に岩鹽と混合して存し、現時臭素製造の主なる原料なり、

シユツセーシツ(臭素の性質) 臭素は、常温にては重き濃褐色の液體にして、比重三・一八、沸點五十八度八、空氣中に放置すれば同じ色の蒸氣となる、非常に刺激性を帯べる臭氣あり、其の水溶液は赤色を帯び臭素水と稱し試薬とす、低温度に於て鹽素の如く水と化合す、又臭素は鹽素に類似せる化學的性質を有す、金屬と直接に化合して臭化物を生じ、燐、硫黃の如く非金屬と直接に化合す、且つ劇烈に水素と化合して臭化水素を生ず、臭素は物體を漂白する性を有すること、猶ほ鹽素の如し、其の作用の一部は直接の反應により、部は水を分解して酸素を游離し、其の酸素の働く

によると稱せらる、臭素及び其の「アルカリ」との化合物は、廣く寫眞術、醫藥又は化學實驗に使用せらる、

ジユーツー(重曹) 化 重曹と云ふ語は、重碳酸曹達の略にして、酸性炭酸「ナトリウム」に同じ、
ジユーツシキ(柔組織) 植英 *Parenchyma tissue.*
薄き細胞膜を有する球形、楕圓形又は多角形等の細胞相結合する組織を云ふ、

ジユータン(獸炭) 化英 *Animal charcoal.* 動物の骨は、其の重量の三分の一は有機物より成り、三分の二は主に燐酸「カルシウム」より成るものなり、而して獸骨を空氣に觸れしめずして乾留する時は、含有せる有機物は分解し、揮發性の物體は散じ去り、炭素の多くは燐酸「カルシウム」を混合して殘る、此より純粹なる獸炭を得るには、之を磨碎したるものに鹽酸を加へて、燐酸「カルシウム」を溶解し、濾過して除き、水にて洗ひたる後乾燥す、又動物の血液に炭酸「ナトリウム」を加へ、之を熱して得る塊を水に浸して、炭酸「ナトリウム」を溶解せしめ去る時は、獸炭の良好なるものを殘す、獸炭は多孔質にして、瓦斯を吸收する力極めて強し、故に之を空氣中に放置する時は、空氣中に含有せる有毒の瓦斯を吸收して之を酸化し、以て空氣を新鮮ならしむること木炭の如し、又之を汚水に入る時は、水中の不潔物

を吸收して水を清淨ならしむる力、木炭に勝る、故に水を濾すに用ゐらる、又溶液中の色素を吸收する性あれば、多く砂糖の精製其の他化學實驗上に用ゐる、其の汚物を吸收する力を失へるものは、木炭の如く之を熱して其の性を復せしむることを得べし、

ジユータンサシダ(重碳酸曹達) 化英 *Bicarbonate of Soda.* 酸性炭酸「ナトリウム」に同じ、

シユタク「レンズ」の(主軸) 物英 *Principal axis.*
「レンズ」の表面をなせる二つの球面の曲率の中心を通する直線を、其の主軸又は正軸と稱す、

シユタク(主軸) 鑛英 *Principal axis.* 四軸を有する結晶系、即ち六方晶系以外の結晶系に於ては、皆三軸を有す、其の中垂直なる軸を以て主軸と稱す、

シユツガホー(出芽法) 動英 *Budding.* 下等動物にある一種の繁殖法にして、體の一部より芽を出し、成熟すれば其の基部より分離して一新動物となるものなり、「ヒドテラ」は此の法によりて繁殖し、一週間以内にて分離するに至る、
シユツスイカン(出水管) 動英 *Exhalant siphon.*
貝類が呼吸するために吸入したる水を呼出す管をいふ、二枚貝の出水管は、二管の中殻頂に近き方にあるものにして、體の後方に開く、

ジユードンキ(自由電氣) 物英 *Free charge.* 自由電氣とは、絶縁せられたる導體に宿れる電氣にして、他物に對して電氣現象を現はすものをいふ、

シユートーダ(雌雄淘汰) 動英 *Sexual selection.*
自然淘汰の一種にして、雄の形態彩色等が、雌の愛を買はんがため、或は他の雄を倒して雌を獨占せんがため、漸次淘汰されることをいふ、「ニントリ」の雄の美なる、「シン」の雄に類ある等、皆雌雄淘汰の結果なり、

シユードータイ(雌雄同體) 動英 *Hermaphrodite.*
「ミミズ」「サナダムシ」等の如く同一體内に雌雄の生殖器あるものをいふ、雌雄同體の動物も交接すること普通なり、

シユードーシ(雌雄同株) 植英 *Monocious.* 一植物に、雌花と雄花を生ずるものを云ふ、例へば栗、胡桃、櫻、榛の如し、
ジユース(十二支) 地 支那の易より出でしものにして、子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥、即ち是なり、

ジユースチョー(十二指腸) 生英 *Duodenum.* 小腸の上部數寸の部をいふ、幽門に始まり十二指を竝へたるほどの長さをいふ、膽汁、胰液の注入する所なり、
シユース(皺波) 地鑛英 *Winkles.* 極めて僅少の距離に於

て即ち一見檢知すべき區域内に於ける地層の褶曲を云ふ、

シユエーハ(縦波)物英 Longitudinal wave. 疎密波を見よ、

シユエー(受粉)植英 Pollination. 雄蕊の葯内の花粉が

雌蕊の柱頭に達する現象なり、

シユエー(秋分)天地英 Autumnal Equinox.

九月廿三日頃には、太陽の赤緯度零となる、即ち太陽は赤

道上を直射す、此の時を秋分と云ふ、此の時世界は晝夜

平分なり、秋分は二十四節氣の一なり、

シユエーヘキ(皺襞)地「シユエーキヨク」(皺曲)の條を見よ、

シユエーヘキ(皺襞)生英 Convolution. 大腸表面にあ

る皺をいふ、

シユエー(重瓣胃)動英 Anasus. 反芻類の第三胃

にして、内面に多くの瓣突出す、反芻せる食物(蜂窩胃よ

り上りたる食物を更に口にて精嚼せるもの)は直ちに此の

室に入るものなり、

シユエー(臭剝)化 臭素酸「カリウム」に同じ、

シユエー(瞬膜)動英 Nictating membrane. 鳥類

によく發達し、眼瞼と眼球との間にありて眼球を蔽ふるも

のなり、人類にありては眼頭に其の痕跡を存す、

シユエー(循環)生英 Circulation. 血液が全身を循

環するをいふ、高等の動物にありては、血液は常に血管内

を通過し、下等動物にありては、一部は血管により、一部は組織内を循環す、人身を血液が循環する状態「シユエー」の條を見よ、

シユエー(荷莖)植 Crysanthemum Coronarium

上. 菊科の草本なり、葉は細裂す、黄花又は白花を開き、

舌状花及筒状花の二種あり、花序は頭状をなす、葉を食用

に供す、固有の香氣あり、

シユエー(鵝雞類)動「ニハトリノイ」に同じ、

シユエー(順合)天英 Superior Conjunction.

内惑星に於て、或星が地球と太陽とを結合する直線上にあ

りて、太陽が間に來るときを、其の惑星の順合と稱す、即ち

地球と惑星との動徑のなす角が百八十度の時なり、

シユエー(蓴)植英 Brasenia purpurea (Casp.

睡蓮科の水草にして、葉は楕形をなし、花は稍紫紫色を呈

す、其の粘液を以て被包せられたる新葉を食用に供す、頗

る佳なり、

シユエー(春材)植英 Spring wood. 春季發生の旺

盛なる時節に生ずる木質部は、其の質粗にして、細胞膜も

薄く導管も太し、故に昨年生長せる秋材と境する所に、著し

き輪線を顯はすに至る、是即ち年輪なり、

シユエー(春分)天英 Vernal Equinox. 三月廿一日

頃には太陽春分點にありて、太陽の赤緯度零となる、即ち、太陽は赤道を直射す、此の時を春分と稱し、世界中晝夜平分の時なり、二十四節氣の一に數へらる、

シユエー(春分點)天英 Point of Vernal Equinox.

太陽は地球上、星の間を運動す、其の運動は地球の

地球の日々の自轉運動に由らざるものなり、即ち星に對して位置を變更しつゝありて、始て一年間にして舊の地球上の位置に復す、其の運動の間に地球上の赤道を二度通過す、此の赤道を通過する點は地球上始て一定の點なり、其の中の一つ即ち太陽が南半球より北半球の方に移る時通過する赤道の點を春分點と云ふ、(他の一の通過の點は即ち秋分點なり)

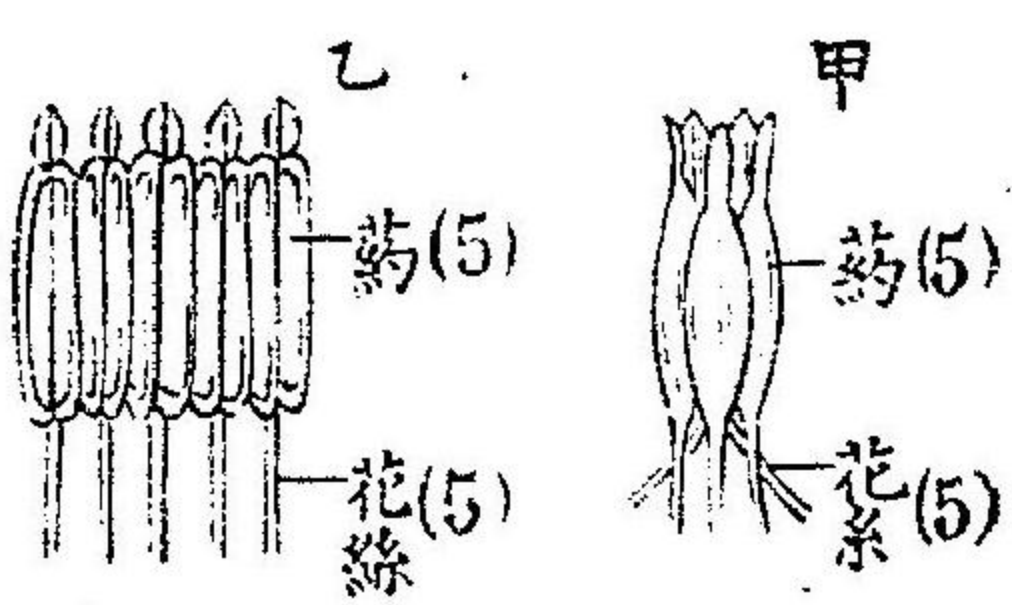
シユエー(春蘭)植 Cymbidium virens Lindl.

蘭科の一種にして、觀賞植物として古來四君子の一に數へらる、

シユエー(楯鱗)動英 Placoid scale. 「リン」を見よ、

シユエー(絨毛)生英 Villi. 腸の内面に「ピロリド」の如く突出する小突起にして、乳糜を吸收する部分なり、絨毛あるは吸收面を廣くせんがためなり、「ニユーピカン」の條の圖參照、

シユエー(雙鬚藻)動 Zygaena. 全體「サメ」を異る



シユエー(十藥)植「ドクダミ」に同じ、
シユエー(聚葯雄蕊)植英 Stenoglossis ta-
mens. 雄蕊が唯其の葯にて相連り、花糸にては互に分離するものを云ふ、例へば「アザミ」葯、
「タンポポ」蒲公英等の菊科植物の如し、
甲圖は全形にして、乙圖は其の展開せる状態を示せるなり、

シユエー(シユリアス)キ(シユリアス)曆地英 Julius' Calendar. 羅馬の驛將「シユリアス」、シユエー「氏」の考案による曆にして、現今用ゆるるものにあらず、現今用ゆるる「グレゴリ

シユエー(重力)物英 Gravity. 凡ての物體は、其の相距ることの多少に係らず、又其の間に他物の存在するに否かに關せず、互に相牽引するものなり、其の中に就き

て、地球が地球上の物體に働く引力を稱して重力といふ、
ジューリヤー 重量物英 Weight 重量とは、物體の各質點に働く所の重力の合力にして、物體を手に支持すれば、重力は物體に作用するによりて、多少の力を以て手を壓することを感ずべし、之を其の重量といふ、重量は重力の結果にして、重力は地球中心よりの距離によりて増減あるものなれば、同一の物體も場所によりて其の重量を異にする、甚しき高所に至らざる限りは、高さ一丈を昇る毎に、其の重量の百萬分一程軽減するものとす、

ジューリョーゼンカ (雌雄兩全花) 植英 Hermaphrodite flower. 「カンセンカ」に同じ、

ジュールテリツ (ジュールの定律) 物英 Joule's Law. 「ジュール」の定律は、電流が輪道内を通する時に於て生ずる熱量と、其の電流の強さ、通する時間及び輪道の抵抗との間の關係を言ひ現せるものにして、其の定律に曰はく、

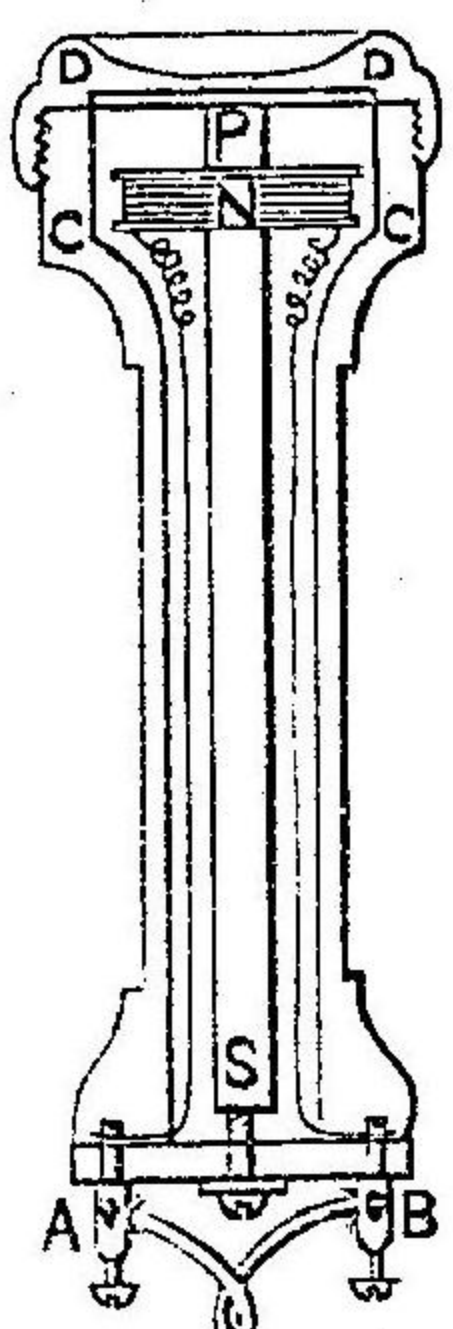
電流が輪道を通する時發生する熱量は、輪道の抵抗に比例し、電流の強さの自乗に比例し、又電流の通する時間に比例するものなり、

シューニングズ (收斂レンズ) 物英 Converging lens. 凡ての凸「レンズ」は、光線を一に集合せしむるが

故に、之を收斂「レンズ」と稱す、

シロ (棕櫚又椶櫚) 植 Trachycarpus excelsa, (Thunb) Wendl. 「ヤシ」科植物にして、無枝莖を有す、其の莖徑四寸乃至八寸なり、葉は梢頭に簇生し四方に開き、極めて大形にして掌狀を呈す、葉柄は甚だ長く三四尺に達す、雌雄異株なり、果實は核果狀にして十一月月上旬に成熟す、支那にては椶櫚と稱し之を食ふ、大畧豌豆大なり、材は種々の裝飾用具となす、此の木の苞毛は俗に「シユロノカハ」と稱し、其の用極めて廣く、能く水に堪ふ、船艦用の繩、垣根の繩等とす、此の植物に近似せる「トリスユロ」てふものは支那の原産なり、多く庭木として珍重す、

ジツキ (受話器) 物英 Receiver. 受話器は、電話を聞き取る器械にして、今日使用せらるるものは、電話器の發明者の一人なる米國人「アレキサンダー、グラハム、ベル」の作りたるものに係る、其の構造は、木又は「エボナイト」にて作れる枠CC中に磁石NSを固定し、其の一極Nの周圍には絶縁せる導線にて「コイル」を作り、其の端はABに接続す、DDは圓錐狀の孔を穿ちたる蓋にして、甚薄き鐵板Pを挟みて枠に捺止す、今A Bを電池の兩極に連ぬれば、電流は「コイル」内を流れて磁石は其の強さを増し、P板を引き附くべし、若し又電流其の強さを増す時は、愈強く之



音を振動に應じて、電流に變化を及ぼし、此の鐵板は、或は引き附けられ或は彈れ返され音聲を再生すべきを以て、容易に其の言語を聞き得るなり、

シヨ (衝) 天英 Opposition. 外惑星に於て、惑星が地球と太陽とを結合する直線上にあり、地球其の間に來るとき、其の惑星の衝と稱す、即ち地球の動徑と惑星の動徑とのなす角零なるときなり、

ジューアツリョク (上壓力) 物英 Upward pressure. 中心に封蠟を以て絲を着けたる薄き硝子の圓板を玻璃筒の底となし、之を液體中に入れば、圓板は筒に密着して、液は筒中に入ることなかるべし、然るに、若し筒内に同様の液を注ぎ、略外部の水面と同高に達すれば、圓板の落下するを見る、之によりて見れば、圓板が其の上の於ける液體の層の重量と等しき力を以て上方に壓せられたりしこと明か

なり、この力を液體の上壓力と稱す、

ジョインカン (常隱圈) 天英 Circle of perpetual occultation. 北半球にては、南極距離が其の地の緯度に等しき點の軌跡なる天球上の小圓を常隱圈と云ふ、此の圈内の點は觀測者の居る場所の地平線に現はるることなし、此の外の點は現はるることあり、隱るることあり、

ジョウシ (小羽枝) 動 「ウモ」の條を見よ、

ジョウタイ (常雨帶) 地英 Equatorial Zone of Daily rains. 赤道無風帶の地方にして、此の處は蒸發急激なるが故に、濕氣に富める大氣は連りに上昇し、冷却して豪雨を降らすなり、かかる地域を常雨帶と稱す、

ジョオシ (定温層) 地 「テオソ」に同じ、

シヨカ (消化) 生英 Digestion. 口、胃等の機械的作用及唾液、胃液、膽汁、胰液并に腸液等の化學的作用によりて、食物を乳糜に變することなす、人類以外の動物にては、消化液は必ずしも右のものと同じからずと雖も、消化の語はこれと同じ意味を有するなり、

シヨガ (生薑) 植 Zingiber officinale Rose. 又「ハツカミ」と云ふ、薑荷科の草本なり、葉は長く、花は「ミヨガ」の花の如し、莖の下部は地中にありて肥大す、此の莖は一種の辛味を有す、之を辛料に供し、又砂糖漬として頗

る佳味と稱せらる、

シヨカイセン (照界線) 地 地球は球状をなせるが故に、大陽に相對したるとき、其の半面は太陽のために照され、他の半面は照らされず、此の兩半面の境界線を照界線といふ、

シヨカエキ (消化液) 生英 Digestive juice. 消化の作用をなす液をいふ、人體にありては、唾液、胃液、膽汁、膀胱液、腸液是なり、

シヨカキ (消化器) 生英 Digestive organs. 消化の作用に與かる器械をいふ、即口(唇、齒、舌、頬及顎)咽頭、食道、胃、腸をいふ、其の他之に附屬する消化腺二あり、肝及脾是なり、

シヨカク (小核) 植英 Nucleolus. 核中に存する一個若くは數個の小體を云ふ、又細胞小心とも云ふ、細胞の條を併せ見るべし、

シヨカク (小顎) 動英 Maxilla. 節足動物等に於ては下顎は上顎より小なること通例なるにより、小顎ともいふ、下顎或は小顎に同じ、

シヨカク (上顎) 動英 Mandible. 節足動物の上顎をいふ、下顎よりも大なるにより或は大顎ともいふことあり、或は上顎、大顎ともいふ、

シヨカクツ (上顎骨) 生英 Maxillary bone.

上方にある齒を生ぜしむる骨をいふ、

シヨカセン (消化腺) 生英 Digestive gland. 消化液を分泌する腺をいふ、唾腺、胃腺、肝臟、脾臟、及腸腺是なり、

シヨカン (小寒) 地 二十四節氣の一、陰曆十二月の節、陽曆一月五日なり、

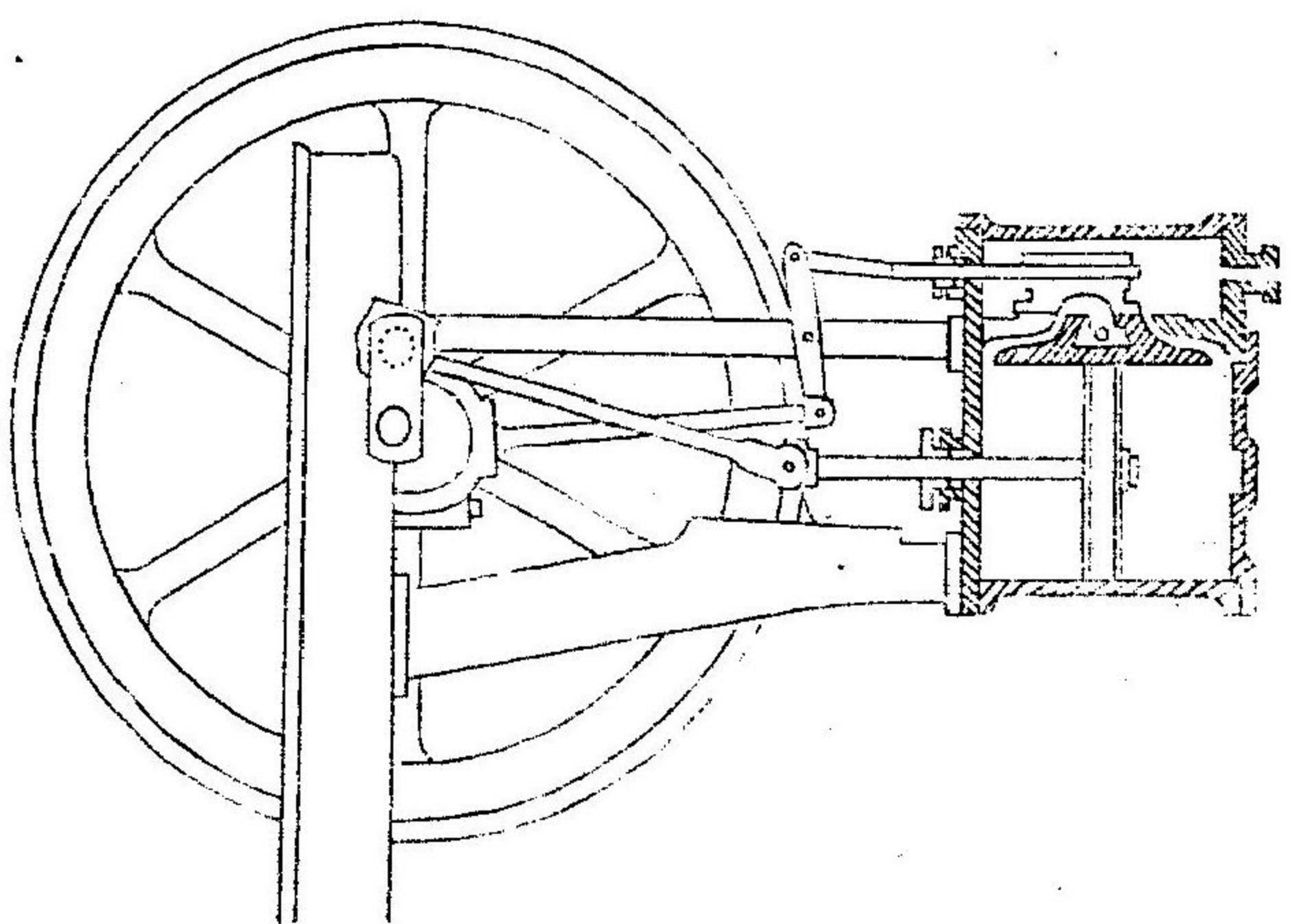
シヨカクボ (動) 「アホウミガメ」に同じ、

シヨカド (上下動) 地 「シヨウゲター」に同じ、

シヨカザン (消火山) 地英 Extinct volcano. 構造上火山たる證據を有するも、口碑記録共に其の活動を傳ふることなきものにして、日光男體山の如き即ち是なり、又死火山と稱せらる、

シヨカボン (消火ポンプ) 物英 Fire engine. 消火「ポンプ」は二個の圓筒を具ふる押上「ポンプ」にして、圓筒は二つながら一の水槽中にありて、兩筒の間に氣室あり、活塞は左右二個あり、丈夫なる棒に連れ、交互に上下することを得べし、右方の活塞下りて左方の活塞上る時は、右筒に於ては、上瓣は閉ち下瓣は開き水氣室に入る、左筒に於ては、下は閉ち上は開きて水槽内の水は圓筒内に入る、次で右方の活塞上り左方の活塞下らば、瓣の開閉前と反對となり、水槽中の水は右筒内に入り、左筒の水は氣室に入るが故

しむる度に至らざる前に、瓣を押し開きて蒸氣を逸出し得



べからしむ、

機關の起動部分は、圖に示すが如く、圖の右上隅の管は汽罐に接続して蒸氣を導き、之に連なる室は蒸氣配分器にして、

に、水は氣室内に密閉せられたる空氣の張力のために、間斷なく管より射出せらる、

シヨカロリー (小カロリー) 物 「カロリー」の條を見よ、

シヨキ (笑氣) 化英 Laughing gas. 亞酸化窒素の條を見よ、

シヨキ (沼氣) 化英 Marsh gas. 「メタン」に同じ、

シヨキ (蒸氣) 物化英 Vapour. 蒸氣とは、液體が氣化したるものをいふ、

シヨキキカン (蒸氣機關) 物英 Steam engine. 蒸氣機關は熱を仕事に變せしむる一機械にして、英國人「ワット」の發明せし所のものなり、即ち石炭を燃やして生じたる熱を以て水を沸騰せしめ、之に由りて生じたる水蒸氣の張力を利用して、適當の装置を用いて運動を起さしめ、之を種々の器械に傳へて仕事をなさしむるものにして、水蒸氣を生ずる部分即ち汽罐と、水蒸氣の張力より運動を生ずる部分即ち機關とより成る、

汽罐は、其の種類多しと雖ども、概して圓筒状にして、重厚なる鐵板又は銅板を以て之を作り、蒸氣の張力に堪へしむ、然れども、水蒸氣の發生甚だ盛に於て、其の張力非常に強大となるときは、往々汽罐を破る恐あるが故に、之を防ぐために

罐の上部に安全弁と名づくるものを設置し、汽罐を破裂せ

其の中には滑り癖ありて左右に運動することを得、今癖が圖の如くなるときは、蒸氣配分器に入り来りたる蒸氣は、右方の管道より活塞の右方に入り之を左に押し進む、此の際活塞の左方にある蒸氣は、左方の管道により圖中(○)の見ゆる所より、凝結器若しくは大氣中に逃る、かくて活塞が圓筒の左端に達する頃には、滑り癖は右に滑りて、右方の管道を閉ぢ左方の管道を開きて、活塞の左方は配分器と通するを以て、蒸氣は配分器より活塞の左方に入り、活塞は右方に動くべし、此の際活塞の右方の蒸氣は右方の管道により凝結器又は大氣中に逃る、以下同一の運動を繰り返るものなり、而して此の滑り癖と活塞と反對の向に運動するは、滑り癖の柄が圖中の左方に見ゆる「ハヅミ」車の軸の中心と一致せざる圓盤の周圍に附着せられたる輪に連結するを以てなり、斯くの如くにして、左右に運動する活塞の柄は「ハヅミ」車と稱する重き輪の軸に連れたるを以て、左右運動は變じて「ハヅミ」車の回轉運動を起さしむるなり、

シヨキヨ (蒸氣浴) **化英** Steam bath 水蒸氣にて熱する装置なり、此は物を百度以下にて熱する必要がある時に用ゐらる、

シヨキシルイ (涉禽類) **動** Grallae, or Grallatores. 嘴は概ね長くして、其の根部に軟皮を被り、前頭と多少判然

たる角度をなせり、脚は長くして趾は全く自在なるか或は趾間に小膜を備ふ、而して後趾は甚だ小形若くは之を缺く水邊に棲息し小魚、蟲類を食ふ、「ツル」、「シギ」、「チドリ」、「クヒナ」等之に屬す、

シヨクエン (食鹽) **化英** Common salt. NaCl 又鹽化「ナトリウム」と稱す、

シヨクエンシヨサイ (食鹽の所在) 「ナトリウム」化合物中最も多量に存するものにして、海水、鹽泉、石鹽礦中に含まれ、多量に此等より製取せらる、海水の比重は一・〇二七乃至一・〇二九にして、千分中凡そ二十六分の食鹽を含めり、但し陸に近くして河流を受けて多量の淡水を混する海に於ては、多少鹽分の割合を減するものなり、

シヨクエンセーセイ (食鹽の精製) 食鹽の濃溶液に鹽化水素瓦斯を通すれば結晶となりて沈澱す、これ鹽化「ナトリウム」即ち食鹽は濃厚なる鹽酸に溶解せざる性あるを以て沈澱するによるものにして、以て液中に含有せる夾雜物より分かつことを得べし、「イオン」説に基きて説明する法あれども略す、

シヨクエンセーホー (食鹽の製法) 一、在來の製法 鹽田は鼠色或は黒色の粘土と砂との混合物を以て底となし、其の上に細き砂を敷きたるものなり、之に海水を散布し置けば、

水は日光と風との爲めに速かに蒸發して食鹽を残す、尙ほ數回其の上に海水を散布して、食鹽の十分に砂中に溜集したる後、砂を掻き集めて筐又は桶に入れ、上より海水を注ぎ砂に附きたる食鹽を溶かす、斯くして得たる食鹽水を石の板を繼ぎて造れる鍋に入れて煮詰め、結晶せる食鹽を掬ひ取りて俵に詰め、數月間放置すれば、尙ほ残れる夾雜物の幾分は苦鹽汁(ニガリ)となりて流出し、前よりも稍純粋なる食鹽となる、

二、洋式の製法 満潮の際、水門を開きて海水を渚水池に入れて、其の汚物を沈澱せしめたる後、細溝を徐々に通過せしむれば、水は漸次に蒸發せられて濃厚となるを以て、之を平かなる鐵製の鍋に入れ、熱して蒸發す、然る時は最初に硫酸「カルシウム」を沈澱するを以て之を除けば、次に食鹽を沈澱すべし、

シヨクエンセーシツ (食鹽の性質) 天然産の岩鹽は、時に稍大なる無色透明の立方形結晶を成すことあり、水溶液を徐々に蒸發して得る所の食鹽は往々立方形にして其の面階段狀に凹める結晶を生ず、これらの結晶は共に無水にして、其の比重は二・一六なり、水百分中に溶解する量は、〇度に於て三十五・五、十四度に於て三五・九、四十度に於て三十六・六、八十度に於て三十八・二、百度に於て三十九・二にして、溫度

昇るも其の溶解度は僅少の増加を見るのみなり、熔點は七百七十六度にして尙高溫度に於ては氣體となる、食鹽の水溶液を零下十度に冷せば、二分子の結晶水を含み、又零下二十二度に於ては十分子の結晶水を含みて結晶す、食鹽は人體の生理上及び諸動物の生活に必須なる物質にして、吾人の之を食する量は、一日平均四匁なりと云ふ、其の用は人體中種々の液體中に溶解して之に適度の比重を與へて血液の循環を助け、又胃の消化液中に含まるゝ鹽酸を作る原料となるならんと稱せらる、食鹽は食料とする外、防腐力を有するが故に食物を鹽漬として貯藏するに供し、又工業上他の「ナトリウム」鹽類、鹽酸及び鹽素瓦斯製造の原料に供せらるゝこと莫大なり、

シヨクカク (觸角) **動英** Antenna. 下等動物が頭部に有する一乃至二對の線狀物にして、脊椎動物の觸覺と同様の感覺を司る、

シヨクカク (觸覺) **生英** Touch sensation. 眞皮の最外部に觸覺神經の末端來りて分布し、此にて痛、溫壓の三覺を感ずるものなり、而して其の神經は集りて後方より脊髓に入り、間接に腦に連るものなり、

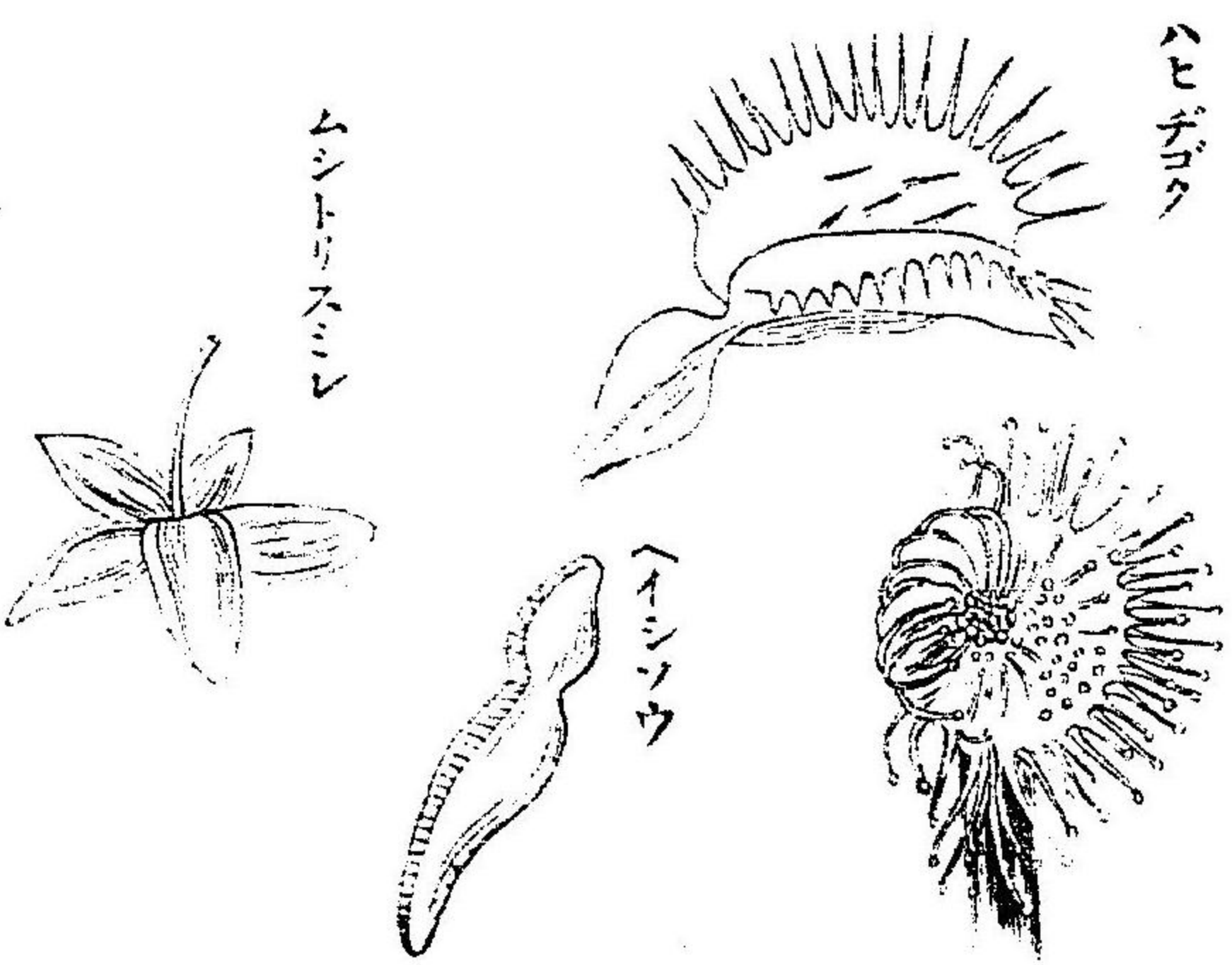
シヨクロー (燭光) **物英** Candle power. 熔融點に達したる白金の一平方釐の表面より發出する所の光を、燭光の

理論上の単位として定めらるゝも、普通用ゐらるゝ所の光度の単位は、鯨油製の蠟燭が、一時間に百二十「グレーン」づゝの割合を以て燃ゆる時の光を以て、一燭光とす、
シヨクシン(觸唇) 動英 Labial Palpi. 二枚貝類の口の周囲にある唇瓣状の物をいふ、

シヨクチ(植蟲) 動英 Zoophytes. 「サマコ」類のミヅク、一見植物に似たる構造を有するものないふ、
シヨクチ(食蟲類) 動 Insectivora. 小獣にして、外觀齧齒類に似、四肢短く、各五趾を有し、全蹠地を踏む、鎖骨あり、口吻尖りて眼及耳殻は至て小なり、齒は三種共に存在し、食肉の形質ありといへども、犬齒は強大ならず、昆蟲の蠕蟲、爬蟲類等を食し、土中に穴居して各冬眠をなす、南米、濠洲を除くの外各地に之を産す、「モグラ」「ダネズミ」「カハネズミ」等之に屬す、

シヨクチ(食蟲植物) 植 綠葉を有し、同化作用を營むも、元來根の發育頗る悪しく、甚しきは全く根を缺如し、爲に含窒素物を昆蟲に需め、昆蟲の體を消化して己が營養に供する植物にして、一種の消化液を分泌する腺を有し、昆蟲の之に觸ることあれば、盛に消化液を分泌して之を消化するなり、而して、消化液は、「ペプシン」及諸種の有機酸を含み、能く蛋白質を消化す、

例、モーセンゴケ(葉に消化腺毛あり)、ムシトリスミレ(葉面に腺毛あり)、



タマキモ、(葉は捕蟲器に變化す)、ハヘザゴク、(葉の剛毛より消化を分泌す)、

ウツボカヅラ、(葉は奇なる塊状となり、蓋を有し、其中より消化液を分泌す、)
ヘーシソウ、(葉は管状の捕蟲器となり、蓋を有し、中に分泌液を貯ふ、)

シヨクドー(食道) 生英 Oesophagus. 日より胃に達する管にして、縦横の筋肉よりなり、平時は中空ならず、食物の嚥下する、ときにのみ其の部分擴張し、輪筋の收縮によりて食物を送り下ぐるなり、

シヨクドーカシシキ(食道下神経節) 動英 Infer-oesophageal-ganglion. 節足動物、蠕形動物等の食道下にある神経節ないふ、上は食道周神経に後方は胸腹部神経鎖に連る、

シヨクドーシューシシキ(食道周神経) 動英 Oesophageal connective. 節足動物、蠕形動物の食道を圍む神経ないふ、上食道上神経節に、下食道下神経節に連る、
シヨクドーシューシシキ(食道上神経節) 動英 Supra-oesophageal ganglion, or Brain. 節足動物、蠕形動物等の食道上にある神経節即ち腦ないふ、食道周神経に連る、

シヨクシカ(食肉類) 動 Carnivora. 所謂猛獸を含むものにして、體の構造は全く他動物を捕へ殺して、其の

肉を裂き食ふに適す、門齒は小にして、犬齒は頗る強大に、臼齒も縁鋭くして鋸の如し、又別に海中に棲息し、體形水棲に適する類あり、其の四肢は鰭の如くなるを以て鰭足類といひ、陸上の裂足類と並べて、食肉類の二亞目とす、「イヌ」「ネコ」「オットセイ」「イタチ」「クマ」等之に屬す、

シヨクカズ(食の数) 天英 Number of Eclipse. 一年間に有る食の数は、日食及月食の限界角と、太陽が一日間に交點と距る角六十二分十九秒とを知れば、計算上より求むることを得、計算の結果は次の如し、食の最も多き年は七度にして、其中五度は日食二度は月食なり、其の最も少きは二度にして日食のみ、ことあり、即ち日食の最も多き年は五度にして、少くとも二度はあり、月食の最も多きは二度にして、一度もなきことあり、

シヨクツケ(植物區系) 植英 Flora. 一國又は一方に自然に成立せる植物群を云ふ、此は全く歴史的原因及生態的原因によるものなり、又之を地方植物群と云ふ、
シヨクツケ(植物原器) 植英 Vegetative Plant-entury organs. 細胞、導管及組織の三者即ち是なり、
シヨクツケ(植物生殖機能) 植英 Reproductive organs. 花、果實、種子の三者即ち是なり、
シヨクツケ(植物象牙) 植英 Vegetable ivory.

「ミクロカルバ、ゾーゲヤシ」又は「マクロカルバ、ゾーゲヤシ」の條を見よ。

シヨクツツハイキカン (植物發育機官) 植英 Vegetative organs. 根、莖、幹、枝、葉、の三者即ち是なり。

シヨクツツヨリ (植物の養料) 植 此を元素によりて列擧すれば、炭素、酸素、水素、窒素、硫黄、磷素、カリウム、カルシウム、マグネシウム、鐵、……以上十種は植物に緊要なる元素なり。

シヨクツツセーシキョー (植物の生存競争) 植 凡て植物は、同類同性なると、異類同性なると、異類異性なるとに論なく、均しく營養上の要求及生殖上の要求を同じくするを以て、植物各個體は、各自己生存上の要求を充たさんとす、故に其の間に自ら激烈なる競争を生ず、此を植物の生存競争と云ふ、其の結果は、優勝劣敗と適者生存の理に洩れざるなり。

シヨクツツセージツキ (植物の成實期) 植 植物の開花結實する時期を云ふ、此は植物の種類により異なり、其の種子より萌發して此の時期に達するまでの年月は、一年乃至數十年の差異あり、

シヨクツツシラク (植物の群落) 一國又は一地方には、自ら固有の植物が群生せり、異種類の植物相集りて一群をなすことあり、又は同種類の植物のみ相集りて他群をなすものあり、即ち同類同性の植物群、異類同性の植物群、異類異性の植物群あり、其の他培養植物も人為的に一群をなさしむるものなり。

シヨゲド (上下動) 地英 Upward motion of Earthquake. 地震の際、地盤の分子の震動する方向より名づけたるものにして、通常、震源の直上に近き所のみ、其の地盤の分子は上下に震動し、其の表面に居住する吾人も、亦上下の方向に震動を感知すべし、之を上下動と稱す。

シヨゲカン (常現圈) 天英 Circle of perpetual apparition. 緯度の異なるにより、天體出没の有様異にして、或る定まれる場所に於ては、或る位置の星は常に地平線に顯はれ、或る星は或る時は現はれ他の時は隠れ、又或る星は常に隠るゝあり、北半球にては、北極距離が其の地の緯度に等しき點の軌跡なる天球上の小圓を常現圈と云ふ、此の圓内の點は常に現はれ此、内外の點は或は現はれ或は隠るゝの鈎にして、魚の鈎針に似、小羽枝より出で、他の小羽枝に掛かり、以て互に離れざらしむるものなり、「ワモ」の條を参照すべし。

シヨコー (昇汞) 化英 Corrosive sublimate. 昇汞

は又猛毒とも稱す、鹽化第二水銀に同じ。

シヨコツ (掌骨) 生英 Metacarpus. 掌をなす骨にして五本よりなる。

シヨコツ (蹠骨) 動英 Metatarsus. 「ツチフマズ」内にある骨にして、手の掌骨に相當す、五本よりなる。

シヨコツ (鋤骨) 生英 Vomer bone. 鼻の奥にある、薄き一小骨をいふ。

シヨコン (條痕) 鑛英 streak. 鑛物を粉末となせば、其の色は色と異なるもの多し、通常之を檢するには、鑛物を取り粗焼の陶器板、又は板石上に條線を引き、其の色を見る、其の條線を條痕と云ふ、鑛物の識別上甚だ大切なるものなり。

シヨコンバン (條痕板) 鑛 條痕色を檢するに用ゐる板を云ふ、通常素焼の陶器板又は板石を用ゐる。

シヨコンユ (松根油) 化 「テルペンチン」に同じ。

シヨサイ (上顎) 動英 Mandible. 節足動物の口器中尤もよく發達せる部分にして、昆蟲類、甲殻類にありては、堅硬にして大形なれども、「シモ」「ムカデ」の類にありては、先端尖り毒腺此の先端に開く。

シヨサイホー (助細胞) 植英 Synergidae. 胚囊の珠孔に面する側に位する三側の無膜細胞中の二個を云ふ。

「ハイシユ」の條下の圖を見よ。

シヨサン (硝酸) 化英 Nitric acid, HNO₃.

シヨサンセーシツ (硝酸の性質) 純粹の硝酸は、無色の液體にして、一・五三の比重を有せり、空氣中に置けば白煙を發し、特異の窒息性の臭氣あり、頗る吸濕性を有し、容易に空氣中より水分を吸收す、腐蝕性強く又強酸なるを以て皮膚に觸るれば痛み、強き創傷を附す、稀薄なる時は、皮膚及び有機物に輝ける黄色を附す、鋸屑に強硝酸を注げば燃焼す、硝酸を蒸溜すれば八十六度に於て沸騰し、同時に一部分分解して、水、過酸化窒素、及び酸素となる、故に蒸溜物は漸次に弱酸となり且つ沸點昇る、蓋し硝酸の沸點の上昇は沸騰液の温度と蒸溜物の濃さが一定となるに至りて止るものにして、硝酸の稀薄なるものを蒸溜する時は、蒸溜物の濃さは漸次に増して、一定の強さと一定の温度に至りて止む、此の一定せる沸點は百二十度半にして、濃さは硝酸の六割八分を含むに至り一定す、故に硝酸を沸騰せしむれば硝酸或は水を失ひて六割八分の硝酸を含み、百二十度半の沸點を有するに至れば強さ一定となる、此の如き酸の比重は、十五度に於ては一・四一四にして、所謂市販の濃厚硝酸と稱するものなり、硝酸に水を混すれば温度昇り、同時に容積の減少あり、而して最大の減少は硝酸一分子に對して水の三分

子を混合せし時に起る、硝酸は容易に酸素を放つを以て強き酸化劑なり、硫黄及び磷は硝酸によりて酸化せられて、硫酸及び磷酸となる、其の他數多の初級酸化物は高級酸化物に酸化せらる、多くの金屬と化合して多くは硝酸鹽を造る、而して其の作用は複雑なるものなり、即ち金屬の性質に依るのみならず、酸の強弱、温度の高低及び反應生成物の其の所に存在すると否とによりて異なり、例へば銅に作用する時は次の反應起る、



然れども硝酸銅の集積する量増すに従ひて、生じたる酸化窒素中には亞酸化窒素及び窒素さへも混合することを發見せり、



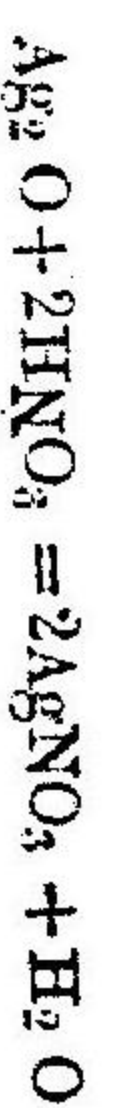
稀硝酸が亞鉛に作用する時は次式の如く亞酸化窒素を生ず然れども強硝酸が作用する時は「アムモニヤ」を生ず、而して生じたる「アムモニヤ」は硝酸と化合す、



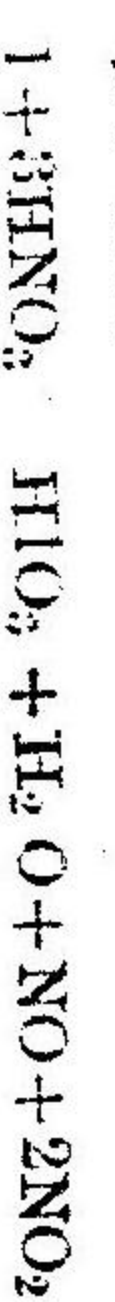
或場合に於ては、硝酸が銅或は銀に作用するに、亞硝酸(硝酸中に不純物として含有せられ、或は硝酸が金屬に作用して始に生じたるもの)の存在することを要することあり、硝酸が強き酸化力を有するが爲に、金屬に作用するも水素

を遊離せしめずして、酸化して水とならしむること少からず、然れども「マクネシウム」の場合には水素を遊離せしむ、硝酸の作用は大別して三種となすことを得、即ち

- (1) 金屬の酸化物に對しては他の酸の如く作用す、即ち金屬に作用して、金屬と其の當量に相當するだけの水素とを置換して、水及び硝酸鹽を造る、例へば



- (2) 酸化劑として作用す、例へば沃素に作用して沃素酸となすが如し、



- (3) 有機物に作用して其の水素と NO_2 とを置換し、水を生じて瓦斯を發せず、棉花或は「セルロース」に作用して火綿或は「ニトロセルロース」を生ずるが如し、其の反應は次の如し、



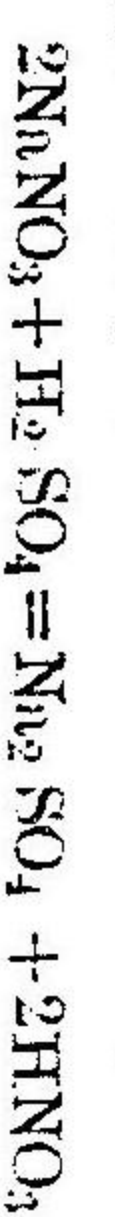
硝酸は所謂貴金屬なる金及び白金には作用せず、市中に販賣せる硝酸中には多くの不純物含有せられたり、即ち智利硝石より混じたる鹽素、及び沃素酸、「レトルト」より混じたる鐵、硫酸、硝酸、ナトリウム、及び硝酸の分解によりて生じたる過酸化窒素等なり、是等は再蒸溜によりて硝酸より除き得らる、

硝酸は一鹽基性の酸なり、其の鹽は多くは水に可溶性なり、而して能く一定の結晶を生ず、凡ての硝酸鹽は高温に於て分解し、酸素、過酸化窒素或は酸素と窒素を發生し、金屬の酸化物を残す、

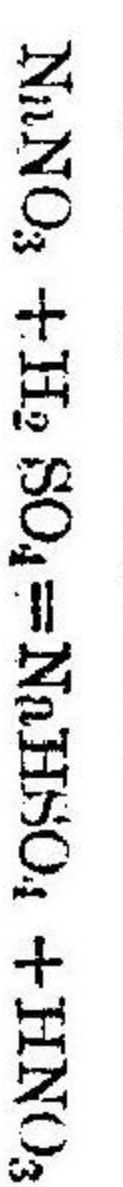
溶液中に硝酸鹽の存在することは、次の如き特徴によりて檢出せらる、即ち始めに硫酸第一鐵の溶液を硝酸鹽の溶液に加へ、次に其の試験管の内面に沿ひ濃硫酸を注ぎ、溶液と硫酸とが混じざるやうにして底に降せば、硫酸は硝酸鹽に作用して硝酸を遊離せしむ、此の硝酸が硫酸第一鐵に還元せられて酸化窒素となり、硫酸第一鐵の溶液中に溶けて、二層の液の接する處に褐色の輪を作る、

硝酸を鹽酸に加ふれば所謂王水を得、王水に就いては其の條を見よ、

シヨサンセーホー(硝酸の製法)工業上硝酸を製するには、智利硝石に硫酸を作用せしむ、硝石及び硫酸の量は次式にて示せるが如し、



而して反應は二段に起る、即ち第一段に於ては酸性硫酸「ナトリウム」及び硝酸を生ず、即ち



温度昇る時は、酸性硫酸「ナトリウム」は智利硝石に作用し

